

茨城県教育財団文化財調査報告第274集

# 久保山遺跡

主要地方道那珂湊那珂線道路改良  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19年3月

茨城県常陸大宮土木事務所  
財団法人 茨城県教育財団



## 序

茨城県は、市町村や県の枠を越える広域的な交通と地域の連携を生かした県全域にわたる調和のとれた発展と振興を図るため、県土の均衡ある発展を支える基盤として、一般国道や主要地方道などの幹線道路網の整備を進めています。

このたび、茨城県常陸大宮土木事務所（旧茨城県大宮土木事務所）は、那珂市豊喰地区において、主要地方道那珂湊那珂線道路改良事業を計画いたしました。その事業予定地内には久保山遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県常陸大宮土木事務所から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成15年10月1日から平成16年2月29日、平成17年6月1日から平成17年8月31日まで久保山遺跡の発掘調査を実施しました。

本書は、久保山遺跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県常陸大宮土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、那珂市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 人見實徳



# 例 言

1 本書は、茨城県常陸大宮土木事務所（旧茨城県大宮土木事務所）の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15年度及び平成17年度に発掘調査を実施した、茨城県那珂市大字豊喰<sup>とよほみ</sup>字久保639番地の1ほかに所在する久保山遺跡<sup>くほやま</sup>の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査 平成15年10月1日～平成16年2月29日

平成17年6月1日～平成17年8月31日

整 理 平成16年10月1日～平成17年2月28日

平成19年1月1日～平成19年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

平成15年度

首席調査員兼班長 鯉淵 和彦

首席調査員兼班長 櫻村 宣行

主任調査員 小松崎和治

主任調査員 駒澤 悦郎 平成15年10月1日～平成15年10月31日

調 査 員 早川 麗司 平成15年11月1日～平成16年2月29日

平成17年度

主任調査員 大塚 雅昭

主任調査員 栗田 功

4 整理及び本書の執筆・編集は整理第二課長鶴見貞雄（平成16年度）・大森雅之（平成18年度）のもと、以下の者が担当した。

主任調査員 小松崎和治 第1章, 第2章, 第3章（平成15年度調査分）

主任調査員 栗田 功 第3章（平成17年度調査分）

5 本書の作成にあたり、近世の土坑から出土した柄杓については、吉田生物研究所株式会社に分析を委託し、考察は付章として巻末に掲載した。

# 凡 例

1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を用いて区画し、久保山遺跡はX軸 = +47,520m, Y軸 = +56,480mの交点を基準点 (A 1 a1) とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。





大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1区」, 「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」, 「B 2 b2区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SI - 住居跡 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝 SF - 道路跡 SE - 井戸 SK - 土坑  
PR - 柱穴列跡 PG - ピット群 SX - 不明遺構 P - 柱穴 HT - 方形竪穴遺構  
K - 攪乱

遺物 P - 土器・陶磁器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品 TP - 拓本土器 T - 瓦  
土層 K - 攪乱

3 遺構及び遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・釉・骨粉  火床面・繊維土器断面・赤彩  
 竈・粘土・黒色処理  煤・油煙・焼土塊・2次焼成痕  
● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ▲ 瓦 ----- 硬化面

4 遺構・遺物実測図の記載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、遺構は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで示した。

5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

6 「主軸」は、竪穴住居跡については炉・竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸（径）方向」は、主軸・長軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

7 遺構一覧表・遺物観察表の表記は次のとおりである。

(1) 現存値は（ ）で、推定値は [ ] を付して示した。計測値の単位は、m, cm, gで示した。

(2) 遺物観察表の備考欄は、残存率や写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ掲載の土器片、土製品、石製品、金属製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号は同一とした。

8 整理時に遺構名称・番号を変更した場合、旧遺構名称・番号を（ ）を付して併記した。

# 抄 録

ふりがな	くほやまいせき							
書名	久保山遺跡							
副書名	主要地方道那珂湊那珂線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第274集							
編著者名	小松崎和治 栗田功							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行年月日	2007(平成19)年3月23日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
くほやまいせき 久保山遺跡	いばらきけん なかしおおあざ 茨城県那珂市大字 とよほみあざくほ 豊喰字久保639番地 の1ほか	08226 — 342006	36度 25分 30秒	140度 28分 05秒	30m ~ 33m	20031001 ~ 20040229 20050601 ~ 20050831	9,334㎡   4,755㎡	主要地方道 那珂湊那珂 線道路改良 事業に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
久保山遺跡	集落跡	縄文	堅穴住居跡	2軒	縄文土器, 石器(剥片)			
	集落跡	奈良・平安	土坑	1基				
	墓地跡	中・近世	堅穴住居跡	22軒	土師器, 須恵器(円面硯), 灰			
			掘立柱建物跡	25棟	釉陶器(浄瓶)瓦(丸瓦, 平瓦), 土製品(紡錘車), 石器			
溝跡	5条	道路跡		2条	(敲石, 砥石, 火打石, 紡錘車, 支脚), 金属製品(鉄鏃, 刀子, 釘, 火打金)			
土坑	6基	方形堅穴遺構		2基	土師質土器, 陶器(丸碗), 磁器(小皿), 土製品(埴塙), 石器(砥石), 金属製品(小柄, 鏡, 煙管, 杓子, 釘)			
火葬土坑	4基	井戸跡		1基	土師器, 須恵器, 陶器(碗), 青磁(碗), 金属製品(刀子, 釘)			
墓坑	1基	溝跡		7条				
土坑	3基	土坑		136基				
その他	時期不明	柱穴列跡		8条				
		円形周溝遺構		1基				
		ピット群		7か所				
		不明遺構		2か所				
要約	久保山遺跡は平安時代を中心とする集落跡及び中・近世の墓域である。調査区の北部には平安時代の堅穴住居跡及び掘立柱建物跡が確認されている。さらに、堅穴住居跡からは、墨書土器や漆の付着した須恵器が出土している。近世の墓坑や土坑からは、陶磁器の香炉や皿、さらに「藤原光長」の銘がある柄鏡、杓子、埴塙、煙管などがそれぞれ出土している。							

# 目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 縄文時代の遺構と遺物	8
(1) 竪穴住居跡	8
(2) 土坑	11
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴住居跡	12
(2) 掘立柱建物跡	68
(3) 溝跡	101
(4) 道路跡	106
(5) 土坑	109
3 中・近世の遺構と遺物	119
(1) 方形竪穴遺構	119
(2) 火葬土坑	121
(3) 墓坑	123
(4) 土坑	125
4 その他の遺構と遺物	129
(1) 井戸跡	129
(2) 溝跡	130
(3) ピット群	132
(4) 柱穴列跡	137
(5) 円形周溝遺構	142
(6) 不明遺構	143
(7) 土坑	145
(8) 遺構外出土遺物	156
第4節 まとめ	165
付章 茨城県久保山遺跡出土柄杓の調査 —蛍光X線分析—	
写真図版	
付図	



# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

茨城県常陸大宮土木事務所（旧茨城県大宮土木事務所）は、那珂市豊喰地区において、主要地方道那珂湊那珂線の道路改良事業を進めている。

平成12年5月17日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道那珂湊那珂線道路改良事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成12年12月14日、平成14年6月14日に現地踏査を、平成14年6月25・26日、11月5・6・11・14日、平成15年5月12日、平成16年3月17日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成14年12月3日、平成15年5月15日、平成16年3月23日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、事業地内に久保山遺跡が所在する旨及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成14年12月17日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3（現 第94条）に基づき土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成15年1月22日、茨城県常陸大宮土木事務所長あてに工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成15年2月20日、平成17年1月20日、茨城県常陸大宮土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道那珂湊那珂線道路改良事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成15年3月13日、平成17年2月1日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、久保山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県常陸大宮土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成15年10月1日から平成16年2月29日、平成17年6月1日から平成17年8月31日まで、発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調査経過

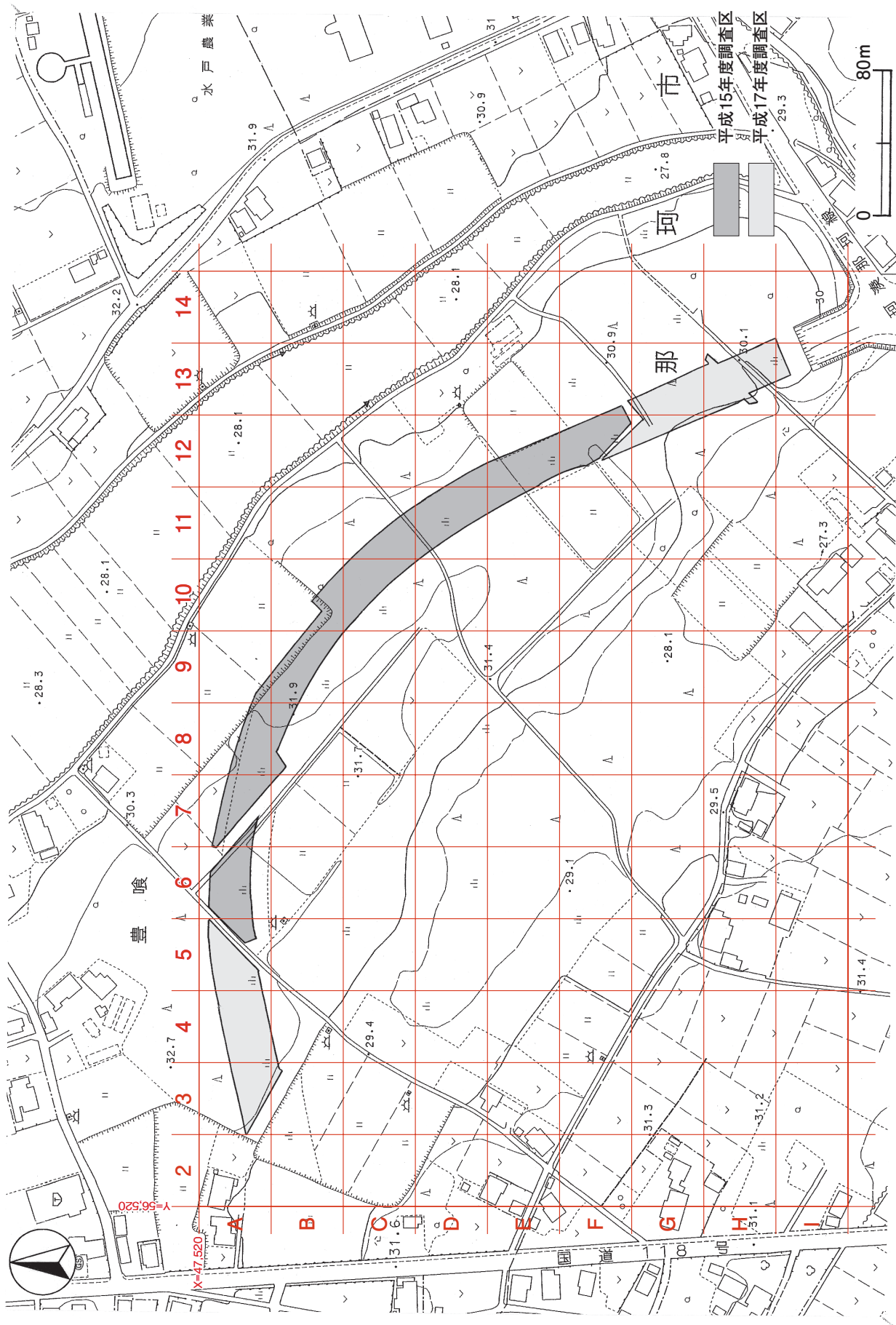
久保山遺跡の調査は、平成15年10月1日から平成16年2月29日、平成17年6月1日から平成17年8月31日まで実施した。その概要を表で記載する。

（平成15年10月1日から平成16年2月29日）

工程	期間	10月	11月	12月	1月	2月
調査準備 表土除去 遺構確認		■			■	
遺構調査		■				
遺物洗浄 写真整理			■			
補足調査 撤収						■

（平成17年6月1日から平成17年8月31日）

工程	期間	6月	7月	8月
調査準備 表土除去 遺構確認		■		
遺構調査		■		
遺物洗浄 写真整理			■	
補足調査 撤収				■



第1図 久保山遺跡調査区設定図

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

久保山遺跡は、茨城県那珂市の南部に立地し、那珂川左岸の標高30～33mの台地上に位置している。

那珂市は県中央部からやや北に位置し、那珂川と久慈川に挟まれた那珂台地にその主要部分がある。北東は久慈川を隔てて久慈台地を望み、北は久慈山地の連山、西には瓜連丘陵に連なる八溝山地がある。南は那珂川を隔てて東茨城台地が広がり、これらの河川の周辺には沖積低地が形成され、現在は豊かな水田地帯となっている。那珂台地の表層には、厚さ3mほどの関東ローム層が堆積している。さらに、下位には茨城粘土層と見和層の砂層や砂礫層が堆積している<sup>1)</sup>。

当遺跡の位置する那珂台地は、北東部を頂点として北西縁と南東縁が15km、南西縁が20kmの二等辺三角形の舌状台地である。台地はほぼ平坦で、標高50mほどの西端部から標高35mほどの東縁までなだらかに傾斜している。台地の西端は、八溝山系の鷲子山塊から南東方向へ細長く伸びている標高130mから90mほどの瓜連丘陵へと伸びている。台地の北側は久慈川によって、南西側は那珂川によって形成された河岸段丘が2～3km幅で北西方向から南東方向へ伸びている。

久保山遺跡は、那珂台地の南西部で、台地形の一部である上市段丘面（中位段丘面）<sup>2)</sup>に位置しており、南西部が沖積低地に向かって傾斜している。当遺跡の調査前の現況は山林及び畑である。

### 第2節 歴史的環境

那珂台地とそれを開析する那珂川や久慈川流域は、古くから人々が生活を営む場として適しており、このことは周辺遺跡の分布状況からもうかがい知ることができる。ここでは当遺跡の所在する台地にしぼって記述する。

旧石器時代の遺跡としては、久慈川右岸の額田大宮遺跡<sup>ぬかだ おおみや</sup>、森戸遺跡<sup>もりど</sup>がある。額田大宮遺跡からは昭和52年の発掘調査で旧石器時代終末期の細石刃、彫刻刀、スクレイパー、円ノミ形石器など良好な資料が検出されている<sup>3)</sup>。また森戸遺跡でも昭和62・63年の当財団の発掘調査で、6か所の石器集中地点が確認され、チョッパー、削器、搔器、石核、剥片等が出土している<sup>4)</sup>。

縄文時代には、那珂台地上の縁辺部に集落が形成されるようになる。那珂川左岸の台地上には清水原遺跡<sup>しみずはら</sup>〈2〉、豊喰遺跡<sup>とよぼみ</sup>〈3〉、入遺跡<sup>いり</sup>〈10〉、西木倉塙後遺跡<sup>にしきのくらはなかうしろ</sup>〈11〉、西木倉塙遺跡<sup>にしきのくらはな</sup>〈12〉、東木倉遺跡<sup>ひがしきのくら</sup>〈15〉、那珂川右岸の台地上には十万原遺跡<sup>じゅうまんぼら</sup>〈28〉、馬場尻遺跡<sup>ばばじり</sup>〈29〉、小田倉遺跡<sup>おだくら</sup>〈31〉などがある。豊喰遺跡からは早期の熱糸文系土器片、石器として片足脚鏃、石刃、削器、石槍、敲打器などが出土している。

弥生時代の遺跡としては、那珂川左岸の台地縁辺部に中台東遺跡<sup>なかだいでいし</sup>〈22〉、中台津田遺跡<sup>なかだいつだ</sup>〈23〉などが位置している。中台東遺跡からは、中期後葉の足洗式土器や後期後半の十王台式土器が良好な状態で出土している。

古墳時代の遺跡としては、那珂川左岸台地上に権現山横穴群〈4〉、富士山古墳群〈5〉、白石遺跡〈8〉、西木倉古墳群〈9〉、津田西山古墳群〈25〉、那珂川右岸台地上に安戸星遺跡<sup>あどほし</sup>〈32〉、愛宕山古墳<sup>あたごやま</sup>〈36〉など多くの遺跡が確認されている。白石遺跡では発掘調査によって、中・後期の竪穴住居跡3軒が検出され、土師器、須恵器のほか、耳環、ガラス玉、鉄斧などが出土している。愛宕山古墳は墳丘全長が約140mに達する前方後



第2図 久保山遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院5万分の1「水戸」)

表1 久保山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世
①	久保山遺跡		○		○	○	○	○	21	中台遺跡			○	○	○		
2	清水原遺跡		○			○			22	中台東遺跡		○	○	○	○	○	
3	豊喰遺跡		○			○			23	中台津田遺跡		○	○	○	○		
4	権現山横穴群				○				24	黒袴遺跡		○	○	○	○		
5	富士山古墳群			○	○				25	津田西山古墳群				○			
6	砂川遺跡		○			○			26	津田若宮遺跡	○	○	○	○	○		
7	田谷廃寺跡					○			27	下新地A遺跡		○	○	○		○	
8	白石遺跡	○	○	○		○	○		28	十万原遺跡	○	○	○	○			
9	西木倉古墳群				○				29	馬場尻遺跡	○	○	○	○	○		
10	入遺跡		○	○	○	○	○		30	飯富火葬墓					○		
11	西木倉塙後遺跡		○	○	○	○			31	小田倉遺跡		○			○		
12	西木倉塙遺跡		○		○	○			32	安戸星遺跡			○	○			
13	西戸遺跡		○	○	○	○	○		33	長者山遺跡		○	○	○	○	○	
14	西木倉前原遺跡		○		○	○			34	台渡里廃寺跡					○		
15	東木倉遺跡		○	○	○	○			35	堀遺跡			○	○	○		
16	竹の越遺跡		○						36	愛宕山古墳				○			
17	東木倉塙遺跡			○	○	○			37	台久保遺跡	○	○		○	○	○	
18	稲荷前遺跡			○					38	白河内松原遺跡		○	○	○	○		
19	羽黒前遺跡	○	○	○	○	○	○		39	ひょうたん塚古墳群				○			
20	息栖遺跡		○		○	○			40	石井戸遺跡		○	○	○	○	○	

円墳であり、円筒埴輪列が2, 3重に巡っていることがわかっている<sup>5)</sup>。5世紀中頃に築造され、仲国造の墳墓との伝承もある<sup>6)</sup>。

奈良・平安時代になると、豊喰地区は那賀郡に編入されることとなり、『和名類聚抄』中の河内郷に属したとされている<sup>7)</sup>。河内郷内には河内駅家や那賀郡衙があり、交通や政治・経済・文化の中心地であった。那賀郡衙の所在地については、現在の水戸市渡里町の長者山遺跡〈33〉付近と推定されている。渡里町の台渡里廢寺跡〈34〉、観音堂山地区からは8棟の建物跡が確認されている。そのうち、2棟は礎石立瓦葺きの建物跡で、南方地区からも金堂跡と塔跡が発見されており、これらは出土する文字瓦などから奈良時代前期に創建された徳輪寺跡と推定されている<sup>8)</sup>。その北西に所在する長者山地区からも同様の建物跡が2棟確認され、霊亀年間から天平年間頃の郡衙跡か駅家跡と推定されている。河内駅家は現在の水戸市上河内町周辺に設置されたのち、渡里町の長者屋敷の伝承地付近に移され、新駅家ができてからも、旧駅家はその付属施設として利用されていたと想定されている。

河内郷の中心地は水戸市域にあったものと考えられるが、那珂市域の東木倉、西木倉には条里制が実施された痕跡が認められ、開墾が進んでいたようである<sup>9)</sup>。田谷廢寺跡〈7〉には2棟の土壇が残り、「田邊」の墨書土器や須恵器、「阿波郷」「丈部里」「生部」等の文字瓦が出土している。白石遺跡からは奈良・平安時代の住居跡16軒、掘立柱建物跡6棟、溝4条、基壇1か所、土坑12基が確認されている。Ⅱ区の3号建物跡は全長88mの長大な規模を誇るほか、3間×5間で方位をそろえた建物跡3棟が確認されており、いずれも古代の公的な建物跡と推定されている<sup>10)</sup>。

中世の豊喰地区は那珂東郡に属していた。白石遺跡からは中世の館跡が確認されており、13世紀から16世紀中葉まで規模を変えながら存続していたと考えられる。館跡からは土師質土器の他、瀬戸産や常滑産の陶磁器、龍泉窯産の中国磁器も出土している。館は農地の開発経営が目的のものであったが、しだいに防御施設を備える戦いを目的とした館城に変化していったものと考えられている<sup>11)</sup>。

治承4（1180）年頃からは、佐竹氏の支配下にあり、佐竹氏の秋田移封直後に行われた慶長7（1602）年の備前検地により徳川家康の支配下となる。佐竹氏旧領の完全な支配権を掌握した徳川家康は知行割を行い、水戸城主に直接の支配をまかせる。その後、慶長14年12月に、家康の第11子頼房により水戸藩が創始され、豊喰地区を含む那珂地方は水戸藩の支配下におかれることになった。寛永検地後は租税の収益を上げるため、免税や免租地、特別低率の年貢、雑税納入の免除など奨励策をもうけて新田開発が進められ、寛文11（1671）年からは鳥喰村（豊喰村）も開発されていった。鳥喰村が豊喰村と改称されたのは、宝暦24（1764）年である<sup>12)</sup>。

※文中の〈 〉内の番号は、第2図及び表1の該当番号と同じである。

#### 註

- 1) 那珂町史編さん委員会 『那珂町史 自然環境・原始古代編』 那珂町 1988年3月
- 2) 前掲文献1) に同じ
- 3) 茨城県史編さん第一一部会原始古代専門委員会 『茨城県史料=考古資料編 先土器・縄文時代』 茨城県 1979年3月
- 4) 加藤雅美 西野則史 浅井哲也 「一般国道349号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 北郷C遺跡・森戸遺跡」『茨城県教育財団文化財報告』第55集（財）茨城県教育財団 1990年3月
- 5) 水戸市史編さん委員会 『水戸市史』上巻 水戸市 1963年
- 6) 茨城県史編さん原始古代史部会 『茨城県史料=考古資料編 古墳時代』 茨城県 1974年2月
- 7) 池邊 彌 『和名類聚抄郡郷里驛名考證』 吉川弘文館 1981年2月
- 8) 茨城県立歴史館 『茨城県史料=考古資料編 奈良・平安時代』 茨城県 1995年3月
- 9) 豊崎卓 『東洋史上より見た常陸国府・郡衙の研究』 山川出版社 1970年
- 10) 櫻村宣行 「(仮称)水戸浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告書 白石遺跡」『茨城県教育財団文化財報告』第82集（財）茨城県教育財団 1993年3月
- 11) 前掲文献9) に同じ
- 12) 那珂町史編さん委員会 『那珂町史 中世・近世編』 那珂町 1990年8月

#### 参考文献

- ・ 茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図（地名編・地図編）』 茨城県教育委員会 2001年3月

# 第3章 調査の成果

## 第1節 遺跡の概要

久保山遺跡は、茨城県那珂市大字豊喰字久保に所在し、那珂川左岸の標高30～33mの那珂台地上に位置しており、縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代、中・近世の複合遺跡である。調査前の現況は山林及び畑で、調査面積は14,089㎡である。

縄文時代の竪穴住居跡2軒、土坑1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡22軒、掘立柱建物跡25棟、溝跡5条、道路跡2条、土坑6基、中・近世の方形竪穴遺構2基、火葬土坑4基、墓坑1基、土坑3基等が確認されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に38箱出土している。主な遺物としては、縄文土器（深鉢）、土製品（耳飾）、石器（敲石、鎌、剥片）、弥生土器（壺）、土師器（坏、高台付坏、高坏、小形甕、甕）、須恵器（坏、高台付坏、蓋、盤、鉢、短頸壺、長頸瓶）、灰釉陶器（浄瓶）、石器（敲石、砥石、紡錘車、支脚）、鉄製品（鎌、刀子、釘、火打金）、土製品（紡錘車）、瓦、土師質土器（小皿、鍋、焙烙）、土製品（埴埴）、灰釉陶器（長頸瓶）、陶器（小皿、丸碗、香炉）、磁器（小皿）、石器（砥石）、金属製品（釘、小柄、柄鏡、煙管、杓子）が出土している。

## 第2節 基本層序

調査区内に基本土層を確認するテストピットを設定し、第3図に示すような土層堆積の状況を確認した。

第1層は黒褐色の表土で、ローム粒子を少量含んでいる。層厚は約40cmである。

第2層は黒色土層で、ローム粒子を微量含み締まりは弱い。層厚は約16cmである。

第3層は暗褐色で、ローム層への漸移層である。層厚は約12cmである。

第4層は明褐色のソフトローム土層で、今市・七本桜赤褐色スコリア粒子を微量含んでいる。層厚は約36cmである。

第5層は黄褐色のソフトローム土層で、層厚は約28cmである。

第6層は黄褐色のハードローム層で、層厚は約20cmである。

第7層は明黄褐色のハードローム層で、層厚は約36cmである。

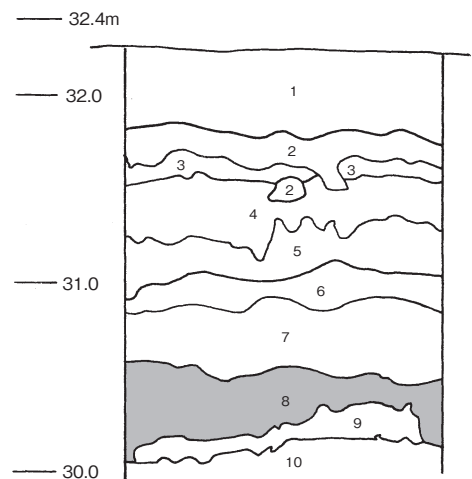
第8層はにぶい黄褐色の第二黒色帯で、層厚は約40cmである。

第9層はにぶい黄褐色のハードローム層で、鹿沼パミス層への漸移層である。層厚は約14cmである。

第10層は明黄褐色で、鹿沼パミス層である。粘性は極めて弱い。層厚は8～20cmである。

第11層はにぶい黄褐色のローム土層で、鹿沼パミス層を微量含んでいる。粘性が強く、締まっている。層厚は未掘のため不明である。

なお、遺構は、第4層の上面で確認できた。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

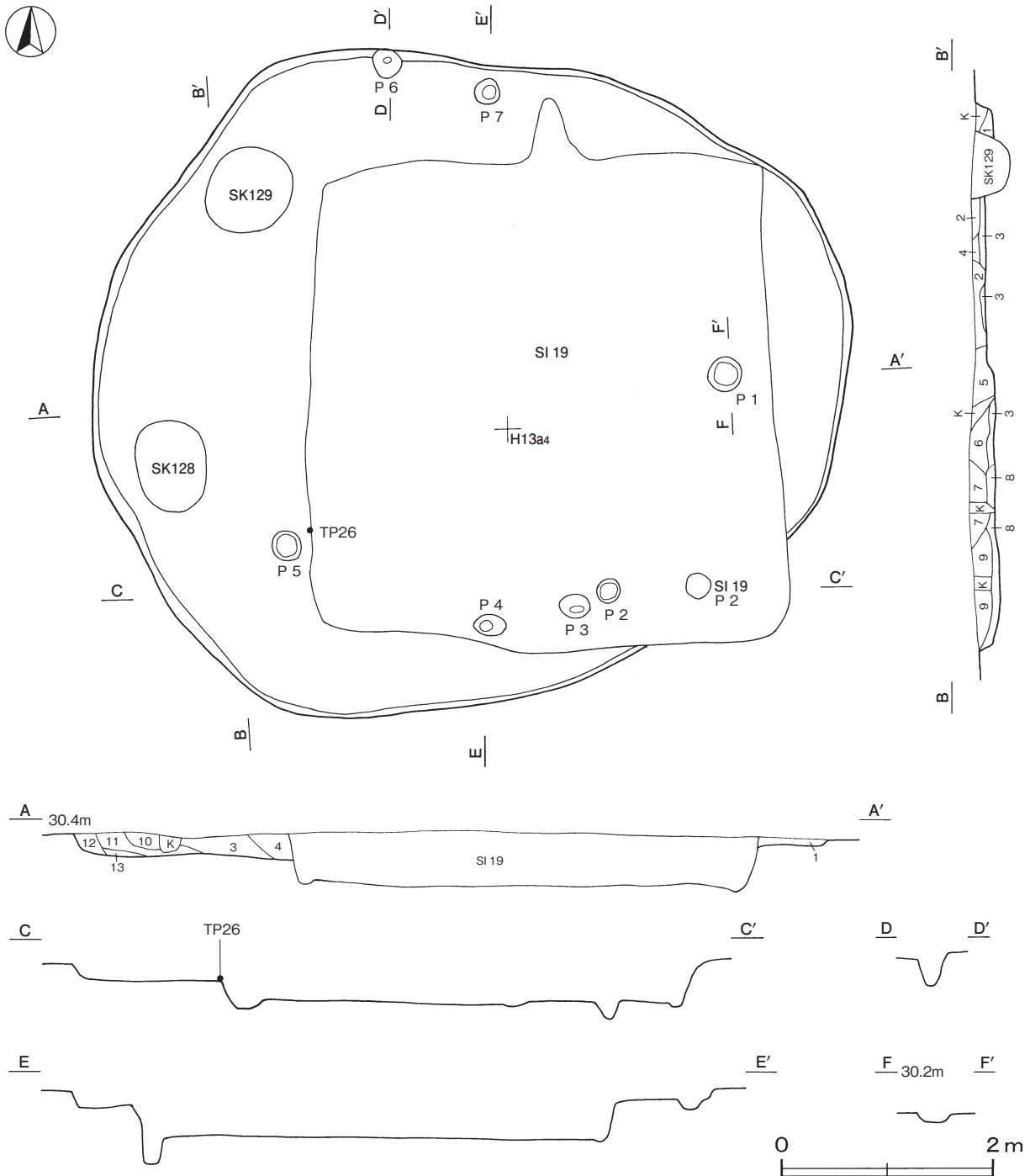
#### 1 縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡2軒，土坑1基が確認された。以下，遺構と遺物について記述する。

##### (1) 竪穴住居跡

##### 第20号住居跡（第4・5図）

位置 調査区南部のG13j3区で，標高30.0mの台地平坦部に位置している。



第4図 第20号住居跡実測図



**重複関係** 第19号住居，第128・129号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径7.15m，短径6.01mの楕円形で，長径方向はN-86°-Eである。壁高は25cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 中央部を掘り込まれているため，遺存する壁際周辺から浅い皿状と推定される。

**ピット** 7か所。深さ6～26cmで，壁に沿って並んでいることから柱穴と考えられる。

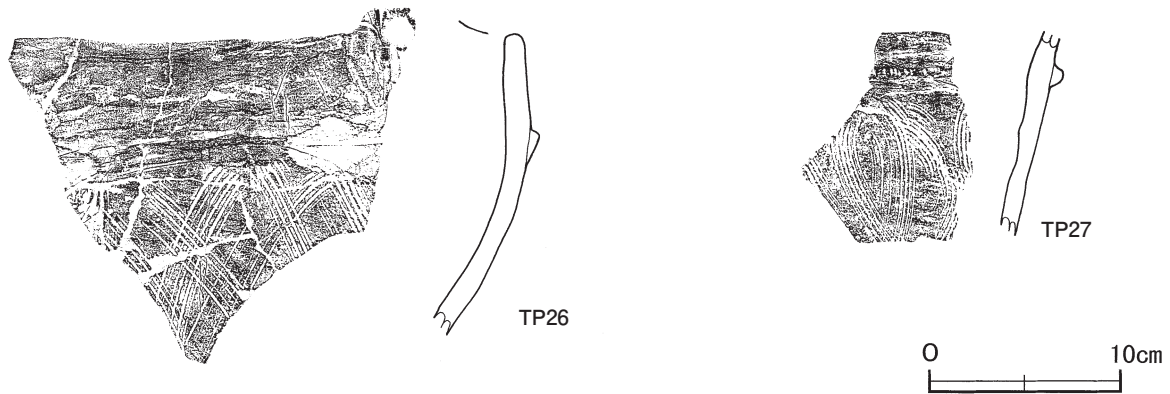
**覆土** 13層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                         |        |                         |
|-------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量               | 9 暗褐色  | ローム粒子少量，炭化粒子微量          |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量           | 10 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量        |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック微量        | 11 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量               | 12 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量               | 13 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量        |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量        |        |                         |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量      |        |                         |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |        |                         |

**遺物出土状況** 縄文土器片13点（深鉢）が覆土中から出土している。TP26は南西部の床面から，TP27は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から縄文時代後期前半と考えられる。



**第5図** 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP26	縄文土器	深鉢	—	(16.5)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部無文 口縁直下に隆帯が巡る 胴部沈線により弧線文	南西部床面	後期前半
TP27	縄文土器	深鉢	—	(10.9)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部無文 口縁直下に縦位に刻みのある隆帯が巡る 胴部沈線により弧線文	覆土中	後期前半

**第24号住居跡**（第6図）

**位置** 調査区南部のG12f9区で，標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南西部が調査区域外に延びているため，確認された範囲は東西径4.44m，南北径2.76mで，不整形円形もしくは楕円形と推定される。壁高は24cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 中央部は浅く皿状にくぼんでおり，軟弱である。

**ピット** 6か所。深さ14～42cmで，壁に沿って並んでいることから柱穴と考えられる。

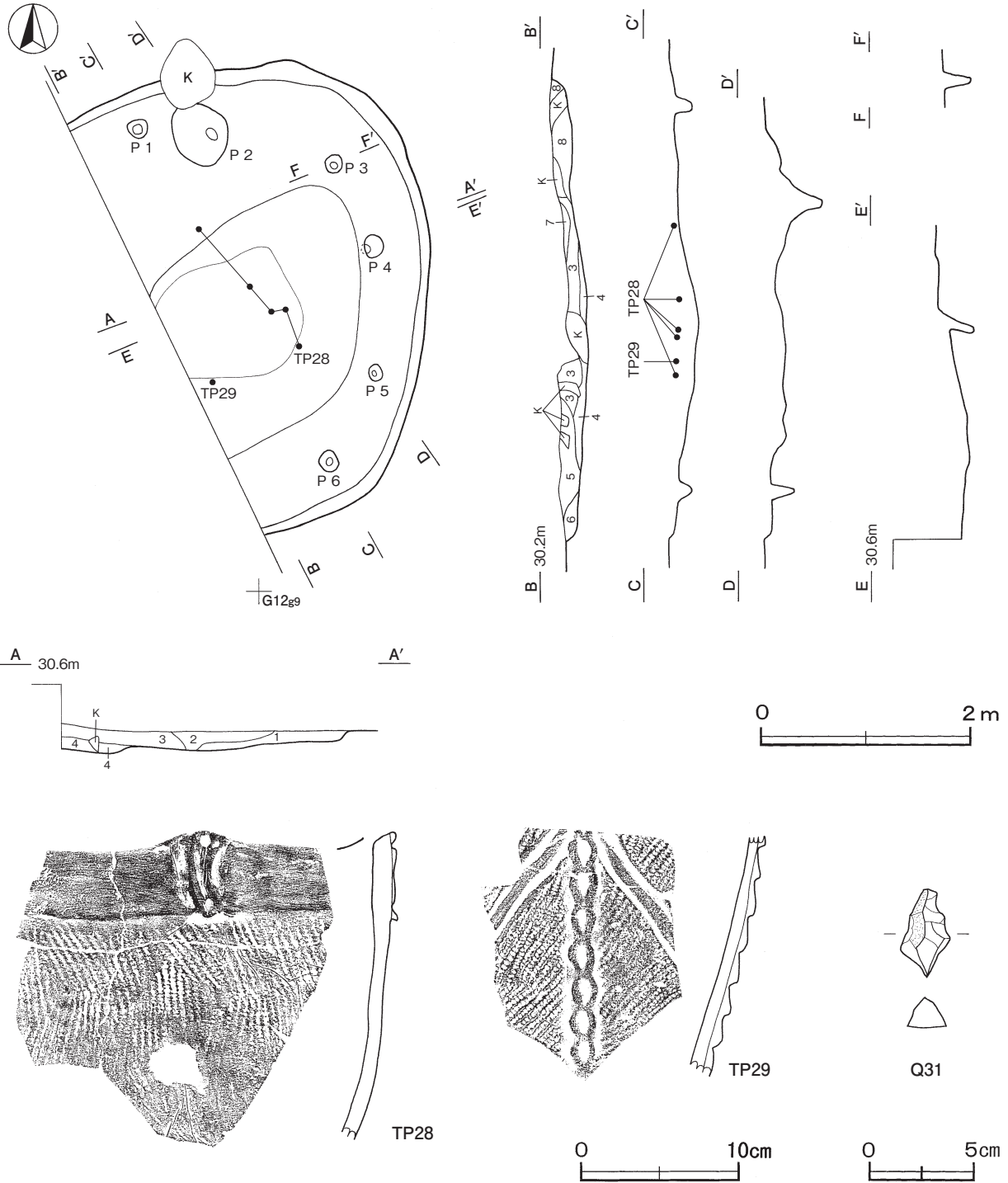
**覆土** 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |       |                       |       |           |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量             | 5 黒褐色 | ローム粒子少量   |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量      | 8 褐色  | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片375点（深鉢）が、中央部の覆土上層から下層にかけて出土している。TP28は中央部覆土上層から出土したものが接合したものである。TP29は覆土上層から出土している。Q31は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代後期前半と考えられる。



第6図 第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	—	(19.8)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	波状口縁 波頂部から口縁無文帯部に縦位に隆帯を貼付し、両端に円形刺突文 胴部無節しを施す	覆土上層	後期前半
TP29	縄文土器	深鉢	—	(15.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部無節しを地文に縦長刺突文を連続させた隆帯を縦位に貼付・隆帯中心に左右対象の2条一組斜位の沈線	覆土上層	後期前半

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	剥片	4.2	2.4	1.5	9.10	瑪瑙	礫皮面が残る縦長剥片	覆土中	PL26

(2) 土坑

第130号土坑（第7図）

位置 調査区南部のG12b9で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.40m、短径2.55mの不整楕円形で、長径方向はN-42°-Eである。深さは22cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

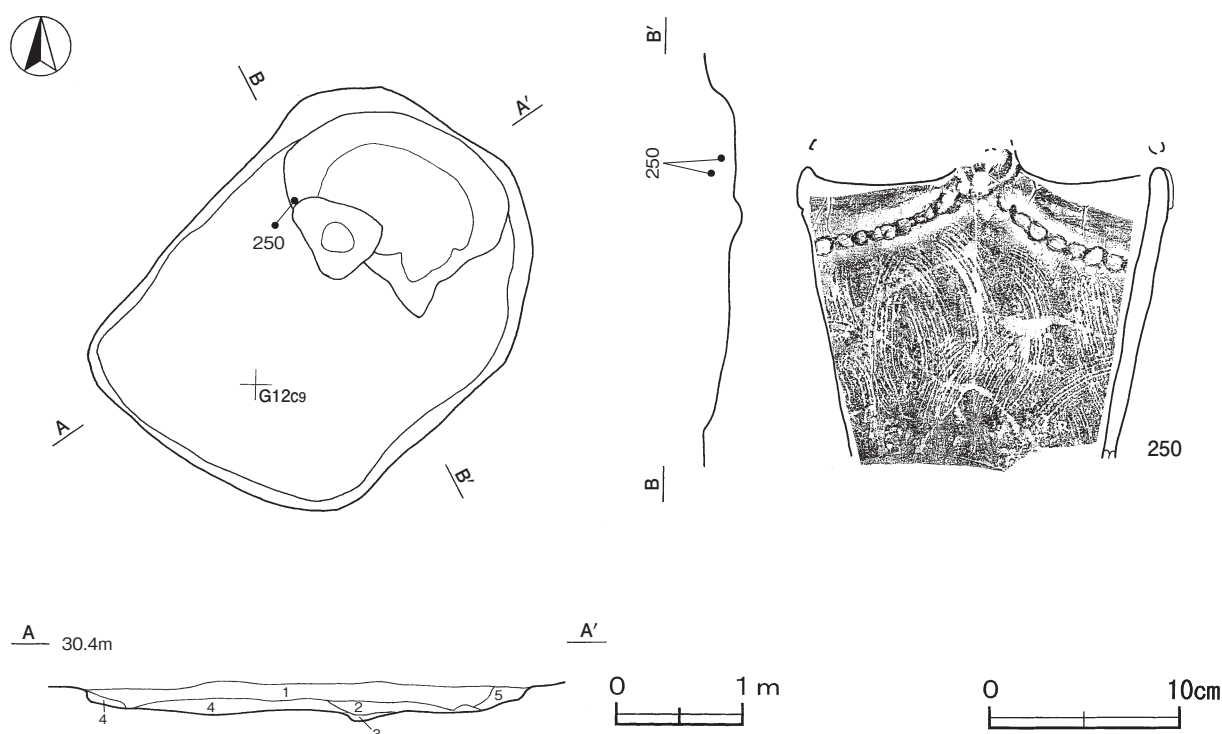
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- |       |                       |       |           |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量             | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量      |       |           |

遺物出土状況 縄文土器片59点（深鉢）が出土している。250は北西部の覆土上層と中層から出土したものが接合したものである。

所見 時期は、出土土器から縄文時代後期前半と考えられる。規模や形状から住居跡と考え調査したが、柱穴及び中央部のわずかな焼土ブロックが炉と確認できなかったため土坑とした。



第7図 第130号土坑・出土遺物実測図

第130号土坑出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
P 250	縄文土器	深鉢	[19.0]	(16.4)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	波状口縁。口縁部直下の波頂部間に刺突文を充填した弧状の隆帯が巡る。胴部沈線による弧状文	北西部覆土上層・覆土中層	20% 後期前半

表2 住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長径×短径	壁高 (cm)	床面	内部施設					炉・竈	覆土	主な出土遺物	時代	備考 (新旧関係 旧→新)
							壁溝	柱穴	貯蔵穴	ピット	入口					
20	G13j3	N-86°-E	楕円形	7.15×6.01	12~25	皿状	—	7	—	—	—	—	人為	縄文土器	縄文	本跡→SI19・SK128・129
24	G12f9	—	[楕円形]	4.44×(2.76)	6~24	皿状	—	6	—	—	—	—	人為	縄文土器	縄文	

表3 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径×短径	深さ					
130	G12b9	N-42°-E	不整楕円形	3.40×2.55	22	外傾	皿状	自然	縄文土器片	

2 奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴住居跡22軒，掘立柱建物跡25棟，溝跡5条，道路跡2条，土坑6基を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第8図）

**位置** 調査区中央部のB 9 e2区で，標高31.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 西側が調査区域外に延びているため，東西2.32m，南北1.74mを確認した。平面形は方形もしくは長方形と推定される。主軸方向はN-16°-Wである。壁高は40cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦である。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cmで，壁外へ54cm掘り込まれ，煙道は火床部から外傾して立ち上がっている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を利用しており，焼土の広がりがある程度である。

**竈土層解説**

- |        |                  |       |                  |
|--------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・粘土粒子微量     | 4 灰褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量   |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量  |       |                  |

**ピット** 深さ46cmで，北東コーナー部寄りに位置し，主柱穴と考えられる。

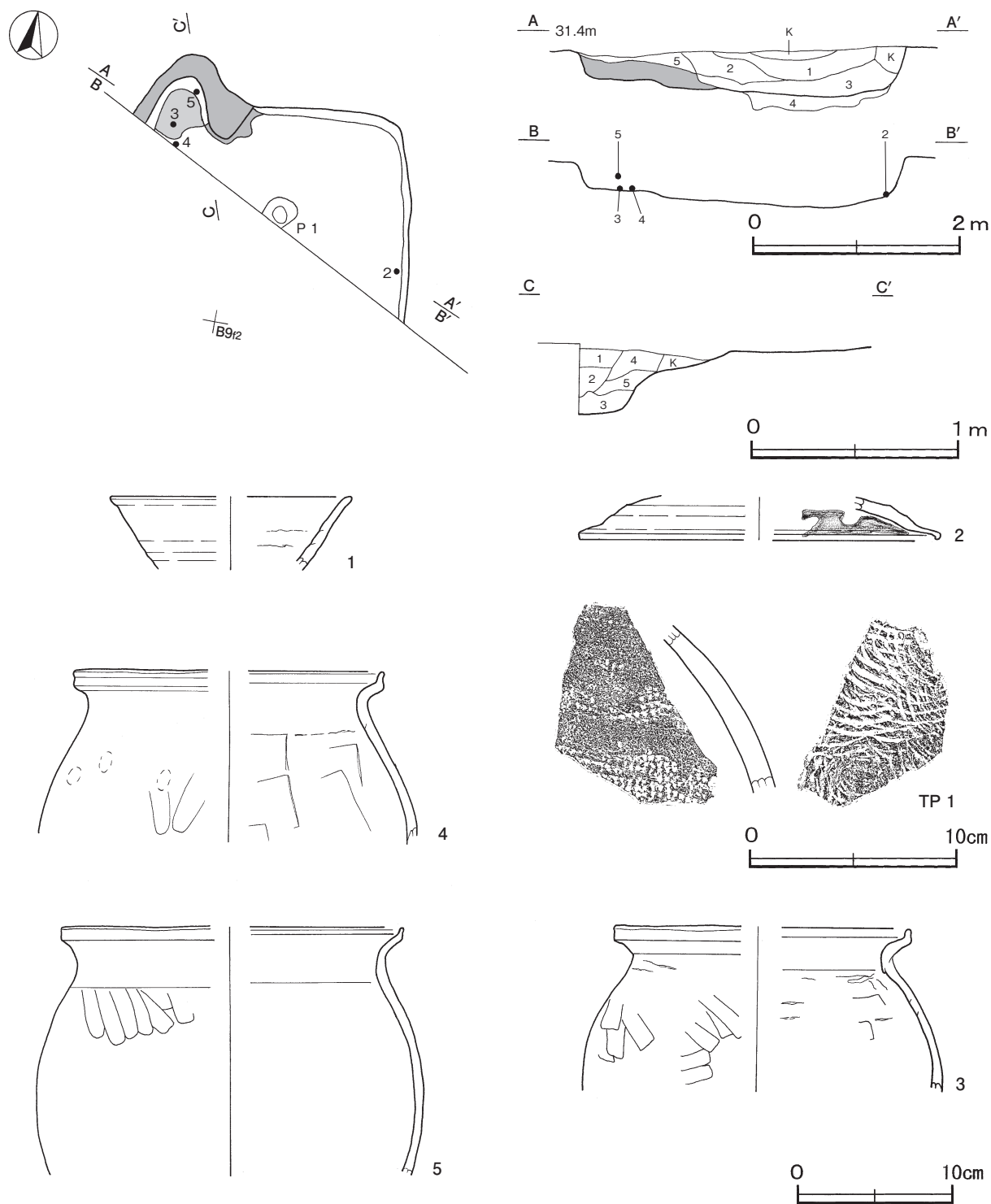
**覆土** 5層に分層される。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                       |       |                        |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量             | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子少量，焼土粒子微量        | 5 褐色  | ロームブロック少量，焼土ブロック微量     |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |       |                        |

**遺物出土状況** 土師器片62点（甕），須恵器片7点（坏5，蓋2）が出土している。2は東壁際の床面，3は竈火床面，4は竈の焚き口部，5は竈の覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第8図 第1号住居跡・出土遺物実測図

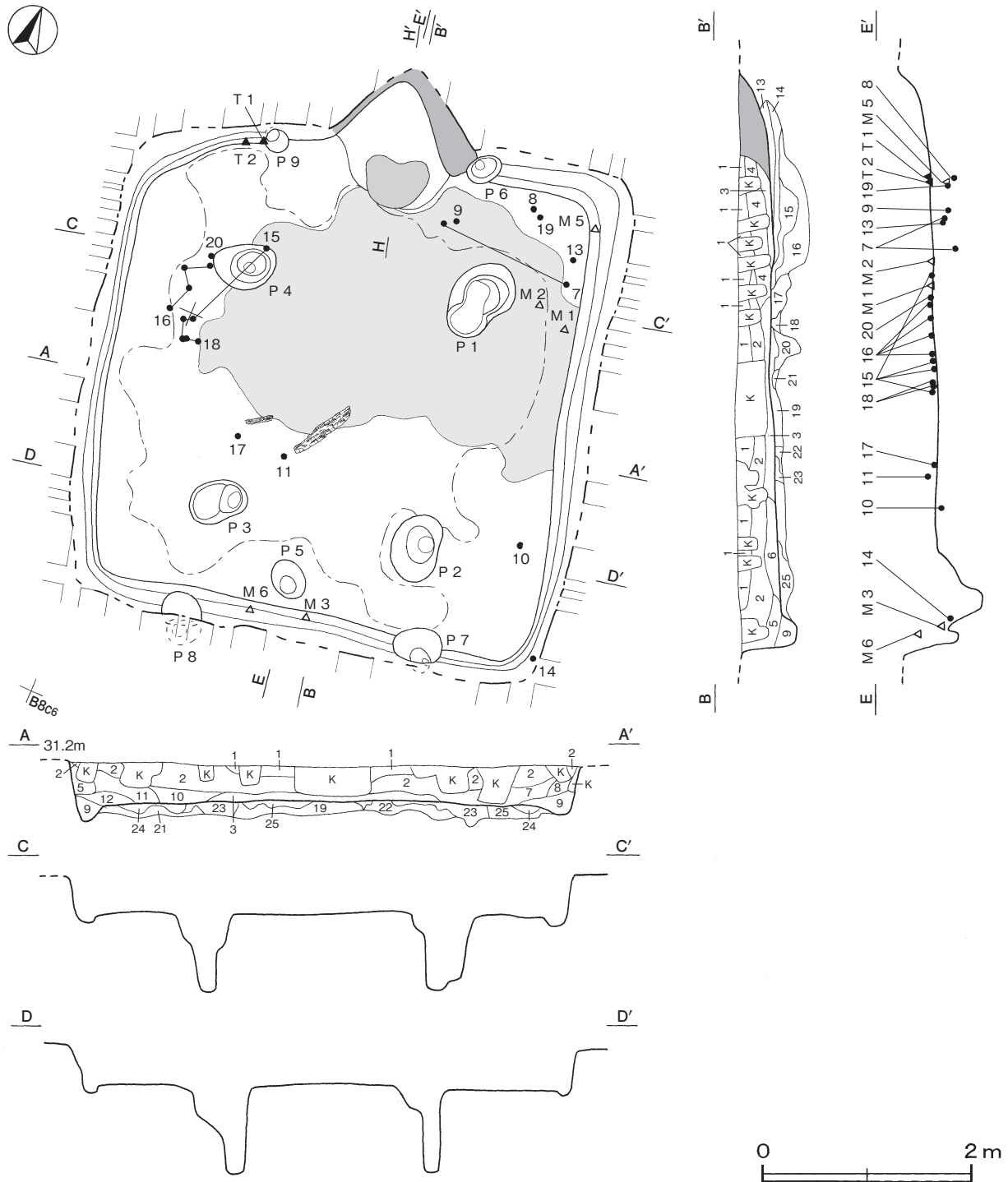
第1号住居跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[11.8]	(3.6)	—	小礫・長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	10%
2	須恵器	蓋	[17.6]	(2.1)	—	長石・小礫	黄灰	普通	天井部ヘラ削り	東壁際床面	10% 体部内面漆付着
3	土師器	甕	[19.4]	(10.8)	—	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈火床面	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4	土師器	甕	[15.4]	(8.4)	-	石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ 体部外面指頭痕	竈焚き口部	20%
5	土師器	甕	[22.2]	(16.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ	竈覆土中層	10%
TP 1	須恵器	甕	-	(8.2)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外面格子目状の叩き 体部内面同心円状の当て具痕	覆土中	

### 第2号住居跡 (第9～13図)

位置 調査区中央部のB 8 a6区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。



第9図 第2号住居跡実測図(1)



第10図 第2号住居跡実測図(2)

**規模と形状** 長軸5.10m，短軸4.90mの方形で，主軸方向はN-15°-Wである。壁高は36～40cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝が周回している。中央部は地山を掘り残して床面とし，四隅は深く掘り込まれ，ローム土を主体とした混合土を用い，床を構築している。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで142cmで，壁外へ70cm掘り込まれている。煙道は火床部から外傾して立ち上がっている。天井部や袖部は遺存せず，覆土の含有物から砂質粘土を用いて構築されていたと推測される。火床部は地山を10cmほど皿状に掘りくぼめた上にローム土を埋め戻して構築されている。中央部は攪乱を受けているが火床面まで達しておらず，火床面は火熱で赤変している。

**竈土層解説**

- |       |                 |          |                         |
|-------|-----------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量    | 3 灰褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック少量      |

**ピット** 9か所。P 1～P 4は深さ72cm～82cmで，配置と規模から支柱穴と考えられる。P 5は深さ40cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 9は竈の両袖脇に位置し，P 7・P 8はそれに対応するように南壁際に位置している。P 6～P 9は深さが46～63cmであり，補助柱穴と考えられる。

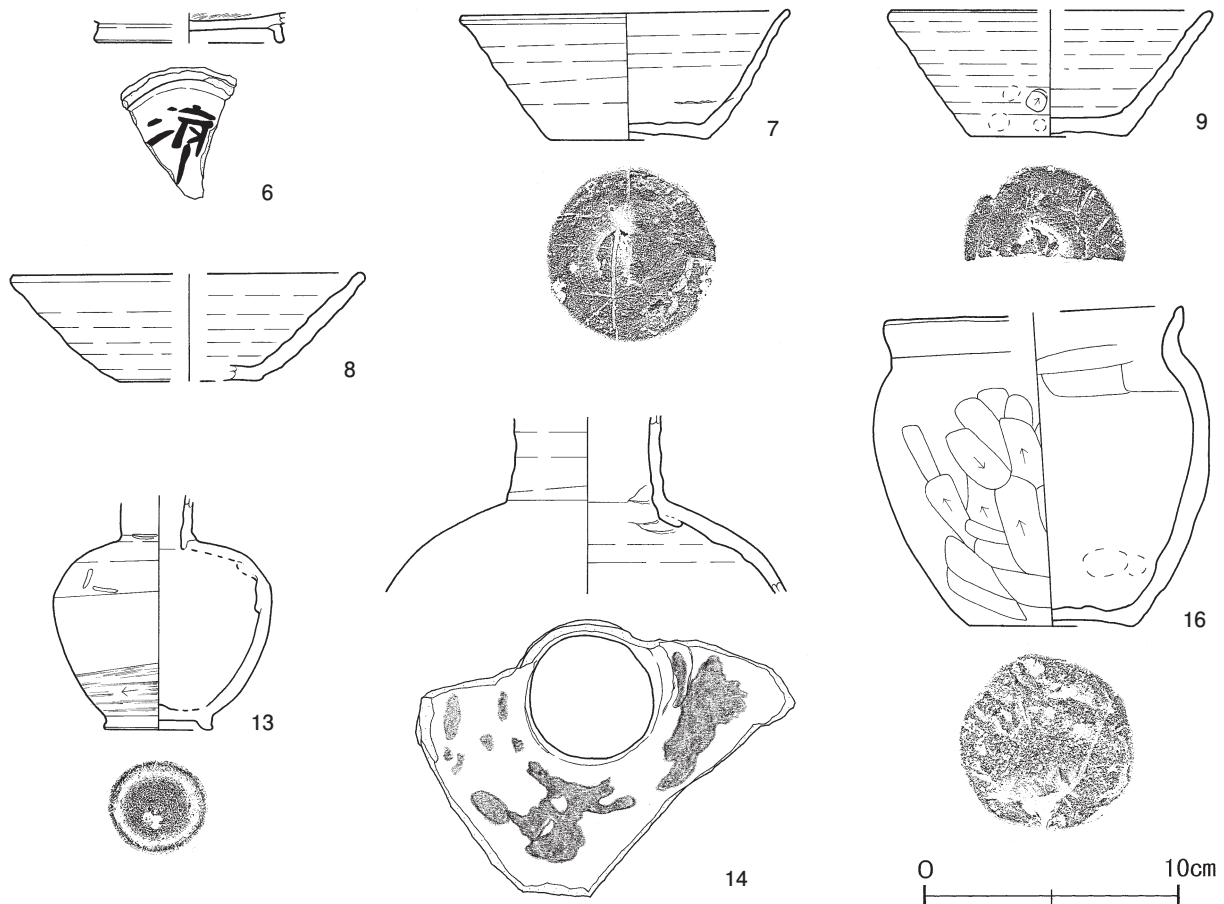
覆土 12層に分層される。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。覆土は耕作による攪乱を受けている。

土層解説 (13層～25層は掘り方土層)

1	黒褐色	ロームブロック微量	13	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
3	暗褐色	炭化物中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量	15	褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量	16	灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	17	黒褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	18	褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	19	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
8	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	20	暗褐色	ロームブロック少量
9	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	21	褐色	ロームブロック中量
10	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量	22	暗褐色	ロームブロック中量
11	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	23	暗褐色	ロームブロック微量
12	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	24	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
			25	黒褐色	ロームブロック微量

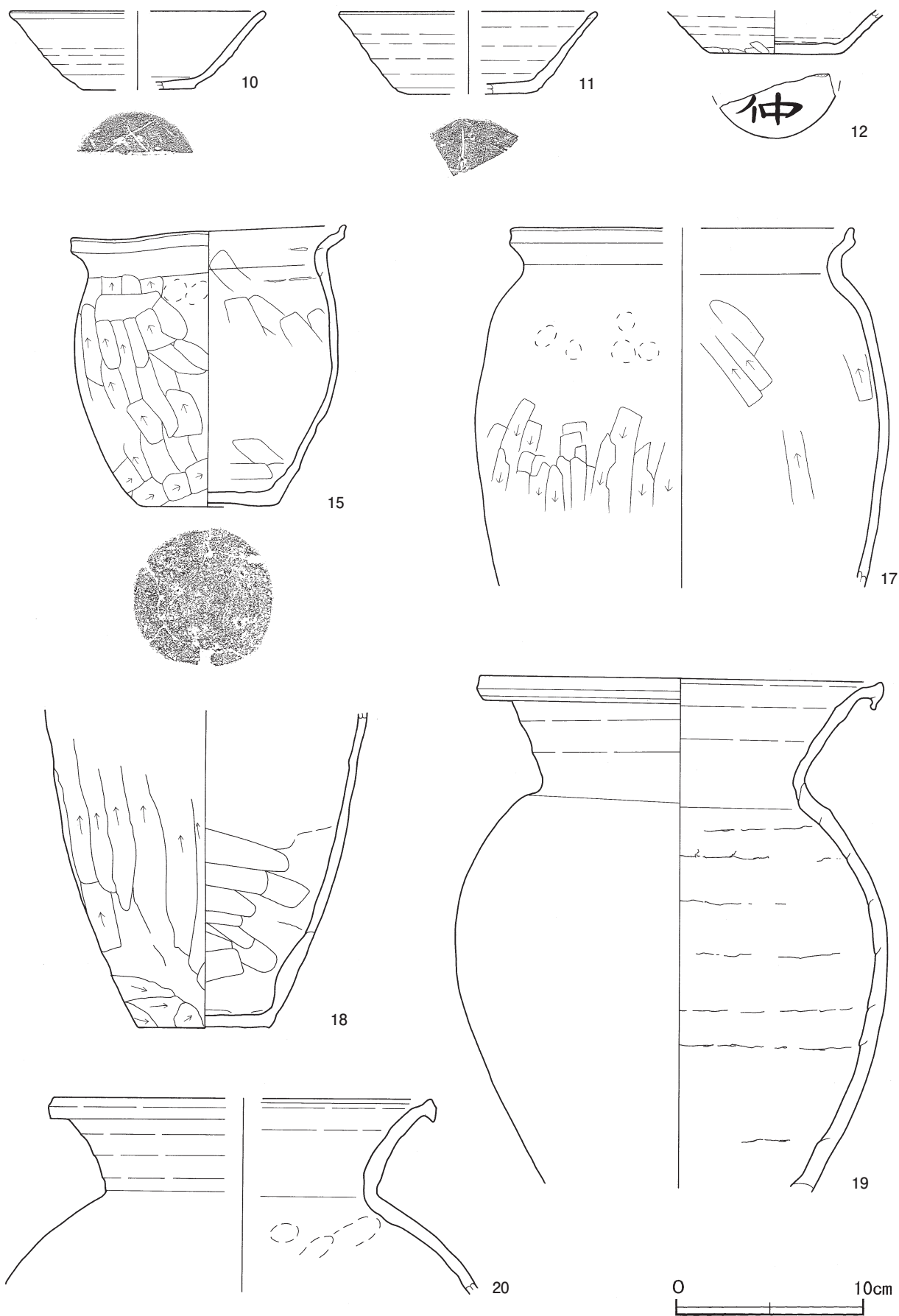
遺物出土状況 土師器片1,291点 (坏69, 碗3, 蓋1, 甕1,218), 須恵器片375点 (坏173, 高台付坏6, 甕177, 蓋5, 盤2, 鉢6, 甌3, 長頸瓶3), 瓦2点 (丸瓦), 鉄製品6点 (刀子2, 鎌1, 釘1, 不明鉄製品2), 石器2点 (砥石), 礫59点 (泥質凝灰岩) が出土している。M6は南部の覆土上層, M3は南部の覆土下層から, 7・8・9・13・19・M1・M2・M5は北東コーナー部, 15・16・18・20は西部, 17は中央部床面から, T1・T2は北西部の壁溝内から, 6・12・Q1・Q2・M4は覆土中からそれぞれ出土している。炭化した丸材が床面の中央部から出土している。

所見 床面には炭化材や焼土が広がっており, 焼失住居跡と考えられる。遺物は炭化材の下から広範囲に出土しており, 遺棄されたものと考えられる。時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

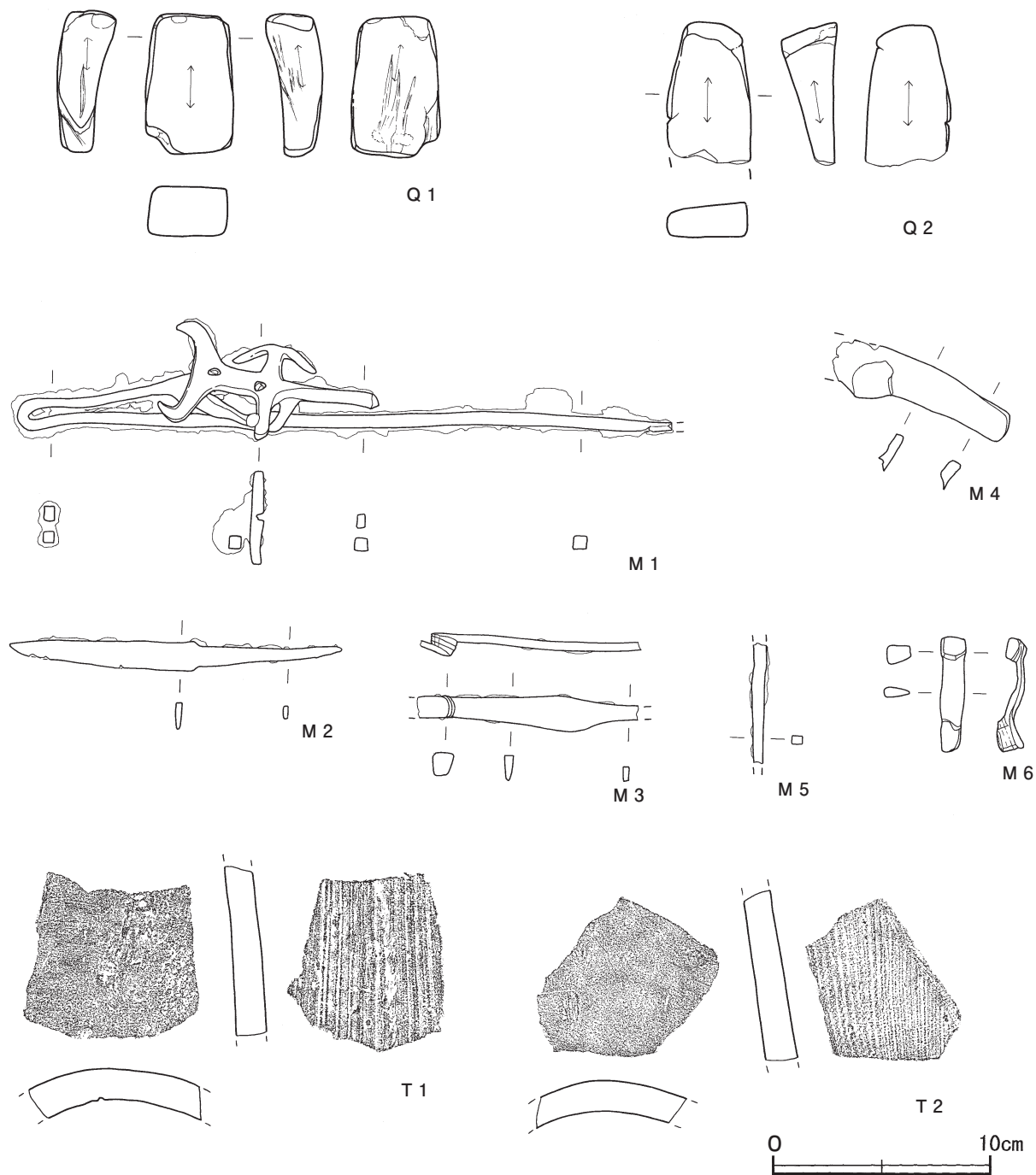


第11図 第2号住居跡出土遺物実測図(1)





第12図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)



第13図 第2号住居跡出土遺物実測図(3)

第2号住居跡出土遺物観察表 (第11～13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	高台付坏	—	(1.2)	[7.4]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中	10% 底部墨書「浦」カ PL22
7	須恵器	坏	13.0	5.2	6.5	長石・石英・小礫	橙	不良	底部回転ヘラ切り	北東コーナ 部床面	60% 底部ヘ ラ記号 PL16
8	須恵器	坏	[14.2]	4.3	[5.6]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	北東コーナ 部床面	40%
9	須恵器	坏	[12.8]	5.0	6.4	長石	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	北東コーナ 部床面	40%
10	須恵器	坏	[13.6]	4.3	[6.1]	長石・石英	灰白	不良	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 多方向へのヘラ削り	東部床面	30% 底部ヘラ記号
11	須恵器	坏	[13.8]	4.6	[7.6]	長石・石英・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後多方向へのヘラ削り	中央部覆土下 層	20% 底部ヘラ記号

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
12	須恵器	坏	—	(2.4)	[7.0]	長石・石英・小礫	灰黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	20% 墨書「仲」 PL23
13	須恵器	小形長頸瓶	—	(9.4)	4.4	長石・小礫	赤灰	良好	体部外面下端削り	北東コーナー部床面	80% PL16
14	須恵器	長頸瓶	—	(7.1)	—	長石・小礫	褐灰	普通	ロクロナデ	南東コーナー部床面	20% 漆付着 PL16
15	土師器	小形甕	14.8	15.3	7.6	長石・石英・小礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	西部床面	70% PL16
16	土師器	小形甕	[11.3]	12.9	6.6	長石	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	西部床面	60% PL16
17	土師器	甕	[18.4]	(19.5)	—	石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ削り	中央部床面	40%
18	土師器	甕	—	(17.2)	7.2	石英・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	西部床面	40%
19	須恵器	甕	21.7	(27.8)	—	長石・石英・雲母・小礫	浅黄橙	不良	頸部ロクロナデ 体部外面剥離	北東コーナー部床面	70% PL16
20	須恵器	甕	[20.4]	(10.5)	—	長石・黒色粒子	褐灰	普通	頸部ロクロナデ 体部外面剥離	西部床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	6.5	4.1	2.3	87.2	酸性凝灰岩	砥面 4 面	覆土中	PL25
Q 2	砥石	(6.6)	3.9	2.5	62.7	酸性凝灰岩	砥面 3 面	覆土中	PL25
M 1	不明	(30.2)	5.7	0.4~0.7	(227)	鉄	断面方形の棒状 一端は折り曲げられている	北東部床面	PL28
M 2	刀子	15.5	1.5	0.3	20.7	鉄	両関	北東部床面	PL26
M 3	刀子	(10.2)	1.7	0.3~(1.0)	(19.8)	鉄	片関 刃先部欠損	南壁際覆土下層	PL26
M 4	鎌	(8.4)	(2.8)	0.7~(1.3)	(23.6)	鉄	刃先部欠損	覆土中	PL27
M 5	釘	(5.6)	1.0	0.4	(9.2)	鉄	頭部・先端部欠損	北東部壁溝	
M 6	不明	5.3	1.3	0.4~0.9	7.4	鉄	片側が細る	南壁際覆土上層	
T 1	丸瓦	(8.0)	(8.0)	1.5	(140.9)	長石・石英・雲母	黄灰色 凹面布目痕 凸面ヘラ削り	北部壁溝	PL28
T 2	丸瓦	(8.0)	(7.0)	1.5	(118.9)	長石・石英	黄灰色 凹面布目痕 凸面ヘラ削り	北部壁溝	PL28

### 第3号住居跡（第14・15図）

**位置** 調査区中央部の A 7 g8区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.90m、短軸3.42mの長方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は33～45cmで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦な貼床で、全体が踏み固められている。壁溝が周回している。掘り方は壁際が浅く、中央部分は深く掘り込まれ、ローム土を主体とした土を用いて構築している。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は一部攪乱を受けているが、焚口部から煙道部まで90cmで、壁外へ68cm掘り込まれている。煙道部は、火床部から外傾して立ち上がっており、袖部幅は143cmである。袖部は掘り残した地山を基部として、その上部に砂質粘土を用いて構築されており、袖部の内側は火熱により赤変している。火床部は4cmほど皿状に掘りくぼめられ、火床面は火熱で赤変硬化している。

#### 竈土層解説

- |        |                         |        |                  |
|--------|-------------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量        | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量  |
| 2 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量・炭化粒子微量  |
| 3 黄橙色  | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量         | 7 明褐色  | ロームブロック中量        |
| 4 明赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子微量           | 8 黄橙色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
|        |                         | 9 褐色   | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

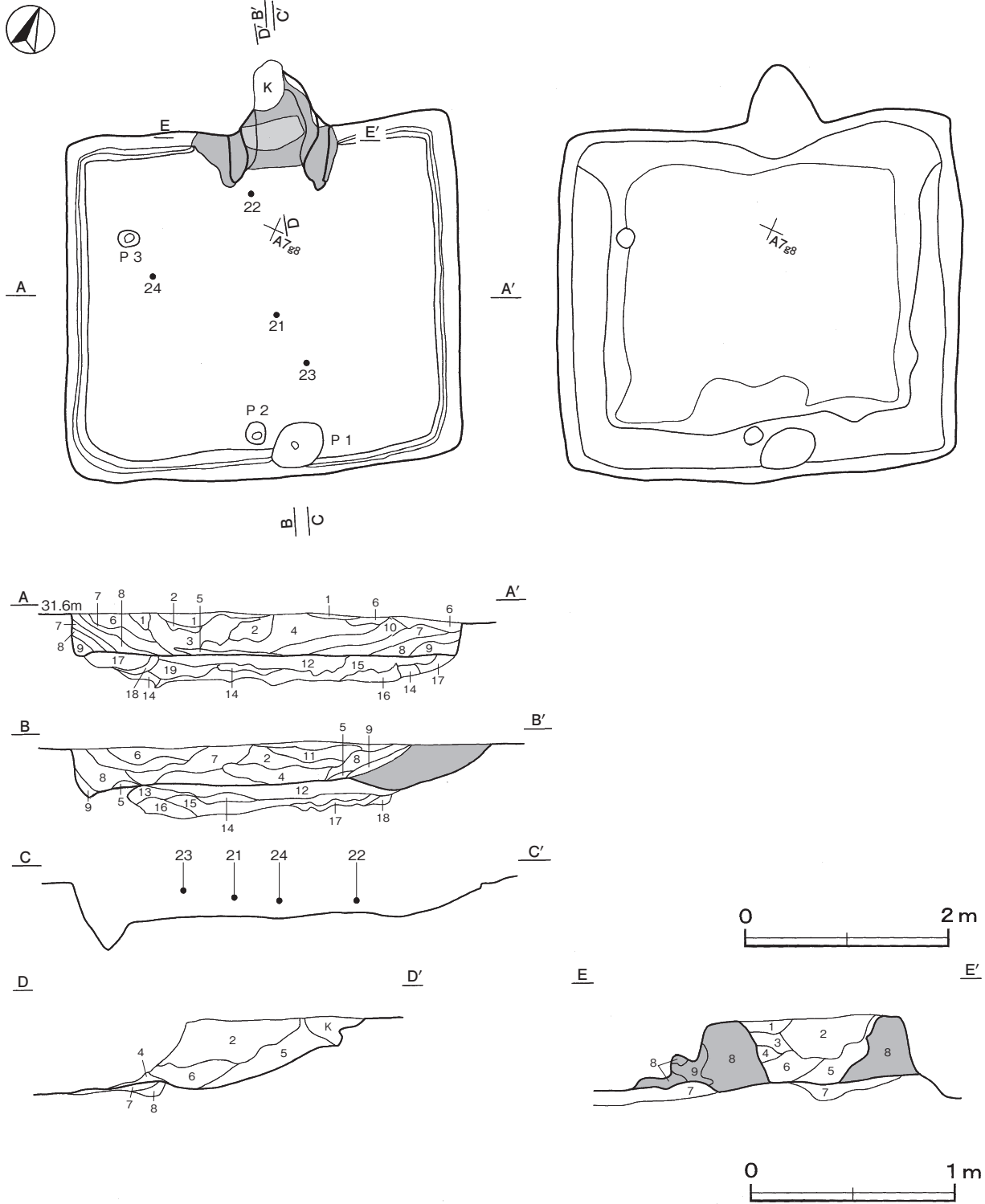
**ピット** 3か所。P 1は深さ34cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2は深さ23cm、P 3は深さ30cmで、性格は不明である。

**覆土** 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説 (12層～19層は掘り方土層)

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 7 暗 褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 ロームブロック少量
- 9 褐色 ロームブロック少量
- 10 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

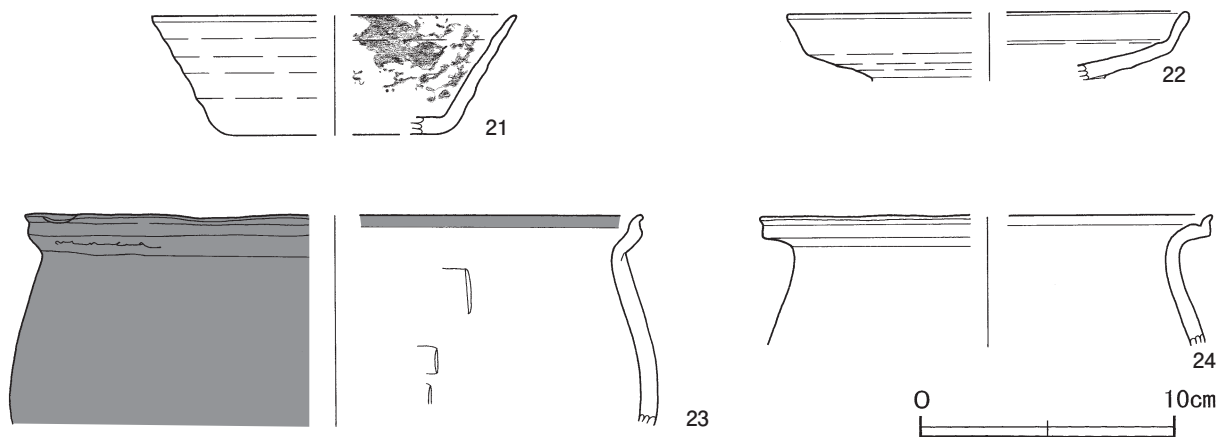
- 11 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量
- 12 暗 褐色 ロームブロック少量
- 13 黒 褐色 ロームブロック微量
- 14 暗 褐色 ロームブロック少量
- 15 暗 褐色 ロームブロック中量
- 16 黒 褐色 ロームブロック微量
- 17 褐色 ロームブロック中量
- 18 黒 褐色 ローム粒子微量
- 19 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量



第14図 第3号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片59点（坏6，蓋1，壺1，甕51），須恵器片24点（坏18，高台付坏1，蓋3，甕2），切石片1点が出土している。21は中央部の覆土中層から出土しており，内面に漆が付着している。22は竈手前中層，24は西部の覆土中層，23は中央部の覆土上層から出土しており，投棄されたものと考えられる。また，流れ込んだ縄文土器片2点も出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀後葉以前と考えられる。



第15図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
21	須恵器	坏	[14.3]	4.8	[8.6]	黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	中央部覆土中層	20% 体部内面漆付着 PL16
22	須恵器	盤	[15.8]	(2.7)	—	長石・黒色粒子・小礫	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	竈手前覆土中層	20%
23	土師器	甕	[24.6]	(8.4)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ	中央部覆土上層	5% 口縁部内面・体部外面煤付着
24	土師器	甕	[18.0]	(5.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ナデ	西部覆土中層	5%

#### 第4号住居跡（第16・17図）

**位置** 調査区中央部のA7f6区で，標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.51m，短軸3.10mの長方形で，主軸方向はN-20°-Wである。壁高は21～32cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で，全体が踏み固められている。壁溝が周回している。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cmで，壁外へ60cm掘り込まれている。煙道は火床部から外傾して立ち上がっている。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており，袖部幅76cmである。火床部は床面と同じ高さの平坦面を利用している。

##### 竈土層解説（棚状施設土層を含む）

- |                               |                       |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1 黄橙色 砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 明赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子微量  |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量         | 5 黒褐色 粘土ブロック微量        |
| 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量              | 6 黄橙色 砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量 |
|                               | 7 明赤褐色 焼土粒子中量         |

**棚状施設** 北壁中央部の竈を中心として西側部分に設けられている。規模は奥行32cm～60cm，幅130cm前後である。棚状施設の構築状況は，住居の掘り込みをした後に，竈袖部と同じ砂質粘土を貼り付け構築しているも

のと考えられる。確認された粘土の厚さは16～20cmである。

ピット 深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

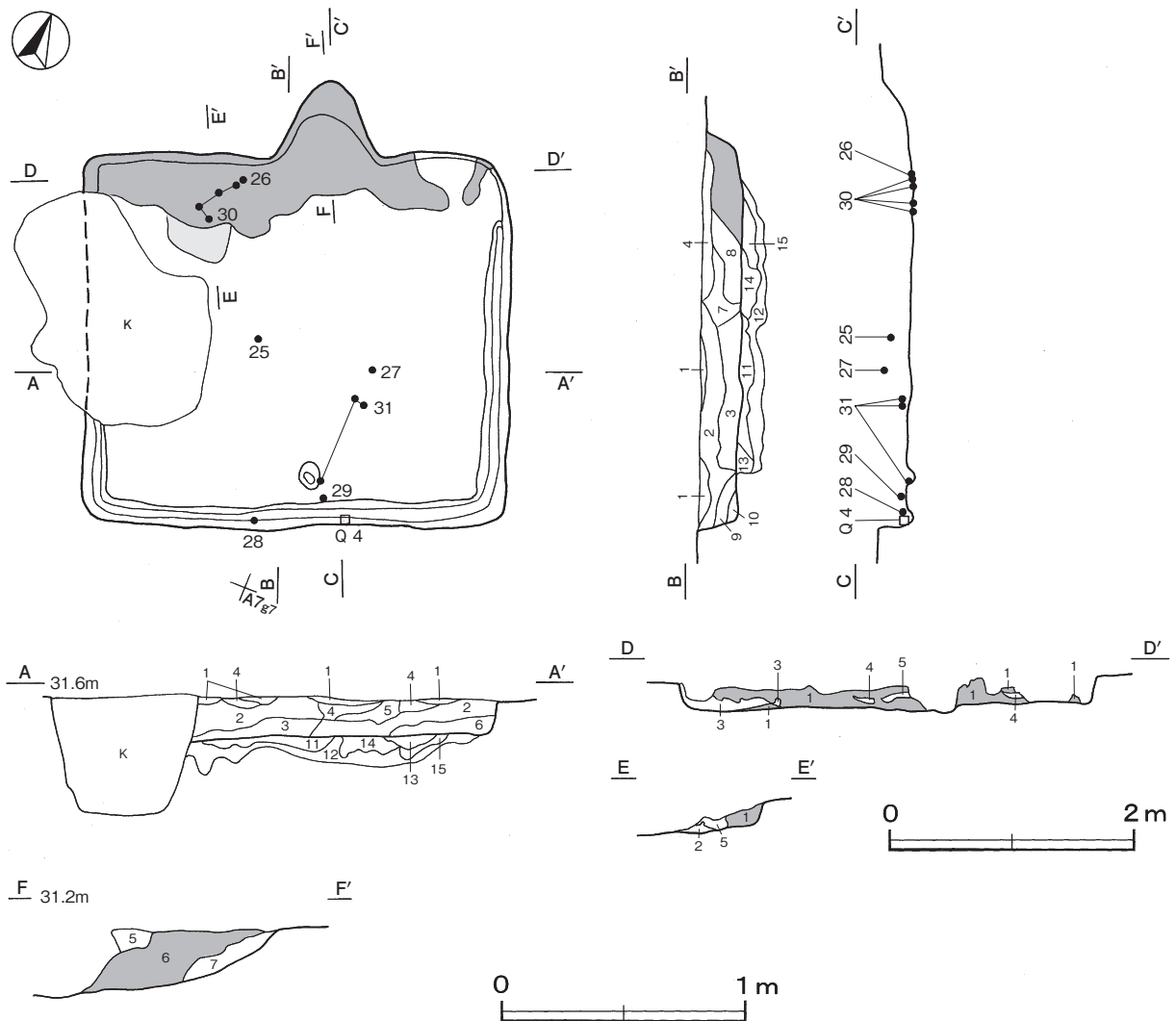
覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説 (11層から15層は掘り方土層)

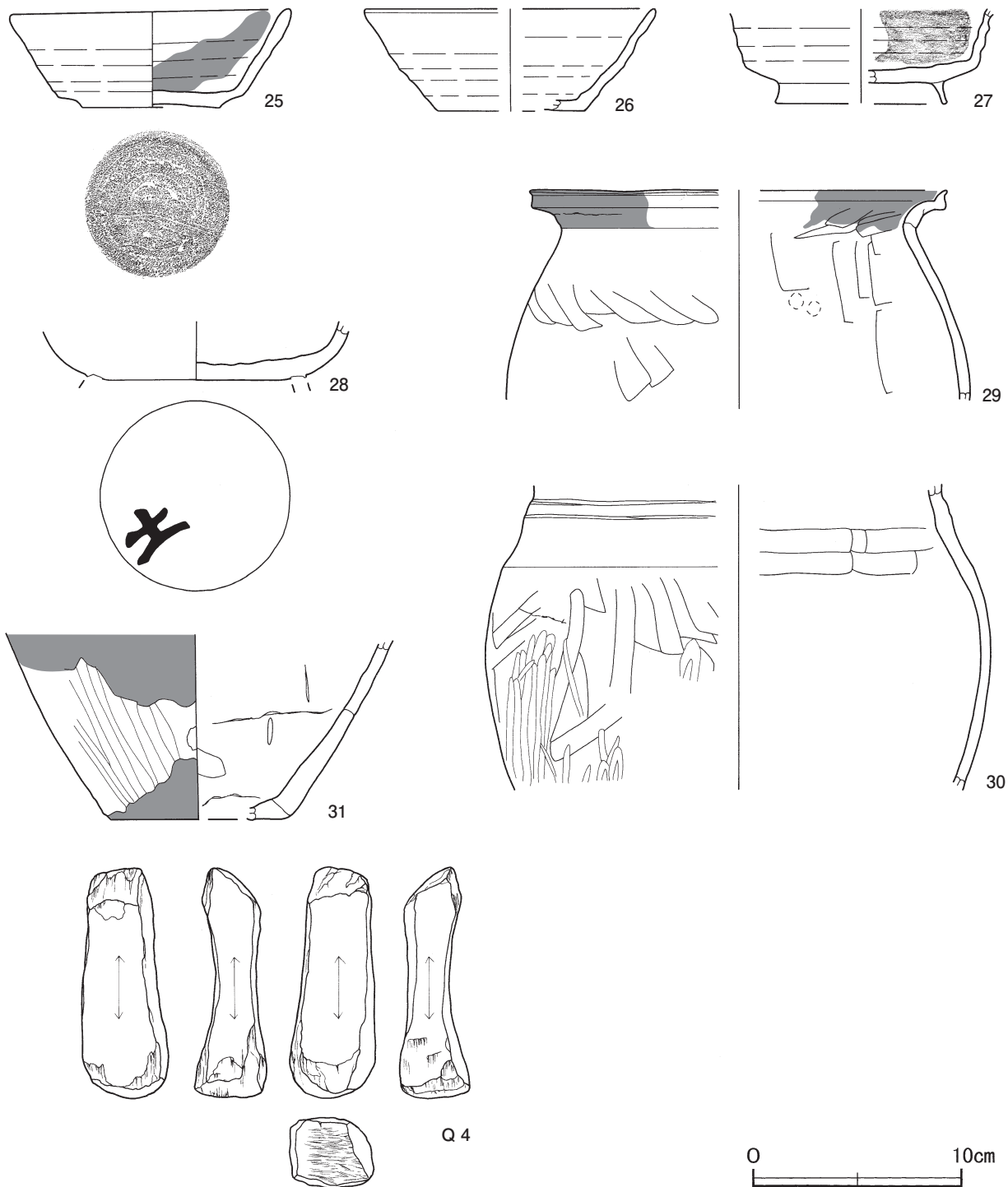
- |        |                        |          |                  |
|--------|------------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量         | 9 暗褐色    | ロームブロック少量、炭化物微量  |
| 2 褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子微量         | 10 褐色    | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  | 11 暗褐色   | ロームブロック少量        |
| 4 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量    | 12 暗褐色   | ロームブロック中量        |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量         | 13 にぶい褐色 | ロームブロック中量        |
| 6 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 14 褐色    | ロームブロック少量        |
| 7 褐色   | ロームブロック少量、焼土ブロック微量     | 15 明褐色   | ロームブロック多量        |
| 8 暗褐色  | 焼土ブロック・炭化物微量           |          |                  |

遺物出土状況 土器器片59点(坏3, 甕56), 須恵器片38点(坏21, 高台付坏3, 蓋1, 盤8, 甕5), 石器1点(砥石)が出土している。26・30は柵状施設を構築した粘土中から出土している。25・27は中央部の覆土上層から出土している。28・Q4は南部の壁溝から, 29は南壁際の床面から出土している。31は中央部の覆土下層と南部の床面の破片が接合したものである。

所見 北西コーナー部に柵状施設が設置されていた住居と考えられる。時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第16図 第4号住居跡実測図



第17図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
25	須恵器	坏	13.3	4.8	6.6	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向へのヘラ削り	中央部覆土上層	80% 体部内面煤付着 PL17
26	須恵器	坏	[14.0]	5.0	[7.2]	長石・雲母・小礫	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後一方向へのヘラ削り	棚状施設粘土中	40% PL17
27	須恵器	高台付坏	—	(4.6)	[8.4]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	中央部覆土上層	40% 体部内面漆付着 PL19
28	須恵器	高台付坏	—	(2.8)	10.6	長石・石英・小礫・海綿骨針	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	南部壁溝	30% 底部墨書□

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
29	土師器	甕	[20.1]	(10.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	南壁際床面	10% 口縁部 二次焼成痕
30	土師器	甕	—	(14.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ後縦方向のヘラ磨き 頸部内面ヘラナデ	棚状施設粘土中	20%
31	土師器	甕	—	(9.1)	8.9	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ 底部一方向へのヘラ削り	中央部覆土下 層 南部床面	40% 体部外 面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	砥石	11.3	4.2	3.4	174.3	結晶片岩	砥面 4 面	南部壁溝	PL25

### 第5号住居跡（第18・19図）

**位置** 調査区南部のF12i9区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.91m、短軸3.79mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は35cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで113cmで、壁外へ62cm掘り込まれている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。天井部や袖部は遺存せず、覆土の含有物から砂質粘土を用いて構築されていたと推測される。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用し、火床面は焼土の広がり方が確認できる程度である。

#### 竈土層解説

- |          |                       |        |                         |
|----------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量          | 6 暗褐色  | ロームブロック微量               |
| 2 黒褐色    | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量    | 8 明赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量         |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量      | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量         |
| 5 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量    |        |                         |

**ピット** 2か所。P1は深さ37cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ19cmで中央部に位置しており、覆土から焼土が確認されたが性格は不明である。

**覆土** 11層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

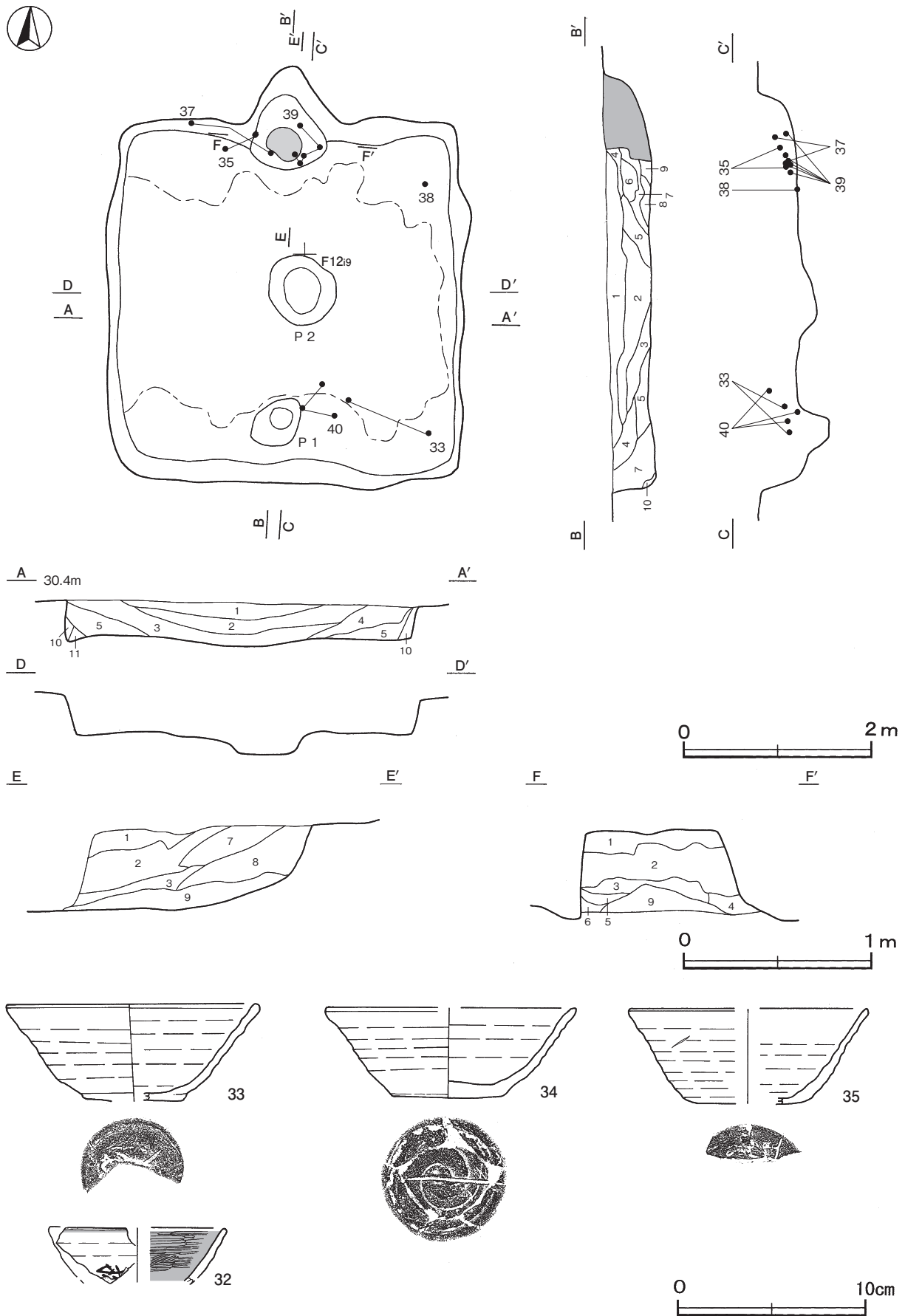
#### 土層解説

- |       |                       |        |                      |
|-------|-----------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量 | 8 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック少量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色  | 焼土粒子少量               |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量               | 10 褐色  | ロームブロック中量            |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量   | 11 黒褐色 | ローム粒子少量              |
| 6 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量    |        |                      |

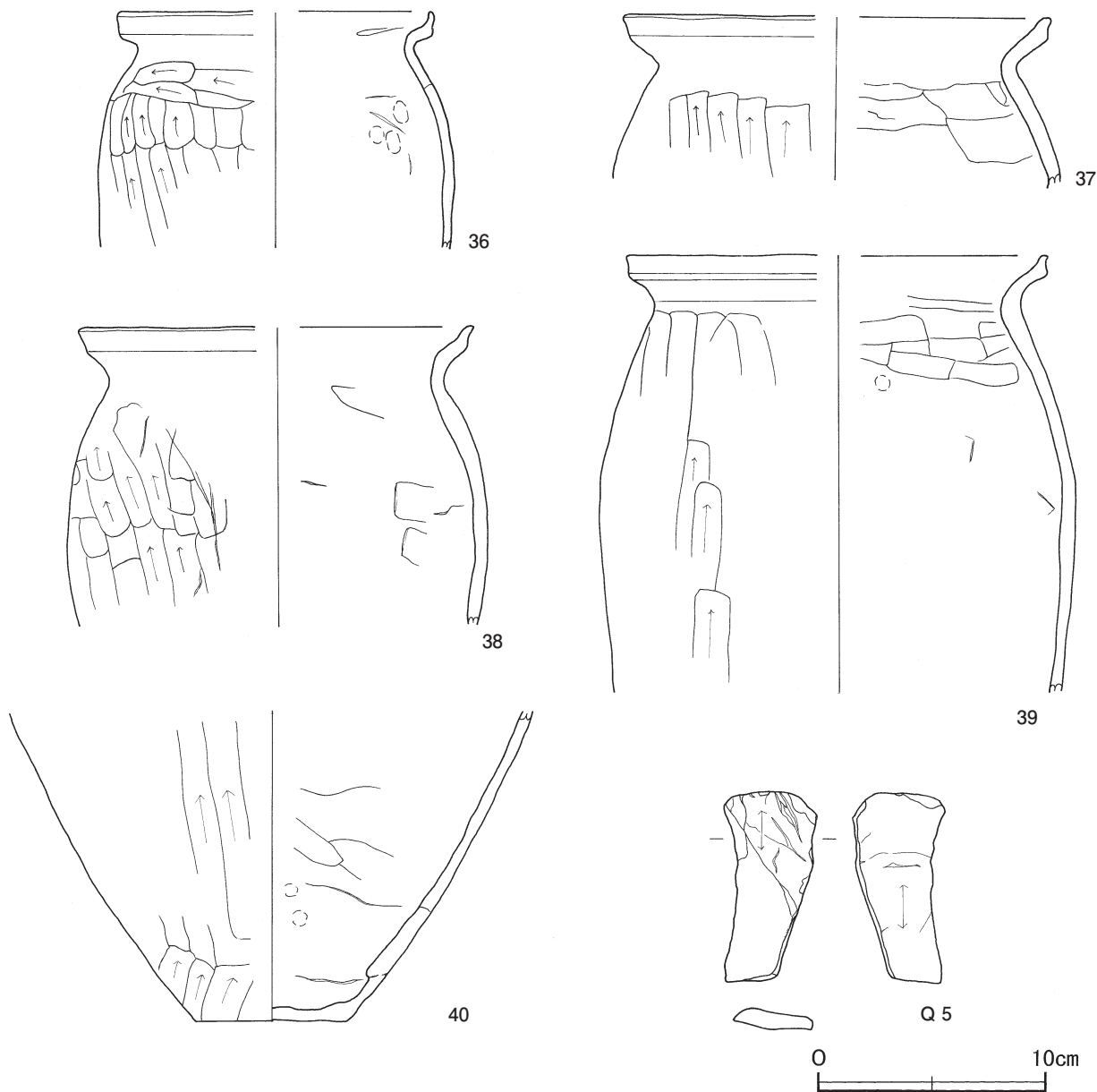
**遺物出土状況** 土師器片926点（坏82、高台付坏3、蓋2、甗1、甕838）、須恵器片163点（坏133、高台付坏4、蓋5、盤1、鉢1、壺2、甕17）、石器1点（砥石）が出土している。33・40は南部の覆土中層から覆土下層から出土した破片が、35・37は竈左袖付近の覆土中層から覆土下層から出土した破片が接合したものである。38は北東コーナー部の床面から、39は竈の覆土下層から、32・34・36・Q5は覆土中からそれぞれ出土している。また、流れ込んだ縄文土器片20点、礫28点（泥質凝灰岩9、細礫19）も出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。第7号住居跡床面中央部からも同じように焼土が確認されており、これらの住居が工房的な機能を持っていた可能性も考えられる。





第18图 第5号住居跡・出土遺物実測図



第19図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表 (第18・19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
32	土師器	坏	[9.4]	(3.0)	—	長石	にぶい黄橙	普通	体部内面へら磨き	覆土中	20% 体部外面墨書□ PL22
33	須恵器	坏	13.5	5.3	5.5	長石	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ	南部覆土下層	60% 底部へら書き PL17
34	須恵器	坏	13.5	5.1	6.3	長石・小礫	灰	普通	底部回転へら切り	覆土中	50% 底部へら記号 PL17
35	須恵器	坏	[12.8]	5.2	[5.6]	長石	灰黄	普通	底部回転へら切り後一方向へのへら削り	竈左袖付近	40%
36	土師器	甕	[14.0]	(10.5)	—	長石・雲母・小礫	橙	普通	体部外面へら削り 体部内面指頭痕	覆土中	10%
37	土師器	甕	[19.0]	(7.2)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へら削り 体部内面へらナデ	覆土中・下層	30%
38	土師器	甕	[17.6]	(13.3)	—	石英・雲母・小礫	にぶい橙	普通	体部外面へら削り 内面へらナデ	北東コーナー部床面	20%
39	土師器	甕	[18.8]	(19.9)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へら削り 内面へらナデ	竈覆土下層	30%
40	土師器	甕	—	(13.7)	6.8	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へら削り 内面へらナデ	南部覆土中・下層	40%

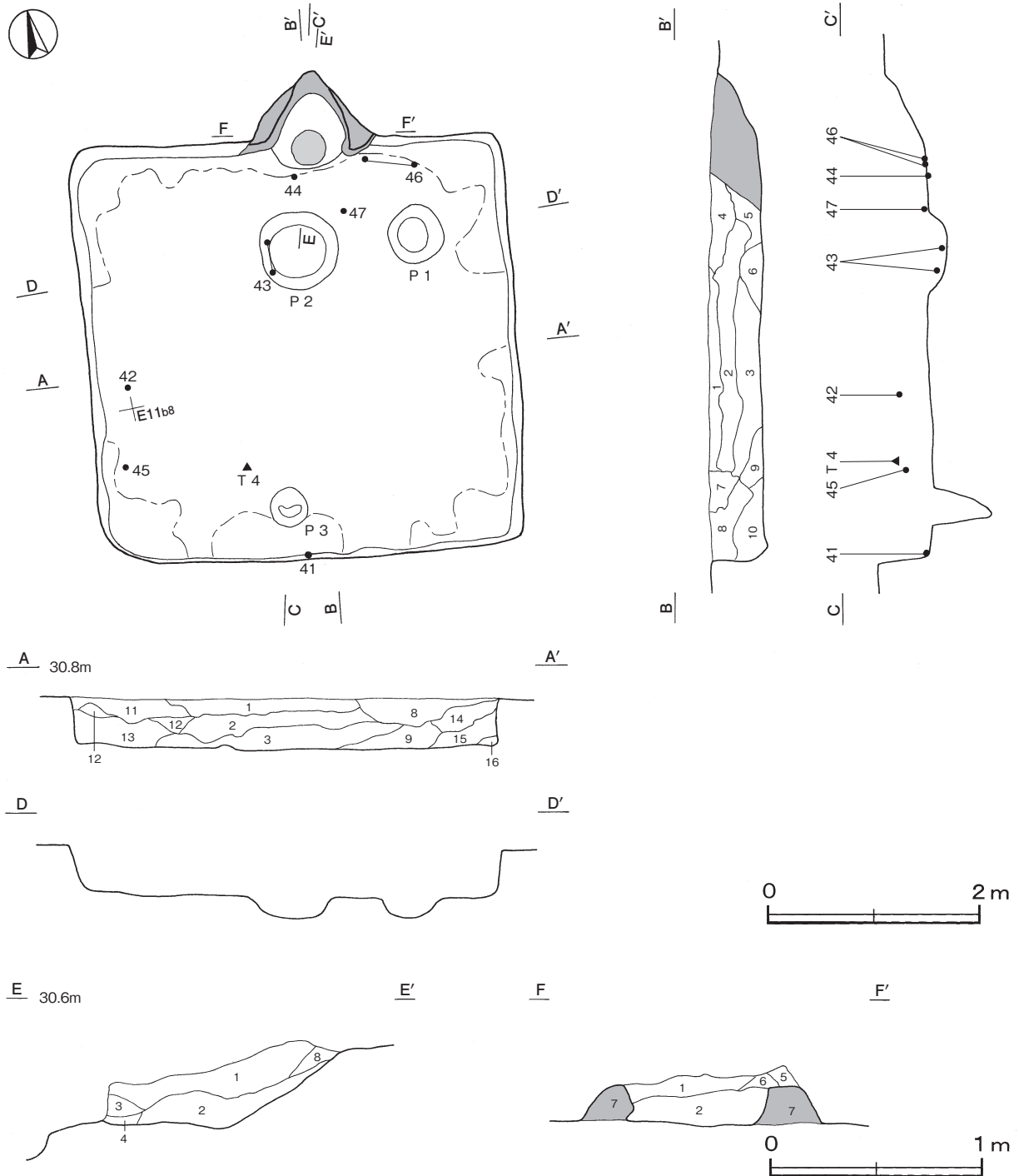
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	砥石	8.5	4.1	1.0	43.3	滑石	砥面2面	覆土中	PL25

### 第6号住居跡 (第20・21図)

**位置** 調査区南部のE11a8区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.15m、短軸4.05mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁高は43cmで、直立している。

**床** 平坦で、コーナー部を除いて踏み固められている。



第20図 第6号住居跡実測図

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで97cmで、壁外へ62cm掘り込まれている。煙道は火床部から外傾して立ち上がっている。袖部は床面と同じ高さの地山面その上部に砂質粘土を用いて構築されており、袖部幅は115cmほどである。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面が火熱で赤変している。

**竈土層解説**

- |        |                       |          |                    |
|--------|-----------------------|----------|--------------------|
| 1 黒褐色  | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色   | 焼土粒子少量, ロームブロック微量  |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量     | 6 におい黄褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色  | 焼土ブロック微量              | 7 灰黄褐色   | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色  | 焼土粒子少量, ロームブロック微量     | 8 暗褐色    | ロームブロック・焼土ブロック少量   |

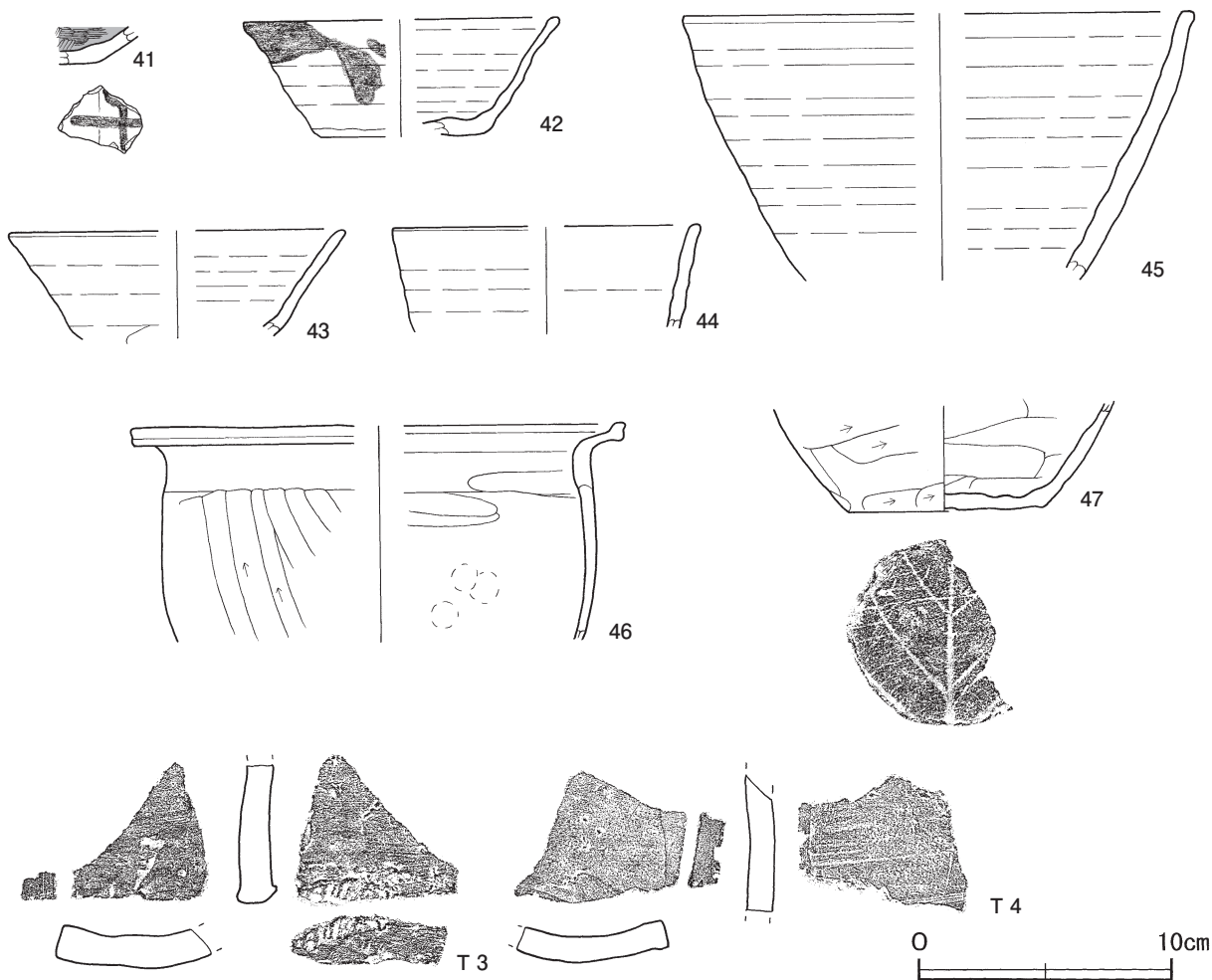
**ピット** 3か所。(P1・P2は北部に位置し、深さ19・20cmで性格不明である。) P3は深さ56cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 16層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                       |        |                   |
|-------|-----------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量               | 9 暗褐色  | ロームブロック少量         |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量     | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量   | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量    |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量      | 12 黒褐色 | ローム粒子少量           |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量    |
| 6 黒褐色 | ロームブロック微量             | 14 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量     |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量         | 15 暗褐色 | ロームブロック微量         |
| 8 褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子微量     | 16 黒褐色 | ロームブロック少量         |

**遺物出土状況** 土師器片273点(坏28, 高台付坏5, 甕240), 須恵器片137点(坏92, 高台付坏2, 蓋2, 鉢3, 短頸壺1, 甕37), 瓦片2点(平瓦)が出土している。41は南部の壁際から, 43は竈前のP2の覆土下層から



第21図 第6号住居跡出土遺物実測図

出土している。44・47は竈前の床面，T4は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。46は竈右袖付近の床面から出土した破片が接合したものである。また，流れ込んだ縄文土器片3点も出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

### 第6号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
41	土師器	坏	—	(1.5)	—	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	南部壁際床面	5% 底部墨 書□ PL22
42	須恵器	坏	[12.6]	4.7	[6.6]	石英・小礫	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	西部覆土中層	30% 体部漆 附着 PL17
43	須恵器	坏	[13.4]	(4.3)	—	長石・小礫	黄灰	普通	体部下端削り調整	P2覆土下層	30%
44	須恵器	坏	[12.0]	(4.2)	—	長石・小礫	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	竈前床面	20%
45	須恵器	鉢	[20.6]	(10.7)	—	長石・石英・小礫	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ	西部覆土中層	30%
46	土師器	甕	[19.8]	(8.7)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈右袖付近床面	30%
47	土師器	甕	—	(4.2)	7.8	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	竈前床面	20% 底部木 炭痕

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T3	平瓦	(5.5)	(6.3)	1.6	(46.0)	長石・小礫	灰白色 凹面布目痕 凸面・側面ヘラ削り	覆土中	PL29
T4	平瓦	(5.3)	(6.0)	1.1	(50.1)	長石・石英・小礫	灰白色 凹面布目痕 凸面・側面ヘラ削り	南部覆土中層	PL29

### 第7号住居跡（第22～25図）

**位置** 調査区南部のD11j9区で，標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号井戸に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸7.38m，短軸6.30mの長方形で，主軸方向はN-18°-Wである。壁高は40cmで，ほぼ直立している。

**床** 平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝が周回している。中央部に焼土の広がり確認されている。

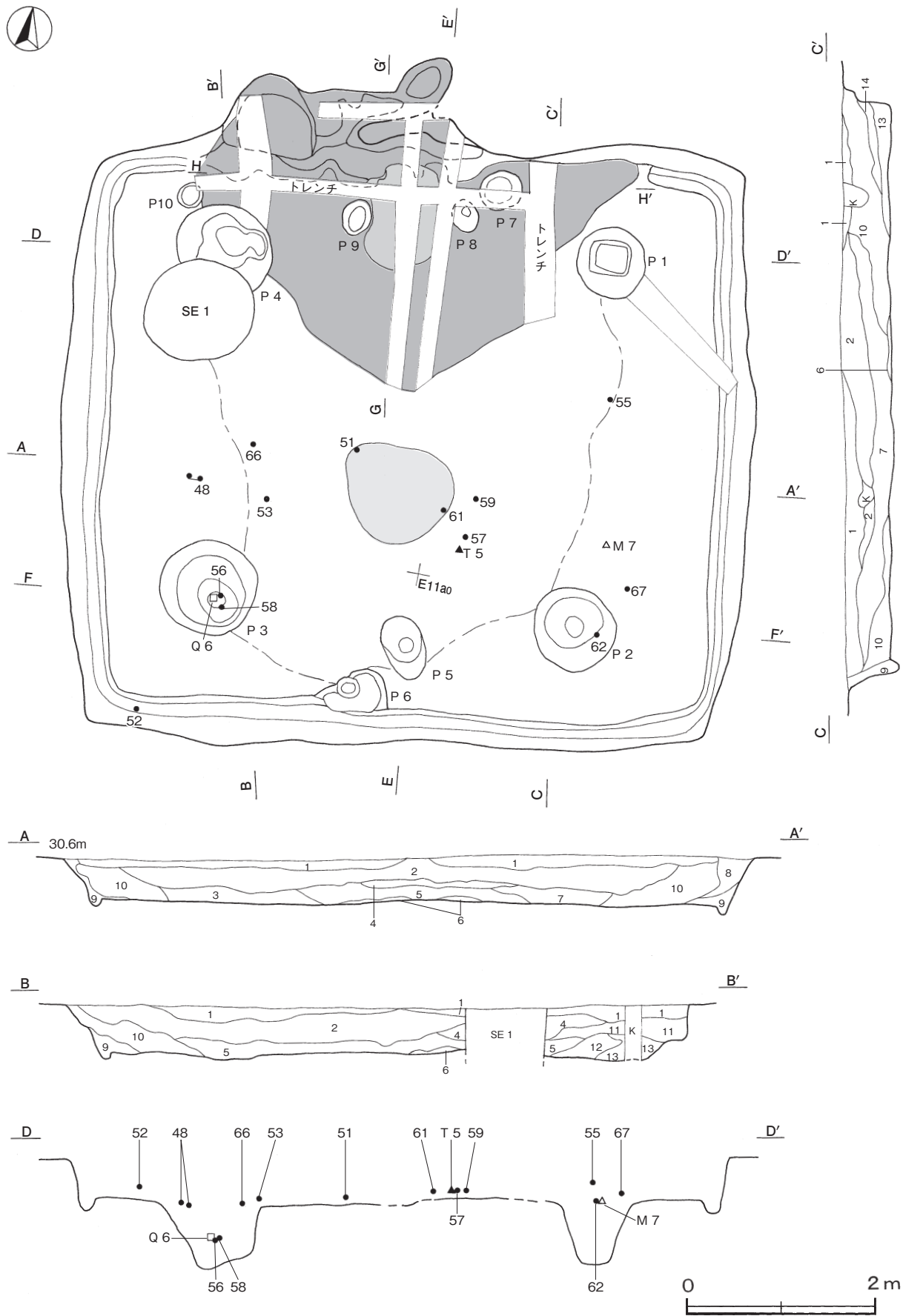
**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで226cmで，壁外へ98cm掘り込まれている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。袖部は柵状施設と考えられる粘土の広がり連続しており，幅470cmほどである。火床部は5cmほど皿状に掘りくぼめられ，火床面が火熱で赤変している。11層は灰層で18cmほど堆積している。竈を構築している砂質粘土が北西コーナー部まで連続しており，粘土を貼り付けたような状況がトレンチにより確認された。

#### 竈土層解説（柵状施設土層を含む）

1 灰白色	砂質粘土粒子多量	8 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子微量
2 褐灰色	砂質粘土粒子中量，鹿沼パミス微量	9 黒色	ローム粒子微量
3 にぶい褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・鹿沼パミス微量	10 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子微量
4 灰白色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量	11 灰赤色	焼土ブロック少量，焼土粒子中量
5 暗赤褐色	炭化物・砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量	12 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
6 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量	13 褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量
7 灰白色	砂質粘土粒子中量	14 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量

**柵状施設** 北壁中央部の竈を中心として西側部分に設けられている。規模は奥行80cm～100cm，幅150cm前後である。柵状施設の構築状況は，住居の掘り込みをした後に，竈袖部と同じ砂質粘土を貼り付け構築しているものと考えられる。確認された粘土の厚さは28～72cmである。

**ピット** 10か所。P1～P4は深さ61～73cmで，配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は深さ49cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P8・P9は竈両袖脇に



第22図 第7号住居跡実測図(1)

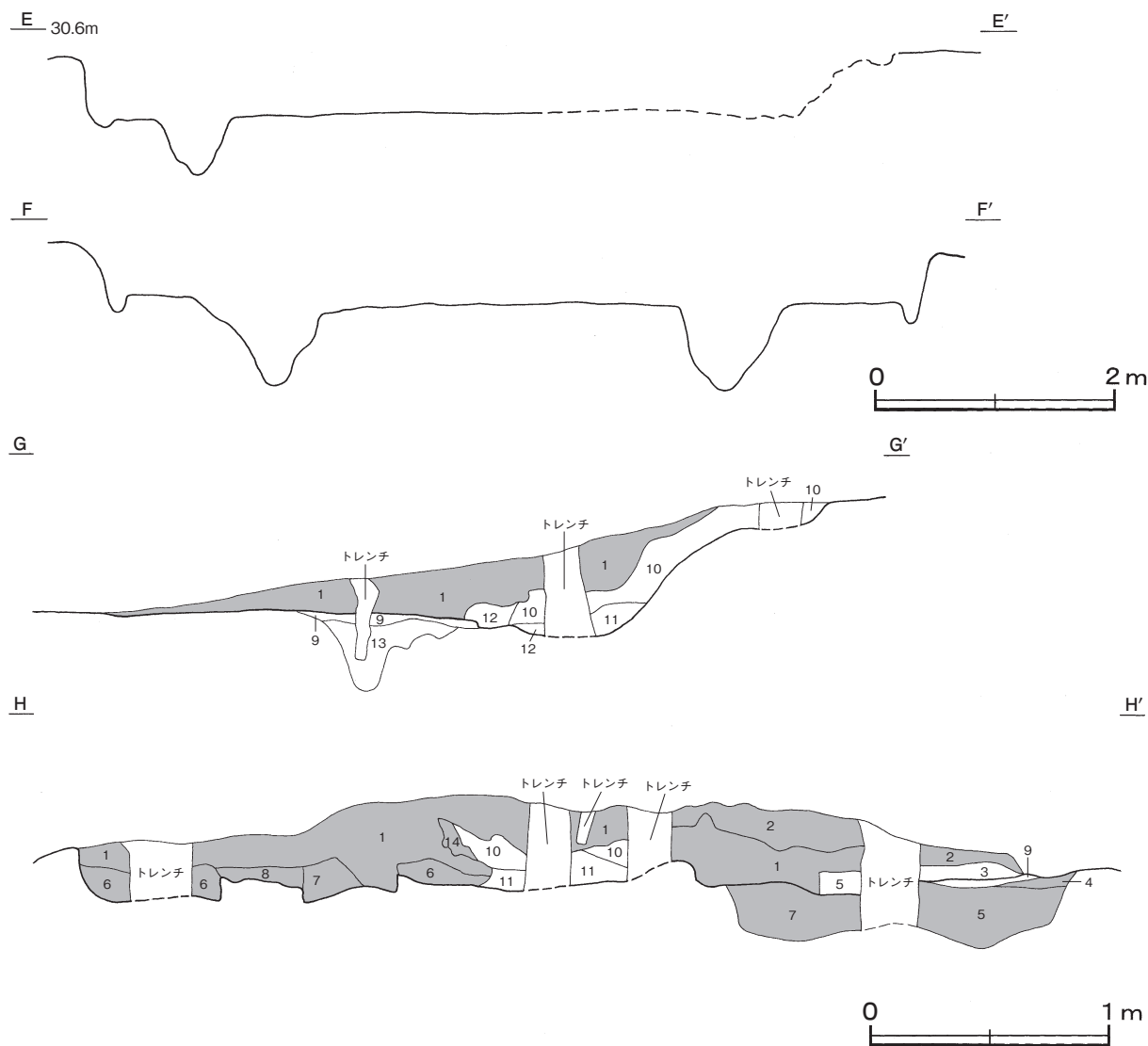
位置し、P 6はP 9に対応するように南壁際に位置している。P 6～P 9は深さが11～28cmであり、補助柱穴と考えられる。

**覆土** 14層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

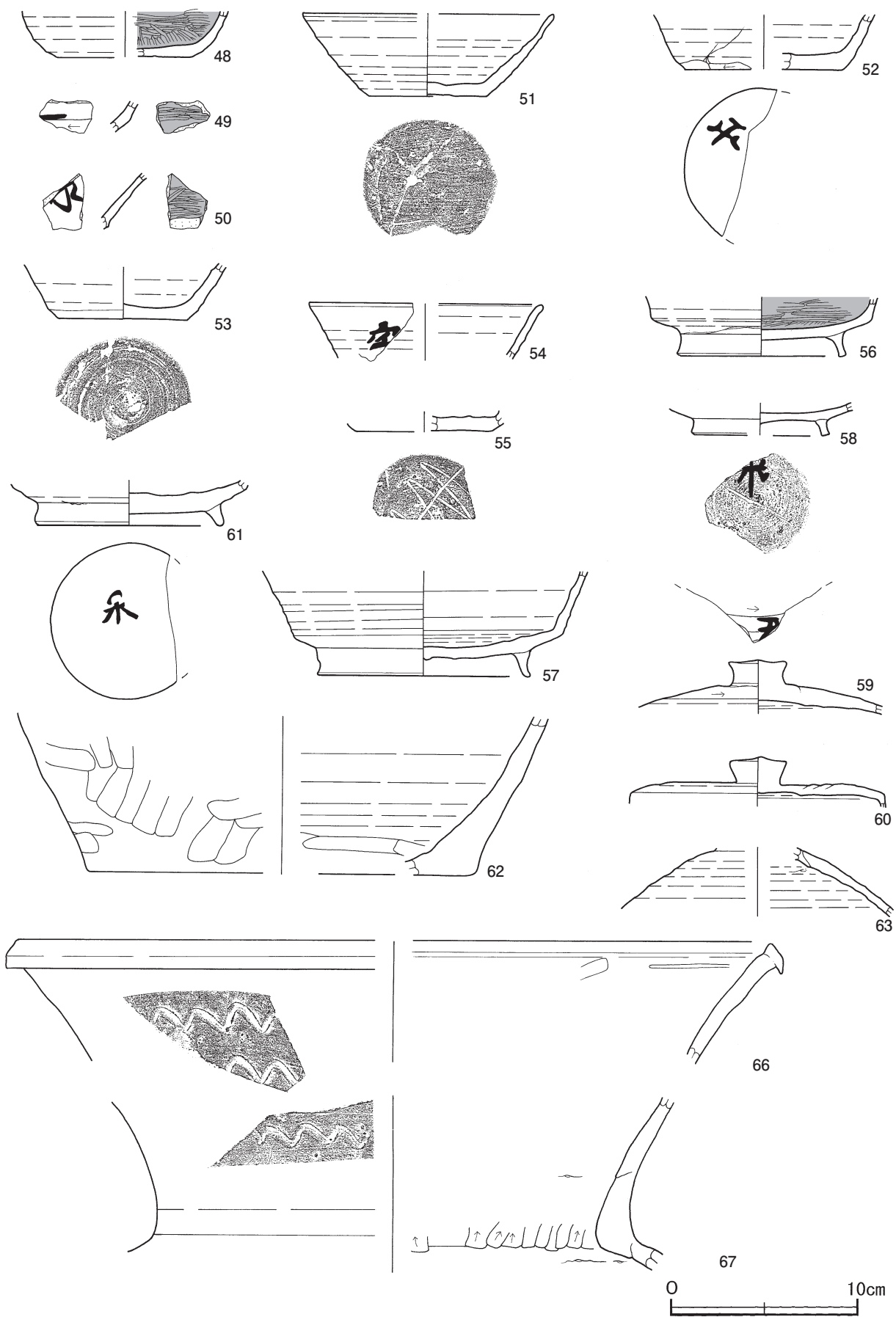
**土層解説**

- |       |                    |        |                     |
|-------|--------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量       | 8 褐色   | ローム粒子中量、ロームブロック少量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 9 褐色   | ローム粒子中量             |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量   | 10 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量  |
| 4 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化物・砂質粘土粒子微量  |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量      | 12 黄橙色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量    |
| 6 褐色  | ローム粒子多量            | 13 灰白色 | 砂質粘土粒子多量            |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化物微量       | 14 暗褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |

**遺物出土状況** 土師器片596点（坏93，高台付坏12，蓋2，鉢1，小形甕1，甕487），須恵器片510点（坏306，高台付坏27，蓋67，盤14，高盤6，鉢2，甕88），瓦1点（平瓦），鉄製品1点（釘），石器1点（砥石）が出土している。48・66は西部の床面，53は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。51・57・59・61・T5は中央部の覆土下層，67・M7は東部床面，52は南西コーナー部の壁溝下層からそれぞれ出土している。56・58・Q6はP3の柱抜き取り痕から，62はP2の覆土上層から出土している。64・65は竈の砂質粘土中か



第23図 第7号住居跡実測図(2)

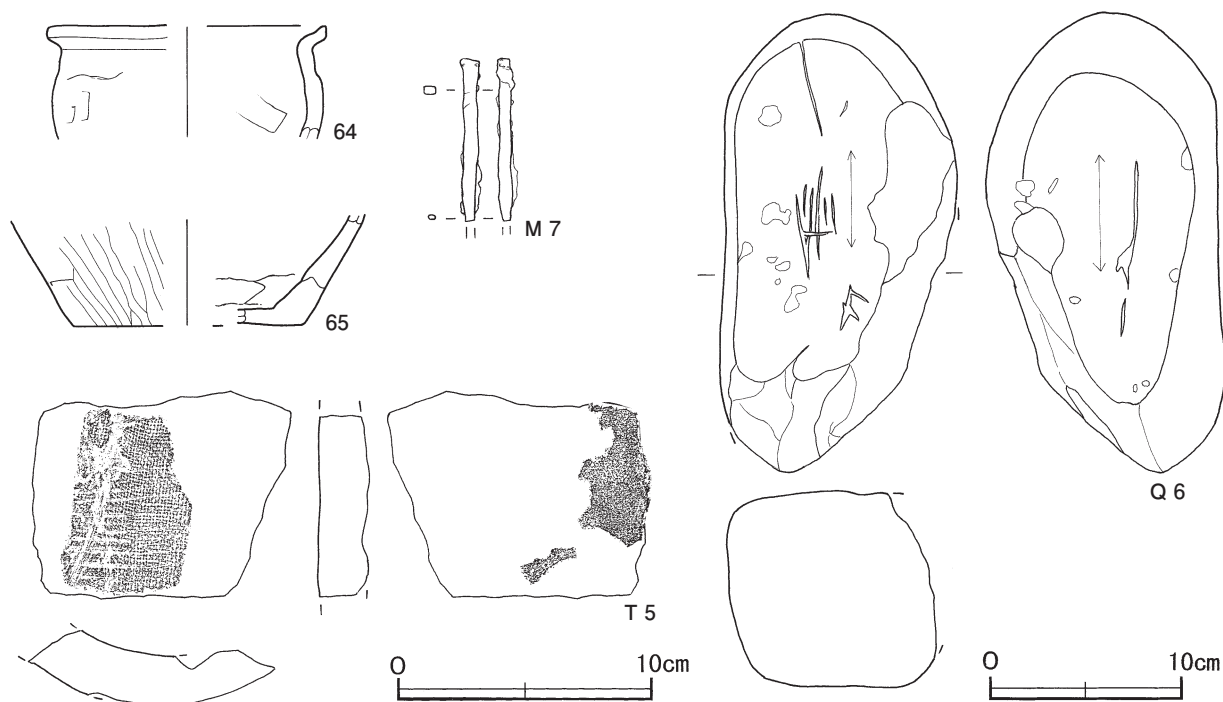


第24图 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



ら出土している。また、流れ込んだ縄文土器片120点、攪乱のため混入した陶器片2点も出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。床面中央からは焼土が約1mの範囲の円形で確認されている。第5号住居跡の床面中央からも同じように焼土が確認されており、これらの住居が工房的な機能を持っていた可能性も考えられる。52の墨書土器と同じ文字が書かれた土器が、第5号掘立柱建物跡のP3柱抜き取り痕からも出土している。これら二つの遺構は主軸方向をそろえており、同時期に機能し、廃絶されたと推測される。



第25図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)

第7号住居跡出土遺物観察表 (第24・25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
48	土師器	坏	—	(2.5)	[7.4]	雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	西部床面	20%
49	土師器	坏	—	(1.8)	—	長石	にぶい・橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5% 体部外面墨書□
50	土師器	坏	—	(3.0)	—	雲母	灰褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5% 体部外面墨書□ PL22
51	須恵器	坏	[13.6]	4.5	6.4	長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向へのヘラ削り	中央部覆土下層	50% PL17
52	須恵器	坏	—	(3.0)	[8.6]	長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後多方向へのヘラ削り	南西部壁溝下層	30% 底部墨書□ PL23
53	須恵器	坏	—	(2.9)	7.0	石英・小礫	灰	普通	体部下端削り調整 底部回転ヘラ切り	西部覆土下層	30%
54	須恵器	坏	[12.6]	(3.1)	—	長石・石英・小礫	灰	普通	体部内・外面クロコナデ	覆土中	10% 体部外面墨書□
55	須恵器	坏	—	(1.1)	[7.4]	長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り	東部覆土中層	20% 底部刻書
56	土師器	高台付坏	—	(3.2)	9.3	長石・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼付け	P3覆土中層	20%
57	須恵器	高台付坏	—	(5.7)	11.5	長石・小礫・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	中央部覆土下層	40%
58	須恵器	高台付坏	—	(1.8)	[7.5]	長石・石英・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	P3覆土中層	25% 底部墨書□・ヘラ記号 PL23
59	須恵器	蓋	—	(3.0)	—	長石・石英・小礫	灰黄褐	普通	天井部ヘラ削り	中央部覆土下層	60% 墨書□
60	須恵器	蓋	—	(2.8)	—	長石	黄灰	普通	天井部ヘラ削り	棚状施設粘土内下層	20%
61	須恵器	盤	—	(2.5)	10.3	長石・小礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	中央部覆土下層	30% 底部墨書□ PL23

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
62	須恵器	鉢	—	(8.6)	[21.0]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ヘラナデ 底部多方向へのヘラ削り	P 2 覆土上層	20%
63	須恵器	長頸瓶	—	(3.8)	—	長石	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	10%
64	土師器	小形甕	[11.0]	(4.5)	—	石英・雲母・小礫	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈粘土内	20%
65	土師器	甕	—	(4.3)	[9.2]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ	竈粘土内	20%
66	須恵器	大甕	[40.8]	(6.6)	—	長石・石英・小礫	灰	良好	頸部内面ヘラナデ・外面の波状文	西部床面	5% P67と同一個体カ
67	須恵器	大甕	—	(9.5)	—	長石・石英・小礫	灰	良好	頸部内面ヘラナデ・外面波状文	東部床面	5% P66と同一個体カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q 6	砥石	24.5	12.7	10.6	(4520)	砂岩	砥面 2 面	P 3 覆土中層	PL26
M 7	釘	(6.5)	1.0	0.8	(6.7)	鉄	断面方形の棒状	東部床面	
T 5	平瓦	(7.5)	(9.8)	2.1	(236)	長石・石英・雲母	赤褐色 凹面布目痕 凸面ヘラ削り	中央部覆土下層	PL29

### 第 8 号住居跡 (第 26 図)

**位置** 調査区中央部の B10i7 区で、標高 30.5m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 大部分が調査区域外に延びているため、確認できたのは南西コーナー部の南北 2.05m、東西 0.74m である。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向は N-25°-W と考えられる。壁高は 48cm で、外傾して立ち上がっている。

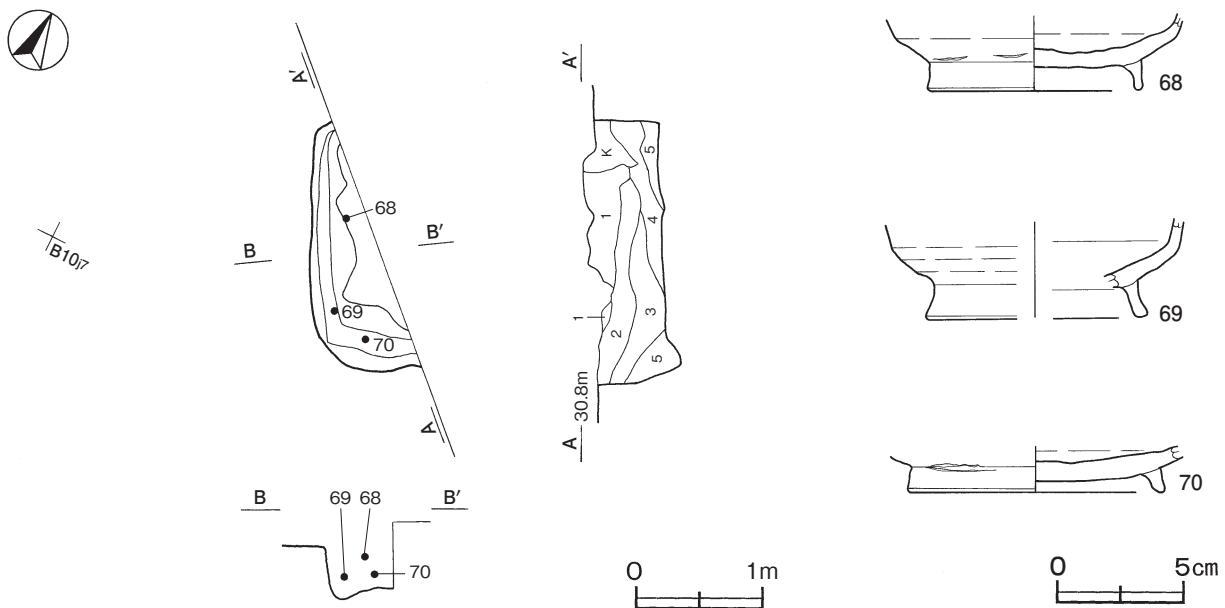
**床** ほぼ平坦で、壁溝が巡っている。

**覆土** 5 層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                        |       |                   |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量     | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量    |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量         |       |                   |

**遺物出土状況** 須恵器片 6 点 (高台付坏 4、盤 1、甕 1) が出土している。68 は西部の覆土上層から、69・70 は南壁際の覆土下層から斜位で出土している。また、流れ込んだ敲石 1 点も出土している。



第 26 図 第 8 号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉以前と考えられる。

### 第8号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
68	須恵器	高台付坏	—	(3.0)	8.6	雲母・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	西部覆土上層	40%
69	須恵器	高台付坏	—	(3.9)	[8.9]	長石・小礫	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	南壁際覆土下層	20%
70	須恵器	盤	—	(1.8)	10.3	長石・石英・小礫	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	南壁際覆土下層	20%

### 第9号住居跡（第27・28図）

位置 調査区中央部のD11c3区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.22m、短軸3.73mの長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は41cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、全体がよく踏み固められている。南部を除き、ほぼ全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cmで、壁外へ48cm掘り込まれている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。袖部幅111cmである。袖部はロームブロックの混合土を貼り付け、基部として、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を利用し、火床面が火熱で赤変硬化している。

#### 竈土層解説

1 黒 褐 色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	11 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量	12 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
3 暗 褐 色	炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量	13 暗 褐 色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色	粘土ブロック・焼土粒子微量	14 暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量、粘土ブロック微量
5 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・粘土ブロック少量	15 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
6 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	16 オリーブ褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗 褐 色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	17 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量
8 にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量	18 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量
9 にぶい黄褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量		
10 灰 黄 褐 色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子微量		

ピット 深さ17cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

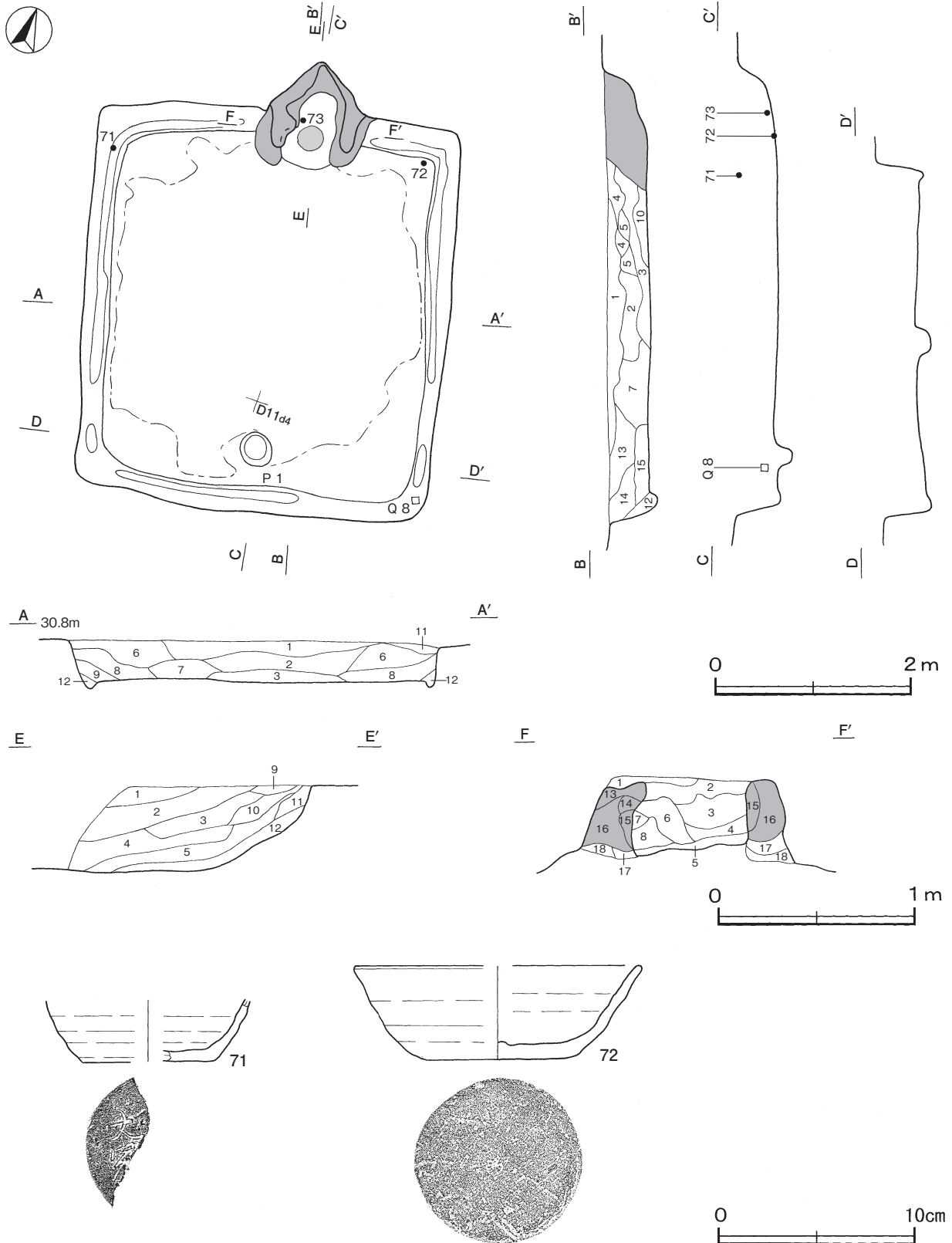
覆土 15層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

#### 土層解説

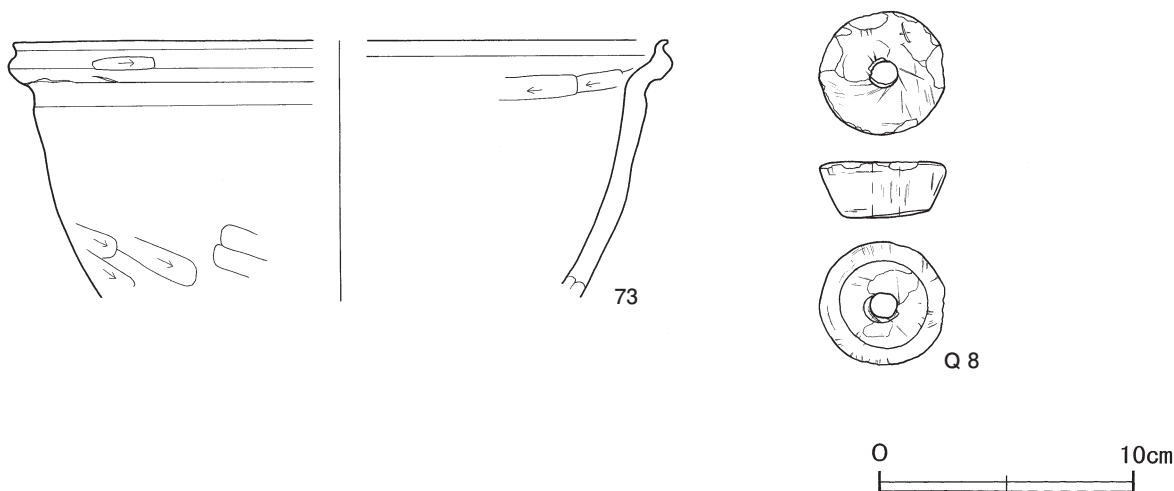
1 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量	9 暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量
2 黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化物微量	10 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
3 灰 褐 色	粘土ブロック中量、ローム粒子微量	11 褐 色	ロームブロック多量
4 灰 褐 色	粘土ブロック少量、焼土粒子微量	12 暗 褐 色	ロームブロック少量
5 灰 褐 色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量	13 暗 褐 色	ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
6 黒 褐 色	ローム粒子微量		
7 暗 褐 色	ローム粒子少量、ロームブロック微量	14 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
8 黒 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量	15 黒 褐 色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片205点（坏25, 皿1, 甕179）、須恵器片84点（坏64, 蓋7, 盤3, 壺2, 甕8）、鉄製品2点、石器1点（紡錘車）、切石2点が出土している。71は北西コーナー部の覆土上層から横位で出土し、底部には「文家」のヘラ書きがある。72は北東コーナー部の床面、73は竈の覆土下層から出土している。竈周辺の床面には泥質凝灰岩の切石が確認された。2点の切石には片面に被熱痕が見られた。また、流れ込んだ縄文土器片2点も出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。竈周辺の床面から出土した切石は、竈に使用されたものと考えられる。竈の用材が周辺に散乱した状態で出土していることから、廃絶時にこわされたことが推測される。



第27図 第9号住居跡・出土遺物実測図



第28図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第27・28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
71	須恵器	坏	—	(3.2)	[6.8]	長石・石英・黒色 粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	北西コーナー 部覆土上層	30% 底部へ ラ書き「丈家」 PL22
72	須恵器	坏	[14.8]	4.9	8.5	長石・石英・小礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	北東コーナー 部覆土下層	40%
73	土師器	鉢	[26.0]	(10.2)	—	長石・石英	橙	普通	体部内・外面へラ削り	竈覆土下層	10%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q8	紡錘車	4.9	1.1	2.2	(65.4)	粘板岩	円錐台形	南東コーナー 部覆土下層	PL26

第10号住居跡 (第29・30図)

位置 調査区中央部のC11j3区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.14m、短軸3.94mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は31～49cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、支柱穴の内側を中心に踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで79cmで、壁外へ24cm掘り込まれている。煙道は火床部から外傾して立ち上がっている。袖部の幅は114cmほどで、地山の上にローム土と砂質粘土の混合土を貼り付けて基部とし、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を利用しており、火床面が火熱で赤変している。

竈土層解説

- |          |                       |           |                         |
|----------|-----------------------|-----------|-------------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・粘土ブロック微量      | 10 暗褐色    | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量     | 11 暗褐色    | ロームブロック・炭化粒子少量          |
| 3 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック微量      | 12 褐色     | ロームブロック少量、焼土粒子微量        |
| 4 褐色     | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量 | 13 褐色     | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量    |
| 5 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量       | 14 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物微量          |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量       | 15 褐色     | ロームブロック中量、炭化物微量         |
| 7 暗褐色    | 粘土ブロック少量、焼土粒子微量       | 16 暗褐色    | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 8 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量              | 17 褐色     | 焼土ブロック・粘土ブロック微量         |
| 9 褐色     | 焼土粒子・粘土粒子微量           |           |                         |

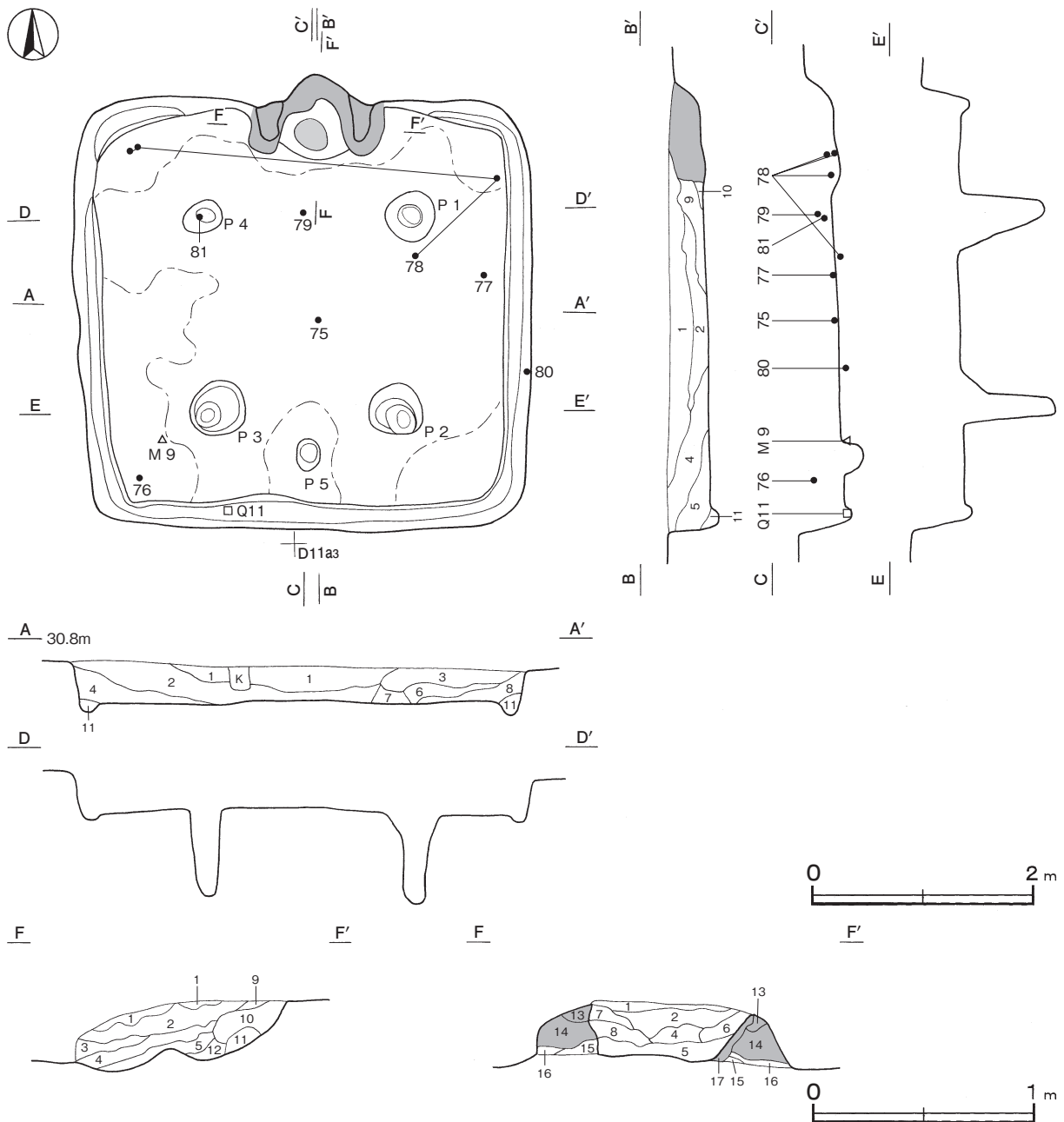
ピット 5か所。P 1～P 4は深さ79～85cmで、配置と規模から支柱穴と考えられる。P 5は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- |       |                 |         |                               |
|-------|-----------------|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量  | 7 黒褐色   | ローム粒子微量                       |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量    | 8 暗褐色   | ロームブロック微量                     |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 灰褐色   | 粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量       | 10 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量       | 11 暗褐色  | ロームブロック中量                     |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |         |                               |

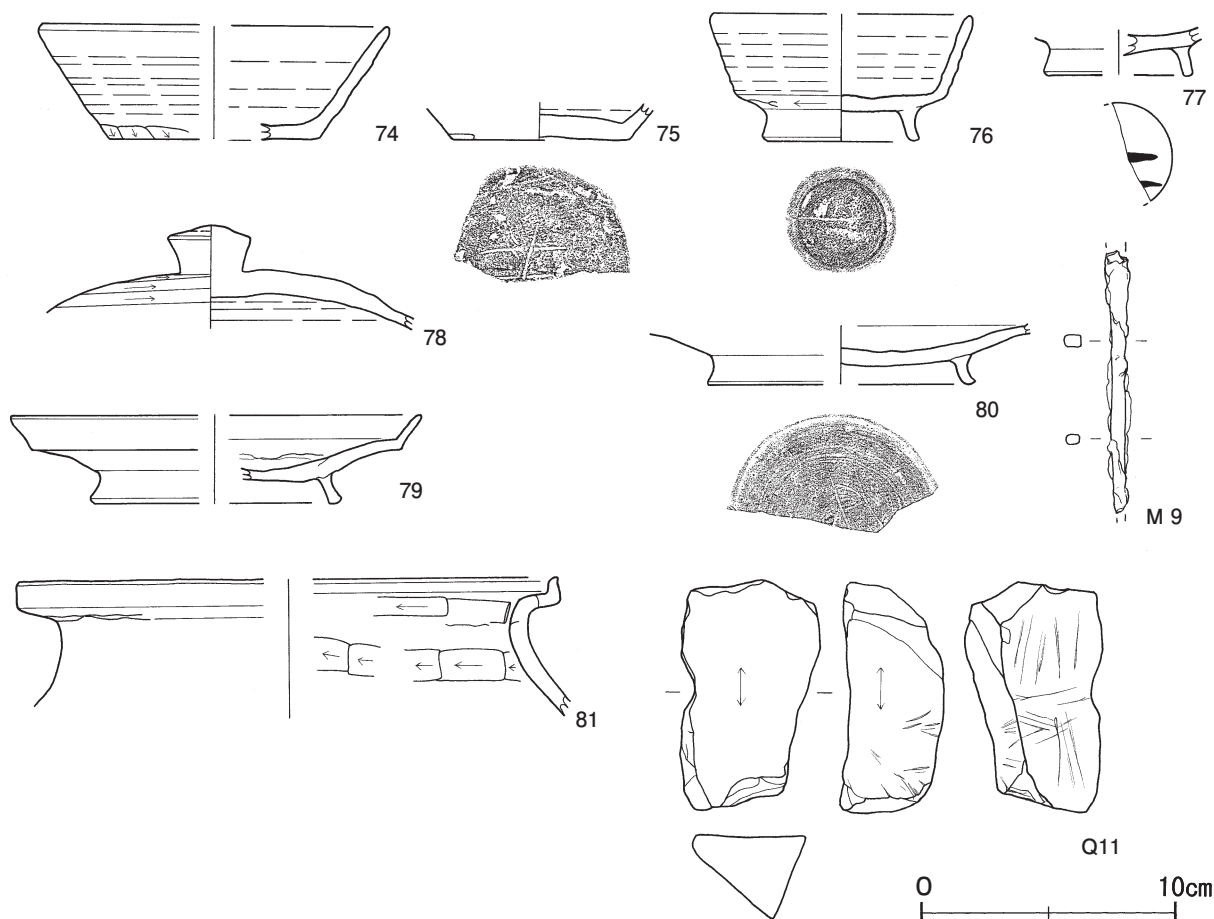
遺物出土状況 土師器片159点(坏11, 甕148), 須恵器片94点(坏69, 高台付坏3, 蓋10, 盤2, 甕10), 鉄製品1点(釘), 石器2点(砥石), 小礫30点(泥質凝灰岩)が出土している。79・81は北部の覆土中層から, 80



第29図 第10号住居跡実測図

は東壁溝の覆土下層からそれぞれ出土している。75は中央部，77は東部，M9は南西部の床面から，78は北東及び北西コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。また，流れ込んだ縄文土器片5点，敲石1点，廃絶時に投棄されたと考えられる泥質凝灰岩の小礫30点も出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第30図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
74	須恵器	坏	[13.8]	4.5	[8.2]	長石・石英・小礫	灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	30%
75	須恵器	坏	—	(1.2)	7.0	長石・小礫・黒色 長石 粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	中央部床面	20% 底部ヘラ記号
76	須恵器	高台付坏	[10.3]	5.1	6.0	石英・小礫	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	南西コーナー部覆土上層	60% 底部ヘラ記号 PL19
77	須恵器	高台付坏	—	(1.8)	[6.0]	長石・石英	緑灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	東壁際床面	10% 底部墨書□
78	須恵器	蓋	—	(4.2)	—	長石・石英・小礫	灰黄褐	普通	天井部ヘラ削り	北西部床面・北東部床面	60% PL19
79	須恵器	盤	16.6	3.5	(9.8)	長石・小礫・黒色 長石 粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	北部覆土中層	30%
80	須恵器	盤	—	(2.4)	[10.6]	長石・石英・黒色 長石 粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	東壁溝	25% 底部ヘラ記号
81	土師器	甕	[21.6]	(5.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	頸部内面ヘラ削り	北部覆土中層	5%

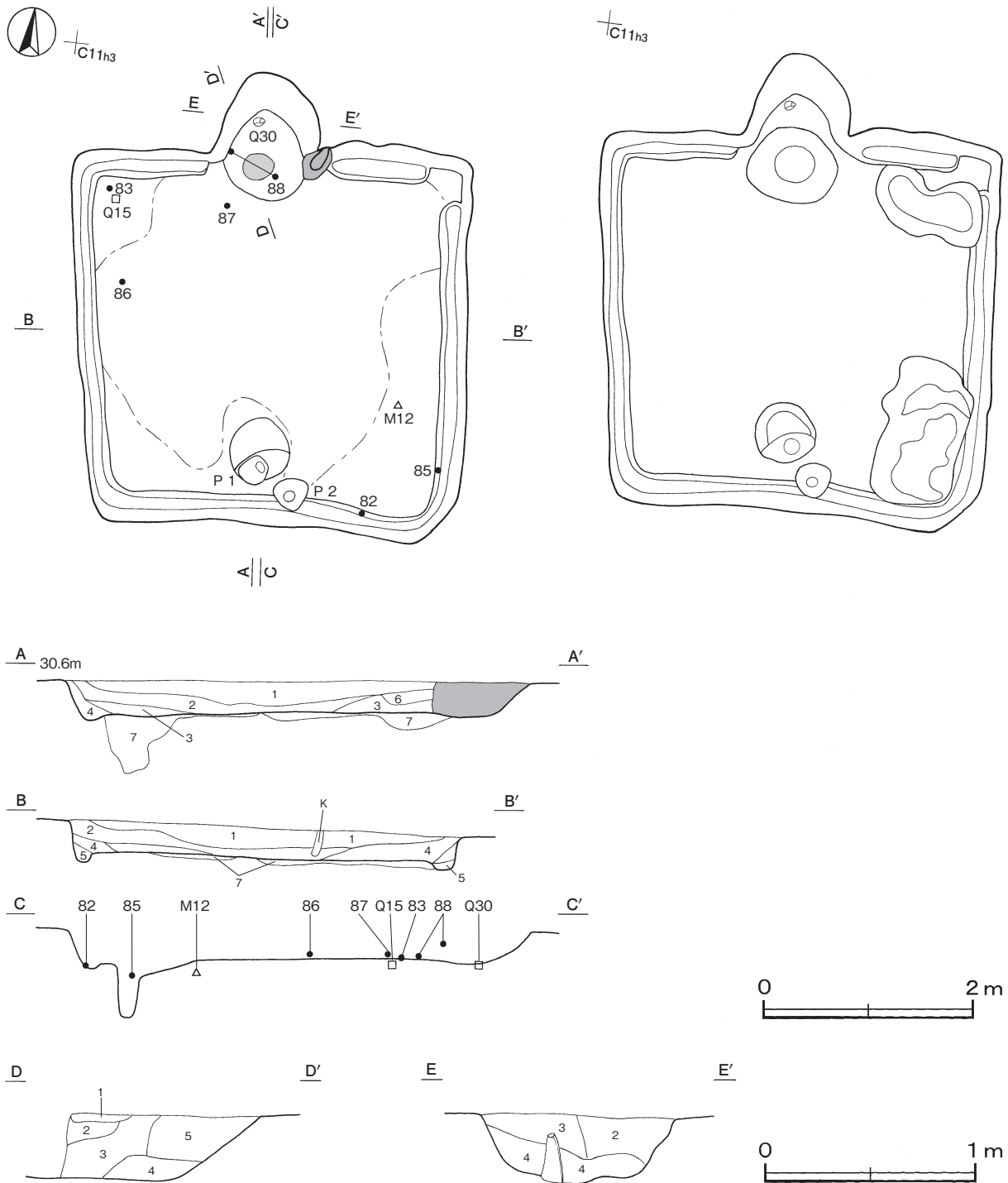
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	砥石	9.2	5.5	4.0	174.7	酸性凝灰岩	砥面2面	南壁溝	PL25
M9	鐵莖	(10.3)	0.9	0.7	17.2	鉄	断面方形の棒状，一端がわずかに細る	南西部床面	PL27

第11号住居跡 (第31 ~ 33図)

位置 調査区中央部のC11h3区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺3.80mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は37cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、全体が踏み固められており、壁溝が周回している。北東コーナー部と南東コーナー部は深く掘り下げられ、ローム土を主体とした土を用い、床面を構築している。他の部分は掘り残した地山を床面としている。



第31図 第11号住居跡実測図



**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ123cm、袖部幅116cmである。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用し、火床面は火熱で赤変硬化している。煙道部の立ち上がりには泥質凝灰岩製の支脚が据えられている。煙道部が壁外へ70cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |       |                   |        |              |
|-------|-------------------|--------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量      | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物微量 |
| 2 灰白色 | 砂質粘土粒子多量          | 5 褐色   | 灰褐色          |
| 3 灰褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |        |              |

**ピット** 2か所。P1は深さ54cm、P2は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

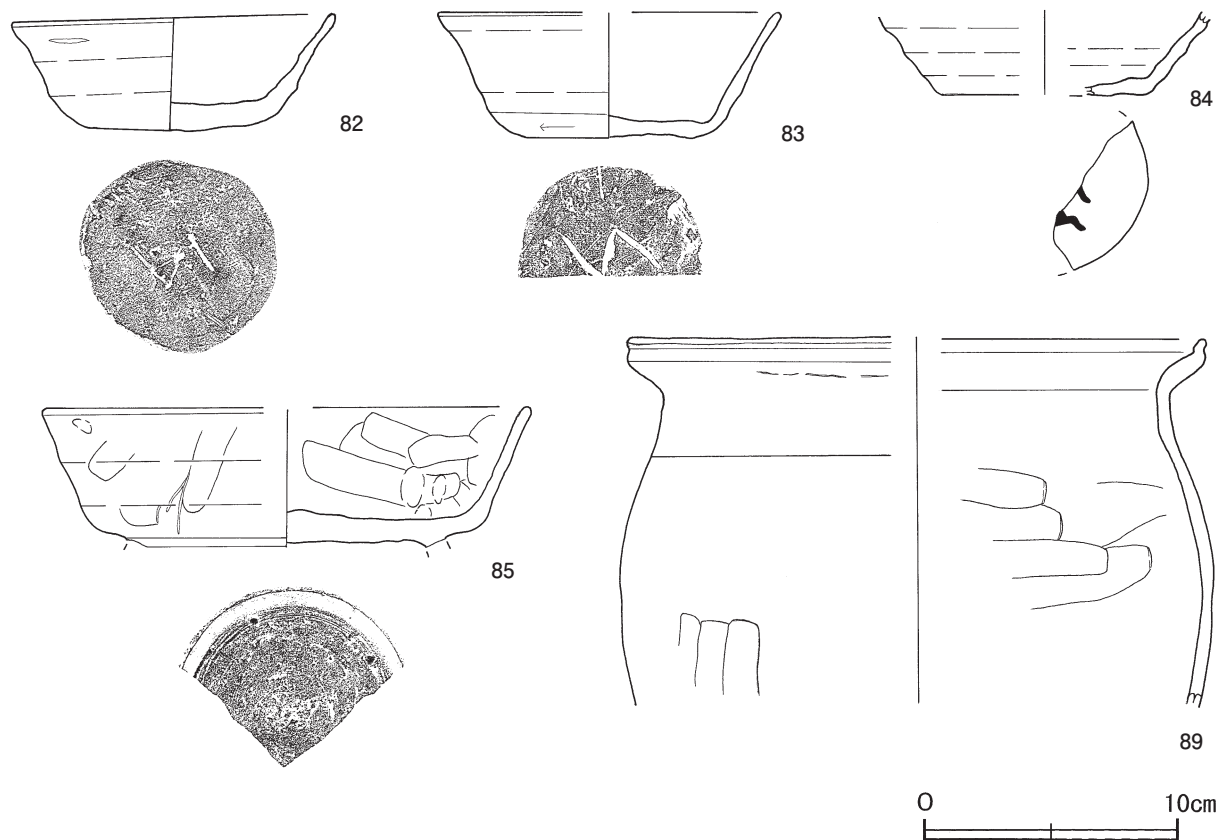
**覆土** 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

**土層解説** (7層は掘り方土層)

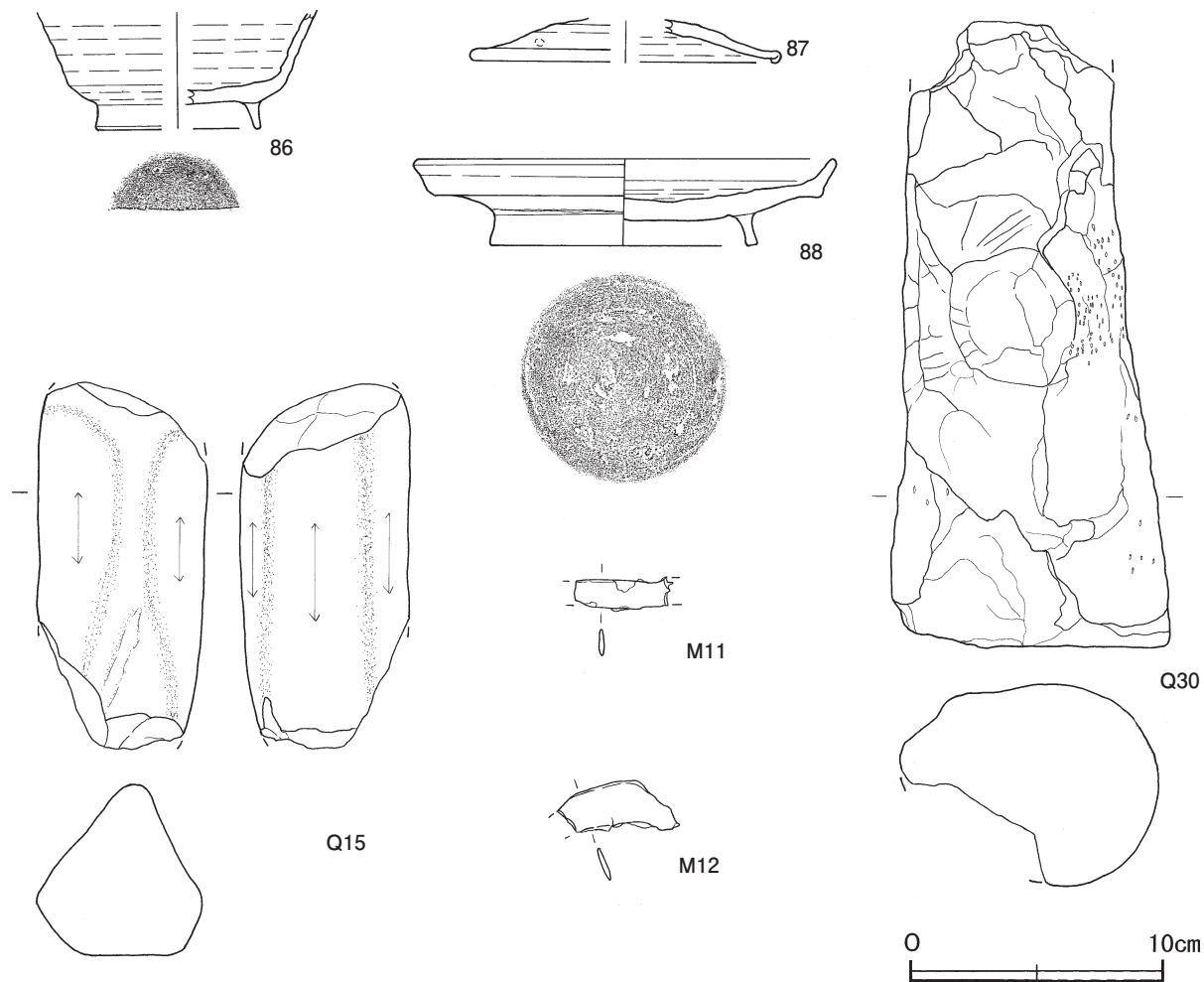
- |       |                     |       |                      |
|-------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 5 褐色  | ロームブロック多量            |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰白色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量      | 7 褐色  | ロームブロック中量            |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量      |       |                      |

**遺物出土状況** 土師器片201点(坏10, 高台付坏2, 甕189), 須恵器片87点(坏75, 高台付坏1, 蓋3, 盤2, 甕4, 壺2), 鉄製品2点(刀子, 不明鉄製品), 石器2点(砥石・支脚)が出土している。82は南壁際の覆土下層, 83, Q15は北西コーナー部の床面から, 85は東部の壁溝から, 88は竈の覆土中層・下層からそれぞれ出土している。86・87は北部の床面, M12は東部の床面, Q30は竈内からそれぞれ出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片3点, 廃絶時に投棄されたと考えられる泥質凝灰岩13点も出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第32図 第11号住居跡出土遺物実測図(1)



第33図 第11号住居跡出土遺物実測図(2)

第11号住居跡出土遺物観察表 (第32・33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
82	須恵器	坏	12.8	4.7	7.6	長石・小礫・黒色粒子	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	南壁溝覆土下層	70% 底部ヘラ記号 PL17
83	須恵器	坏	[13.5]	5.0	7.4	長石・小礫	灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	北西コーナー部床面	50% 底部ヘラ記号 PL17
84	須恵器	坏	—	(3.4)	[8.2]	長石	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	30% 底部墨書□
85	須恵器	高台付坏	[19.2]	(5.7)	—	長石・小礫・海綿骨針	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	東壁溝	30%
86	須恵器	高台付坏	—	(4.7)	[6.2]	石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	西部覆土下層	30%
87	須恵器	蓋	[12.2]	(1.7)	—	石英・小礫・白色粒子	灰黄	普通	天井部ヘラ削り	竈手前下層	25%
88	須恵器	盤	16.8	3.4	10.8	石英・雲母・小礫	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈覆土中・下層	95% PL20
89	土師器	甕	[22.8]	(14.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中	10%

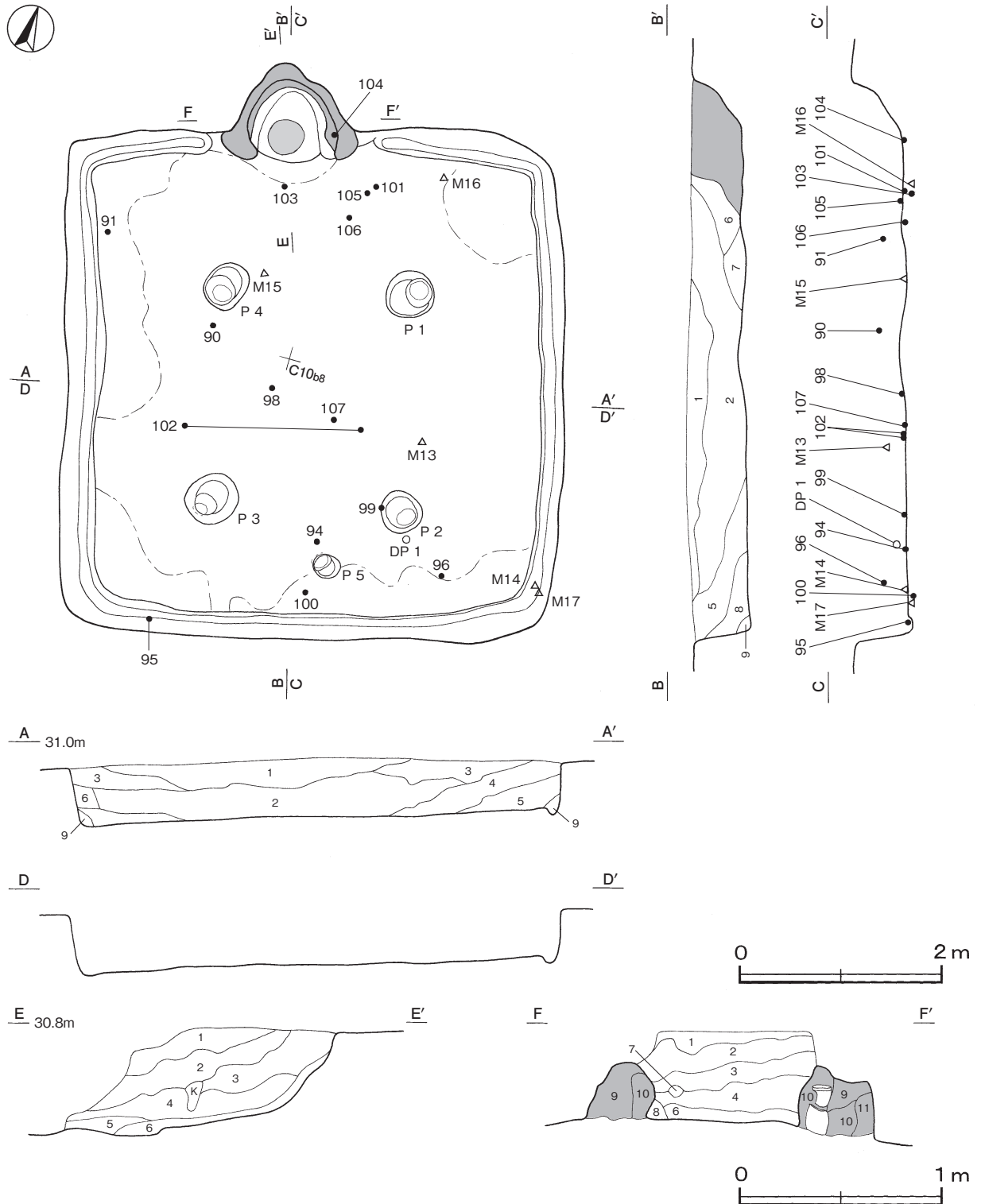
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q15	砥石	(14.6)	6.8	6.8	(829)	砂岩	砥面3面	北西コーナー部床面	PL26
Q30	竈支脚	(25.2)	11.3	8.2	(951)	泥質凝灰岩	先端部欠損	竈火床面奥	PL26
M11	刀子	(3.9)	(1.3)	(0.2)	(3.1)	鉄	先端部, 基部欠損	覆土中	
M12	不明	(4.9)	(2.1)	(0.2)	(3.2)	鉄	先端部欠損	東部堀り方	

第12号住居跡 (第34～36図)

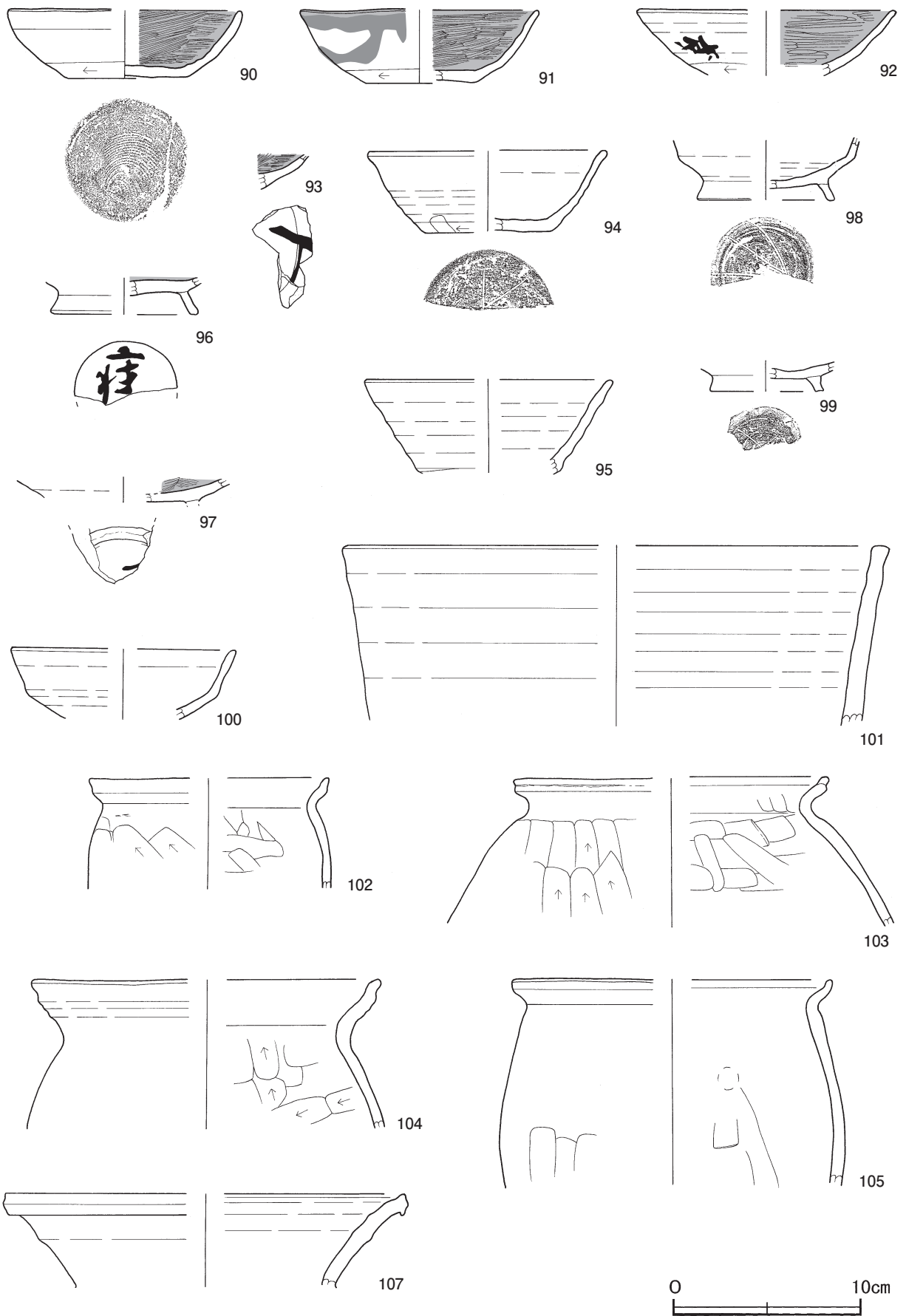
位置 調査区中央部のC10b8区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.23m、短軸4.97mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は48～58cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。



第34図 第12号住居跡実測図



第35图 第12号住居跡出土遺物実測図(1)

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、壁外へ69cm掘り込まれている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。袖部幅は144cmで、床面と同じ地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を利用しており、火床面が火熱で赤変している。

**竈土層解説**

- |          |                           |          |                       |
|----------|---------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色    | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量       | 6 におい赤褐色 | 焼土ブロック少量、粘土ブロック微量     |
| 2 暗褐色    | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 褐色     | ロームブロック・焼土ブロック少量      |
| 3 におい黄褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量          | 8 灰褐色    | 粘土ブロック少量              |
| 4 褐色     | 粘土粒子中量、ロームブロック微量          | 9 におい黄褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色    | 粘土粒子少量、ローム粒子微量            | 10 黄褐色   | 粘土ブロック中量、焼土粒子微量       |
|          |                           | 11 灰褐色   | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量    |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ53～70cmで、配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

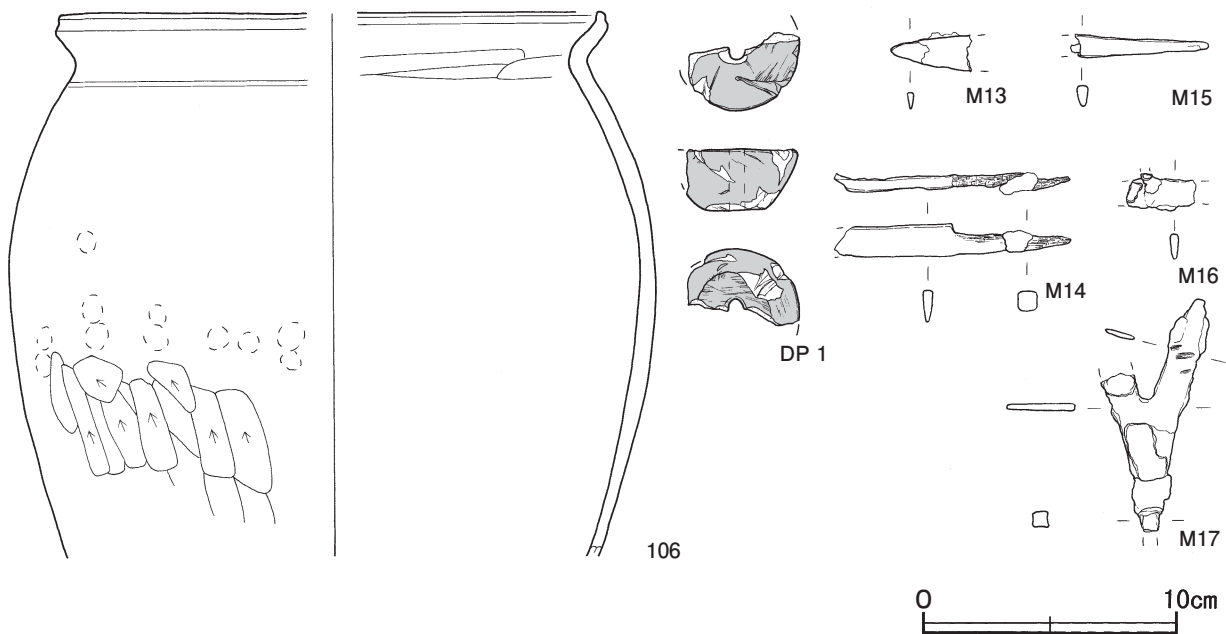
**覆土** 9層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                     |       |                       |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量        | 6 黒褐色 | ロームブロック少量             |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量             | 8 黒褐色 | ロームブロック微量             |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量    | 9 暗褐色 | ロームブロック少量             |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量    |       |                       |

**遺物出土状況** 土師器片1,180点（坏158, 高台付坏2, 鉢1, 甕1,019）、須恵器片263点（坏169, 高台付坏7, 長頸瓶2, 甕5, 甕80）、土製品1点（紡錘車）、鉄製品5点（刀子4, 鎌1）が出土している。竈内及び床面の遺物は遺棄されたものと考えられる。91は北部、90・M13は中央部、96は南部の覆土中層から、DP1は南部の覆土下層から、101・103・105・106・M16は北部、98・102・107・M15は中央部、94・99・100は南部の床面、95・M14・M17は東部から南部の壁溝覆土中からそれぞれ出土している。104は竈右袖部の粘土内に埋め込まれていたものである。92・93・97は覆土中からそれぞれ出土している。また、流れ込んだ縄文土器片2点、廃絶時に投棄されたと考えられる泥質凝灰岩5点も出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第36図 第12号住居跡出土遺物実測図(2)

第12号住居跡出土遺物観察表（第35・36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
90	土師器	坏	[12.5]	3.7	6.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面へラ磨き 体部下端へラ削り 底部回転糸切り	中央部覆土 中層	50% PL17
91	土師器	坏	[12.8]	4.0	5.9	長石・石英・小礫	にぶい黄橙	普通	体部内面へラ磨き 体部下端へラ削り	北部覆土中層	50% 体部外面 煤附着 PL18
92	土師器	坏	[13.8]	(3.5)	—	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面へラ磨き 体部下端へラ削り	覆土中	20% 体部外面 墨書□ PL23
93	土師器	坏	—	(1.9)	—	長石・雲母・赤色 石英・小礫・黒色 粒子	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	5% 体部外面 墨書□ PL23
94	須恵器	坏	12.8	4.5	[7.0]	長石・石英・小礫 粒子	黄灰	普通	体部外面下端へラ削り 底部回転へラ切り	南部床面	40% 底部へ ラ記号
95	須恵器	坏	[13.2]	5.1	—	長石・石英・小礫	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ	南部壁溝覆土 中	20%
96	土師器	高台付坏	—	(2.0)	[8.0]	長石・小礫・黒色 粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面へラ磨き 底部回転へラ切り後 高台貼付け	南部覆土中層	20% 底部墨 書□ PL22
97	土師器	高台付坏	—	(1.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き 底部回転へラ切り後 高台貼付け	覆土中	10% 底部墨 書□
98	須恵器	高台付坏	—	(3.5)	[7.4]	長石・小礫・黒色 粒子	暗灰黄	普通	底部回転へラ切り後高台貼付け	中央部床面	40% 底部へ ラ記号
99	須恵器	高台付坏	—	(1.7)	[6.0]	長石・石英・小礫	灰褐	普通	底部回転へラ切り後高台貼付け	南部床面	15% 底部へ ラ記号
100	須恵器	高台付坏	[12.0]	(3.8)	—	長石・石英・小礫	灰	普通	体部内・外面口クロナデ	南部床面	30%
101	須恵器	鉢	[28.8]	(9.7)	—	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ	北部床面	10%
102	土師器	小形甕	[13.0]	(6.0)	—	石英・小礫・黒色 粒子	にぶい褐	普通	体部外面へラ削り 体部内面へラナデ	中央部床面・ 西部床面	20%
103	土師器	甕	[17.0]	(8.1)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 体部内面へラナデ	北部床面	5%
104	土師器	甕	[18.6]	(8.1)	—	長石・石英・赤色 粒子	褐	普通	体部内面へラ削り	竈石袖粘土内	10%
105	土師器	甕	[17.0]	(11.1)	—	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内・外面へラナデ	北部床面	15%
106	土師器	甕	[21.5]	(21.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 頸部内面へラナデ	北部床面	30%
107	須恵器	甕	[21.6]	(5.1)	—	長石・石英・小礫	灰	普通	口縁部内・外面口クロナデ	中央部床面	5%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	紡錘車	[5.0]	0.7	2.2	(25.1)	長石・雲母	赤彩 円錐台形	南東部覆土 下層	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	刀子	(3.3)	(1.4)	0.2	(12.9)	鉄	刃先部 断面三角形	中央部覆土 中層	PL26
M14	刀子	(9.4)	(1.5)	0.4	(3.7)	鉄	片関 刃先部欠損 茎尻部木質付着	南東コーナ 一部壁溝	
M15	刀子	(5.5)	(0.8)	0.4	(4.2)	鉄	茎尻部	中央部床面	
M16	刀子	(2.7)	(1.4)	0.4	(3.7)	鉄	刃部断面三角形	北部床面	
M17	鎌	(9.3)	(4.3)	0.9	(17.7)	鉄	雁股式 鎌身部一部欠損	南東コーナ 一部壁溝覆土中	PL27

第13号住居跡（第37・38図）

位置 調査区中央部のB10j6区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.28m、短軸3.85mの長方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は63cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、コーナー部を除いて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ144cmで、壁外へ56cm掘り込まれている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。袖部幅は140cmである。火床部は7cm掘り込まれ、火床面は焼土の広がり方が確認できる程度である。

竈土層解説

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量    | 4 灰白色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量     |
| 2 灰白色 砂質粘土粒子多量       | 5 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |                           |

ピット 深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

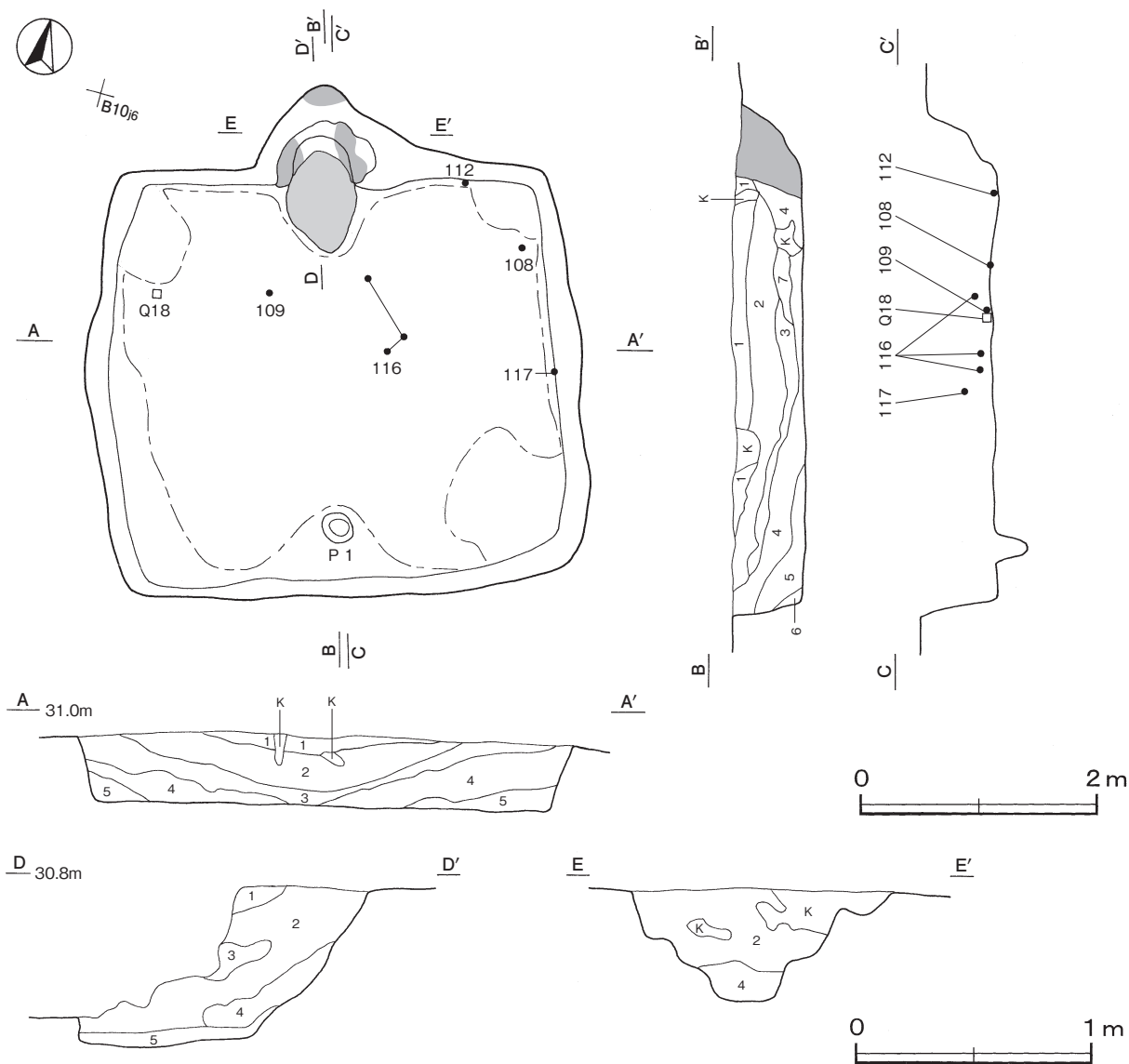
覆土 7層に分層される。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

土層解説

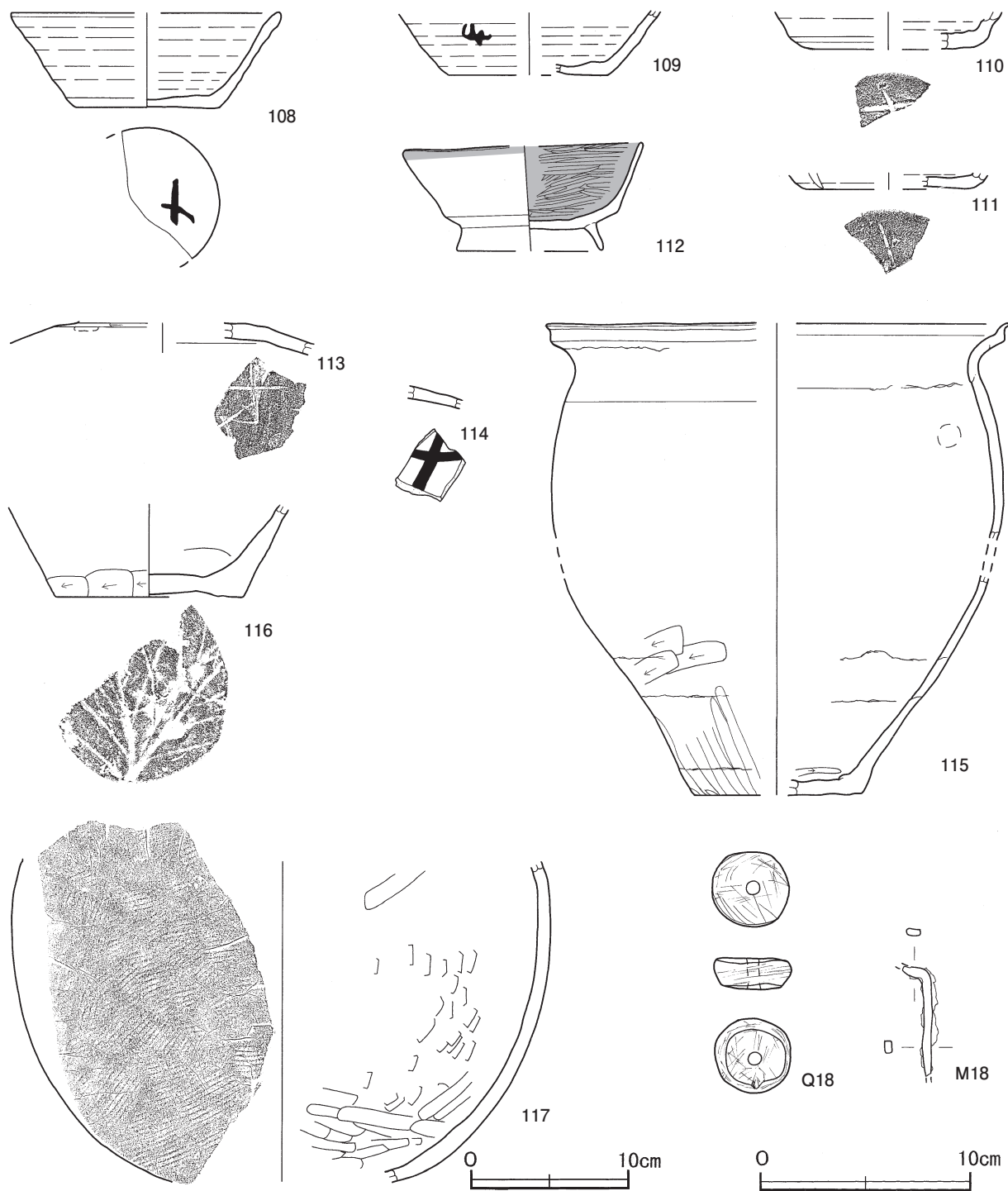
- |       |                        |       |                       |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量    | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量・炭化粒子微量       | 6 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量     |
| 3 黒褐色 | ロームブロック, 焼土粒子微量        | 7 灰白色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |       |                       |

遺物出土状況 土師器片284点(坏22, 高台付坏12, 蓋1, 甕249), 須恵器片156点(坏110, 高台付坏9, 蓋13, 盤2, 長頸瓶7, 甕15), 鉄製品1点(不明鉄製品), 石製品1点(紡錘車)が出土している。108・112は北東コーナー部の床面, 109・Q18は北部床面, 116は中央部の覆土下層, 117は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片1点, 敲石1点も出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第37図 第13号住居跡実測図



第38図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
108	須恵器	坏	[12.8]	4.6	[7.0]	石英・雲母・小礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向へのヘラ削り	北東コーナー部床面	30% 底部墨書□
109	須恵器	坏	—	(3.1)	[7.8]	長石・海綿骨針	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向へのヘラ削り	北部床面	20% 体部外面墨書□
110	須恵器	坏	—	(1.8)	[8.4]	長石・石英	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	20% 底部ヘラ記号
111	須恵器	坏	—	(0.8)	[8.3]	長石・小礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	10% 底部ヘラ記号



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
112	土師器	高台付坏	[11.4]	5.3	[7.1]	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	不良	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼付け	北東コーナー部床面	60% PL19
113	須恵器	蓋	—	(1.5)	—	長石・石英・小礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10% 内面ヘラ書きカ
114	須恵器	蓋	—	(1.1)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	5% 内面墨書□ PL22
115	土師器	甕	[22.1]	[22.8]	[8.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土中	30%
116	土師器	甕	—	(4.5)	9.0	石英・雲母・小礫	橙	普通	体部下端ヘラ削り 底部木葉痕	中央部覆土下層	20%
117	須恵器	甕	—	(20.9)	—	石英・雲母・小礫	黄灰	普通	体部外面叩き 体部内面ヘラナデ	東壁際中層	10%

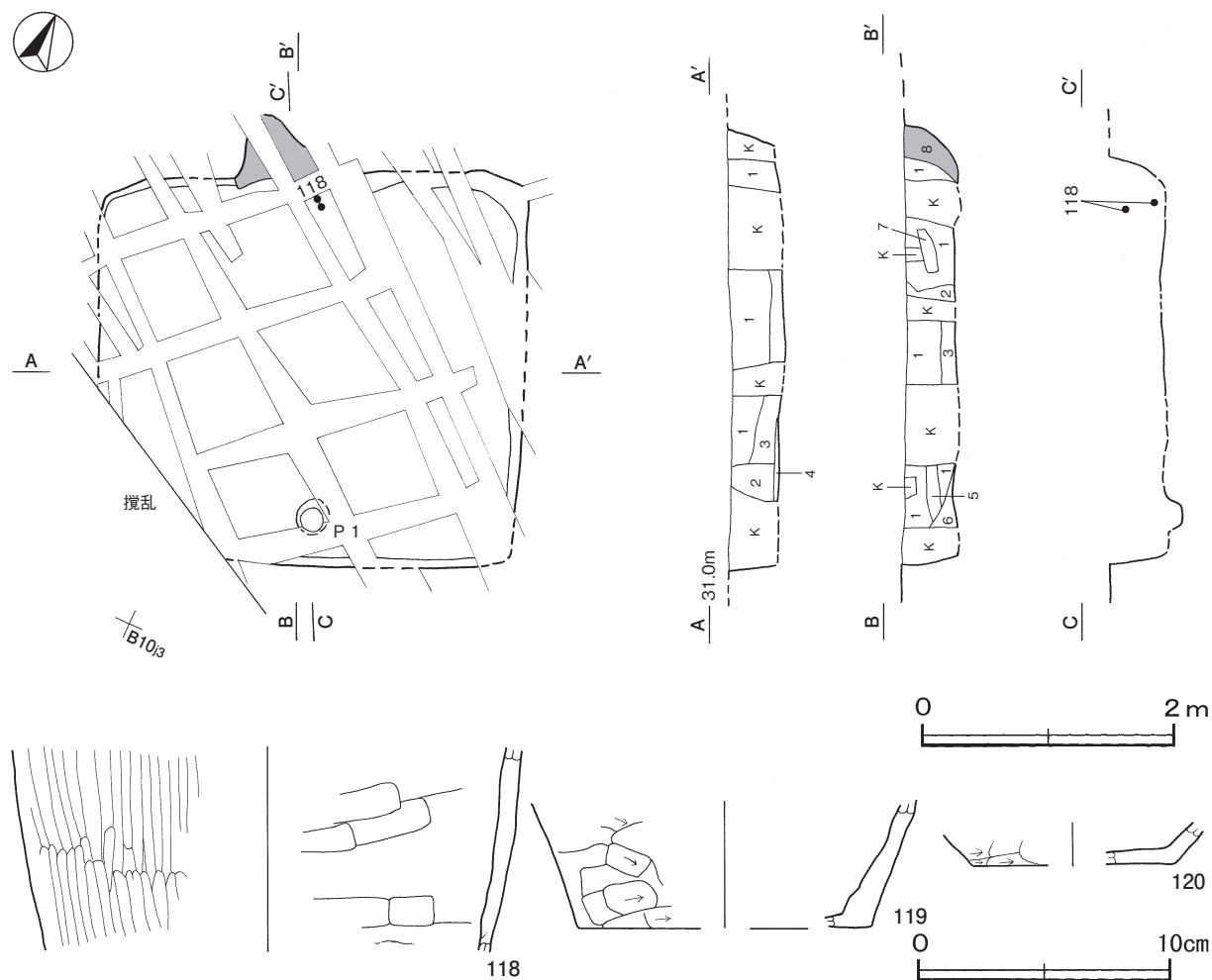
番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	紡錘車	3.7	0.7	1.5	14.1	泥質凝灰岩	円錐台形	北部床面	PL26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	釘	(5.3)	0.6	0.4	(6.15)	鉄	断面方形の棒状 上位で屈曲	覆土中	

### 第14号住居跡 (第39図)

**位置** 調査区中央部のB10i2区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.40m、短軸3.20mの方形で、主軸方向はN-46°-Wである。壁高は48cmで、ほぼ直立している。



第39図 第14号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦である。トレンチャーによる攪乱で硬化面は確認できなかった。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで、壁外へ56cm掘り込まれている。煙道部は外傾して立ち上がっている。火床部・袖部は攪乱により確認できなかった。

ピット 深さ13cmで南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                        |       |                             |
|-------|------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量           |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量           | 7 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 灰白色 | 砂質粘土粒子多量                    |
| 4 褐色  | ローム粒子微量                |       |                             |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量              |       |                             |

遺物出土状況 土師器片36点（坏5，甕31），須恵器片3点（坏2，蓋1）が出土している。耕作による攪乱が激しく、伴う遺物は竈前の数点のみである。118は竈手前から出土した破片が接合したものである。また、119・120は覆土中から出土している。流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

第14号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
118	土師器	甕	—	(8.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面磨き 体部内面ヘラナデ	竈手前下層・竈手前中層	5%
119	土師器	甕	—	(5.1)	[11.8]	石英・雲母・小礫	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り	覆土中	10%
120	土師器	甕	—	(1.7)	[8.2]	白色粒子・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り	覆土中	5%

第15号住居跡（第40・41図）

位置 調査区北部のA6h2区で、標高32.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南側が調査区域外に延びているため確認できたのは、東西は4.12m、南北は2.20mである。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は60cmではほぼ直立している。

床 平坦で、全体が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、袖部幅110cmで、壁外へ54cm掘り込まれている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。火床部は6cm掘り込まれて皿状を呈し、火床面は焼土の広がり確認できる程度である。

竈土層解説

- |       |                    |          |                     |
|-------|--------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量            | 4 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量       | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量    |
| 3 灰褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色    | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |

覆土 12層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

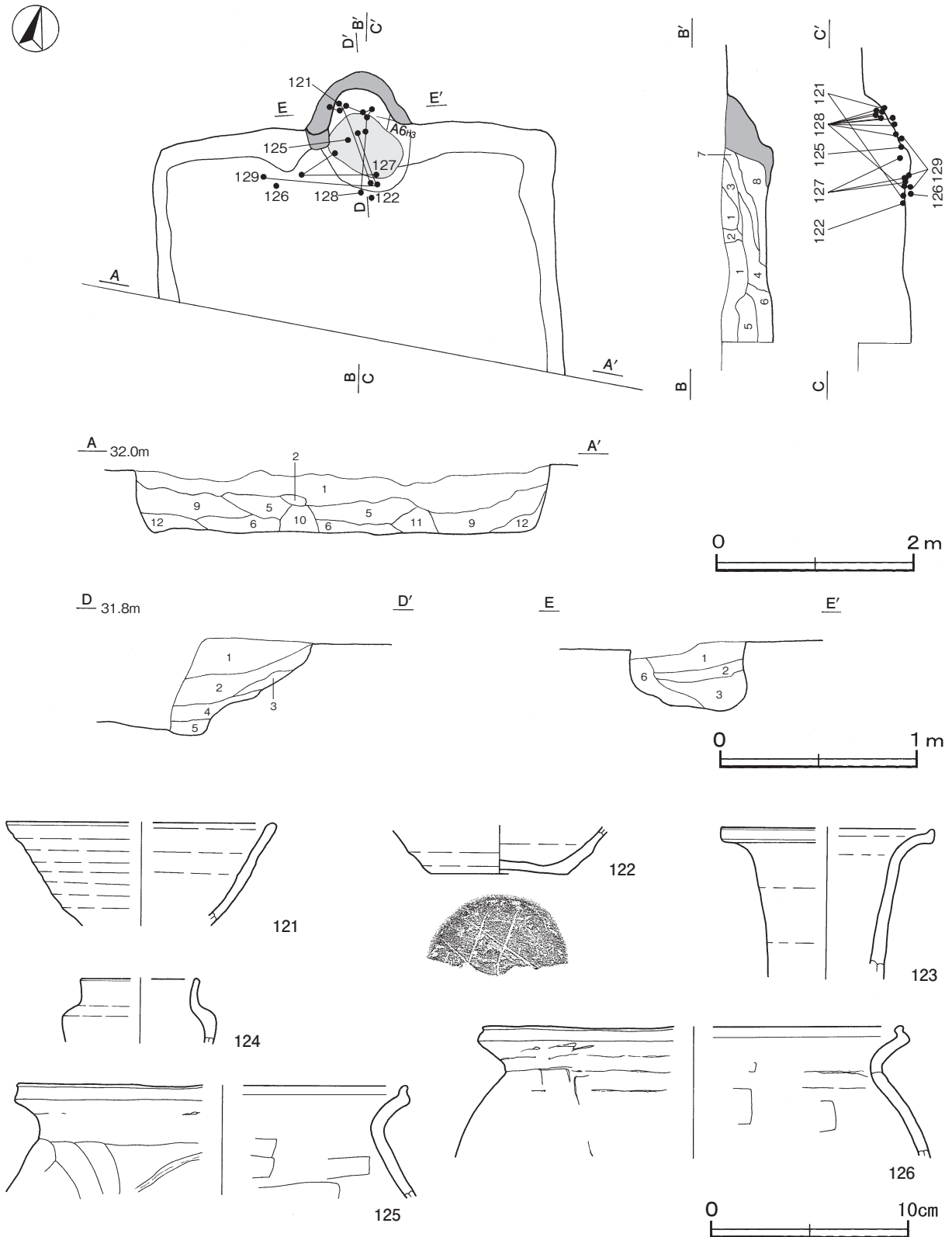
土層解説

- |       |                         |        |                   |
|-------|-------------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 7 灰褐色  | 粘土ブロック少量          |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量                 | 8 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック微量  |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量        | 9 暗褐色  | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量       | 10 暗褐色 | ローム粒子中量           |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量                 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量         |
| 6 黒褐色 | ローム粒子, 焼土粒子微量           | 12 褐色  | ロームブロック中量         |

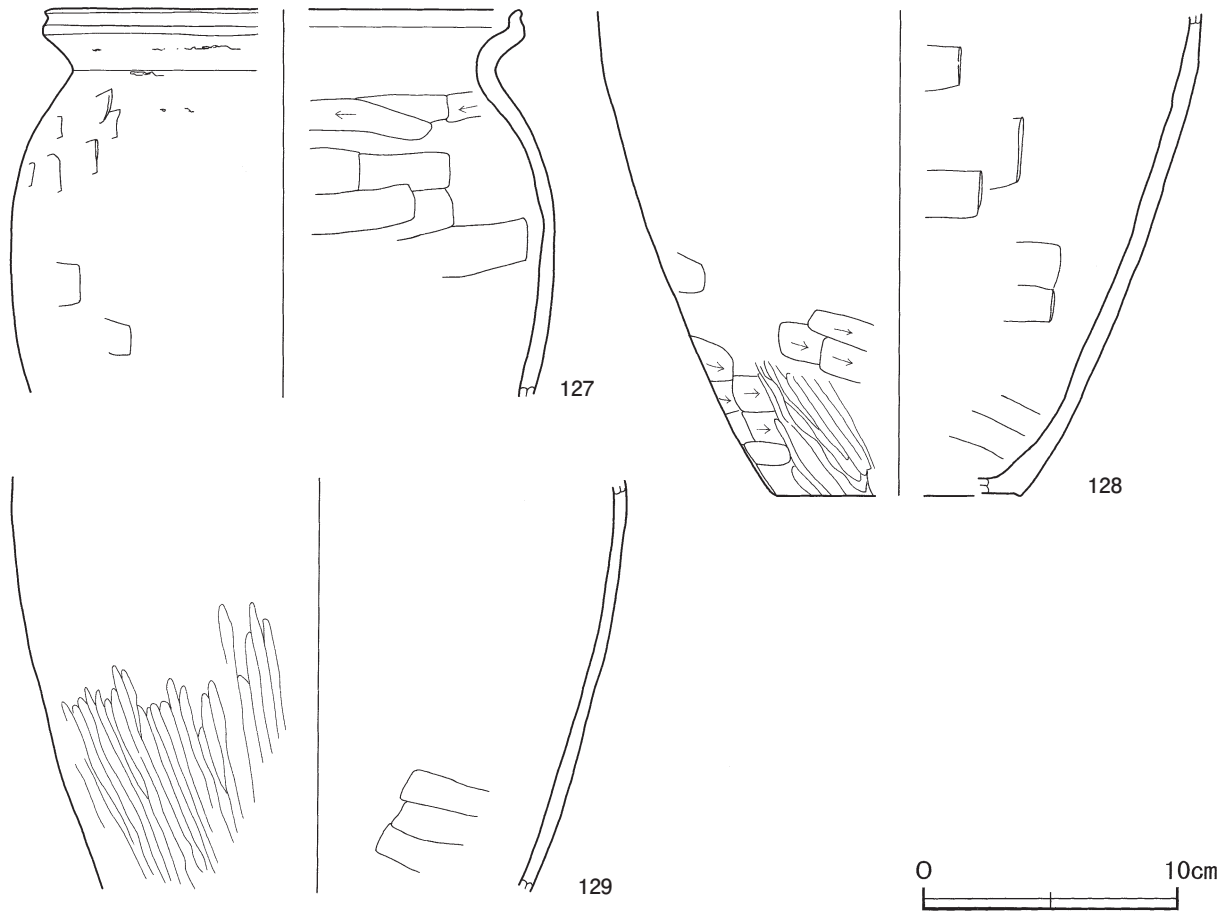
遺物出土状況 土師器片285点（坏5，壺3，甕277），須恵器片26点（坏22，蓋1，盤1，壺1，甕1）が出

土している。遺物の多くは竈内から出土している。121・122・125～129は竈の覆土中から竈前の床面にかけて出土した破片が接合したものである。123の長頸瓶は覆土中から出土している。また、流れ込んだ縄文土器片26点、廃絶時に投棄されたと考えられる泥質凝灰岩6点も出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第40図 第15号住居跡・出土遺物実測図



第41図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第40・41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
121	須恵器	坏	[13.7]	(5.3)	—	長石・石英・小礫	にぶい橙	不良	体部内・外面ロクロナデ	竈覆土中・ 竈手前床面	40% PL17
122	須恵器	坏	—	(2.5)	7.0	小礫・白色粒子・ 海绵骨針	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	竈手前床面	30% 底部ヘ ラ記号
123	須恵器	長頸瓶	[10.8]	(7.7)	—	白色粒子	にぶい赤褐	良好	頸部内・外面ロクロナデ	覆土中	5% PL21
124	須恵器	短頸壺	[5.8]	(3.3)	—	黒色粒子・小礫	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	北東部上層	10%
125	土師器	甕	[20.0]	(5.8)	—	石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈火床面	10%
126	土師器	甕	[21.4]	(6.8)	—	石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラナデ	竈左袖手前床面	5%
127	土師器	甕	[18.6]	(15.4)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈覆土中・竈 左袖手前床面	30%
128	土師器	甕	—	(19.3)	[9.8]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ	竈覆土中・ 竈手前床面	30%
129	土師器	甕	—	(16.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面磨き 体部内面ヘラナデ	竈覆土中・ 竈手前床面	20%

### 第16号住居跡（第42・43図）

位置 調査区南部のH13i8区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第107号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.35m、短軸3.92mの長方形で、主軸方向はN-75°-Eである。壁高は46cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁際を壁溝が全周している。

**竈** 東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cmである。右袖部は遺存していないため、袖部幅は不明である。左袖部は、床面と同じ高さの地山面を8cmほど掘り込み、砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を利用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ58cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

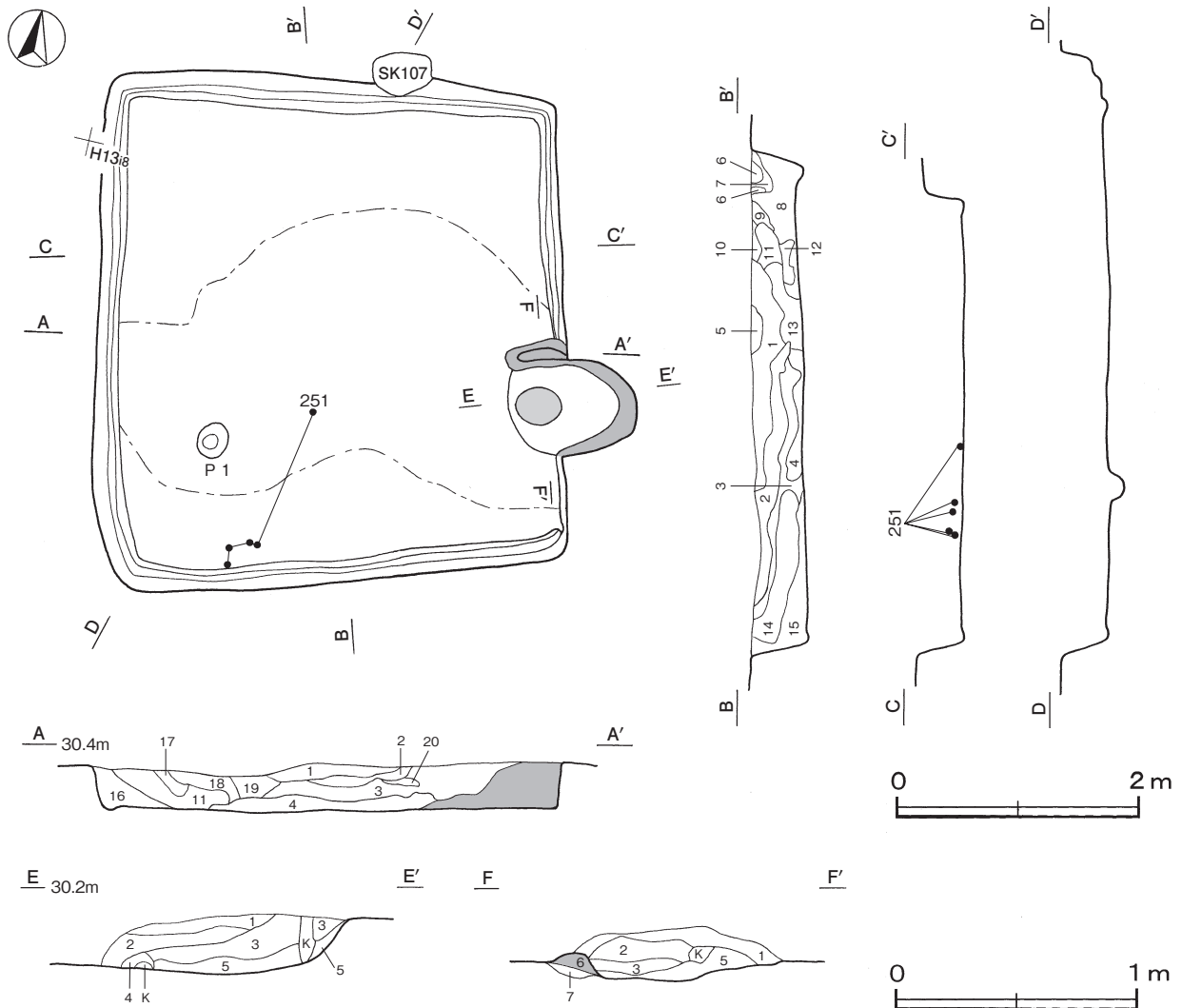
**竈土層解説**

- |          |                            |           |                           |
|----------|----------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 灰 褐 色  | ロームブロック・焼土ブロック微量           | 5 灰 黄 褐 色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒 褐 色  | 黒色ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗 褐 色   | 焼土ブロック・炭化物微量              |
| 3 にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック微量           | 7 黄 褐 色   | 焼土ブロック・炭化粒子微量             |
| 4 黒 褐 色  | 焼土ブロック微量                   |           |                           |

**覆土** 20層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |         |                          |          |                         |
|---------|--------------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量     | 8 暗 褐 色  | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗 褐 色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量     |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量    | 10 黒 褐 色 | ロームブロック少量               |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 11 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量        |
| 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量        | 12 黒 褐 色 | 焼土ブロック微量                |
| 6 黒 褐 色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量        | 13 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量        |          |                         |



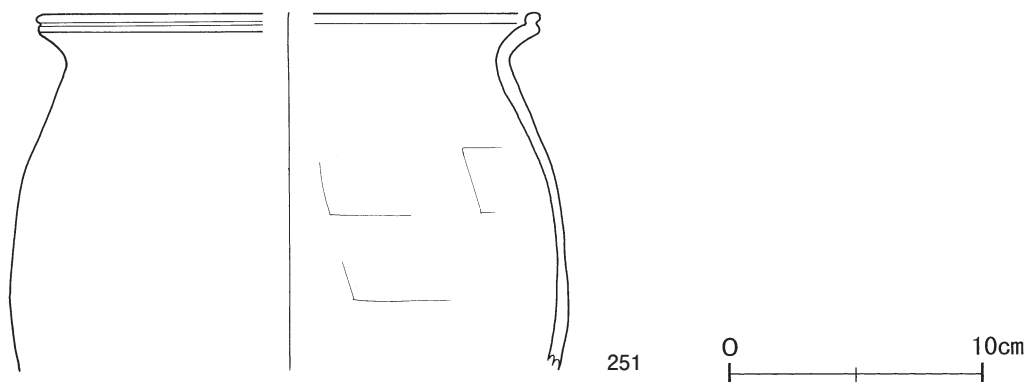
第42図 第16号住居跡実測図

- |    |   |    |                           |    |   |    |                          |
|----|---|----|---------------------------|----|---|----|--------------------------|
| 14 | 黒 | 褐色 | ロームブロック・炭化物少量             | 18 | 黒 | 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 15 | 暗 | 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量       | 19 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量                |
| 16 | 灰 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 20 | 黒 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量         |
| 17 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量          |    |   |    |                          |

ピット 深さ12cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。

遺物出土状況 土師器片77点(甕), 須恵器片6点(坏)が、南西壁際を中心に覆土上層から下層にかけて廃棄された状態で出土している。251は中央部の床面と南壁際から出土した破片が接合したものである。また、流れ込んだ縄文土器片2点(深鉢)も出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第43図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表 (第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
251	土師器	甕	[19.6]	(14.2)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ・つまみ上げ ラナデ 体部内面へ 体部外面摩滅	南壁寄り床面	20% PL20

### 第17号住居跡 (第44・45図)

位置 調査区南部のH13h6区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第106号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.66m, 短軸2.58mの方形で、主軸方向はN-80°-Eである。壁高は40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈周辺から南西コーナー部にかけて踏み固められている。竈焚口部から南西コーナー部にかけて焼土塊の広がり確認された。

竈 東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで94cmで、袖部幅93cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面を3~5cm掘り込み、粘土粒子を含む黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は5cmほど皿状に掘りくぼめている。煙道部は壁外へ64cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |   |   |    |                               |   |   |    |                               |
|---|---|----|-------------------------------|---|---|----|-------------------------------|
| 1 | 暗 | 褐色 | 粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量        | 6 | 黒 | 褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック・粘土粒子微量  |
| 2 | 黒 | 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量  | 7 | 黒 | 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量    |
| 3 | 黒 | 褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 | 黒 | 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 4 | 褐 | 色  | ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量        | 9 | 黒 | 褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 | 黒 | 褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量             |   |   |    |                               |

- |    |     |                              |    |        |                          |
|----|-----|------------------------------|----|--------|--------------------------|
| 10 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量               | 18 | 暗褐色    | 焼土ブロック・粘土粒子微量            |
| 11 | 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ロームブロック微量     | 19 | 黄褐色    | 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 12 | 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・粘土粒子微量     | 20 | 黄褐色    | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量        |
| 13 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物・粘土粒子微量 | 21 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子少量, 粘土粒子微量           |
| 14 | 黒褐色 | 炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 | 22 | 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量     |
| 15 | 黒褐色 | 粘土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量          | 23 | 暗褐色    | 粘土粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量       |
| 16 | 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量        | 24 | 暗褐色    | 粘土粒子少量, ロームブロック・粘土粒子微量   |
| 17 | 暗褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量     | 25 | 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        |
|    |     |                              | 26 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量      |
|    |     |                              | 27 | 暗褐色    | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量   |

**覆土** 7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

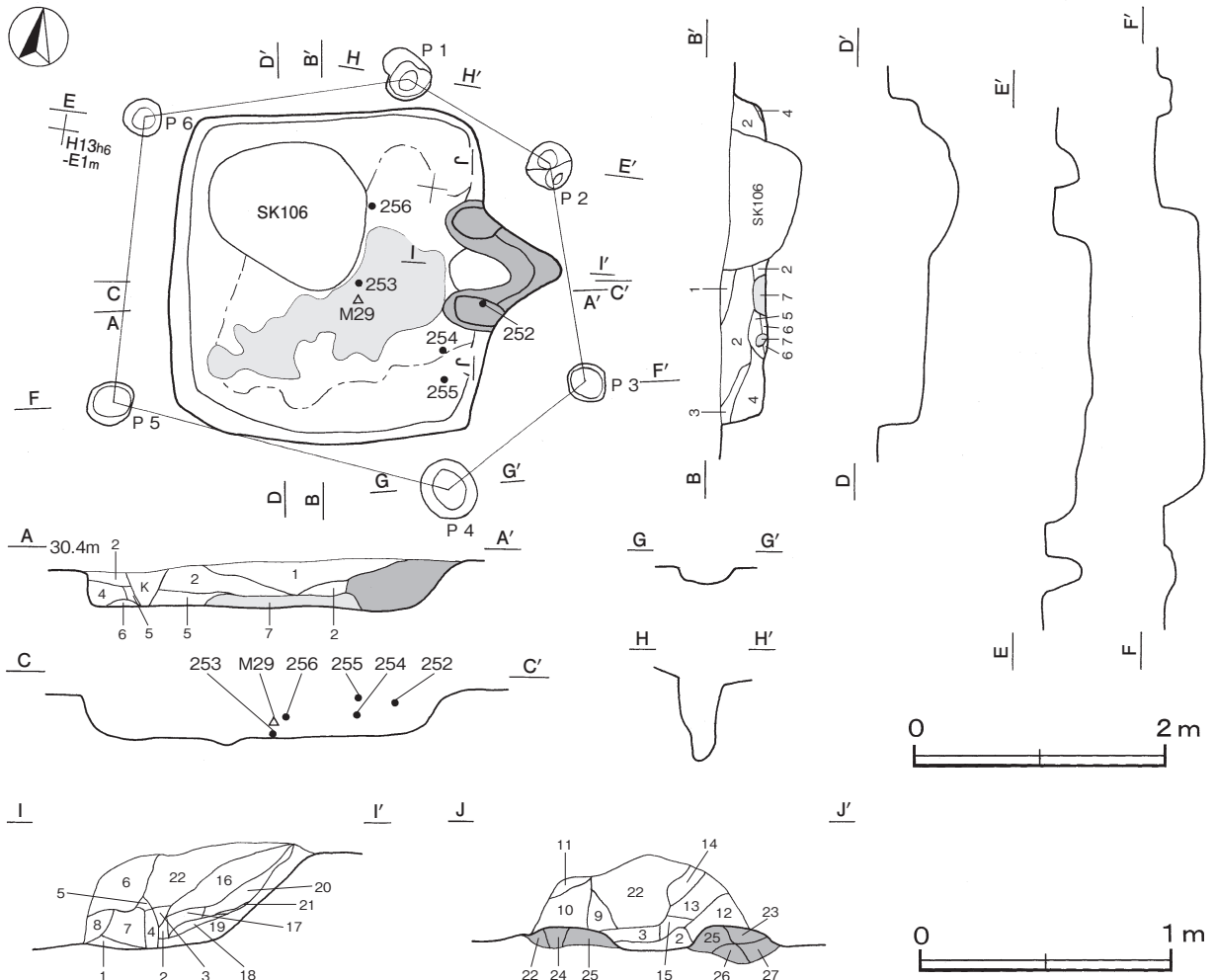
**土層解説**

- |   |       |                           |   |      |                             |
|---|-------|---------------------------|---|------|-----------------------------|
| 1 | 黒色    | ローム粒子少量                   | 5 | 暗赤灰色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 黒色ブロック微量 |
| 2 | 極暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量     | 6 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子微量       |
| 3 | 黒褐色   | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子極微量 | 7 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物微量               |
| 4 | 暗赤褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量  |   |      |                             |

**ピット** 6か所。深さ8cm～61cmで、壁外に規則的に配置されていることから、壁外柱穴と考えられる。

**遺物出土状況** 土師器片265点（坏73, 高台付坏8, 甕184）、須恵器片44点（坏28, 高台付坏5, 蓋3, 鉢5, 甕3）、鉄製品1点（鍬）が南壁寄りの覆土上層から中央部の覆土下層にかけて廃棄された状態で出土している。

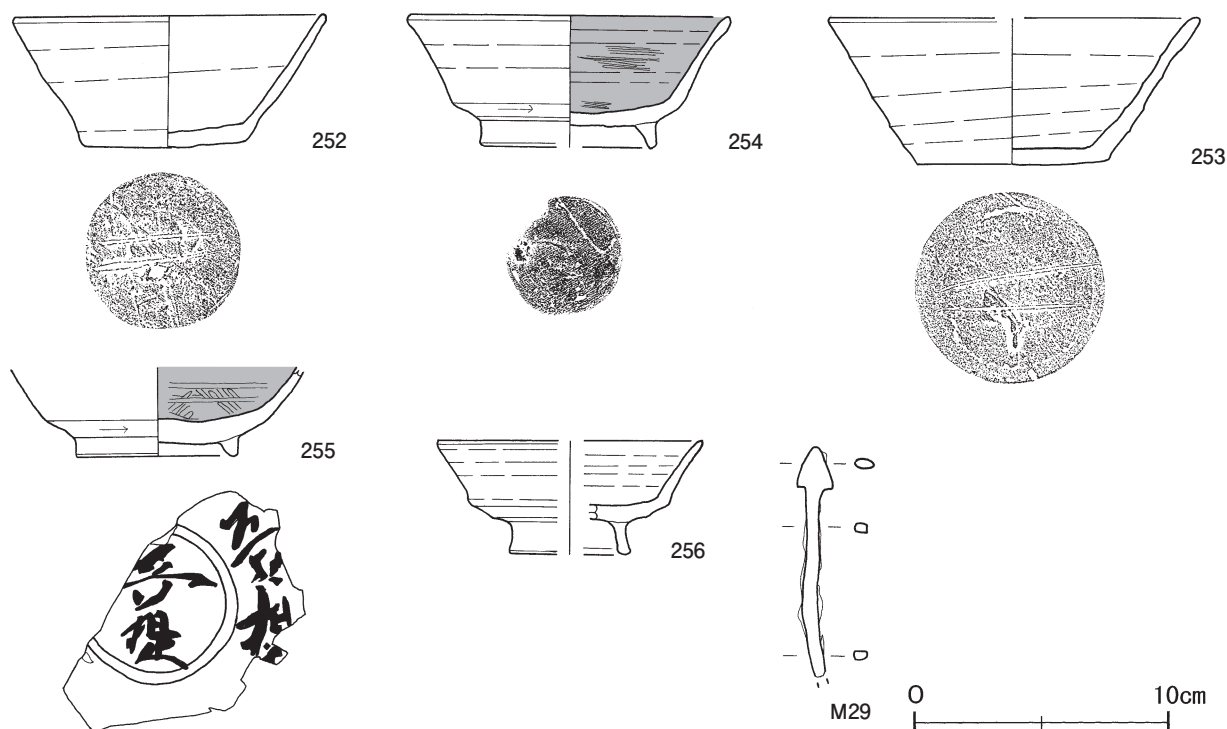
255は南東コーナー部の覆土上層、252は東壁際中央部の覆土上層、254は南東部の覆土中層、256は中央部の覆



第44図 第17号住居跡実測図

土中層，253は中央部の床面から出土している。M29は中央部の覆土下層の焼土塊上部から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。床面中央部から南西コーナー部にかけて焼土塊の広がり確認され，焼土塊と床面の間には暗赤褐色の土層があり，床面が赤変していないことから住居廃絶後に投げ込まれたものと考えられる。



第45図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
252	須恵器	坏	12.4	5.3	6.6	長石・小礫・海綿骨針・黒色粒子	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	東壁際中央部覆土上層	80% 底部ヘラ記号 PL18
253	須恵器	坏	[14.7]	5.9	7.5	長石・小礫・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	中央部床面	50% 底部ヘラ記号 PL18
254	土師器	高台付坏	12.7	5.3	[6.8]	白色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	南東部覆土中層	80% PL19
255	土師器	高台付坏	—	(3.5)	6.4	長石・石英・雲母・海綿骨針	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	南東コーナー部覆土上層	30% 体部・底部墨書「吾提」カ PL24
256	須恵器	高台付坏	[10.5]	4.5	[4.7]	長石・小礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	中央部北西寄り覆土中層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	鎌	(9.2)	1.4	0.4	(7.30)	鉄	鎌身部三角形	中央部覆土下層	PL27

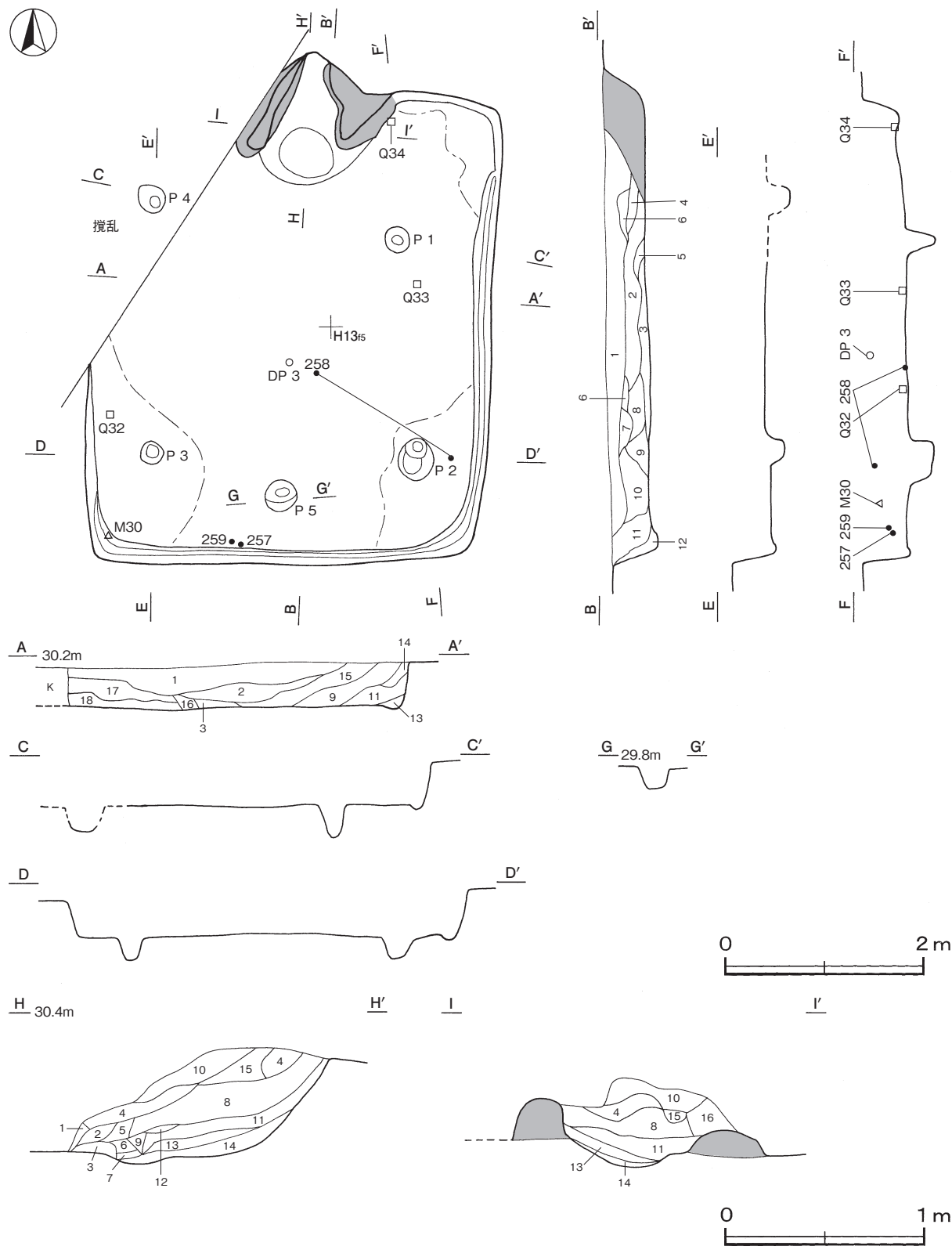
### 第18号住居跡（第46・47図）

位置 調査区南部のH13e4区で，標高30.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北西コーナー部は攪乱を受けている。長軸4.78m，短軸4.08mの長方形で，主軸方向はN-6°-Eである。壁高は48cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，竈周辺から南壁際の出入り口ピット付近にかけて踏み固められている。壁溝が，東壁際から南壁際を周回している。





第46図 第18号住居跡実測図

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで135cmで、左袖部が攪乱を受けているため、袖部幅は不明である。袖部は、床面と同じ高さの地山面に粘土粒子を含む黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は8cmほど皿状に掘りくぼめている。煙道部は壁外へ35cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	9	暗	褐色	粘土粒子・焼土ブロック少量
2	黒	褐色	粘土粒子少量, 炭化物微量	10	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3	黒	褐色	炭化物少量, ロームブロック・粘土粒子微量	11	暗	褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
4	黒	褐色	粘土粒子少量, ローム粒子微量	12	暗	褐色	粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗	褐色	粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量	13	暗	赤褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
6	暗	褐色	粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	14	暗	褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
7	黒	褐色	粘土粒子少量, 炭化材少量	15	黒	褐色	粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
8	暗	褐色	粘土粒子少量, ローム粒子微量	16	にぶい	黄褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

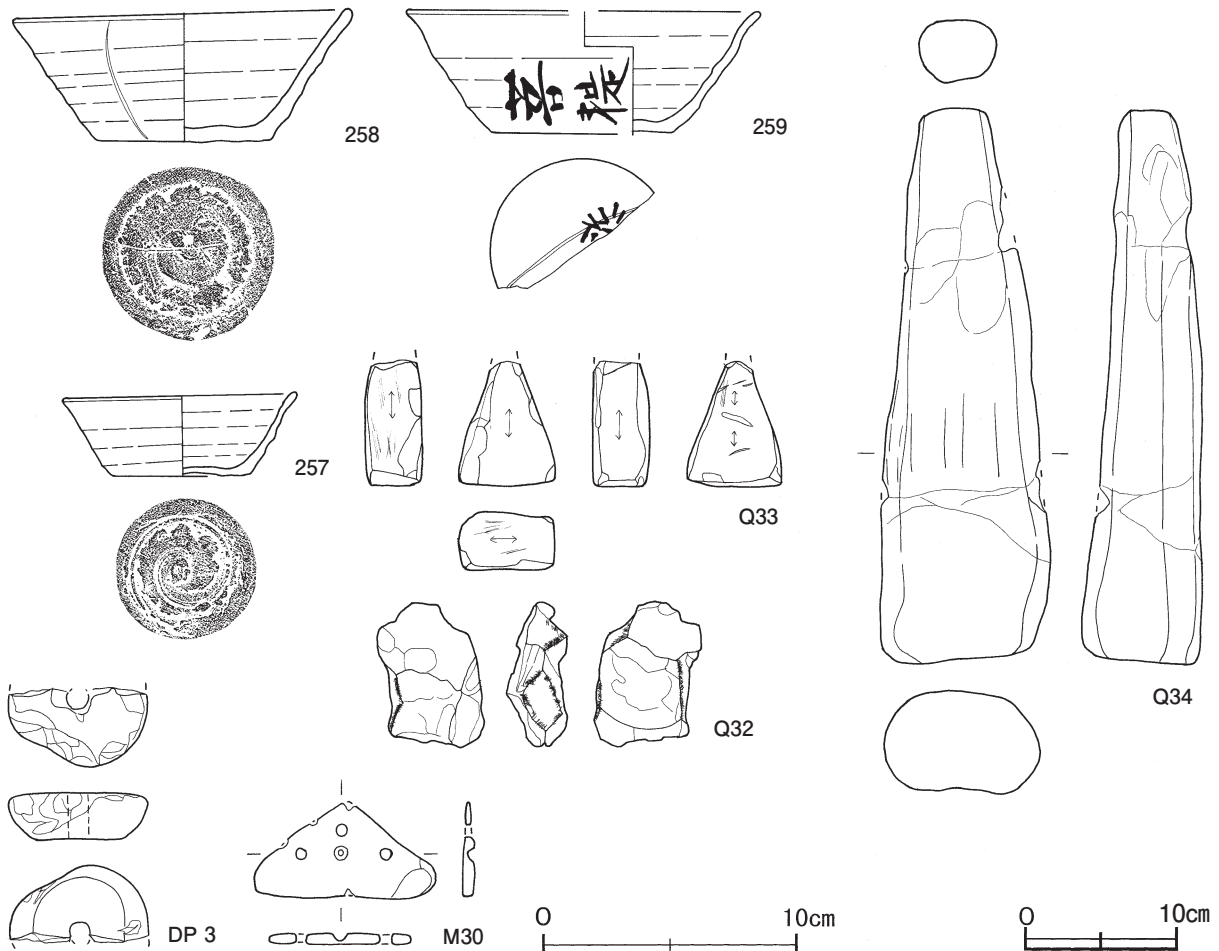
覆土 18層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	10	暗	褐色	ロームブロック微量
2	黒	褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	11	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒	褐色	ロームブロック少量	12	暗	褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
4	暗	褐色	ロームブロック少量, 炭化物・粘土粒子微量	13	黒	褐色	炭化物少量, ローム粒子微量
5	暗	褐色	ロームブロック・炭化物微量	14	黒	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒	褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	15	黒	褐色	ロームブロック微量
7	黒	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	16	褐色	褐色	ローム粒子中量
8	暗	褐色	ロームブロック少量	17	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
9	暗	褐色	ロームブロック中量	18	黒	褐色	ロームブロック・炭化物少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ12～22cmで、位置と規模から、支柱穴と考えられる。P5は深さ14cmで、南壁際中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片30点(坏16, 甕14), 須恵器片53点(坏23, 高台付坏2, 蓋2, 甕26), 土製品1点(紡錘車), 鉄製品3点(火打金1, 不明鉄片2), 石器5点(火打石3, 砥石1, 支脚1)が覆土上層から下層に



第47図 第18号住居跡出土遺物実測図

かけて出土している。また、流れ込んだ縄文土器片2点（深鉢）、土製品1（耳飾）、石器1点（鏃）も出土している。258は南東コーナー部の覆土上層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。257・259は南壁際中央部の覆土下層から、DP3は中央部の覆土上層から出土している。Q34は竈右袖部の東側、Q32は南西部の壁際、Q33は中央部東壁寄りの床面からそれぞれ出土している。M30は南西コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

### 第18号住居跡出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
257	須恵器	坏	9.1	3.2	5.5	長石・小礫・海綿骨針	灰褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	南壁際中央部覆土下層	100%体部内面黒色付着物 PL18
258	須恵器	坏	13.2	5.2	7.0	長石・小礫・海綿骨針	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	南東コーナー覆土上層・中央部覆土下層	70%体部外面・底部ヘラ記号 PL18
259	須恵器	坏	[14.0]	4.9	[7.2]	長石・小礫・海綿骨針	暗黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	南壁際中央部覆土下層	30%体部墨書「五提」カ底部墨書「ヘラ」記号 PL24

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP3	紡錘車	5.6	0.8	1.9	(27.60)	長石・砂粒	体部側面ナデ	中央部覆土上層	40% PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	火打石	5.8	4.4	2.5	46.4	瑪瑙	摩滅の集中箇所有り	南西部壁際床面	PL26
Q33	砥石	(5.0)	3.8	2.3	(50.60)	酸性凝灰岩	砥面5面	中央部東壁寄り床面	PL25
Q34	支脚	37.0	11.2	8.0	(1.879)	泥質凝灰岩	全側面削り調整	竈右袖部東側床面	PL26
M30	火打金	(3.7)	7.2	0.4	(19.80)	鉄	三角形 3孔有り 中央部に穿孔痕	南西コーナー部覆土中層	PL27

### 第19号住居跡（第48・49図）

位置 調査区南部のG13j3で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.63m、短軸4.51mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、各コーナー部を除いて踏み固められている。焼土と炭化材が中央部で確認された。壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで162cm、袖部幅は123cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面を2～5cm掘り込み、凝灰岩質泥岩の切石を心材として粘土粒子を含む暗褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は8cmほど皿状に掘りくぼめている。煙道部は壁外へ88cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。火床部と焚口部付近の床面に火熱により赤変した凝灰岩質泥岩の切石が崩落した状態で出土している。

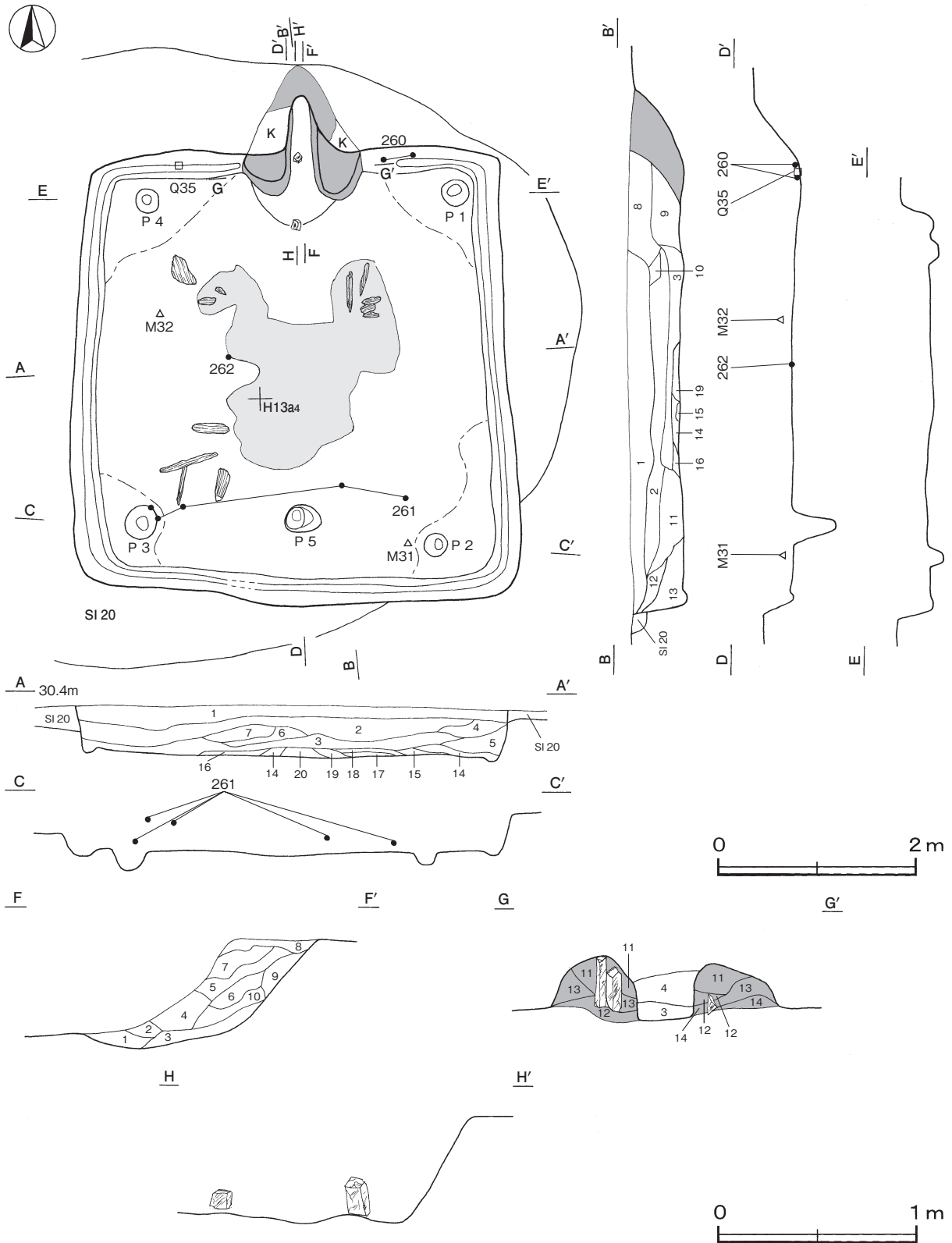
#### 竈土層解説

1 極暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	8 黒褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 暗赤褐色	炭化物・粘土粒子少量、炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
3 暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック微量	11 にぶい褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック中量
5 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック微量
6 褐色	粘土粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	13 灰黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量
7 暗褐色	粘土粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子・黒色粒子少量

覆土 20層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |       |                          |       |                         |
|-------|--------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量    | 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量     | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量  |



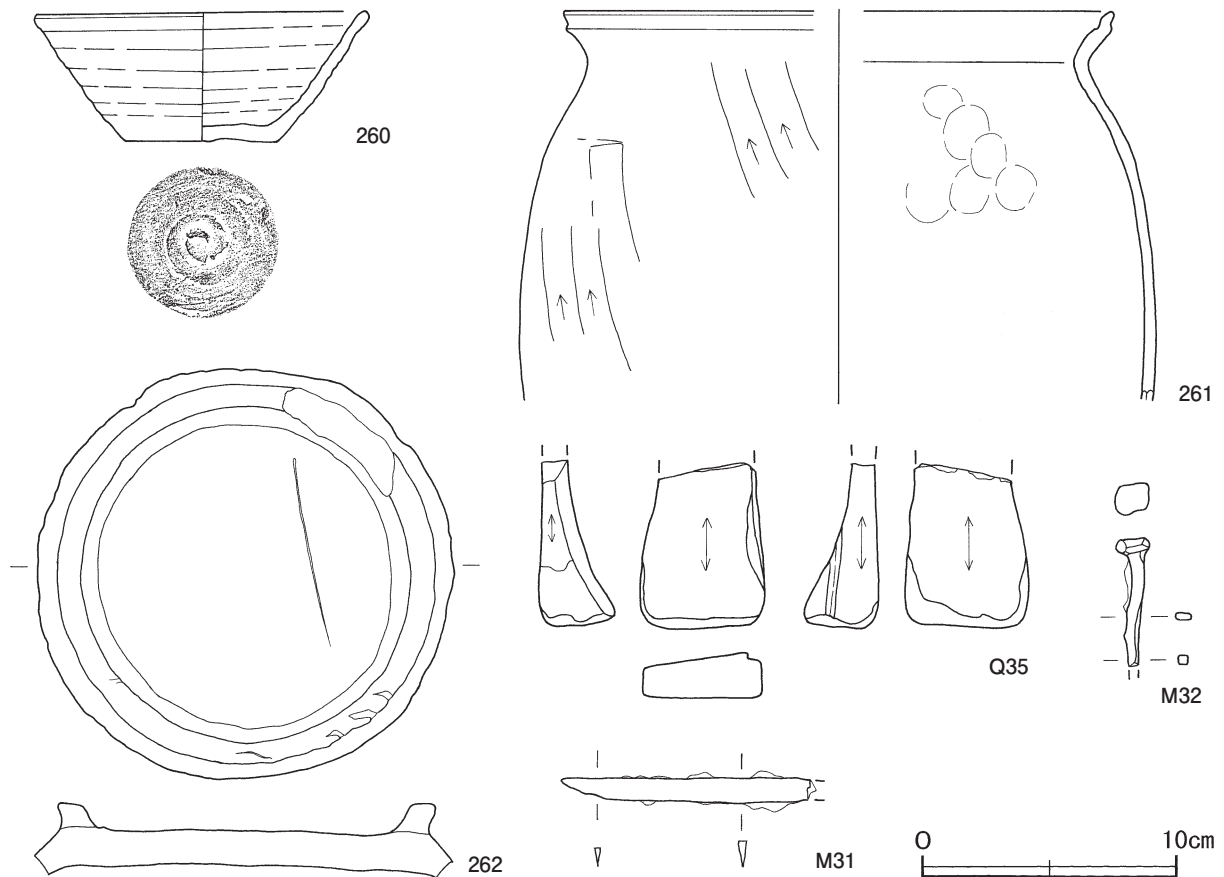
第48図 第19号住居跡実測図

- |        |                               |          |                         |
|--------|-------------------------------|----------|-------------------------|
| 7 暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 黒褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量  |
| 8 黒褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量             | 14 暗赤褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量    |
| 9 暗褐色  | ロームブロック少量, 粘土粒子微量             | 15 黒褐色   | 焼土ブロック・炭化物微量            |
| 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色  | 焼土ブロック・炭化物微量            |
| 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量       | 17 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量, 炭化物微量         |
| 12 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量        | 18 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物微量         |
|        |                               | 19 暗赤褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
|        |                               | 20 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量                |

ピット 5か所。P1～P4は深さ10～23cmで、位置と規模から、主柱穴と考えられる。P5は深さ43cmで、南壁際中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片424点（坏14, 高台付坏1, 甕409）, 須恵器片57点（坏28, 蓋3, 壺1, 甕14, 甑11）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片2点（深鉢）も出土している。261は南壁寄りの覆土上層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。260は竈右袖部の東側, 262は中央部の床面から出土している。Q35は北壁際西寄りの壁溝から出土している。M32は中央部北西寄り, M31は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。竈火床部と焚口部付近の凝灰岩の切石は、火熱により赤変していることから竈の部材と考えられる。焼土と炭化材が中央部の床面で確認されていることから焼失した住居と考えられる。



第49図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
260	須恵器	坏	13.1	5.2	6.0	長石・石英・海綿骨針	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	竈右袖部東側床面	95% PL18

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
261	土師器	甕	[21.8]	(15.5)	—	長石・小礫・海綿骨針・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ・端部つまみ上げ 体部外面へら削り 体部内面指頭痕	南壁寄り覆土上層・中層	20% PL20
262	須恵器	硯	—	2.9	15.0	長石・小礫・海綿骨針・黒色粒子	黄灰	普通	須恵器壺類底部を転用 貼付高台	中央部床面	へら記号 PL20

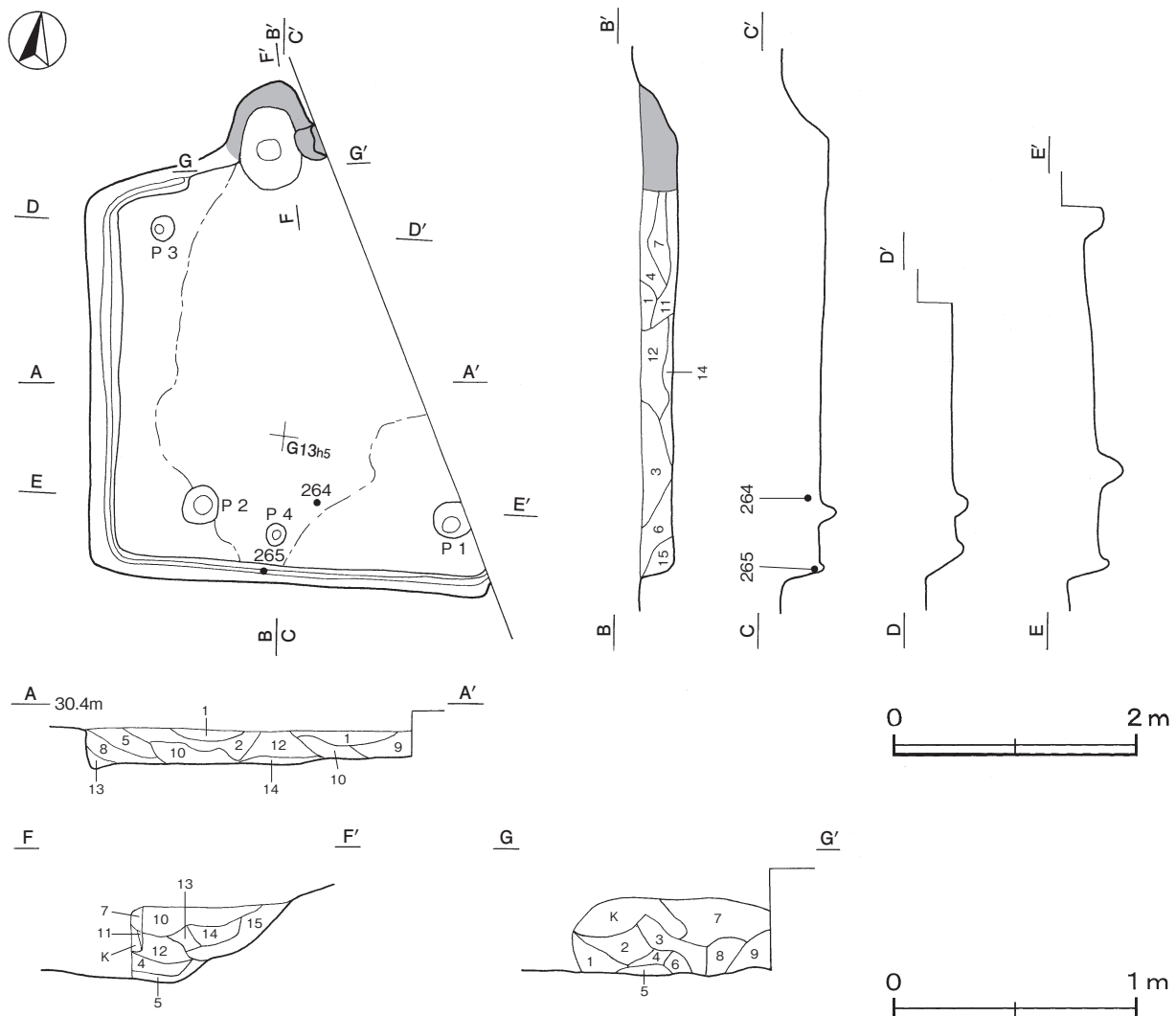
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	砥石	(6.6)	4.8	3.0	(96.40)	酸性凝灰岩	砥面4面	北壁際西寄り壁溝	PL25
M31	刀子	(10.0)	1.0	0.3	(5.80)	鉄	刃先部から基部	南東コーナー部覆土下層	PL26
M32	釘	(5.0)	0.8	0.6	(5.10)	鉄	断面方形 基部下端叩き潰しの頭巻釘 先端部欠損	中央部北西寄り覆土中層	PL27

### 第21号住居跡 (第50・51図)

**位置** 調査区南部のG13g4で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 北東部が調査区域外のため、確認された規模は、南北長3.60m、東西長3.32mで方形と推定され、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は32cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、竈周辺から南壁際の出入り口ピット付近にかけて踏み固められている。壁溝が周回している。



第50図 第21号住居跡実測図

竈 北壁に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで91cmである。右袖部は調査区域外へ延びているため、左袖部の床面にわずかに確認された砂質粘土から、袖部幅は80cmほどと推定される。火床部は5cmほど皿状に掘りくぼめている。煙道部は壁外へ46cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |          |                              |           |                              |
|----------|------------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 灰黄褐色    | ロームブロック・粘土粒子少量               |
| 2 黒褐色    | 焼土ブロック微量                     | 10 灰黄褐色   | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量         |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量       | 11 灰黄褐色   | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量       |
| 4 灰黄褐色   | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量           | 12 黒褐色    | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色    | 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量         | 13 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量         |
| 6 黒褐色    | ロームブロック少量、粘土粒子微量             | 14 黒褐色    | 焼土ブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量         |
| 7 黒褐色    | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量  | 15 黒褐色    | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量         |
| 8 暗褐色    | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子微量      |           |                              |

覆土 15層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

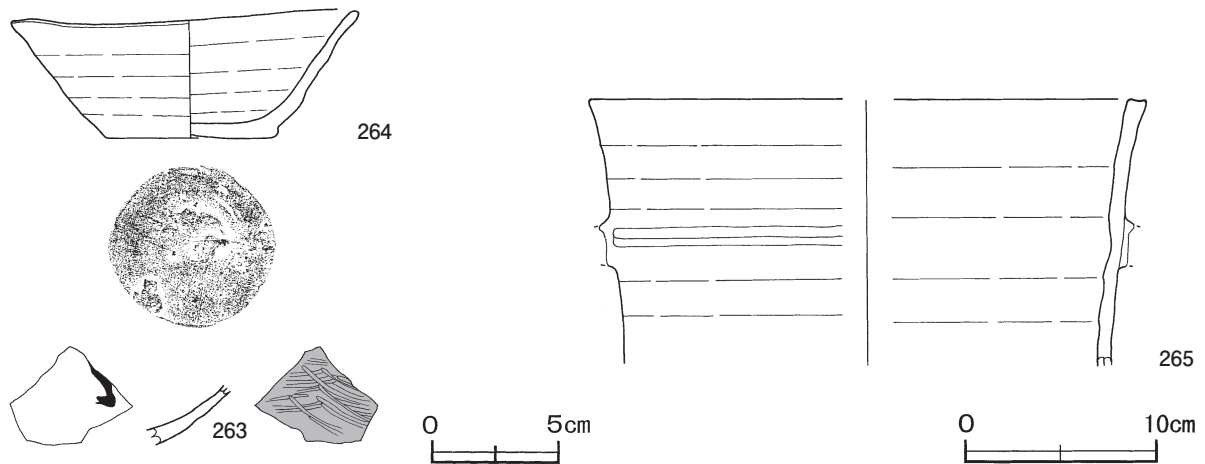
土層解説

- |        |                         |        |                             |
|--------|-------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量      | 9 黒褐色  | ロームブロック中量                   |
| 2 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量        | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量        |
| 3 黒褐色  | ロームブロック少量               | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック中量                   |
| 5 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化物微量         | 13 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量              |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック微量               | 14 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量             |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量  | 15 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量                |
| 8 黒褐色  | ロームブロック微量               |        |                             |

ピット 4か所。P1～P3は深さ12～22cmで、位置と規模から、主柱穴と考えられる。P4は深さ14cmで、南壁の中央部やや西寄りの壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片180点（坏27, 甕144, 甌8, 鉢1）、須恵器片25点（坏17, 壺1, 甕6, 甌1）が覆土上層から中層にかけて出土している。264は中央部南壁寄りの覆土下層、265は南壁際中央部の壁溝からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第51図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第51図）

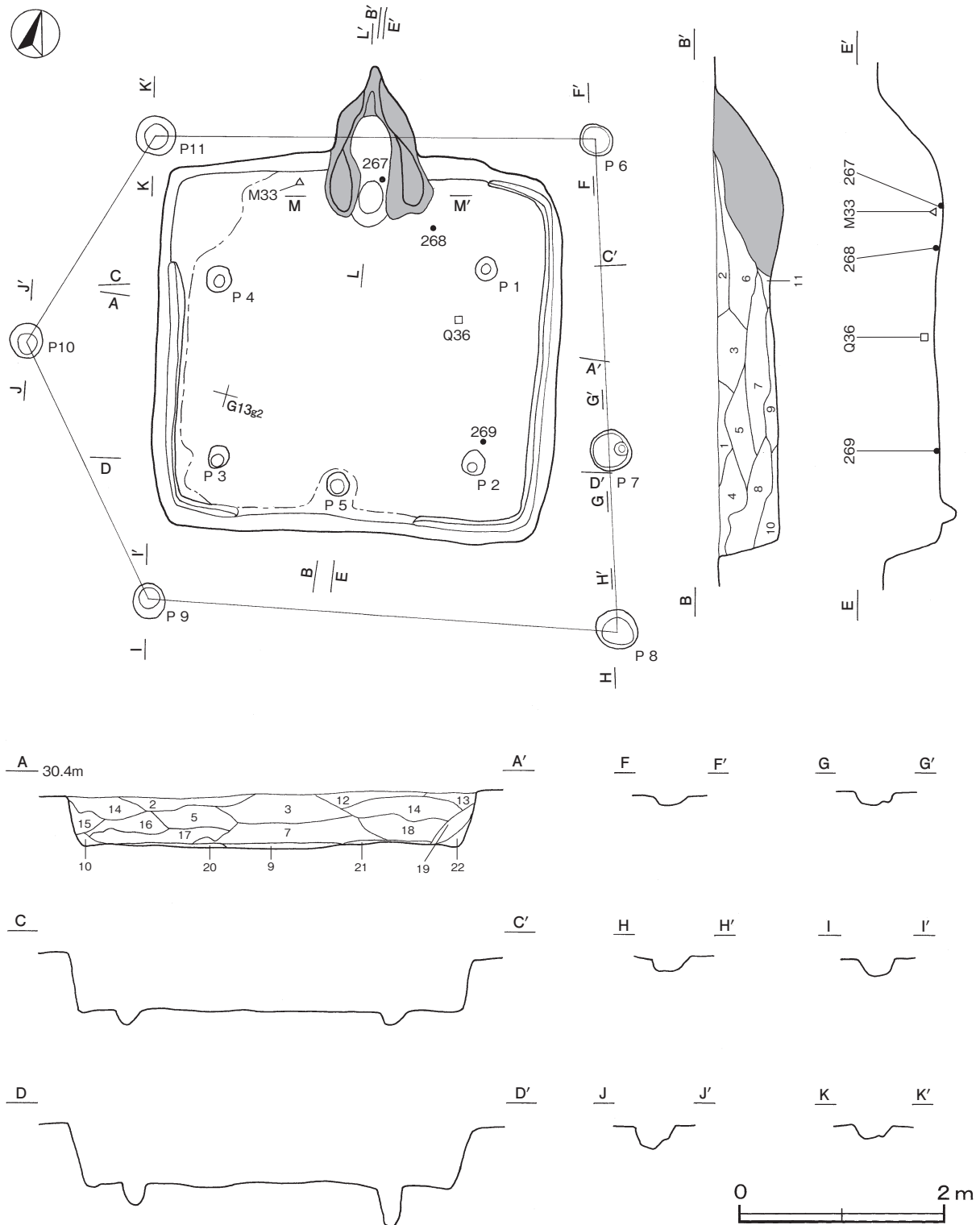
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
263	土師器	坏	—	(2.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	北西部覆土中層	5% 体部外面墨書□ PL24
264	須恵器	坏	13.7	5.0	6.5	長石・小礫・海綿骨針・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	中央部南壁寄り覆土下層	95% PL18
265	須恵器	甌	[29.2]	(14.0)	—	長石・小礫・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 把手痕	南壁際中央部壁溝	5% PL20

第22号住居跡 (第52～54図)

位置 調査区南部のG13f2で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

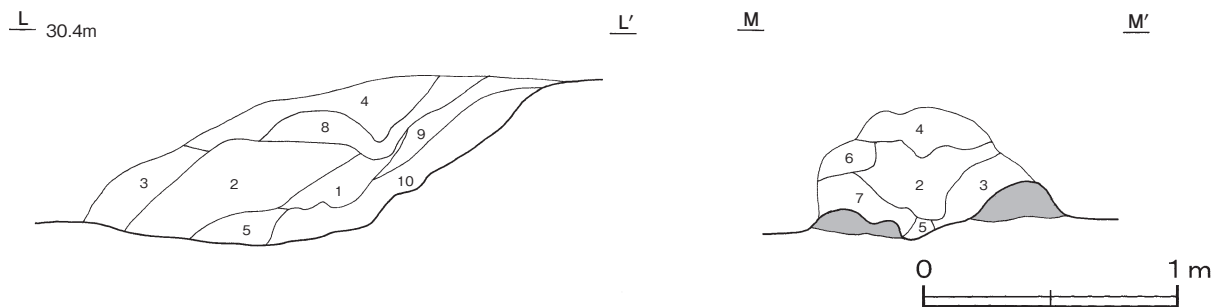
規模と形状 長軸3.90m、短軸3.76mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、北西コーナー部を除いて踏み固められている。壁溝が北西コーナー部を除いて周回している。



第52図 第22号住居跡実測図(1)





第53図 第22号住居跡実測図(2)

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで160cmで、袖部幅は100cmである。袖部は地山を3～8cm掘り込み、粘土粒子を含む黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は10cmほど皿状に掘りくぼめている。煙道部は壁外へ86cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

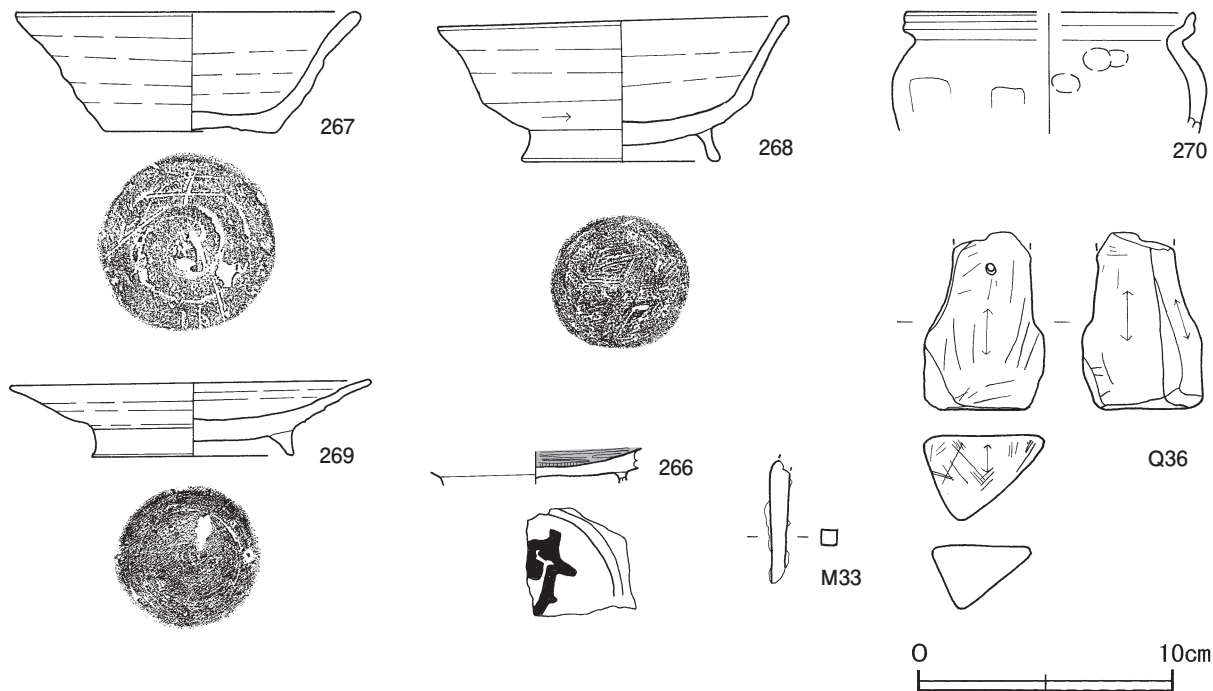
**竈土層解説**

- |        |                          |          |                        |
|--------|--------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗灰黄色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量    | 6 黒色     | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 2 黒褐色  | 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量    | 7 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 3 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        | 8 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量      |
| 4 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子微量             | 9 黒褐色    | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色  | 炭化物中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 10 にぶい褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子多量, 炭化粒子微量  |

**覆土** 22層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |        |                         |         |                         |
|--------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | 炭化物少量, ロームブロック微量        | 12 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量          |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・炭化物微量           | 13 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量          |
| 3 黒褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量       | 14 黒褐色  | ロームブロック中量               |
| 4 黒褐色  | ロームブロック少量               | 15 黒褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量     |
| 5 黒褐色  | ロームブロック少量, 炭化物微量        | 16 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色  | ロームブロック微量               | 17 黒褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子少量       |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量           | 18 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量  |
| 8 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化材微量        | 19 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 9 黒褐色  | 炭化材少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 20 暗褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量     |
| 10 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子微量         | 21 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子微量            |
| 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量   | 22 暗褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量       |



第54図 第22号住居跡出土遺物実測図

ピット 11か所。P1～P4は深さ8～20cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P5は深さ24cmで、南壁際中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P11は深さ8～43cmで、壁外に規則的に配置されていることから壁外柱穴と考えられる。

**遺物出土状況** 土師器片769点（坏580, 高台付坏3, 甕185, 甑1）, 須恵器片167点（坏99, 高台付坏5, 蓋9, 高台付皿1, 甕53）, 石器1点（砥石）, 石製品17点（支脚）が出土している。覆土中から出土している細片は破断面が摩滅したものがほとんどである。267は竈内, 268は竈右袖部の東側, 269は南東コーナー部, M33は北壁際の床面からそれぞれ出土している。Q36は中央部東壁寄りの覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第22号住居跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
266	土師器	高台付坏	—	(1.3)	—	長石・白色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転糸切り 貼付高台	北西部覆土下層	5% 底部墨書□ PL24
267	須恵器	坏	13.7	4.9	6.9	長石・小礫・海綿骨針・黒色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈内	100% 底部ヘラ記号 PL18
268	須恵器	高台付坏	13.8	5.8	7.7	長石・小礫・海綿骨針・白色粒子	黒灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 貼付高台	竈右袖部東側床面	90% PL19
269	須恵器	高台付皿	14.2	3.0	8.0	長石・小礫・海綿骨針・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 貼付高台	南東コーナー部床面	100% PL20
270	土師器	甕	[11.4]	(4.8)	—	長石・石英・小礫・黒色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ・端部つまみ上げ 体部内面指頭痕 体部外面ヘラ削り	竈内	10% PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	砥石	(7.1)	4.8	3.4	(108.30)	雲母片岩	砥面4面 端部に穿孔痕	中央部東壁寄り覆土下層	PL25
M33	釘	(5.0)	0.8	0.6	(9.55)	鉄	断面方形の棒状	中央部北寄り床面	PL27

### 第23号住居跡（第55・56図）

**位置** 調査区南部のG13d1で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第2号道路に掘り込まれている。

**規模と形状** 一辺が3.60mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は46cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部から竈周辺が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。第2号道路に掘り込まれているため確認された規模は、焚口部から煙道部まで79cmである。袖部は削平されているが、床面にわずかに残った砂質粘土から袖部幅は107cmほどと推定される。火床部は10cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ54cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |       |                                  |         |                             |
|-------|----------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒色    | 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量       |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量         | 8 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量       |
| 3 黒褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量     | 9 極暗赤褐色 | 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量       |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量                 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量                 | 11 黒褐色  | ロームブロック・粘土粒子少量              |
| 6 黒色  | 焼土ブロック中量, 炭化物少量                  | 12 黒褐色  | ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化物微量       |
|       |                                  | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量               |
|       |                                  | 14 黒褐色  | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量           |

**覆土** 15層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

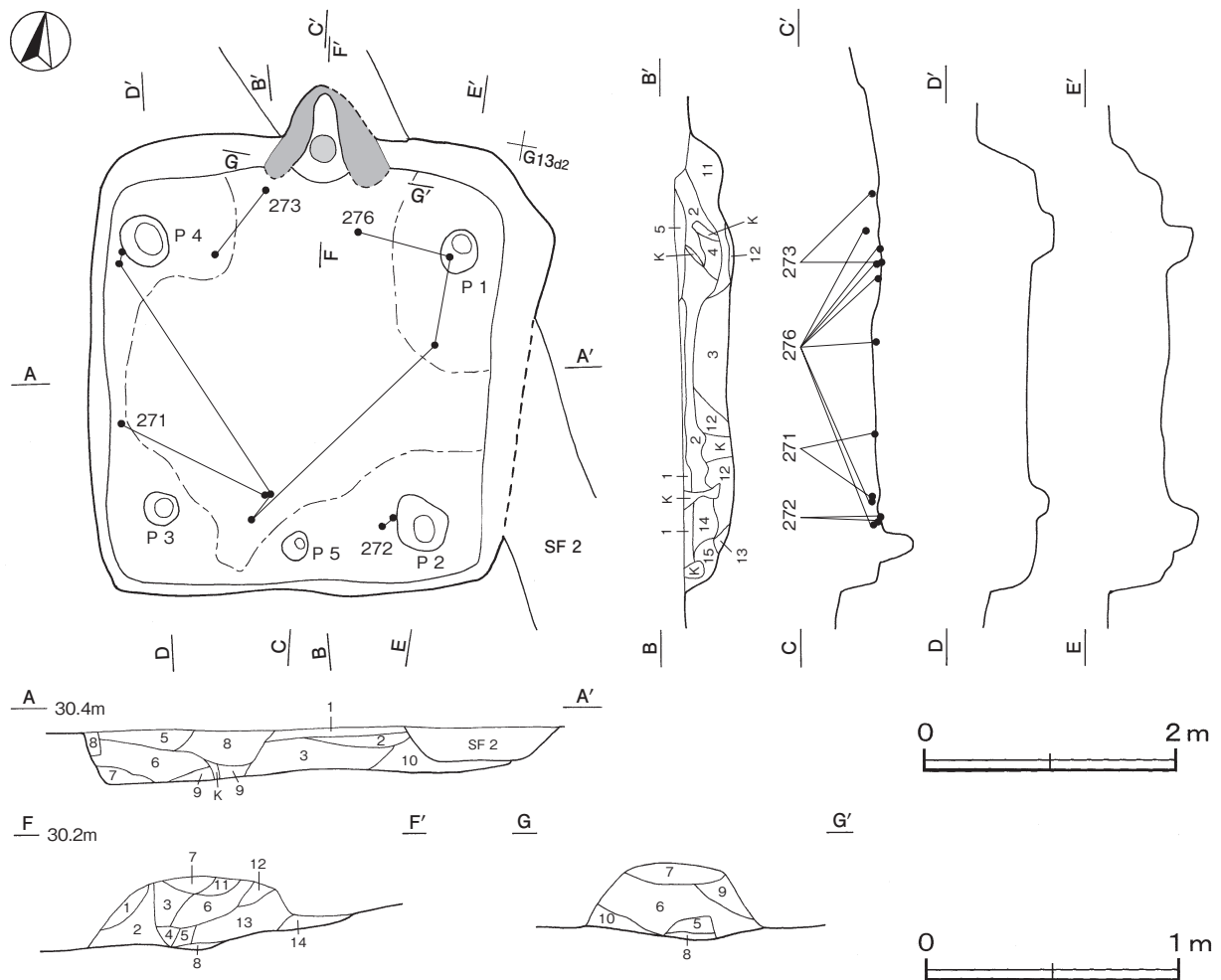
土層解説

- |       |                     |        |                               |
|-------|---------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 9 暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子微量             |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量           | 10 暗褐色 | ロームブロック中量                     |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量           | 11 褐色  | ローム粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化物・粘土粒子微量 |
| 4 褐色  | ロームブロック多量           | 12 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量              |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量           | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量           |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量    | 14 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量                |
| 7 暗褐色 | ロームブロック微量           | 15 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量   |        |                               |

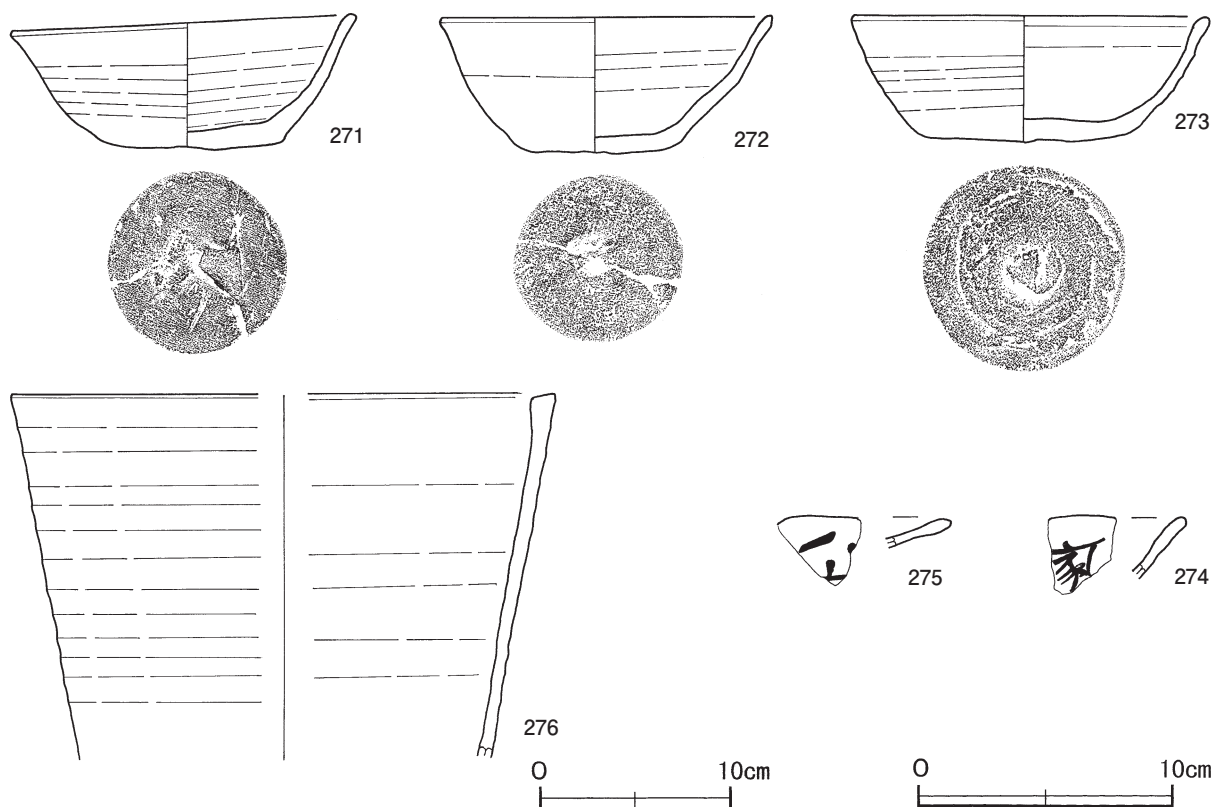
ピット 5か所。P1～P4は深さ12～20cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P5は深さ25cmで、南壁際中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片565点（坏100, 高台付坏3, 甕461, 甑1）, 須恵器片135点（坏106, 壺1, 甕28）, 土製品1点（粘土塊）, 鉄製品1点（不明鉄製品）が出土している。土器片は覆土上層から下層にかけて出土しており、破断面が摩滅した細片がほとんどである。276は覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土した破片が接合したものである。273は北壁際中央部の覆土下層と北西部の床面から出土した破片が接合したものである。271は中央部南寄りと西壁際中央部の床面から出土した破片が接合したものである。272は南東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第55図 第23号住居跡実測図



第56図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
271	須恵器	坏	13.6	5.4	5.4	長石・石英・海綿骨針	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部摩滅	中央部南寄り・西壁際中央部床面	80% 底部ヘラ記号 PL18
272	須恵器	坏	12.9	5.5	6.6	長石・石英・海綿骨針	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部摩滅	南東コーナー部覆土下層	70% PL18
273	須恵器	坏	14.3	5.0	8.2	長石・石英・白色粒子・海綿骨針	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	北壁際中央部覆土下層	60% PL19
274	須恵器	坏	—	(2.4)	—	長石・石英・海綿骨針・白色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	南東部覆土上層	5% 体部外面墨書□ PL22
275	土師器	皿	—	(1.2)	—	長石・海綿骨針	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	北西部覆土上層	5% 体部外面墨書□ PL22
276	須恵器	甌	[28.4]	(19.2)	—	長石・石英・海綿骨針	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層・床面	30% PL21

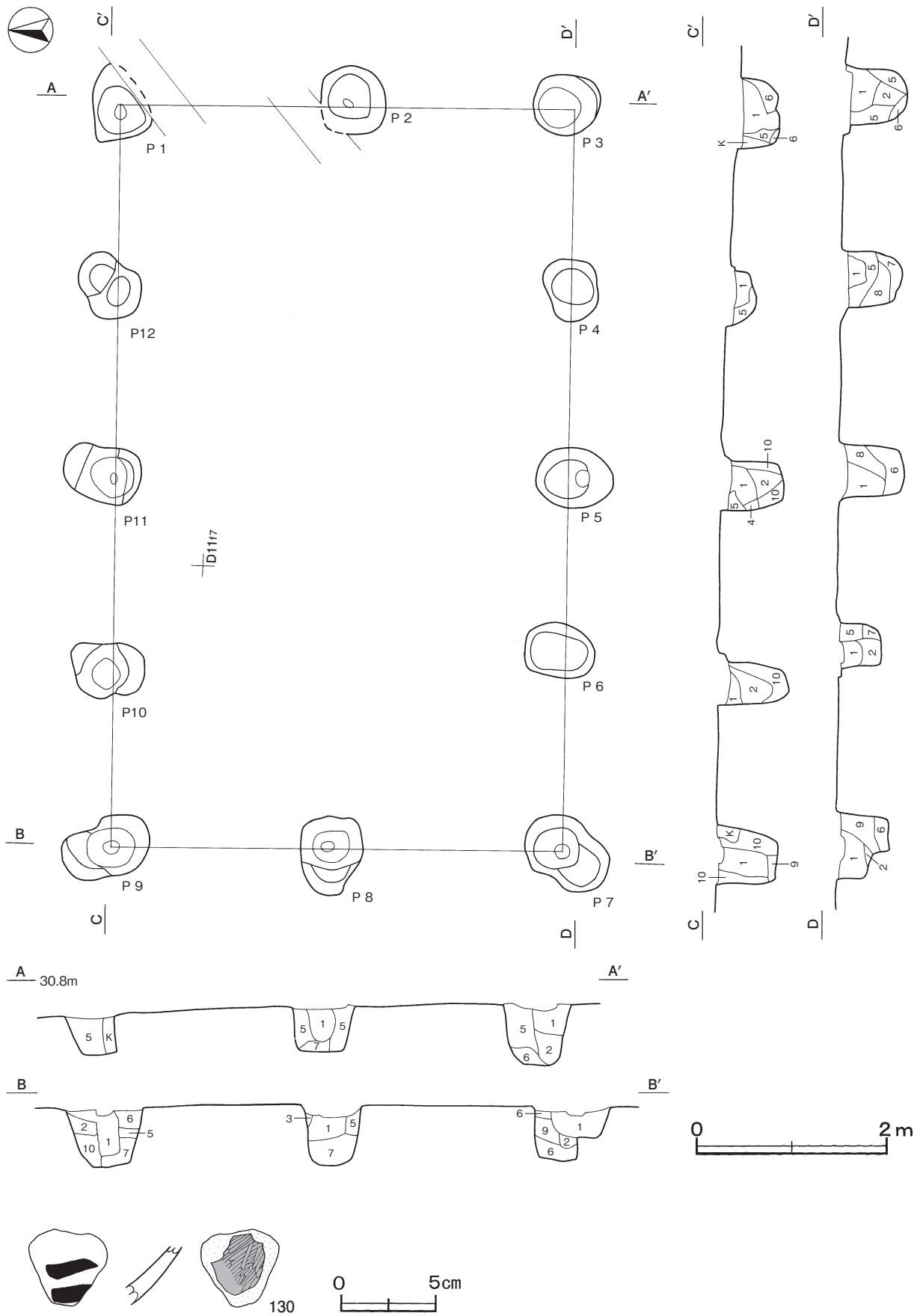
(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第57図）

**位置** 調査区南部のD11f6区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-87°-Eとする東西棟で、規模は桁行長が7.90m、梁行長が4.80mである。柱間寸法は桁行が1.97m（6.5尺）、梁行が2.42m（8尺）を基調としている。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で、深さは30～76cmである。柱痕・抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し、しまりが弱い。P9の土層断面からは柱痕が明瞭に確認され、推定される柱の径は15cmである。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。



第57图 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |             |       |                   |
|-------|-------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量     | 6 明褐色 | ロームブロック中量         |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量         |
| 3 明褐色 | ロームブロック少量   | 8 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量  |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量   | 9 褐色  | ロームブロック中量         |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量     | 10 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片10点(坏1, 甕9), 須恵器片6点(坏5, 蓋1)が出土している。また流れ込んだ縄文土器片2点も出土している。130はP7の柱抜き取り痕から出土している。

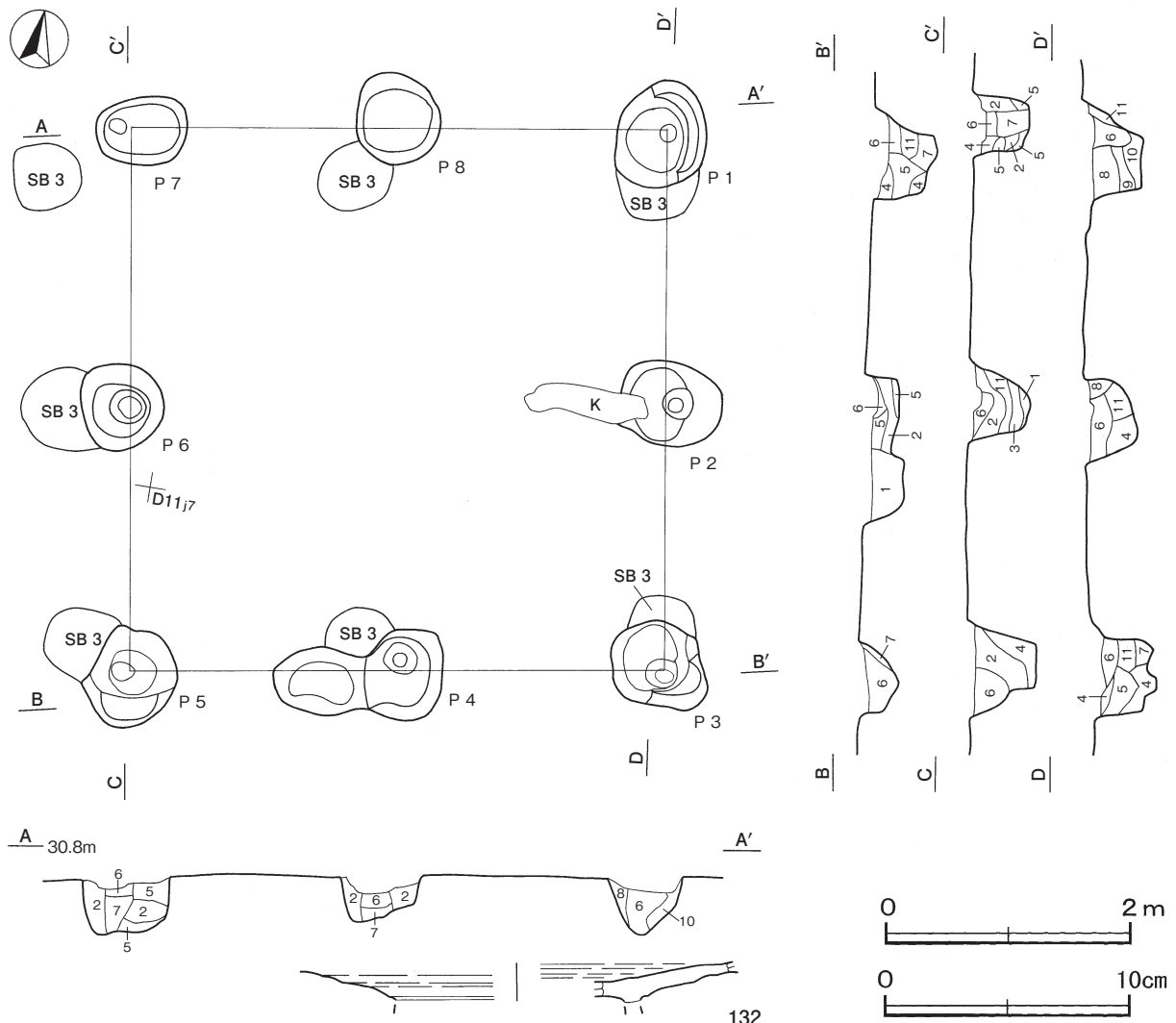
所見 時期は, 出土土器及び周辺の遺構との関連から8世紀後葉と考えられる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
130	土師器	坏	—	(3.1)	—	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	P7柱抜き取り痕	5% 外面墨書 □ PL22

第2号掘立柱建物跡 (第58図)

位置 調査区南部のD11i7区で, 標高30.5mの台地平坦部に位置している。



第58図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**重複関係** 第3号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。平面形は1辺が4.50mの方形で、桁行と梁行の区別は困難である。南北軸はN-12°-Wで、柱間寸法は2.27m（7.5尺）を基調としている。

**柱穴** 平面形はいずれも円形及び楕円形で、深さは40～57cmである。抜き取り痕は土層断面中の第6・7・11層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 黒色	炭化粒子少量・ローム粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック微量	8 明褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ローム粒子微量
4 褐色	ローム粒子多量	10 褐色	ロームブロック少量
5 明褐色	ロームブロック中量	11 にぶい褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片13点（坏5，甕8），須恵器片5点（坏4，盤1）が出土している。132はP3の埋土から出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。各柱穴が第3号掘立柱建物跡の各柱穴とほぼ重複し、規模も同じであることから、第3号掘立柱建物から本建物への建て替えが行われたものと推測される。

**第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表**（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
132	須恵器	盤	—	(1.6)	—	長石、石英	黄褐	普通	体部内・外面口ロナデ	P3埋土	10%

**第3号掘立柱建物跡**（第59図）

**位置** 調査区南部のD11i7区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第2号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-82°-Eとする東西棟で、規模は桁行5.00m、梁行3.80mである。柱間寸法は桁行が2.57m（8.5尺）、梁行が1.82m（6尺）を基調としている。

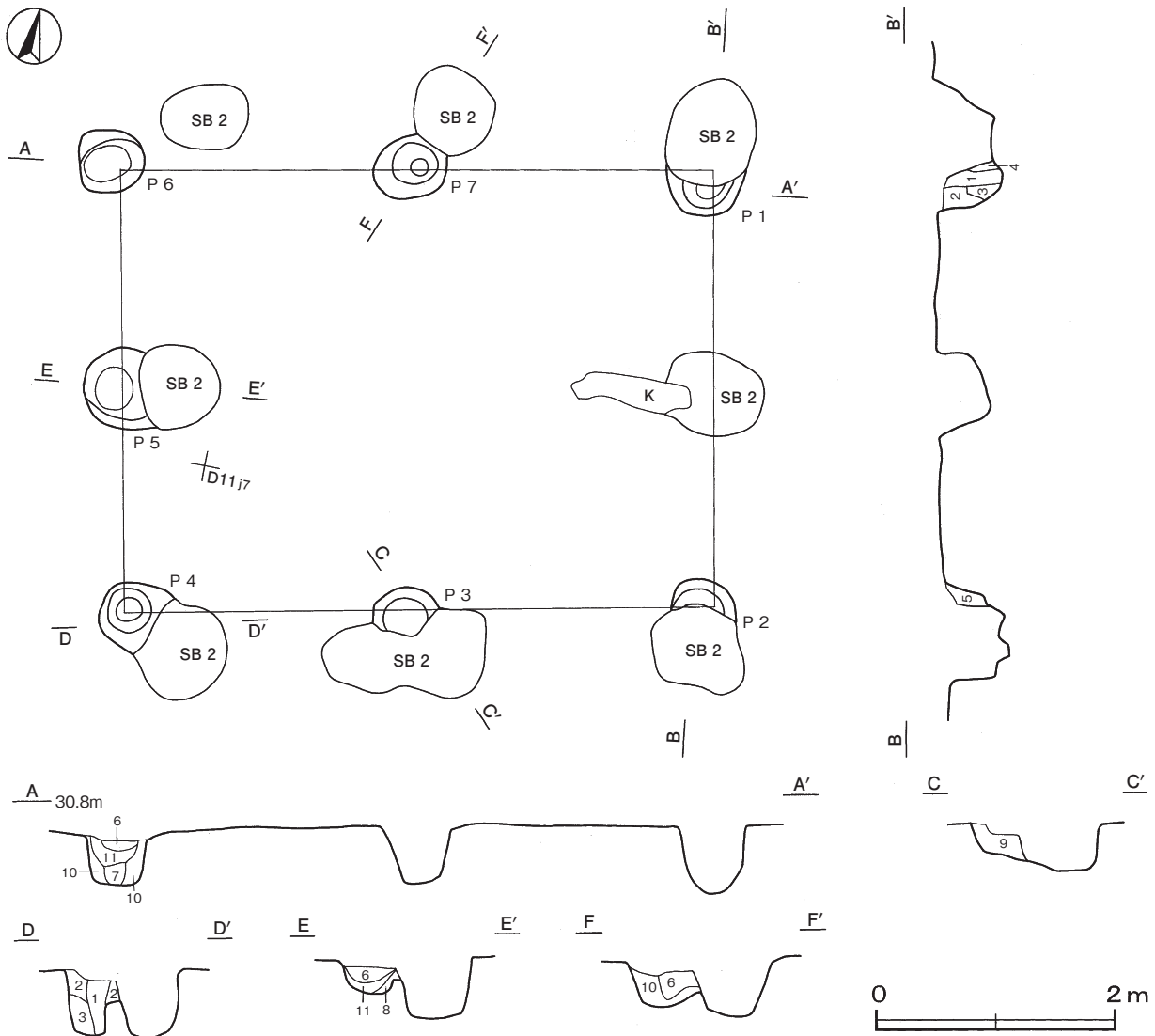
**柱穴** 平面形はいずれも円形及び楕円形で、深さは28～57cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・6・7・11層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 黒色	炭化粒子少量・ローム粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック微量	8 明褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ロームブロック少量
5 褐色	ローム粒子多量	11 にぶい褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片1点（甕），須恵器片2点（坏，高台付坏）が出土している。また流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。土器は細片で図示できない。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。重複する第2号掘立柱建物跡とほぼ重なることから、同位置で桁行方向を若干ずらして建て替えが行われたものと推測される。



第59図 第3号掘立柱建物跡実測図

第4号掘立柱建物跡 (第60図)

位置 調査区南部のE12c3区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 東側は調査区域外へ伸びており、南北軸3間、東西軸1間のみ確認できた。南北軸はN-19°-Wで、柱間寸法は2.10m(7尺)を基調としている。

柱穴 平面形は円形及び楕円形で、深さは28~58cmである。覆土はローム土を主体としている。抜き取り痕は土層断面中の第1・2・3・4層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。

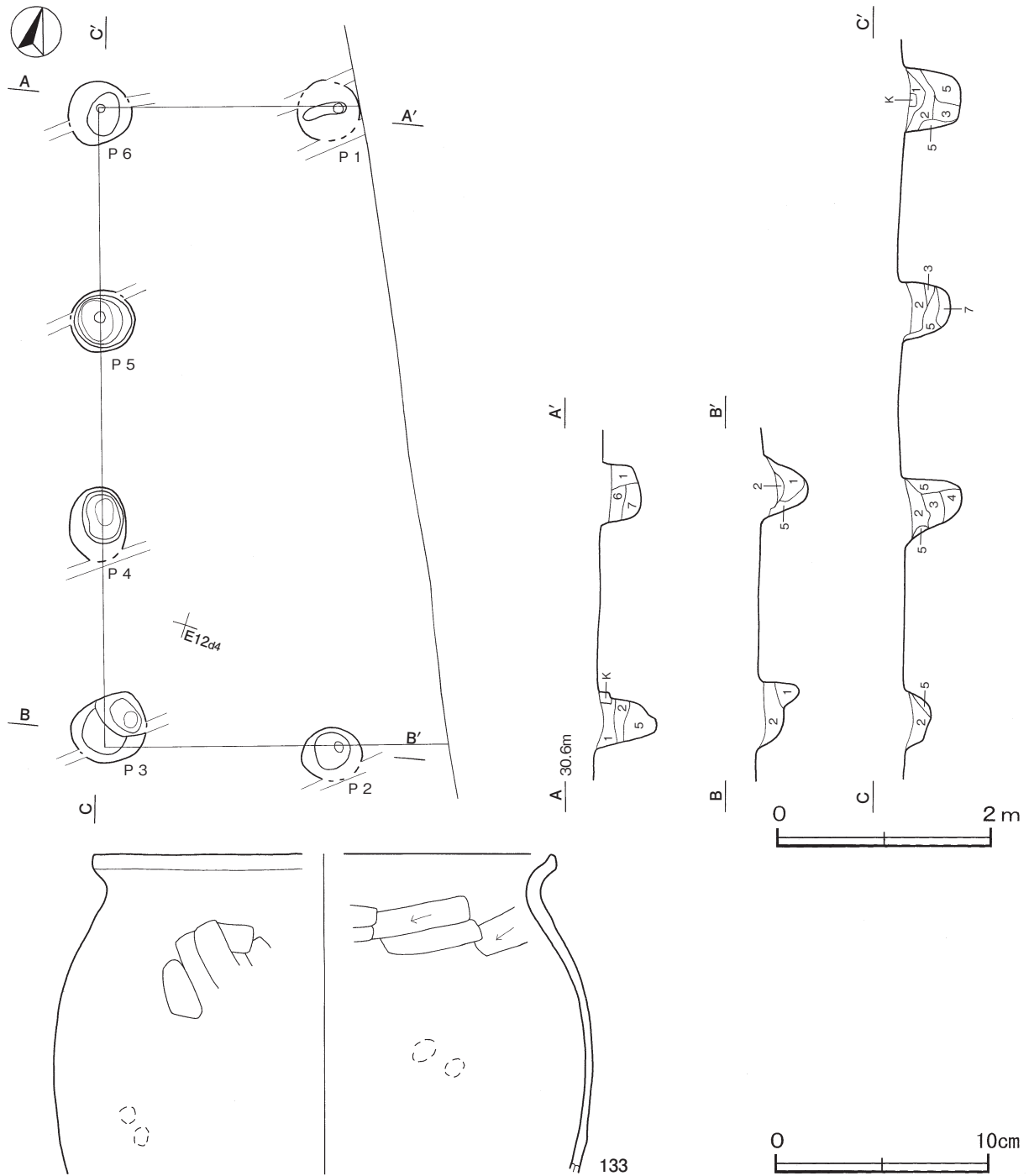
土層解説 (各柱穴共通)

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量         | 5 暗褐色 ロームブロック中量      |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック微量      |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量         | 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 炭化粒子微量          |                      |

遺物出土状況 土師器片23点(坏2, 甕21), 須恵器片16点(坏8, 甕7, 蓋1)が出土している。133はP4の柱抜き取り痕から出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。





第60図 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
133	土師器	甕	[21.6]	(15.1)	—	石英・雲母・赤色 粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラナデ 頸部内面ヘラ削り	P4柱抜き取り痕	10%

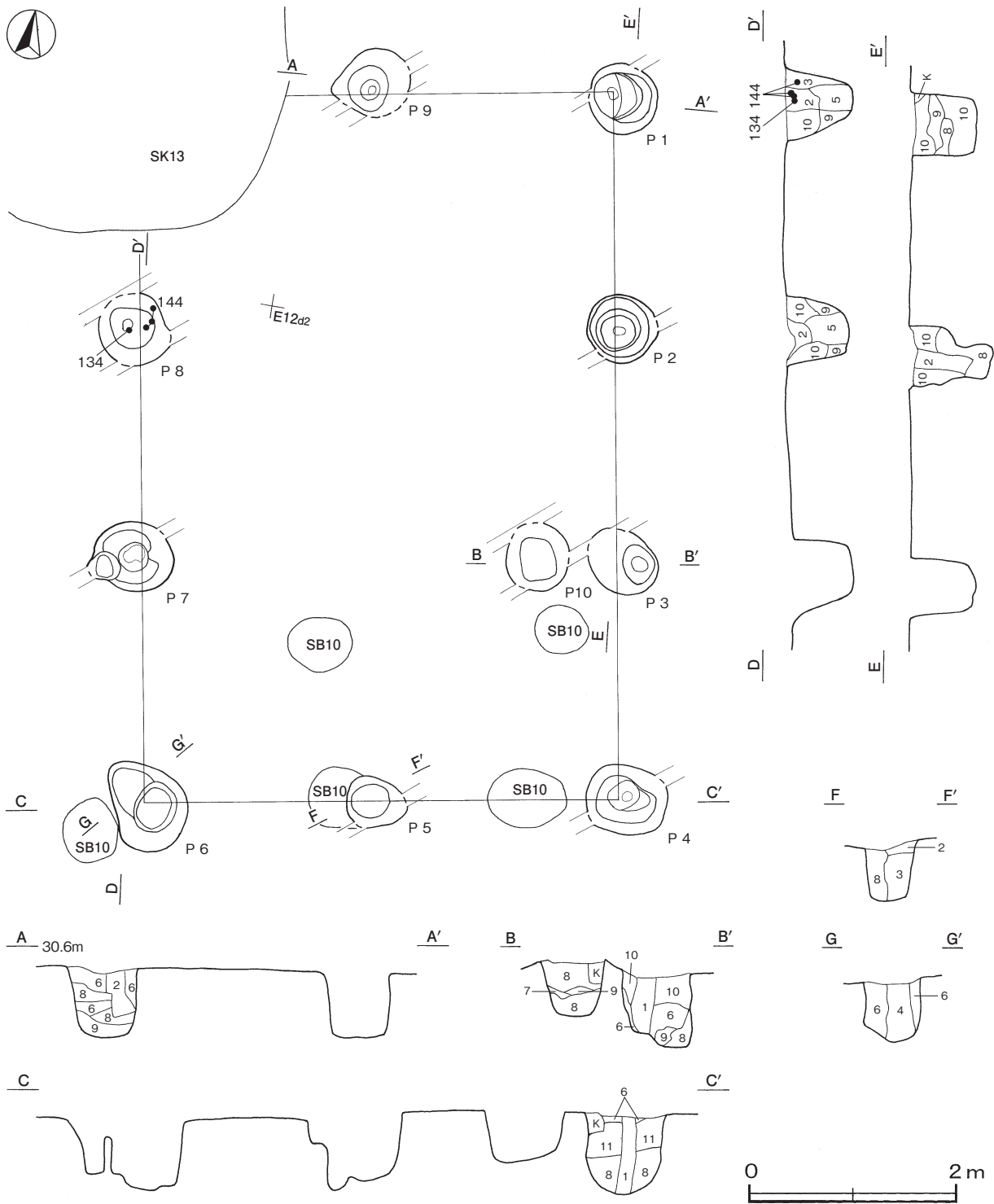
第5号掘立柱建物跡 (第61・62図)

位置 調査区南部のE12d2区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号掘立柱建物跡を掘り込み、第13号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-14°-Wとする南北棟で，規模は桁行6.90m，梁行4.55mである。柱間寸法は桁行，梁行ともに2.27m（7.5尺）を基調としている。P3とP7を結ぶ軸線上にはP10が位置しているが，性格は不明である。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは52～80cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1～5層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，互層をなしているが，強く突き固められた様子は見られない。



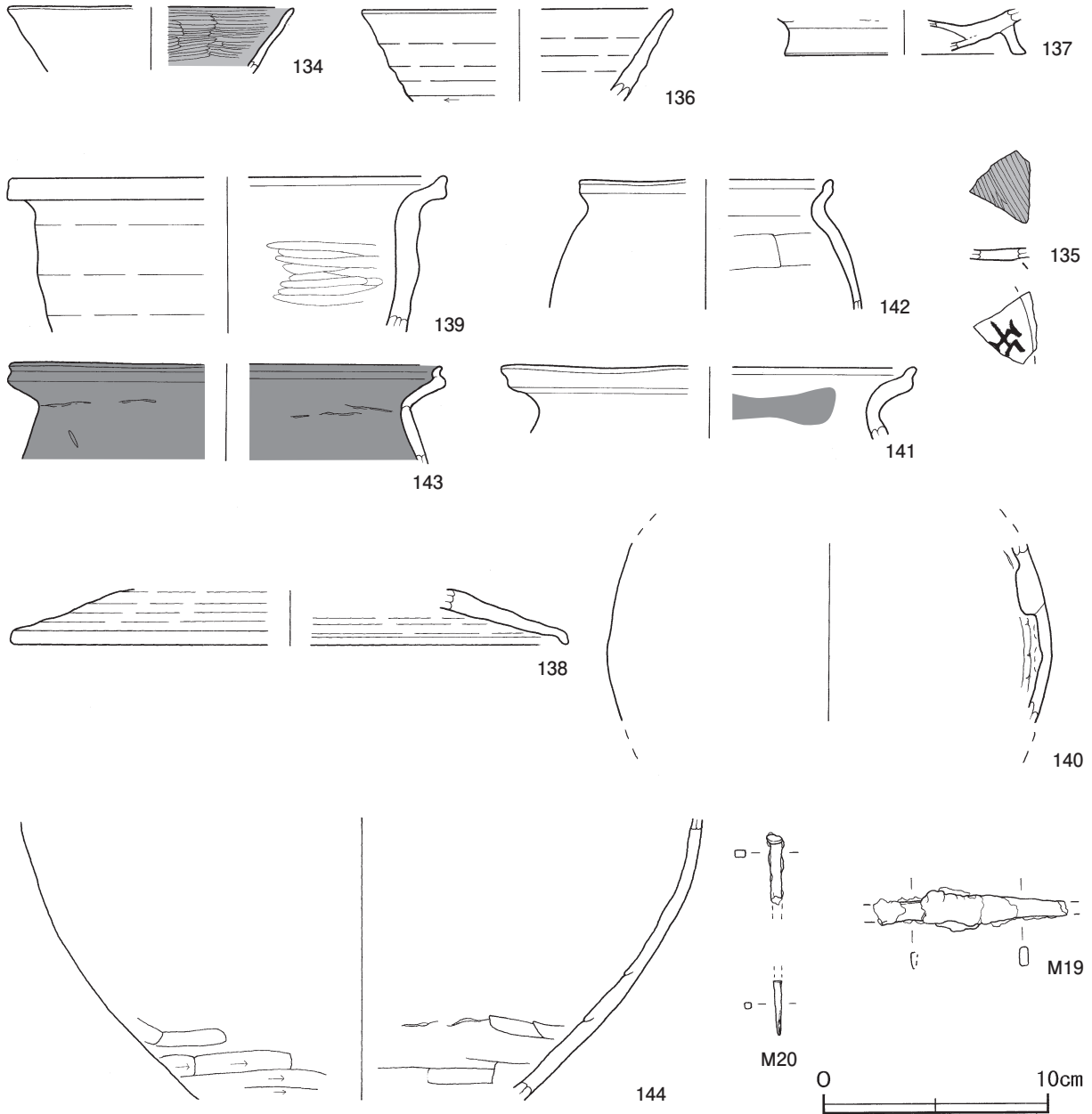
第61図 第5号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

- |                         |                                    |
|-------------------------|------------------------------------|
| 1 黒色 炭化材微量              | 7 明褐色 ロームブロック少量                    |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量      | 8 暗褐色 ロームブロック中量                    |
| 3 暗褐色 ローム粒子微量           | 9 黒褐色 ローム粒子少量                      |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化材微量     | 10 暗褐色 ロームブロック中量                   |
| 5 黒褐色 ローム粒子微量           | 11 暗褐色 ロームブロック・炭化材・凝灰質泥岩少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |                                    |

遺物出土状況 土師器片101点 (坏8, 甕93), 須恵器片53点 (坏23, 甕21, 蓋2, 盤5, 瓶2), 鉄製品2点 (釘, 刀子) が出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片2点も出土している。135・138はP3の柱抜き取り痕, 134・142・143・144はP8の柱抜き取り痕, 136・137・139・140はP6の柱抜き取り痕, 141はP7の埋土, M19・M20はP7の柱抜き取り痕から出土している。

所見 本跡の北9mに第7号住居跡が主軸方向をそろえて位置し, 135と同じ文字が書かれた墨書土器が出土している。本跡の南11mには第11号掘立柱建物跡が方向をそろえて位置しており, これらの建物は同時期に機能したものと推測される。時期は9世紀前半と考えられる。



第62図 第5号掘立柱建物跡出土遺物実測図

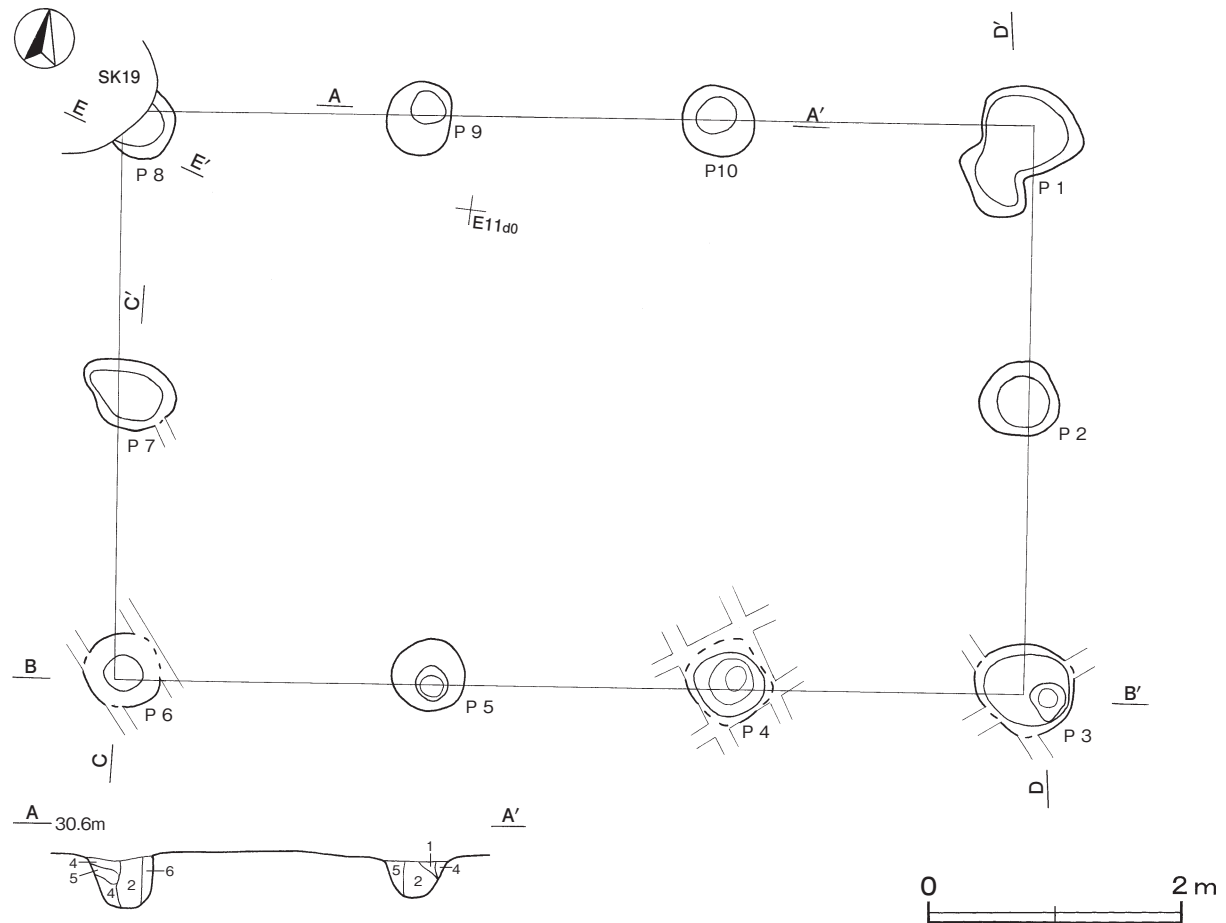
第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
134	土師器	坏	[12.8]	(2.9)	—	雲母・小礫	明赤褐	普通	内面黒色処理後ヘラ磨き	P 8 柱抜き取り痕	5%
135	土師器	高台付坏	—	(0.8)	—	石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	内面黒色処理後ヘラ磨き	P 3 柱抜き取り痕	5% 底部墨書□ PL22
136	須恵器	坏	[13.6]	(4.1)	—	石英	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P 6 柱抜き取り痕	10%
137	須恵器	高台付坏	—	(2.0)	(10.8)	小礫・白色粒子・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	P 6 柱抜き取り痕	10%
138	須恵器	蓋	[25.0]	(2.4)	—	長石・石英	灰オリーブ	普通	ロクロナデ	P 3 柱抜き取り痕	10%
139	須恵器	鉢	[19.4]	(7.0)	—	長石・石英・小礫	黄灰	普通	体部内面ヘラナデ 体部内・外面ロクロナデ	P 6 柱抜き取り痕	10%
140	須恵器	フラスコ形瓶	—	(8.0)	—	長石・黒色粒子	黄灰	普通	外面ロクロナデ	P 6 柱抜き取り痕	5%
141	土師器	甕	[19.4]	(3.1)	—	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ	P 7 埋土	5% 内面煤付着
142	土師器	甕	[11.2]	(5.9)	—	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ	P 8 柱抜き取り痕	10%
143	土師器	甕	[19.2]	(4.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面ナデ	P 8 柱抜き取り痕	5% 内外面煤付着
144	須恵器	甕	—	(17.0)	—	長石・小礫	灰	普通	体部外面下端ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	P 8 柱抜き取り痕	10%

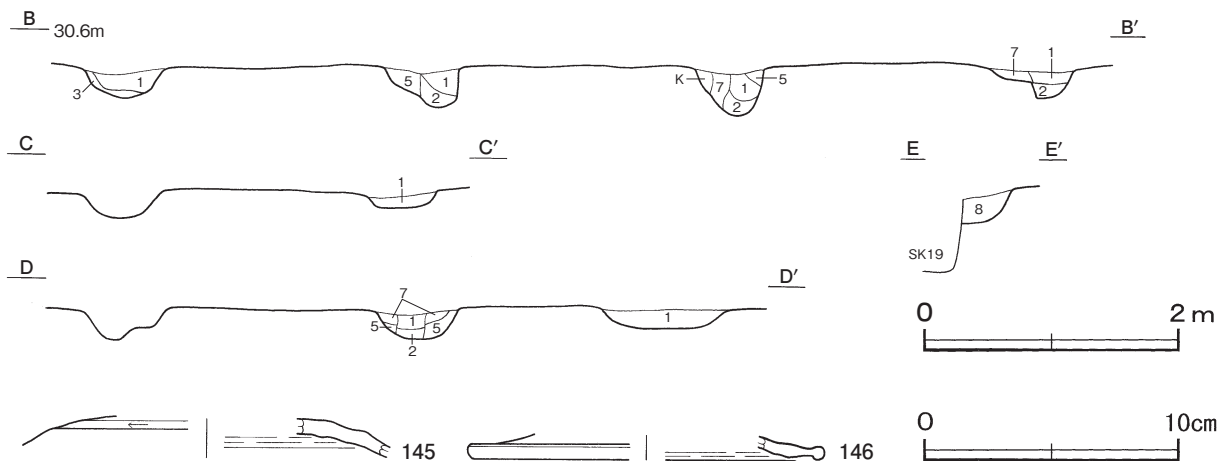
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	刀子	(8.7)	(2.0)	0.4	(13.4)	鉄	刃先部・茎尻部欠損	P 7 柱抜き取り痕	
M20	釘	[9.0]	0.7	0.6	(2.81)	鉄	断面方形の棒状	P 7 柱抜き取り痕	

第6号掘立柱建物跡（第63・64図）

位置 調査区南部のE11d0区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。



第63図 第6号掘立柱建物跡実測図



第64図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**重複関係** 第19号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-84°-Eとする東西棟で，規模は桁行7.20m，梁行4.55mである。柱間寸法は桁行が2.42m（8尺），梁行が2.27m（7.5尺）を基調としている。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは16～41cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |       |           |       |                  |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量   | 5 黒褐色 | ロームブロック微量        |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量   | 6 褐色  | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子多量   | 7 褐色  | ロームブロック少量        |
| 4 明褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色  | ロームブロック中量        |

**遺物出土状況** 須恵器片10点（坏4，甕4，蓋2）が出土している。145はP5の埋土から，146はP1の埋土から出土している。

**所見** 時期は，出土土器及び周辺の遺構との関係から9世紀中葉と考えられる。

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
145	須恵器	蓋	—	(1.6)	—	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	P5埋土	10%
146	須恵器	蓋	[14.0]	(1.0)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	P1埋土	5%

第7号掘立柱建物跡（第65図）

**位置** 調査区南部のE11e0区で，標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-85°-Eとする東西棟で，規模は桁行4.70m，梁行3.40mである。柱間寸法は桁行が2.42m（8尺），梁行が1.66m（5.5尺）を基調としている。

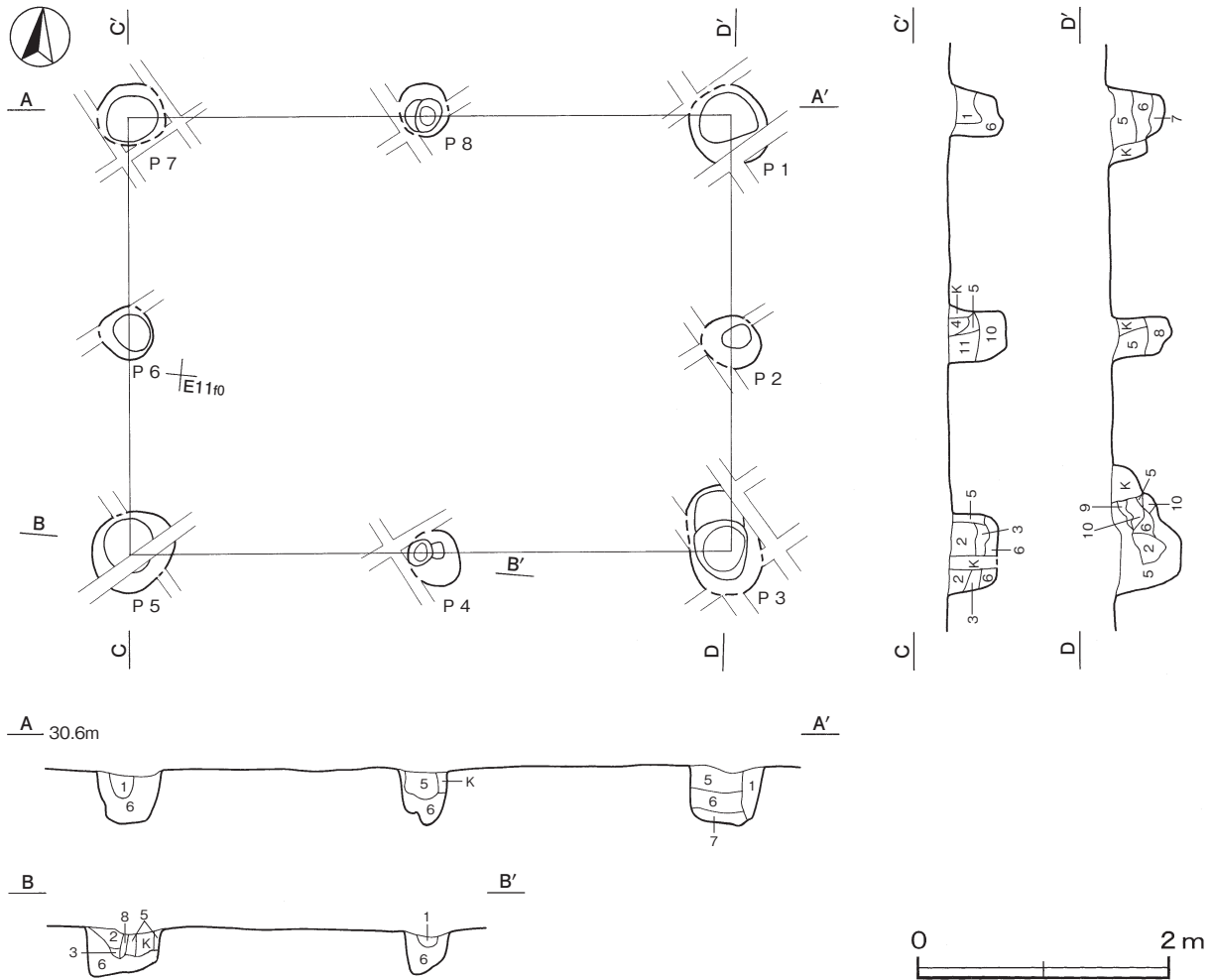
**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは35～57cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2・3層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，互層をなしているが，強く突き固められた様子は見られない。

土層解説 (各柱穴共通)

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子微量           | 7 黒褐色 ローム粒子微量    |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量        | 8 褐色 ローム粒子中量     |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量          | 9 明褐色 ロームブロック中量  |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量        | 10 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック微量        | 11 褐色 ロームブロック中量  |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |                  |

遺物出土状況 土師器片6点(坏1, 甕5), 須恵器片3点(坏)が出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。土器は細片で図示できない。

所見 北へ10mの位置には第8号掘立柱建物跡が, 南へ10mの位置には第15号掘立柱建物跡が桁行方向をそろえて東西に配置されており, 本跡を含めた三つの建物は同時期に機能していたと推測される。時期は, 出土土器及び周辺の遺構との関係から8世紀後葉と考えられる。



第65図 第7号掘立柱建物跡実測図

第8号掘立柱建物跡 (第66図)

位置 調査区南部のE11a9区で, 標高30.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 東側は調査区域外へ伸びており, 東西軸2間, 南北軸1間のみ確認できた。東西軸はN-85°-Eで, 柱間寸法は東西軸, 南北軸ともに2.27m(7.5尺)を基調としている。

柱穴 平面形は円形及び楕円形で, 深さは40~47cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し,

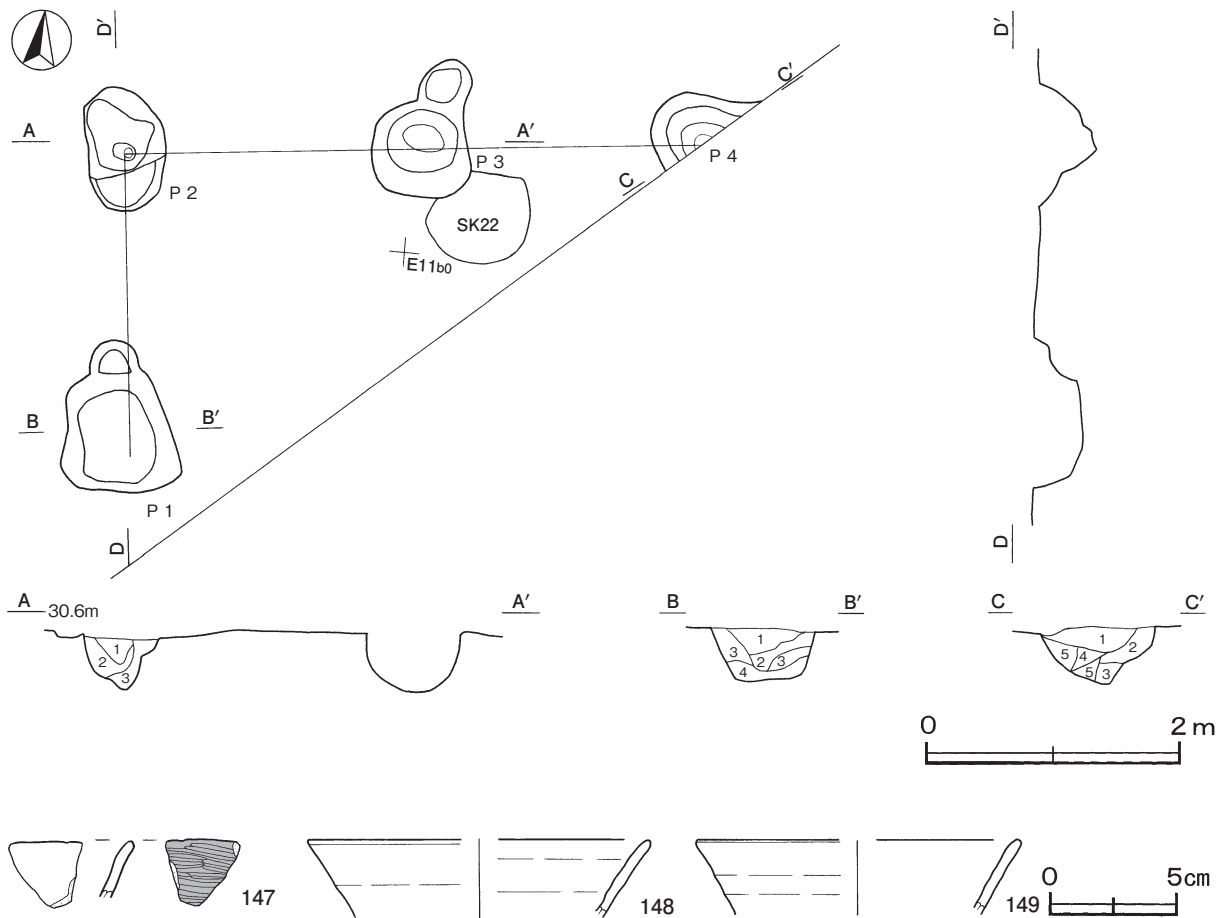
しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒色  | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量        | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色  | ローム粒子多量        |       |           |

遺物出土状況 土師器片10点(坏4, 甕5, 高台付坏1), 須恵器片8点(坏4, 甕3, 高台付坏1)が出土している。147~149はP3の埋土から出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片2点も出土している。

所見 南へ10mの位置には第7号掘立柱建物跡, さらに南へ10mの位置には第15号掘立柱建物跡が桁行方向をそろえて東西に配置されており, 本跡を含めた三つの建物は同時期に機能していたと推測される。時期は出土土器及び周辺の遺構との関係から8世紀後葉と考えられる。



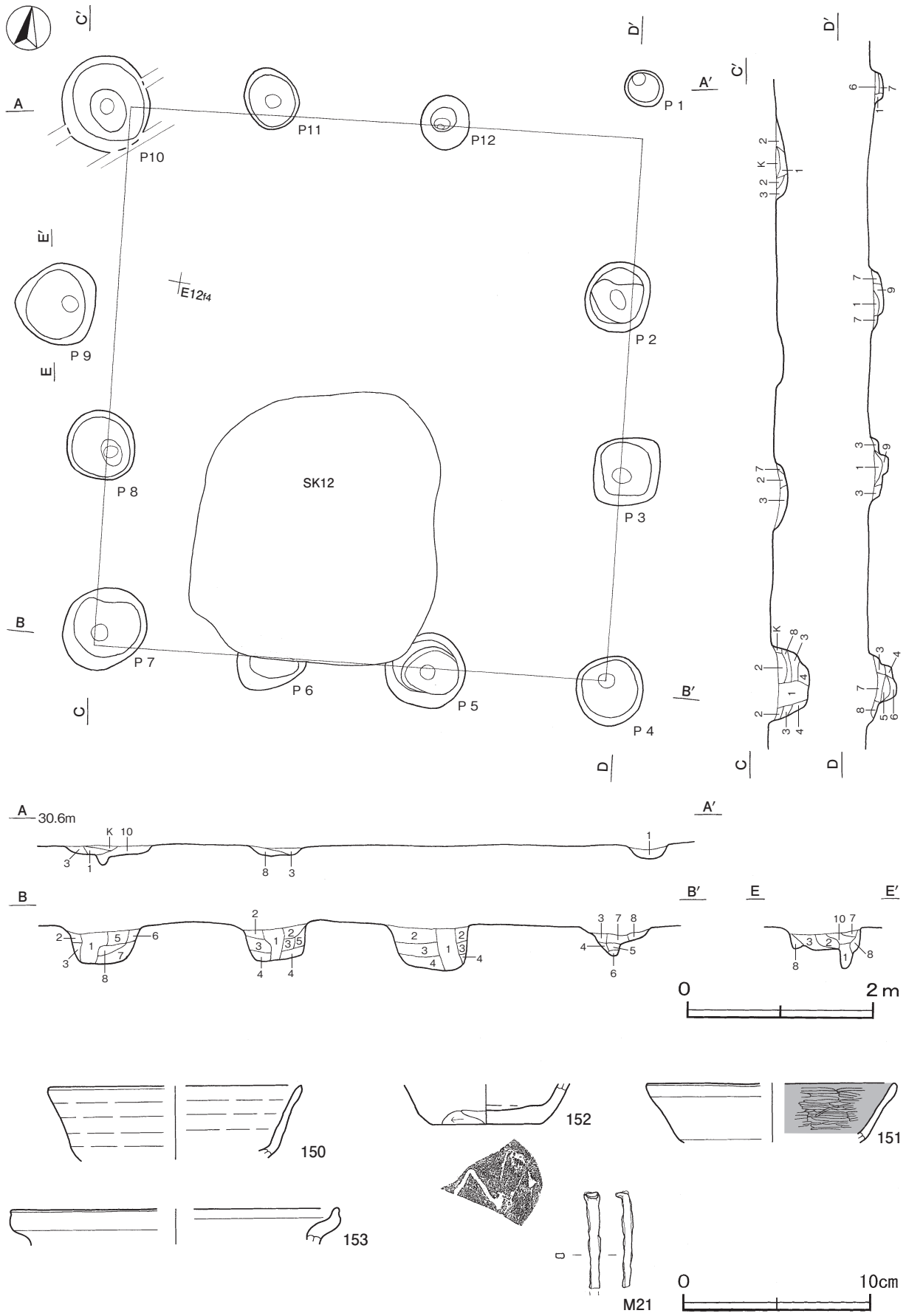
第66図 第8号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
147	土師器	坏	—	(2.3)	—	長石・雲母	明赤褐	普通	内面黒色処理後ヘラ磨き	P3埋土	5%
148	須恵器	坏	[13.6]	(3.1)	—	石英・小礫	灰黄	普通	体部内・外面クロナデ	P3埋土	5%
149	須恵器	坏	[12.8]	(3.0)	—	石英・小礫	黄灰	普通	体部内・外面クロナデ	P3埋土	5%

第9号掘立柱建物跡 (第67図)

位置 調査区南部のE12f4区で, 標高30.0mの台地平坦部に位置している。



第67图 第9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



**重複関係** 第12号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間，梁行3間の側柱建物跡である。桁行方向をN-9°-Wとする南北棟と考えられる。規模は桁行5.80m，梁行5.45mである。柱間寸法は桁行が1.96m（6.5尺），梁行が1.82m（6尺）を基調としている。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは10～50cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，互層をなしているが，強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック少量	6 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック微量	7 明褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック中量	8 明褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ローム粒子微量
5 褐色	ロームブロック微量	10 褐色	ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片41点（坏2，甕39），須恵器片33点（坏23，甕7，蓋1，高台付坏1，長頸瓶1），鉄製品1点（釘）が出土している。150・153はP6の柱抜き取り痕，151はP5の埋土，152・M21はP7の埋土から出土している。また，流れ込んだ縄文土器片5点も出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

**第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表**（第67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
150	須恵器	坏	[13.6]	(3.9)	—	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P6柱抜き取り痕	5%
151	土師器	坏	[13.2]	(3.2)	—	雲母・石英	灰黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き	P5埋土	10%
152	須恵器	坏	—	(2.2)	[5.8]	小礫・白色粒子	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 多方向のヘラ削り	P7埋土	15% 底部ヘラ記号
153	土師器	甕	[17.6]	(1.9)	—	雲母・石英	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	P6柱抜き取り痕	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M21	釘	(5.3)	0.8	0.4	(3.06)	鉄	脚部先端欠損 頭部は打撃によってややつぶれる。	P7埋土	

**第10号掘立柱建物跡**（第68図）

**位置** 調査区南部のE12e2区で，標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第5号掘立柱建物跡，第18・23号土坑に掘り込まれている。

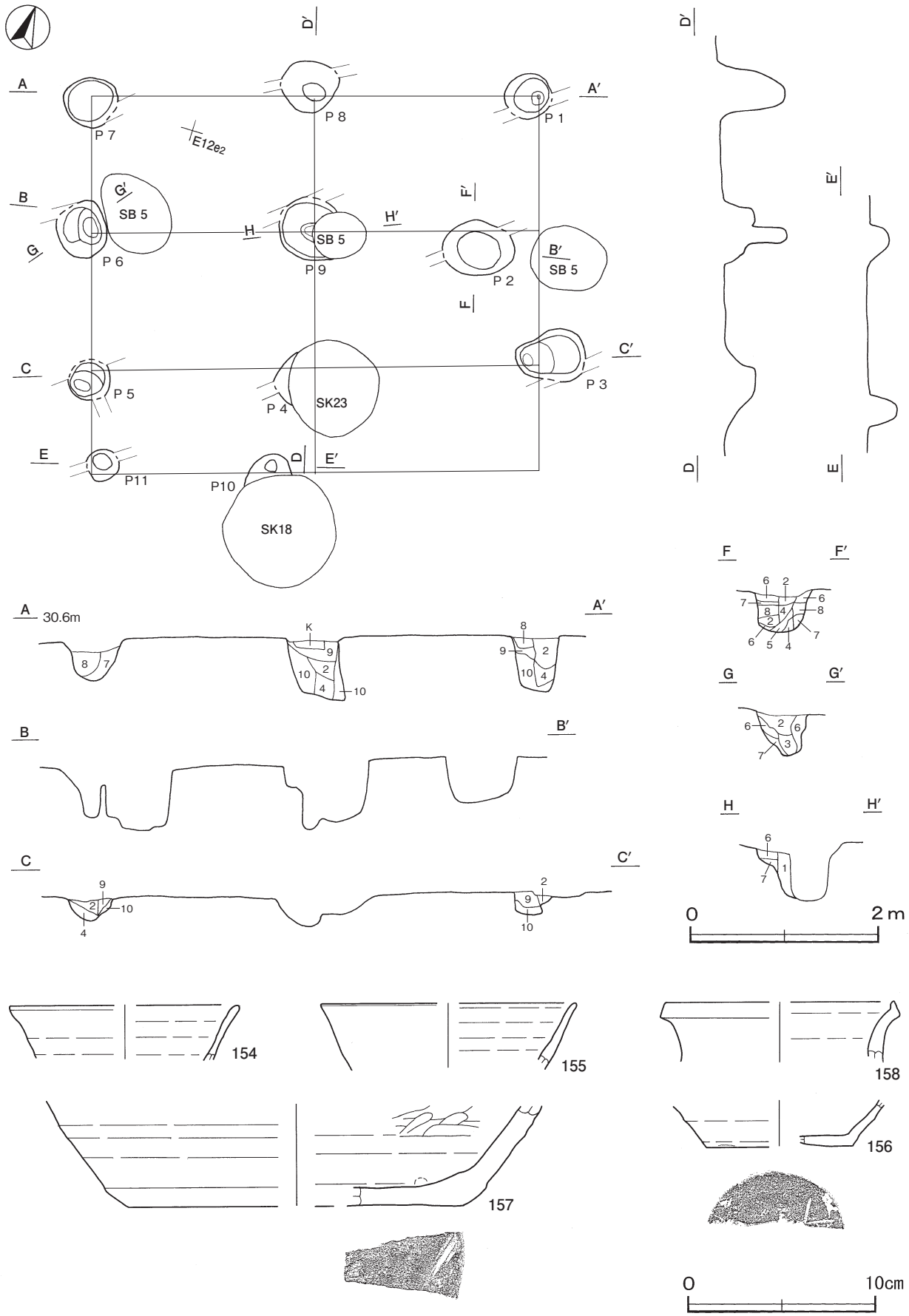
**規模と構造** 桁行2間，梁行3間の総柱建物跡である。桁行方向をN-74°-Eとする東西棟で，規模は桁行4.80m，梁行4.00mである。柱間寸法は桁行が2.42m（8尺），梁行が1.52m（5尺）を基調としている。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは24～70cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1～5層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，互層をなしているが，強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 黒色	炭化物微量	6 暗褐色	ローム粒子中量，炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	7 明褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ローム粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子少量
5 明褐色	ローム粒子多量	10 暗褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片10点（坏3，甕7），須恵器片26点（坏12，甕4，蓋4，盤1，高台付坏1，長頸瓶3，鉢1）が出土している。154・156・157はP9の埋土，155・158はP2の柱抜き取り痕から出土している。また，



第68图 第10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

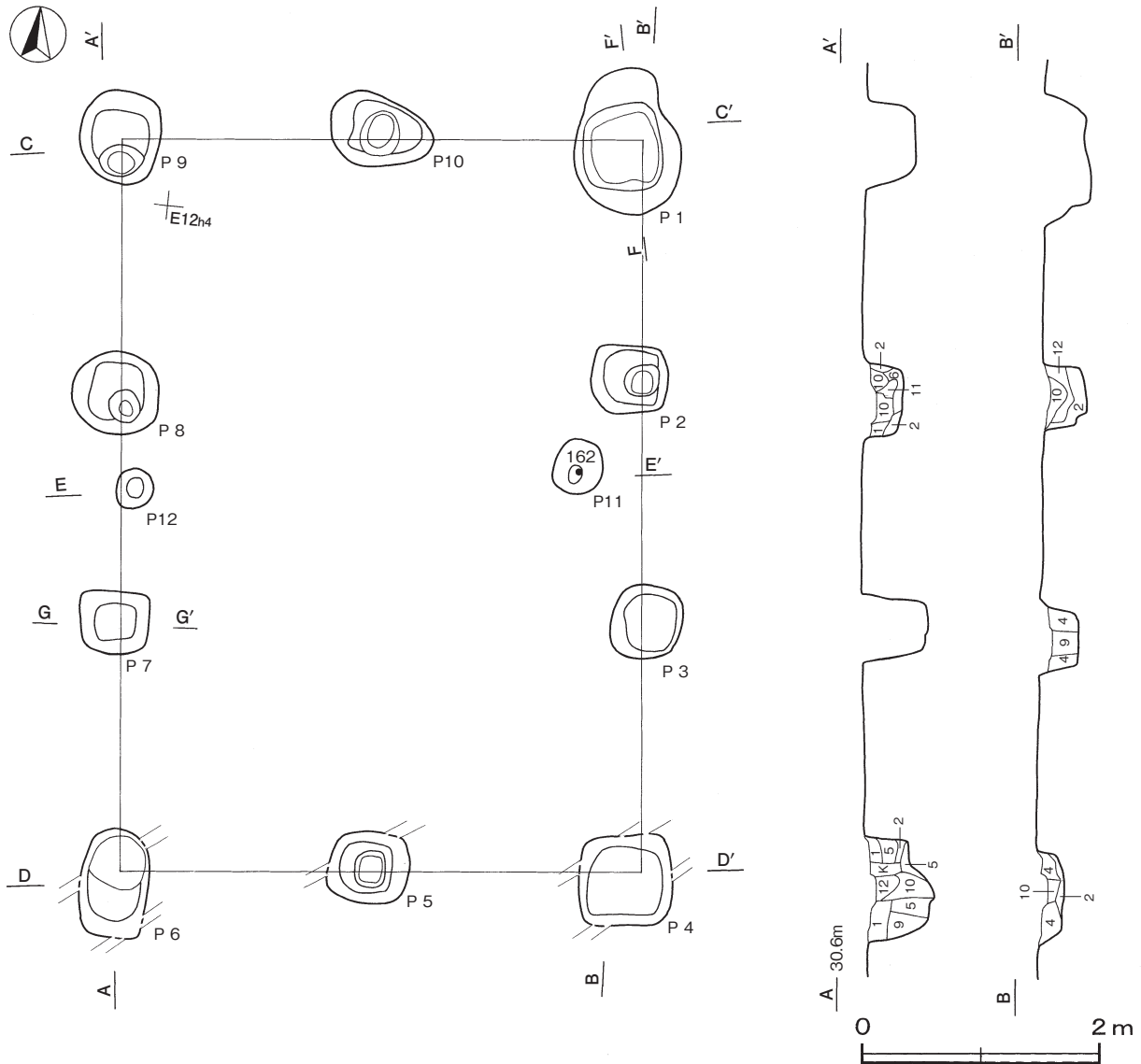
所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第68図)

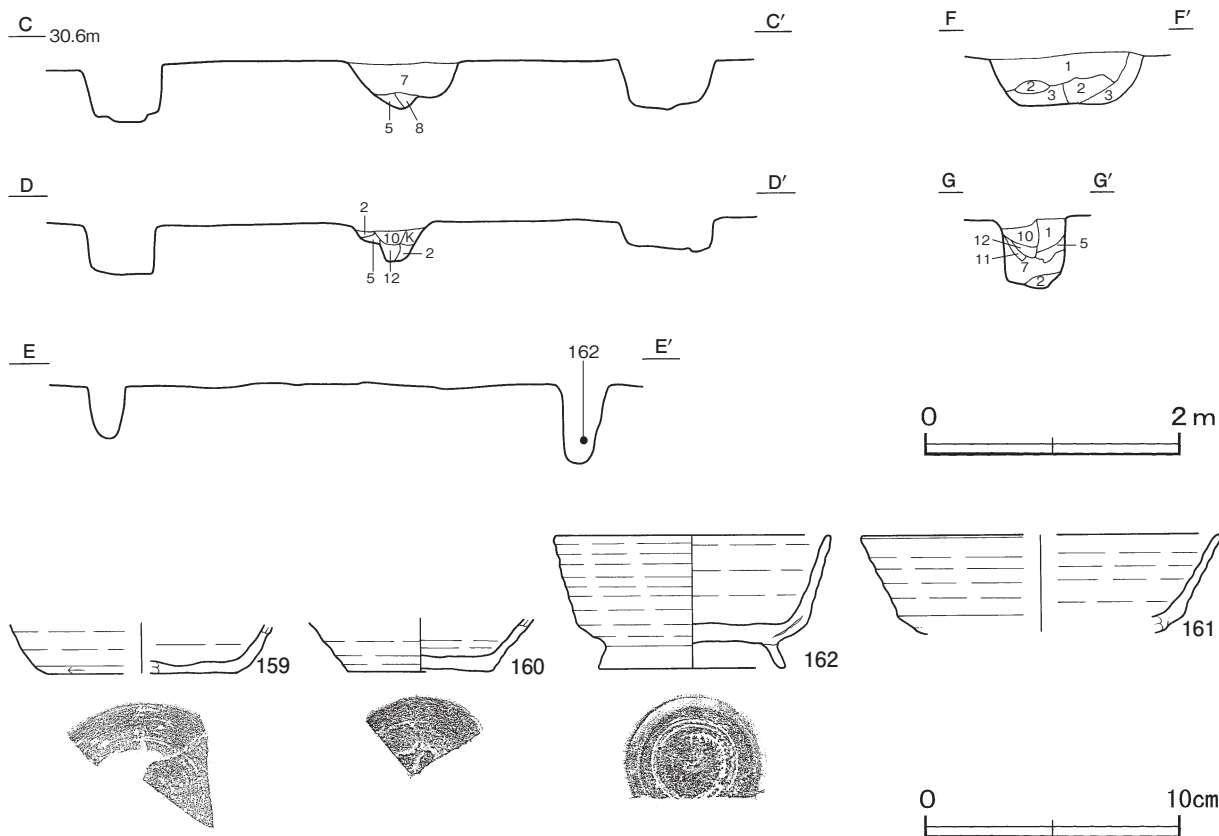
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
154	須恵器	坏	[12.4]	(2.9)	—	長石・雲母・黒色 粒子	にぶい黄橙	不良	体部内・外面ロクロナデ	P 9埋土	5%
155	須恵器	坏	[13.6]	(3.6)	—	長石・小礫	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	P 2柱抜き取り 痕	5%
156	須恵器	坏	—	(2.5)	[8.0]	小礫・白色粒子	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	P 9埋土	25% 底部ヘ ラ記号
157	須恵器	鉢	—	(5.5)	[18.0]	石英・小礫	黄灰	普通	体部下端削り 底部多方向へのヘラ削り	P 9埋土	10%
158	須恵器	長頸瓶	[12.4]	(3.3)	—	石英・小礫・白色 粒子	暗灰黄	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	P 2柱抜き取り 痕	5%

第11号掘立柱建物跡 (第69・70図)

位置 調査区南部のE 12h4区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。



第69図 第11号掘立柱建物跡実測図



第70図 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-7°-Wとする南北棟で，規模は桁行6.20m，梁行4.40mである。柱間寸法は桁行，梁行ともに2.12m（7尺）を基調としている。P2とP3の間，P7とP8の間にはP11・P12が確認されているが，性格は不明である。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは24～61cmである。抜き取り痕は土層断面中の第9・10・11・12層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，互層をなしているが，強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |         |                     |        |                      |
|---------|---------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色   | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量 |
| 2 褐色    | ローム粒子多量             | 8 褐色   | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 3 にぶい褐色 | ローム粒子微量             | 9 黒色   | ローム粒子微量              |
| 4 黒褐色   | 焼土粒子微量              | 10 暗褐色 | ローム粒子微量              |
| 5 明るい褐色 | ロームブロック中量           | 11 明褐色 | ロームブロック少量            |
| 6 暗褐色   | ローム粒子中量             | 12 暗褐色 | ローム粒子微量              |

**遺物出土状況** 土師器片27点（坏4，甕23），須恵器片22点（坏19，甕2，盤1）が出土している。159はP3の埋土，160はP4の柱抜き取り痕，161はP9の柱抜き取り痕，162はP11の柱抜き取り痕から出土している。

また，流れ込んだ縄文土器片4点も出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
159	須恵器	坏	—	(1.9)	[7.4]	石英・小礫・黒色粒子	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	P3埋土	5%
160	須恵器	坏	—	(2.1)	[5.8]	小礫・白色粒子・黒色粒子	黄褐	普通	底部回転ヘラ切り	P4柱抜き取り痕	15%

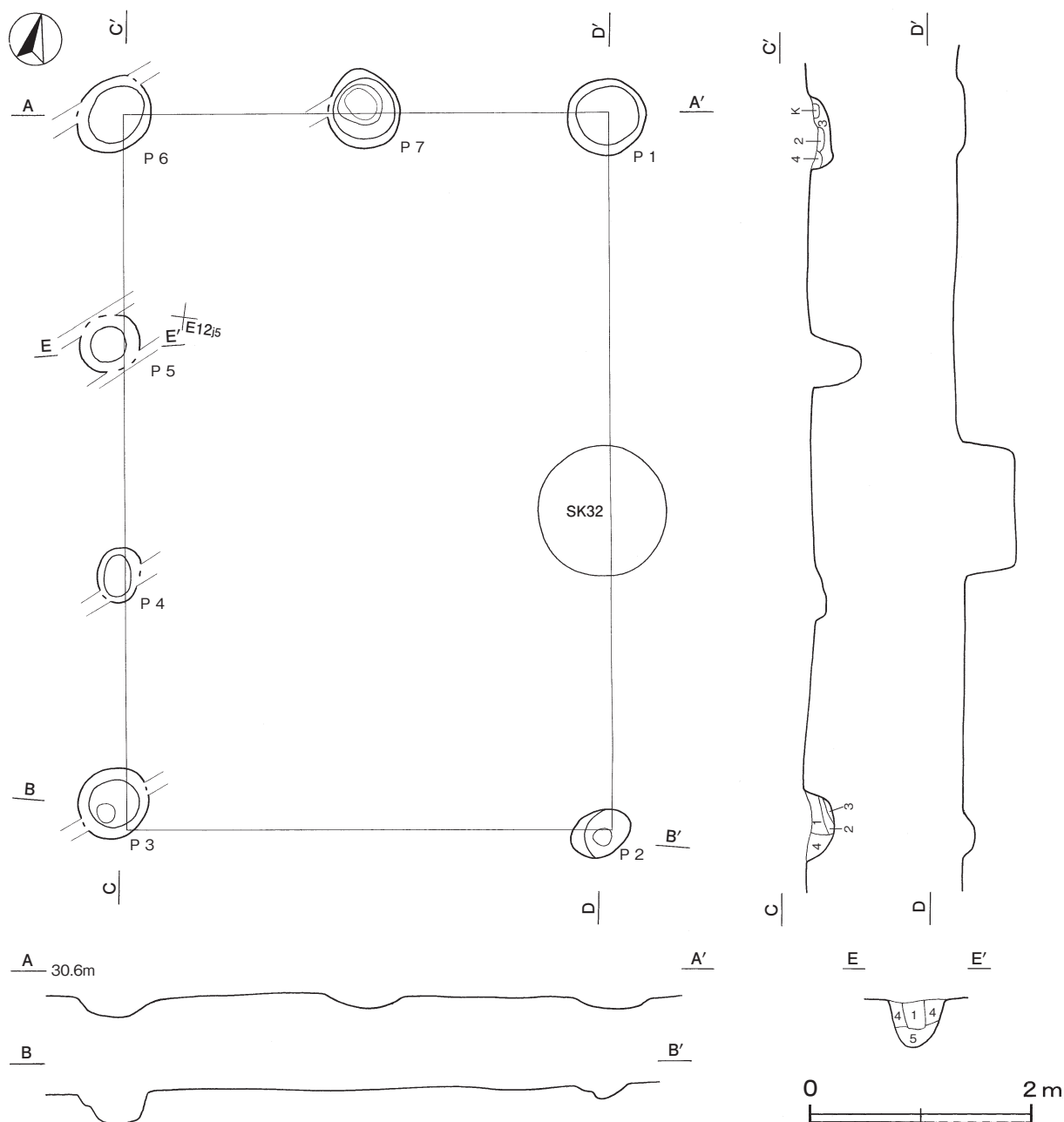
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
161	須恵器	高台付坏	[14.2]	(3.9)	—	長石・小礫	灰褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	P 9 柱抜き取り痕	15%
162	須恵器	高台付坏	10.8	5.3	7.4	小礫・白色粒子・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	P 11 柱抜き取り痕	50% PL19

### 第12号掘立柱建物跡 (第71・72図)

**位置** 調査区南部のE12j5区で、標高30.5mの台地平坦部に位置する。

**重複関係** 第32号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-7°-Wとする南北棟で、規模は桁行6.55m、梁行4.40mである。柱間寸法は桁行、梁行ともに2.12m(7尺)を基調としている。



第71図 第12号掘立柱建物跡実測図

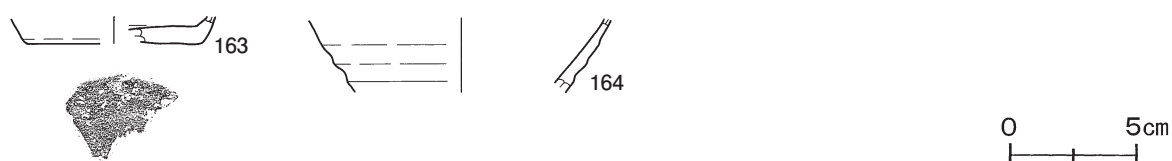
**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で、深さは8～51cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量        | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子微量        |       |           |

**遺物出土状況** 土師器片1点（甕）、須恵器片6点（坏）が出土している。163・164はP5の埋土から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第72図 第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	須恵器	坏	—	(1.1)	[7.0]	石英・雲母・小礫	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	P5埋土	5%
164	須恵器	坏	—	(3.0)	—	石英・雲母	灰褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	P5埋土	20%

第13号掘立柱建物跡（第73図）

**位置** 調査区南部のF12b4区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-77°-Eとする東西棟で、規模は桁行4.85m、梁行3.33mである。柱間寸法は桁行が2.42m（8尺）、梁行が1.66m（5.5尺）を基調としている。

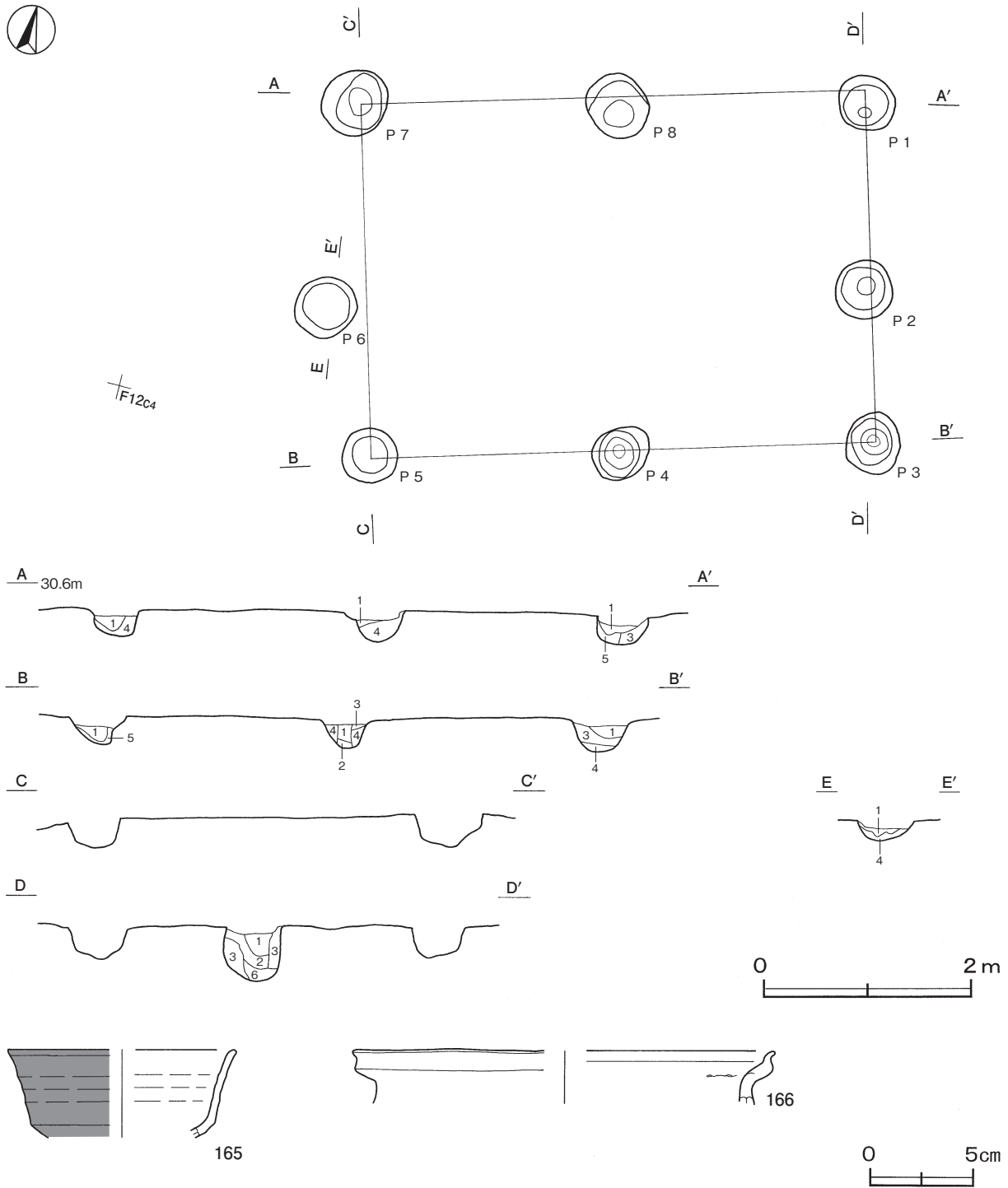
**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で、深さは14～54cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |       |         |       |           |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 明褐色 | ローム粒子多量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |

**遺物出土状況** 土師器片2点（高台付坏、甕）、須恵器片2点（坏）が出土している。165はP2の埋土、166はP7の埋土から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第73図 第13号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第13号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第73図）

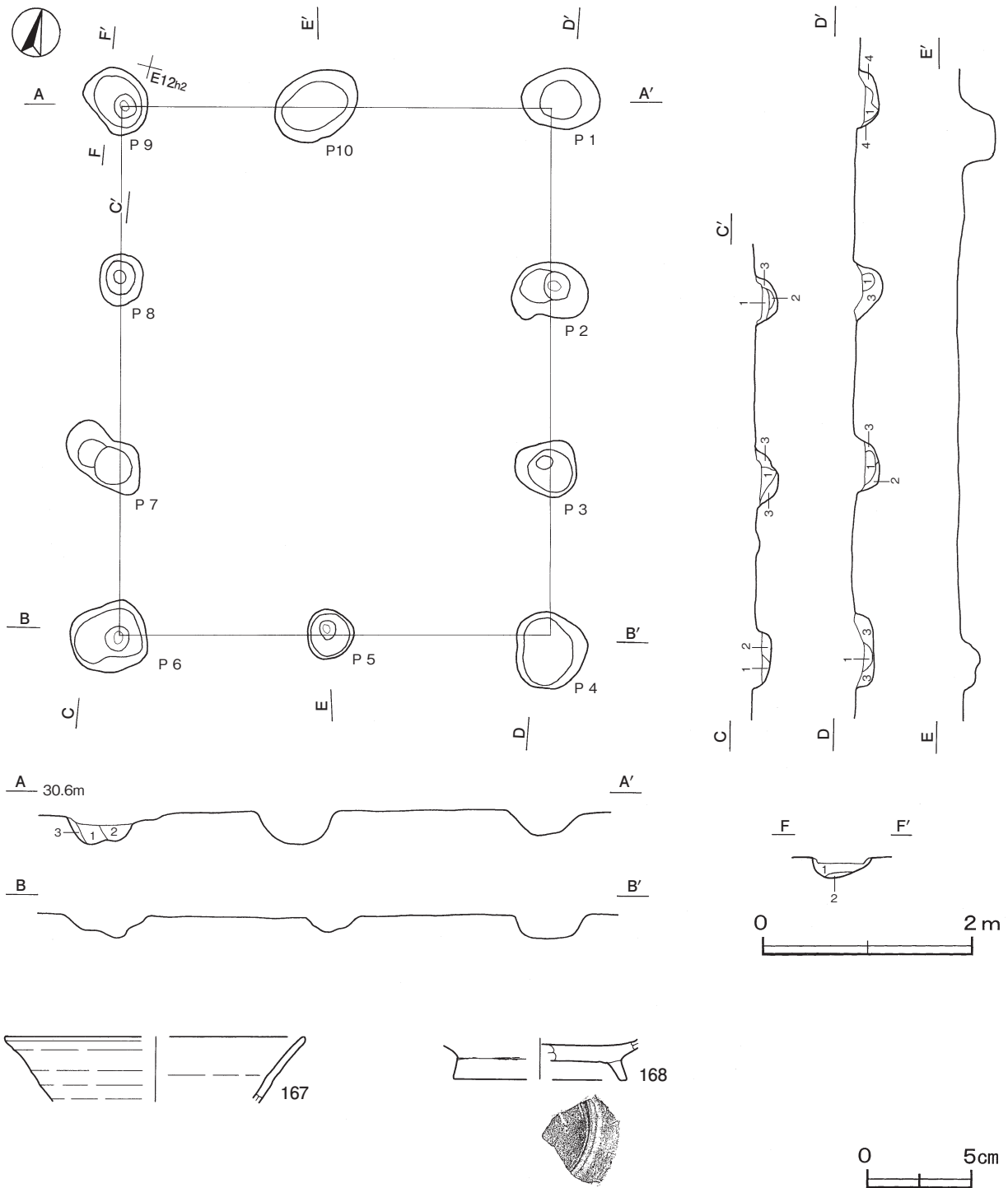
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
165	土師器	高台付杯	[10.8]	(4.3)	—	雲母・小礫・海綿骨針	にぶい黄褐	普通	体部下端削り	P 2埋土	50% 外面煤附着
166	土師器	甕	[20.2]	(2.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	P 7埋土	5%

第14号掘立柱建物跡 (第74図)

位置 調査区南部のE12h2区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-15°-Wとする南北棟で、規模は桁行5.10m、梁行4.15mである。柱間寸法は桁行が1.66m (5.5尺)、梁行が2.10m (7.0尺)を基調としている。

柱穴 平面形は円形または楕円形で、深さは17~33cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し、



第74図 第14号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量   | 4 褐色  | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片2点(甕), 須恵器片5点(坏3, 甕1, 高台付坏1)が出土している。167はP7の埋土から, 168はP4の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第14号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第74図)

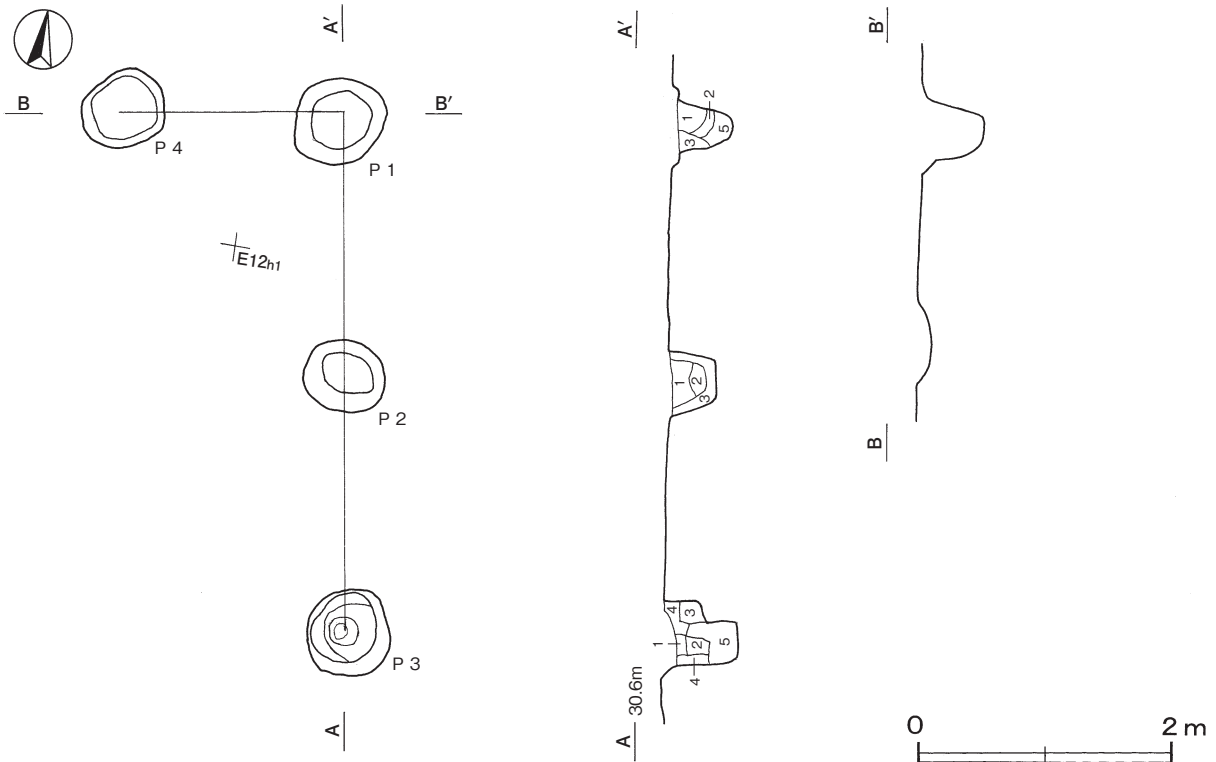
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
167	須恵器	坏	[14.4]	(3.2)	—	長石・小礫・黒色 粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P7埋土	10%
168	須恵器	高台付坏	—	(2.0)	[8.4]	雲母・小礫・白色 粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	P4埋土	5%

第15号掘立柱建物跡 (第75図)

位置 調査区南部のE12h1区で, 標高30.5mの台地平坦部に位置する。

規模と構造 西側は調査区域外へ伸びており, 南北2間, 東西1間が確認されており, 南北軸はN-8°-Wである。確認された規模は南北軸4.20m, 東西軸1.82mで, 柱間寸法は南北軸が2.12m(7尺), 東西軸が1.82m(6尺)を基調としている。

柱穴 平面形は円形及び楕円形で, 深さは9~60cmである。覆土はローム土を主体としている。抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し, しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で, 互層をなし



第75図 第15号掘立柱建物跡実測図

ている。

土層解説 (各柱穴共通)

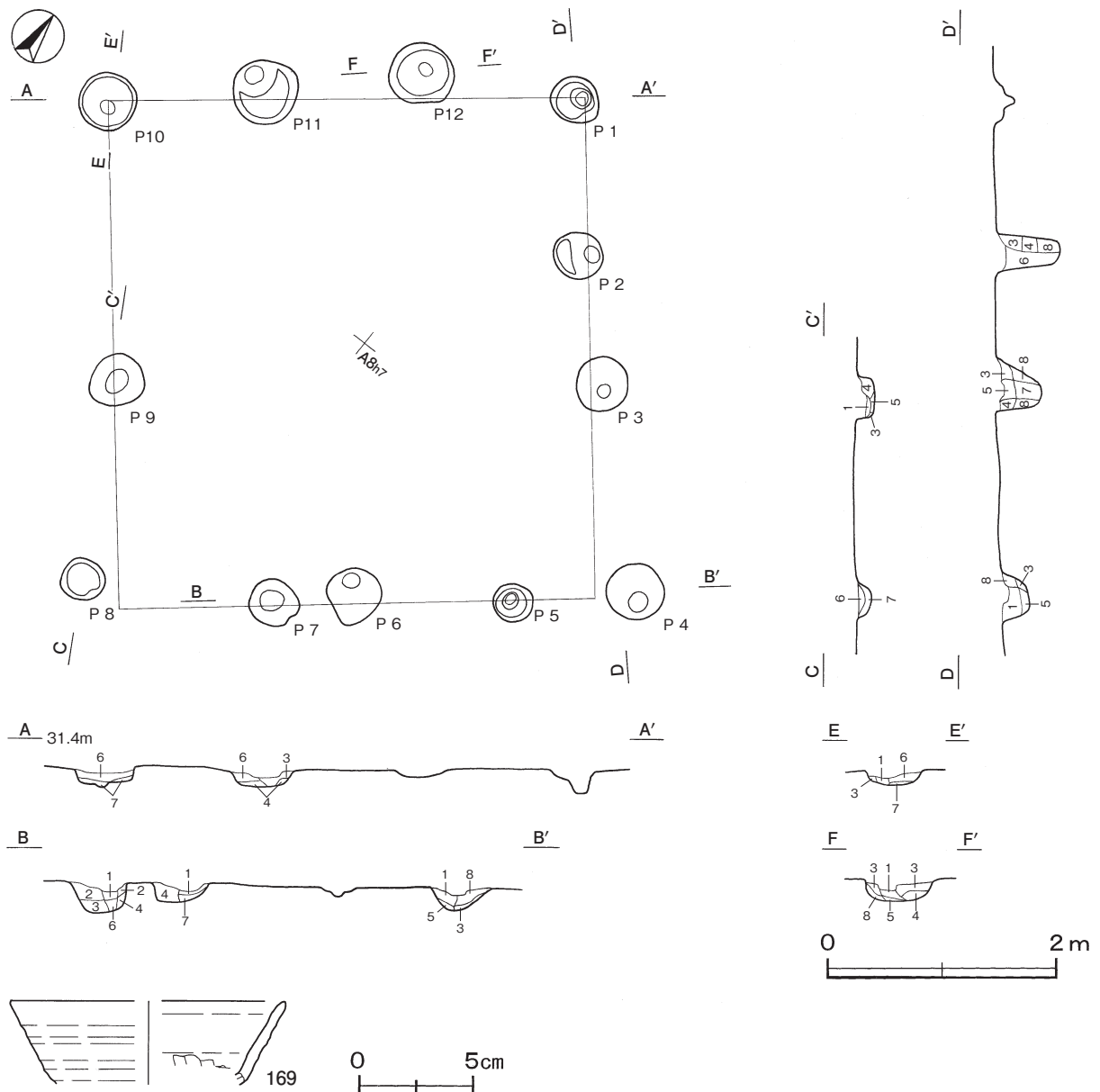
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量   | 4 褐色 ロームブロック中量  |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 |                 |

所見 北へ10mの位置には第7号掘立柱建物跡、さらに北へ10mの位置には第8号掘立柱建物跡が桁行方向をそろえて東西に配置されており、本跡を含めた三つの建物は同時期に機能していたと推測される。時期は9世紀中葉と考えられる。

第16号掘立柱建物跡 (第76図)

位置 調査区中央部のA 8 g6区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡と考えられる。平面形は1辺が4.20mの方形で、桁行と梁行の



第76図 第16号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

区別は困難である。南北軸はN-38°-Wで、柱間寸法は1.52m（5尺）を基調としている。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で、深さは8～55cmである。柱痕・抜き取り痕は土層断面中の第1・5・6・7層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色  | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色  | ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 土師器片2点（甕）、須恵器片1点（坏）が出土している。169はP8の埋土から出土している。

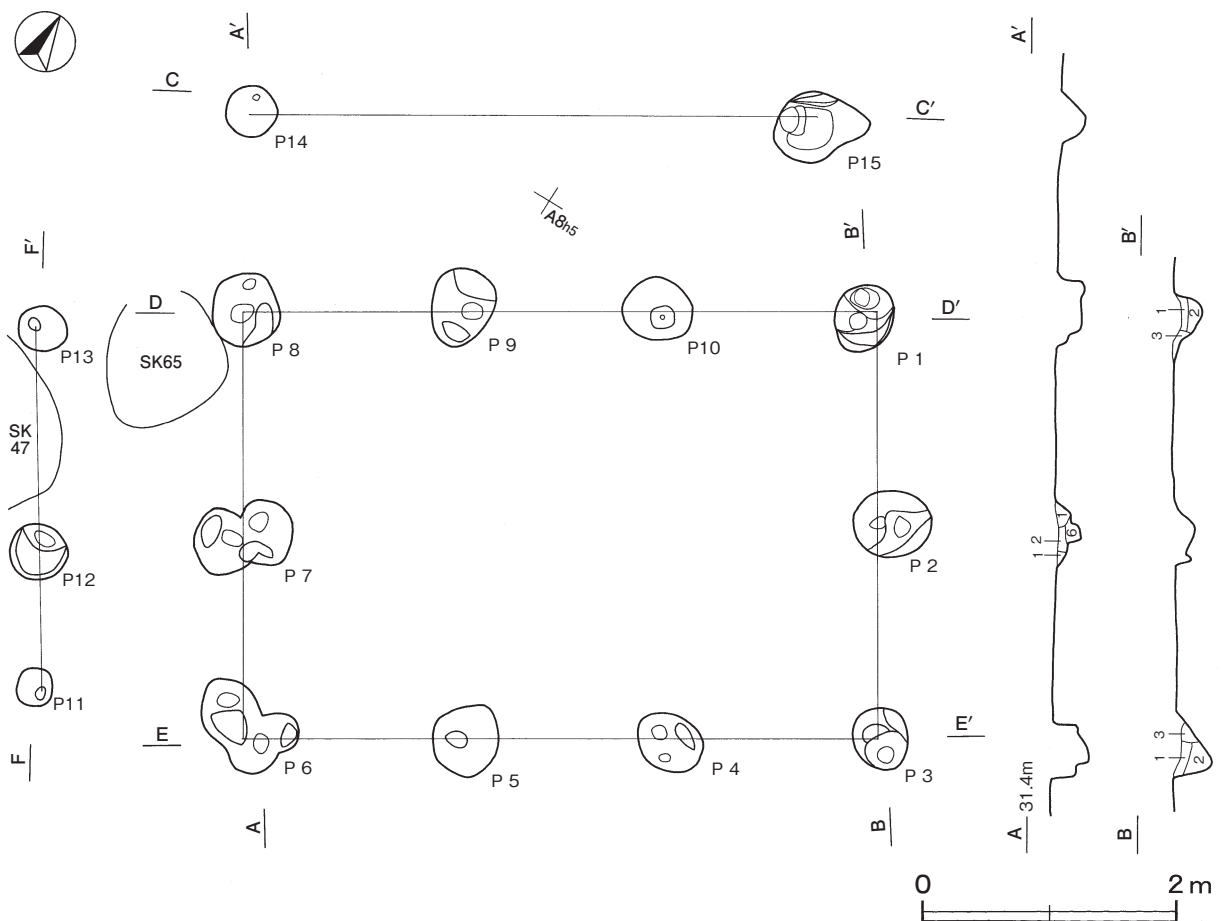
**所見** 時期は、周辺の建物跡との配置関係から9世紀代と考えられる。

**第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表**（第76図）

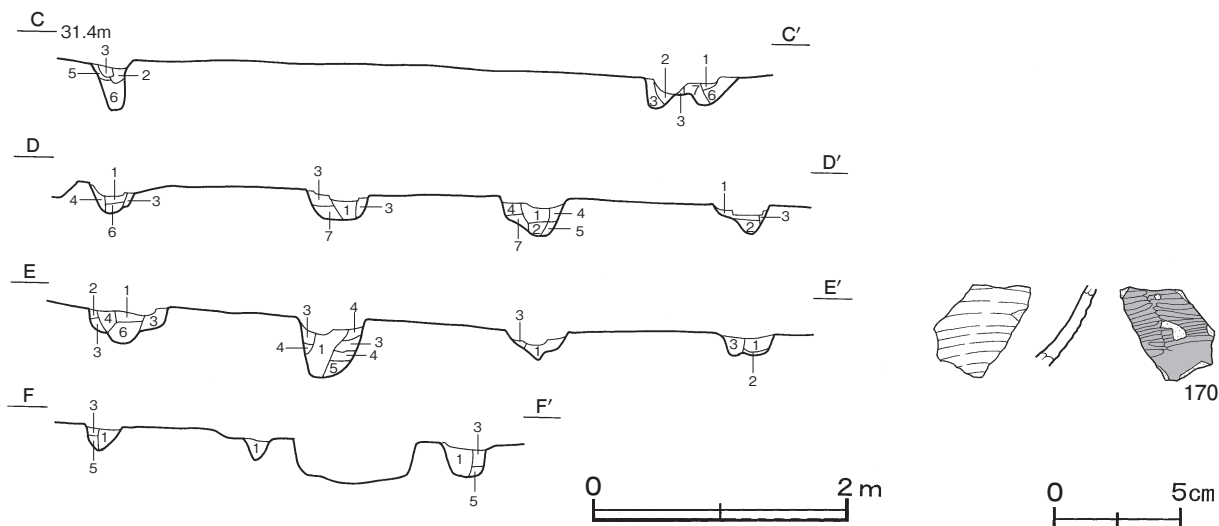
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
169	土師器	坏	[12.2]	(3.7)	—	石英・雲母・小礫	明褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	P8埋土	5%

**第17号掘立柱建物跡**（第77・78図）

**位置** 調査区中央部のA8h5区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。



**第77図** 第17号掘立柱建物跡実測図



第78図 第17号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-58°-Eとする東西軸で，規模は桁行5.00m，梁行3.33mである。また，北側桁行と西側梁行の外側には目隠し状の施設が付属していると考えられる。柱間寸法は桁行が1.67m（5.5尺），梁行が1.67m（5.5尺）を基調としている。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは14～53cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，互層をなしているが，強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量      | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量      | 6 褐色 ロームブロック中量  |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量      | 7 褐色 ロームブロック少量  |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 |                 |

**遺物出土状況** 土師器片4点（坏1，甕3）が出土している。170はP8の柱抜き取り痕から出土している。

**所見** 時期は，出土土器と周辺の建物跡との関係配置から9世紀中葉と考えられる。

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
170	土師器	坏	—	(3.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	内面黒色処理後磨き	P8柱抜き取り痕	5%

**第18号掘立柱建物跡**（第79図）

**位置** 調査区北部のA6h0区で，標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 南側は調査区域外へ伸びており，南北軸2間，東西軸2間を確認した。南北軸はN-6°-Wで，東西軸の規模は3.00mである。柱間寸法は南北軸1.36m（4.5尺），東西軸1.51m（5尺）を基調としている。

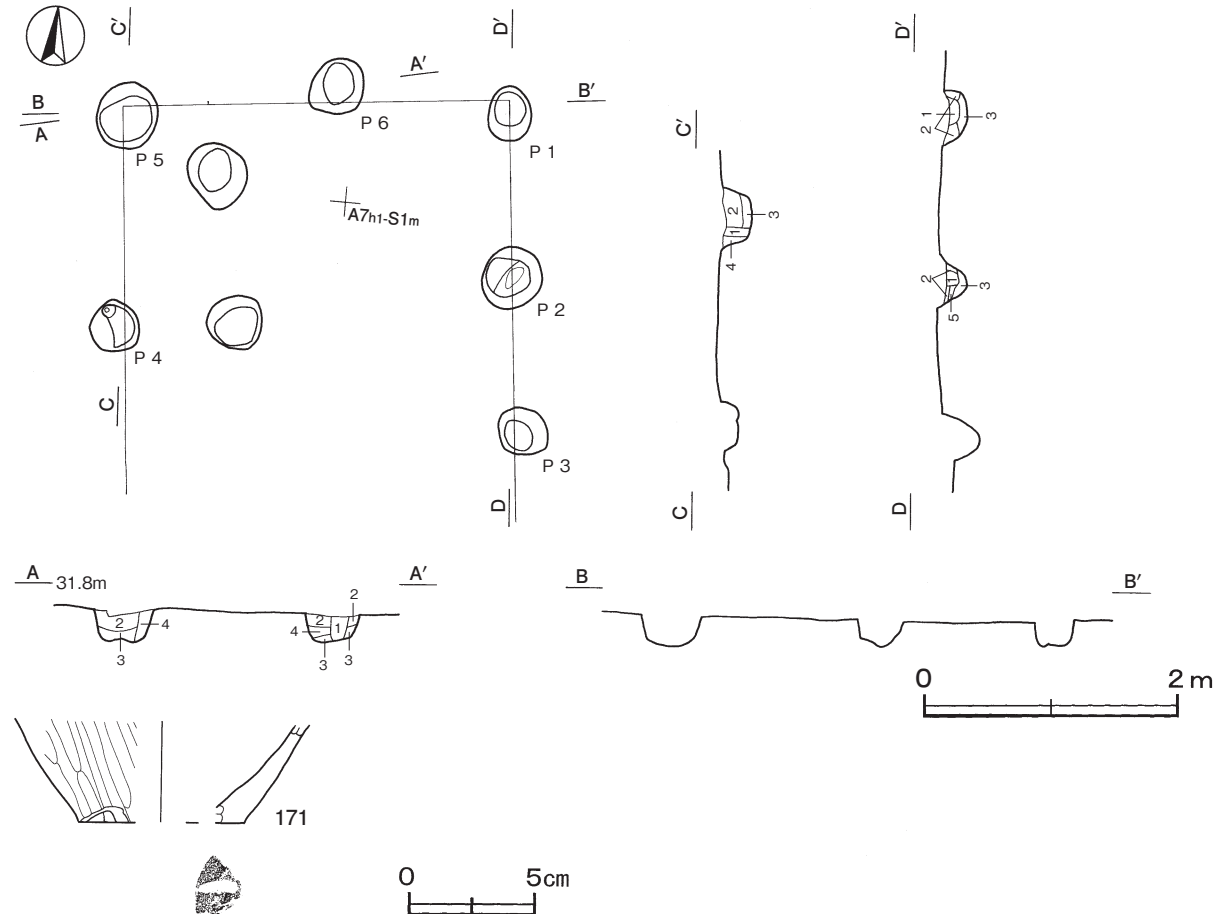
**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは13～27cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，互層をなしているが，強く突き固められた様子は見られない。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量      | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量      |       |           |

遺物出土状況 土師器片3点(甕)が出土している。171はP1の柱抜き取り痕から出土している。

所見 時期は、出土土器と周辺の建物跡との配置関係から9世紀代と考えられる。



第79図 第18号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第18号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
171	土師器	甕	—	(4.1)	[6.6]	石英・雲母・小礫	橙	普通	体部外面へラ磨き 底部木葉痕	P1柱抜き取り痕	5%

第19号掘立柱建物跡 (第80図)

位置 調査区北部のA6f0区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 東側は調査区域外へ伸びており、南北軸2間、東西軸1間を確認した。東西軸はN-74°-Eで、規模は南北軸3.00mである。柱間寸法は東西軸1.96m(6.5尺)、南北軸1.51m(5尺)を基調としている。

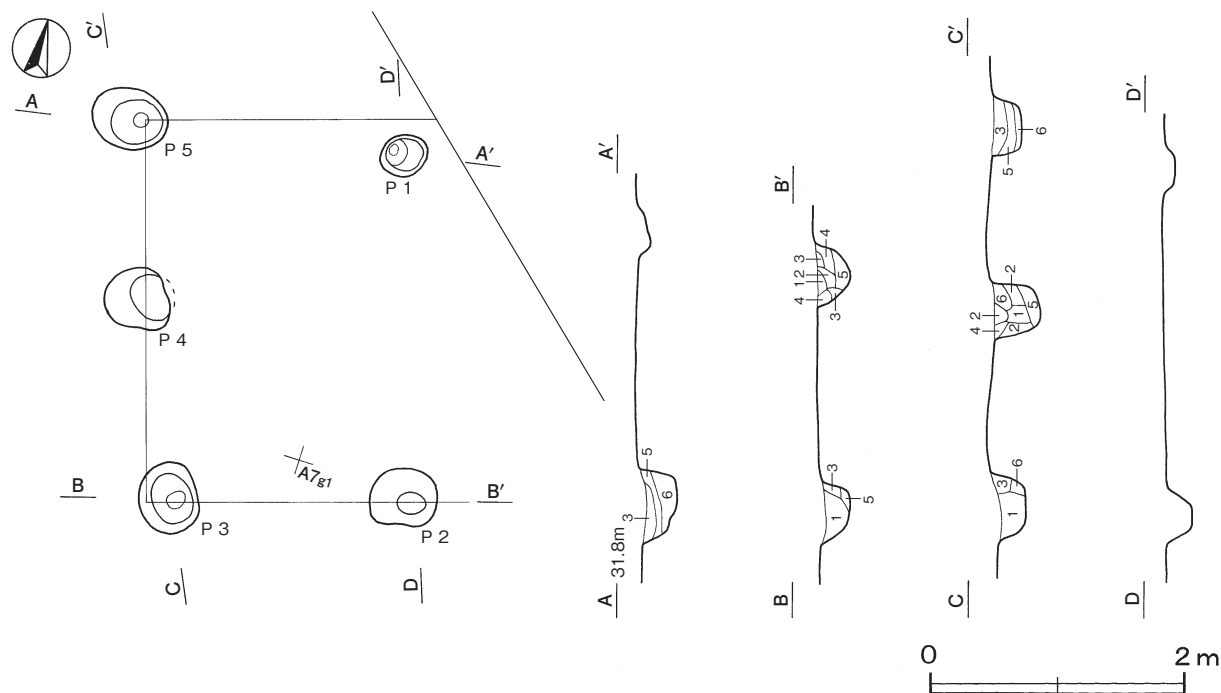
柱穴 平面形は円形及び楕円形で、深さは11~44cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子が見

られない。

土層解説 (各柱穴共通)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 褐色 ロームブロック中量  |

所見 出土土器がないため時期を判断する事は困難であるが、周辺の建物跡との配置関係から、廃絶時期は9世紀代と考えられる。



第80図 第19号掘立柱建物跡実測図

第20号掘立柱建物跡 (第81図)

位置 調査区北部のA 6 f0区で、標高31.5mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第58号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の総柱建物跡である。桁行方向をN-12°-Wとする南北棟で、桁行5.90m、梁行3.60mである。柱間寸法は桁行1.52m(5尺)、梁行1.82m(6尺)を基調としている。P13・P14は東柱の可能性が考えられる。

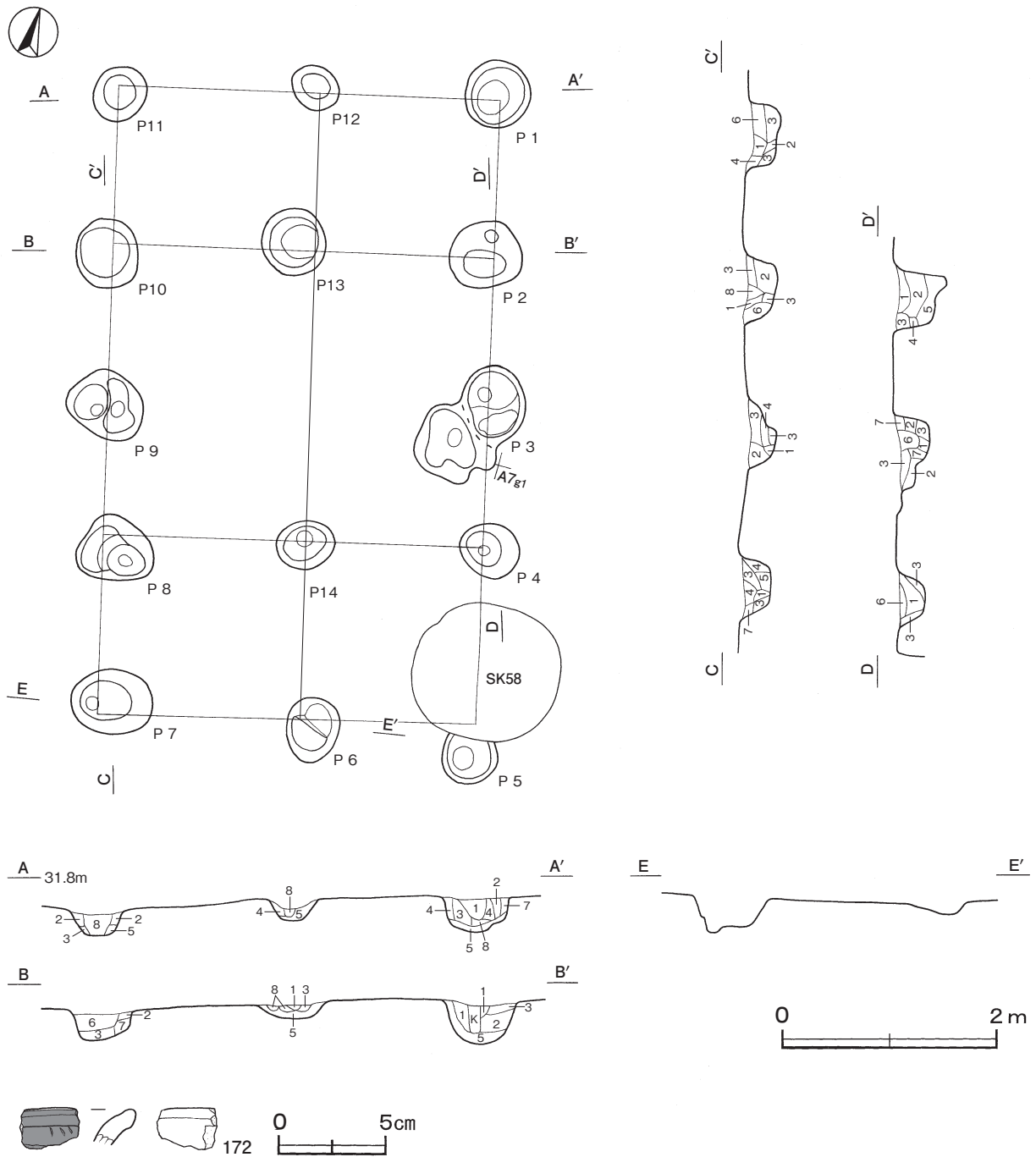
柱穴 平面形は円形及び楕円形で、深さは16~50cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2・6・8層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。

土層解説 (各柱穴共通)

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量   | 5 暗褐色 ロームブロック中量        |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量     |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量        |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片11点(甕), 須恵器片2点(坏)が出土している。172はP6の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器と周辺の建物跡との配置関係から9世紀代と考えられる。



第81図 第20号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
172	土師器	甕	—	(1.7)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	P 6埋土	5% 外面煤 附着

第21号掘立柱建物跡（第82図）

位置 調査区中央部のA 7 d4区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

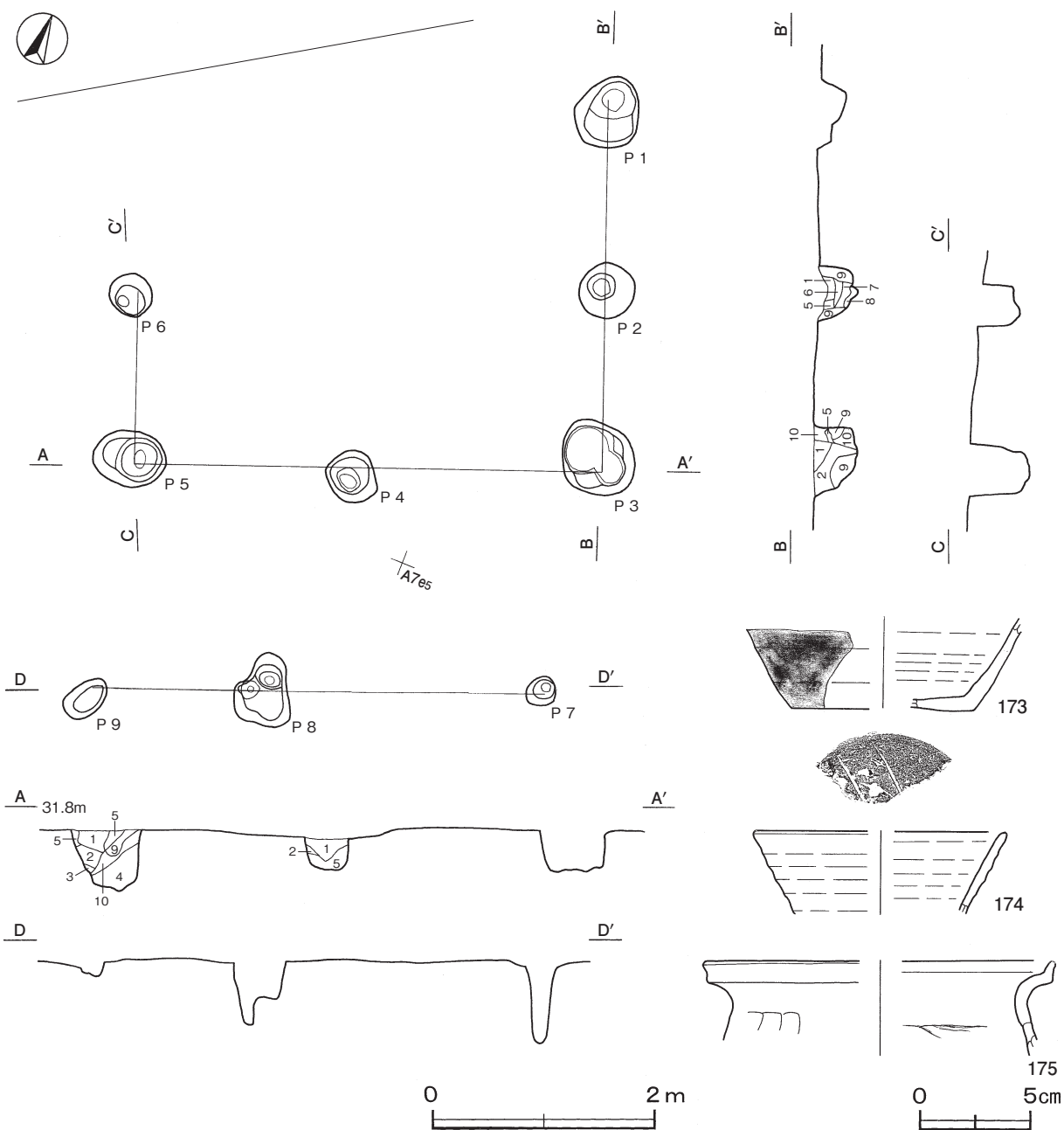
規模と構造 北側は調査区域外へ伸びており、南北軸2間、東西軸2間を確認した。南北軸はN-20°-Wで、

東西軸の長さ4.20mほどである。柱間寸法は南北軸が1.67m (5.5尺), 東西軸が2.12m (7尺)を基調としている。また、西側には2間の目隠し状の施設が附属している。身舎との間隔は1.96m (6.5尺)である。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で、深さは13～72cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説 (各柱穴共通)**

- |       |           |        |                   |
|-------|-----------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量   | 6 黒褐色  | ロームブロック微量         |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 灰褐色  | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 3 褐色  | ローム粒子多量   | 8 暗褐色  | ロームブロック・ローム粒子少量   |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量   | 9 褐色   | ロームブロック少量         |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 明褐色 | ロームブロック多量         |



第82図 第21号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



遺物出土状況 土師器片34点（甕），須恵器片5点（坏）が出土している。173・174・175はP 2の柱抜き取り痕から出土している。

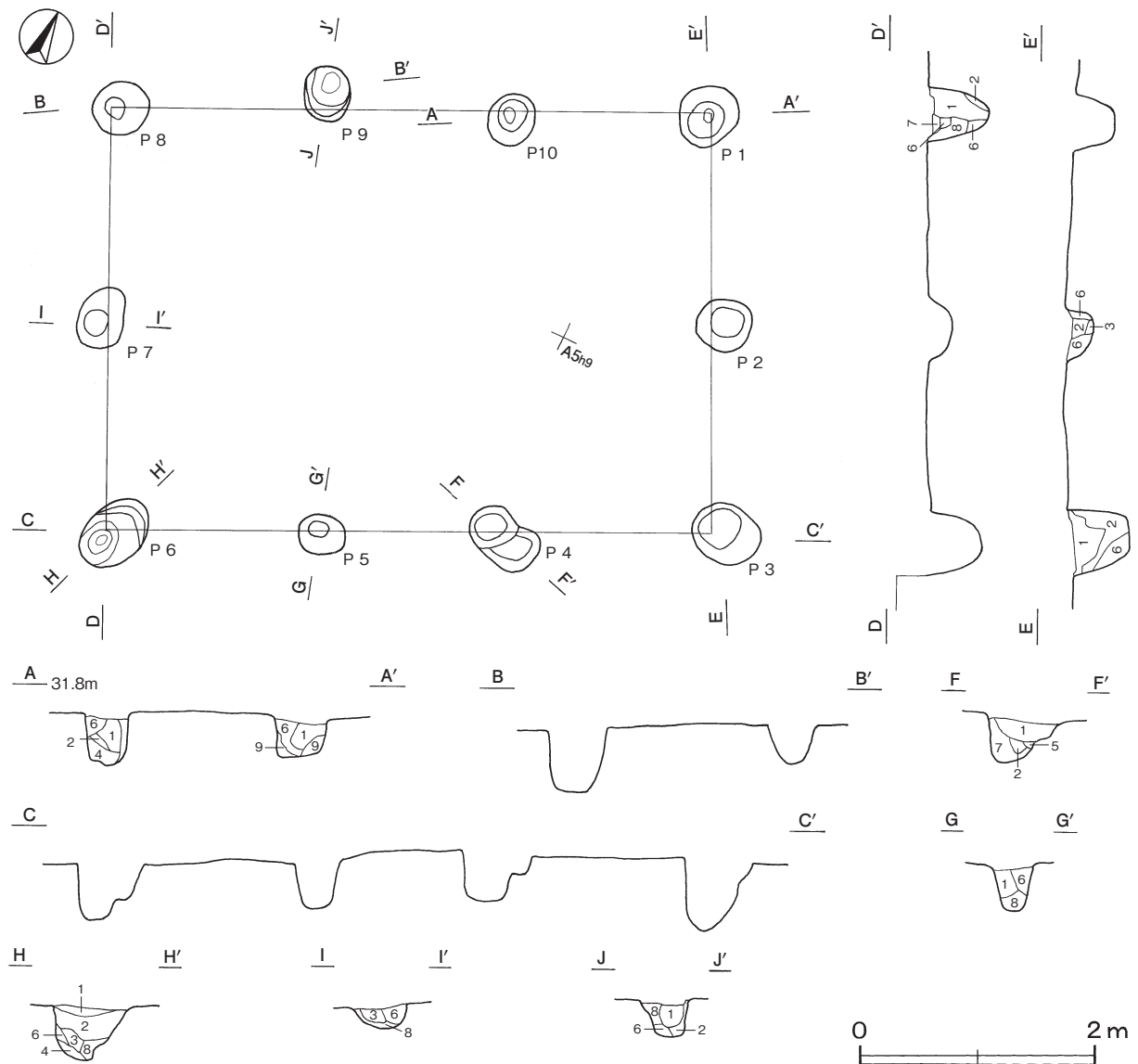
所見 時期は，出土土器から9世紀代と考えられる。

第21号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
173	須恵器	坏	—	(4.3)	[8.2]	石英・小礫・白色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り	P 2 柱抜き取り痕	20% 底部ヘラ削り記号 体部外面に漆付着
174	須恵器	坏	[11.4]	(3.7)	—	長石・海綿骨針	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	P 2 柱抜き取り痕	5%
175	土師器	甕	[16.0]	(4.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ	P 2 柱抜き取り痕	5%

第22号掘立柱建物跡（第83・84図）

位置 調査区北部のA 5h8区で，標高31.5mの台地平坦部に位置している。



第83図 第22号掘立柱建物跡実測図

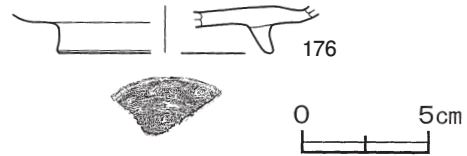
**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-65°-Eとする東西棟で，規模は桁行5.15m，梁行3.60mである。柱間寸法は桁行，梁行ともに1.82m（6尺）を基調としている。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは21～56cmである。柱痕・抜き取り痕は土層断面中の第1・2・3層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，互層をなしているが，強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |       |                |         |                 |
|-------|----------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色   | ロームブロック少量       |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量      | 7 明褐色   | ロームブロック多量       |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量        | 8 暗褐色   | ローム粒子少量，焼土粒子微量  |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量      | 9 にぶい褐色 | ロームブロック中量，炭化材少量 |
| 5 褐色  | ローム粒子多量        |         |                 |

**遺物出土状況** 土師器片2点（甕），須恵器片1点（高台付坏）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。176はP3の柱抜き取り痕から出土している。



第84図 第22号掘立柱建物跡出土遺物実測図

**所見** 東へ16mの位置には第24号掘立柱建物跡が桁行方向をそろえて東西に配置されており，二つの建物は同時期に機能していたと推測される。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

**第22号掘立柱建物跡出土遺物観察表**（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
176	須恵器	高台付坏	—	(1.9)	[8.4]	石英・小礫・海綿骨針	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	P3柱抜き取り痕	5%

**第23号掘立柱建物跡**（第85図）

**位置** 調査区北部のA6g1区で，標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号円形周溝遺構を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-69°-Eとする東西棟で，規模は桁行5.00m，梁行3.80mである。柱間寸法は桁行が1.66m（5.5尺），梁行が1.82m（6尺）を基調としている。

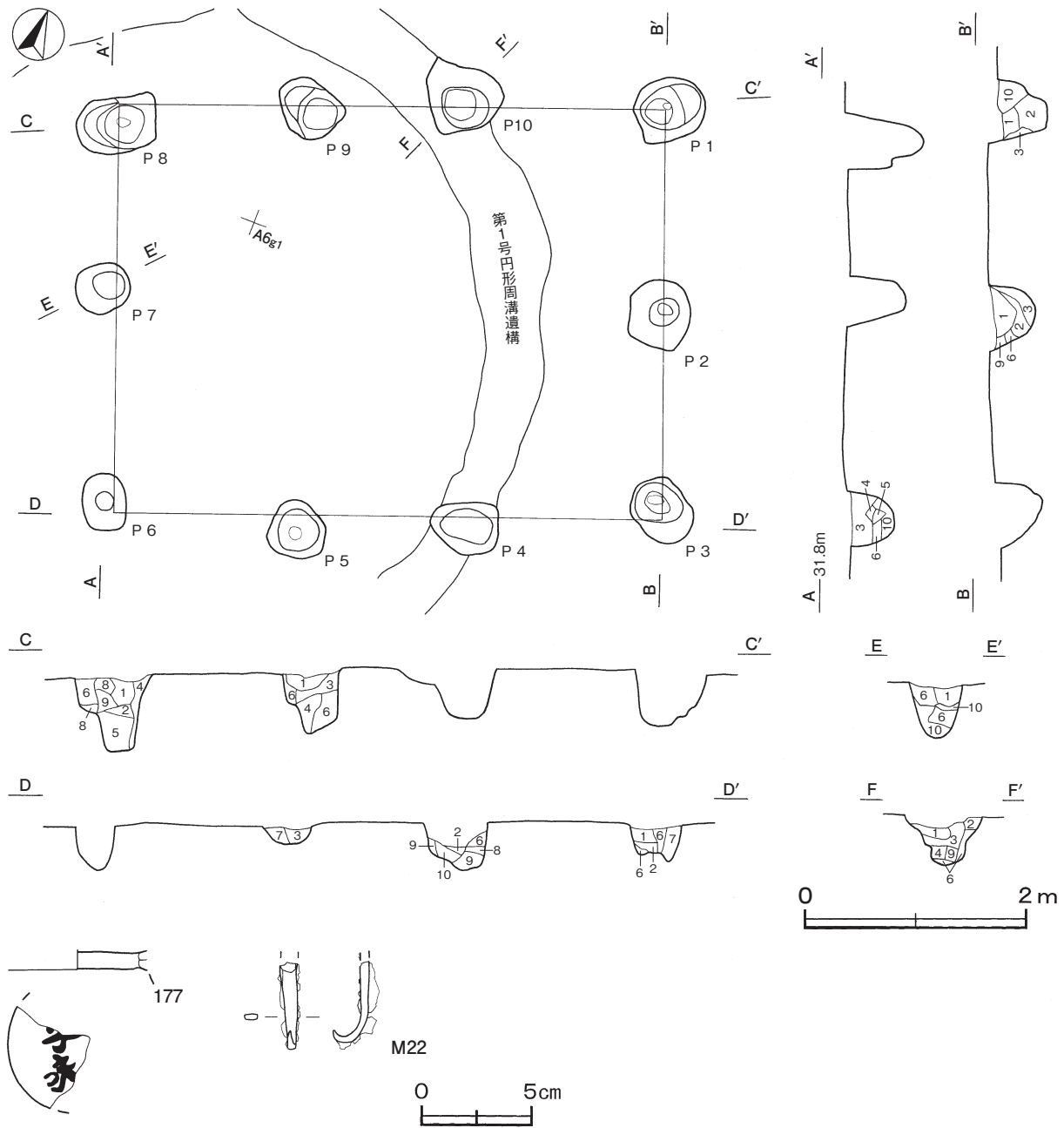
**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で，深さは19～69cmである。抜き取り痕は土層断面中の第1・2・3・5・8層が相当し，しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で，強く突き固められた様子は見られない。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |       |                     |        |                     |
|-------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量           | 6 褐色   | ロームブロック中量           |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量             | 7 褐色   | ローム粒子中量，今市・七本桜パミス微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，今市・七本桜パミス微量 | 8 明褐色  | ローム粒子多量             |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量             | 9 黒褐色  | ロームブロック微量           |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量             | 10 暗褐色 | ロームブロック少量           |

**遺物出土状況** 土師器片1点（高台付坏），須恵器片1点（蓋），鉄製品1点（釘）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片2点，弥生土器片2点も出土している。177はP9，M22はP7の柱抜き取り痕から出土している。

**所見** 時期は出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第85図 第23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
177	土師器	高台付坏	—	(0.9)	—	長石・石英・雲母	におい褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	P 9 柱抜き取り痕	5% 底部墨書「口家」PL23
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M22	釘	(4.1)	0.9	0.4	(3.08)	鉄	先端部屈曲		P 7 柱抜き取り痕		

**第24号掘立柱建物跡 (第86図)**

**位置** 調査区北部のA 6 e4区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

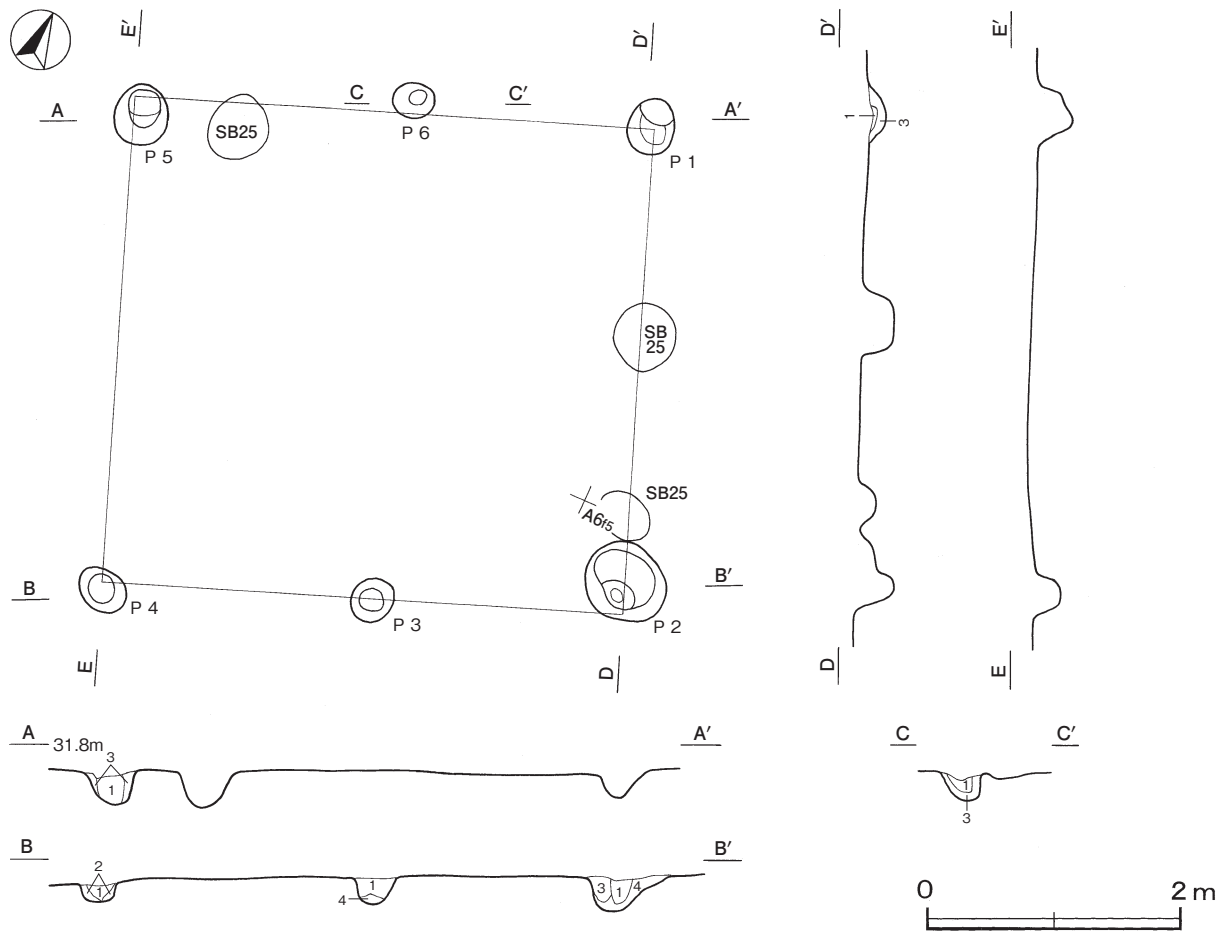
**規模と構造** 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡である。桁行方向はN-66°-Eとする東西棟で、規模は桁行4.00m、梁行3.70mである。柱間寸法は桁行が1.96m (6.5尺)、梁行が1.82m (6尺)を基調としている。

**柱穴** 平面形は円形及び楕円形で、深さは18～31cmである。柱の抜き取り痕は土層断面中の第1・2層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

**土層解説 (各柱穴共通)**

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量   | 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量       |

**所見** 西へ16mの位置には第22号掘立柱建物跡が桁行方向をそろえて東西に配置されており、二つの建物は同時に機能していたと推測される。時期は、9世紀前葉と考えられる。



第86図 第24号掘立柱建物跡実測図

**第25号掘立柱建物跡 (第87図)**

**位置** 調査区北部のA 6 e3区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第62・81号土坑を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行方向をN-18°-Wとする南北棟で、規模は桁行4.10m、梁行3.35mである。柱間寸法は桁行が1.36m (4.5尺)、梁行が1.66m (5.5尺)を基調としている。

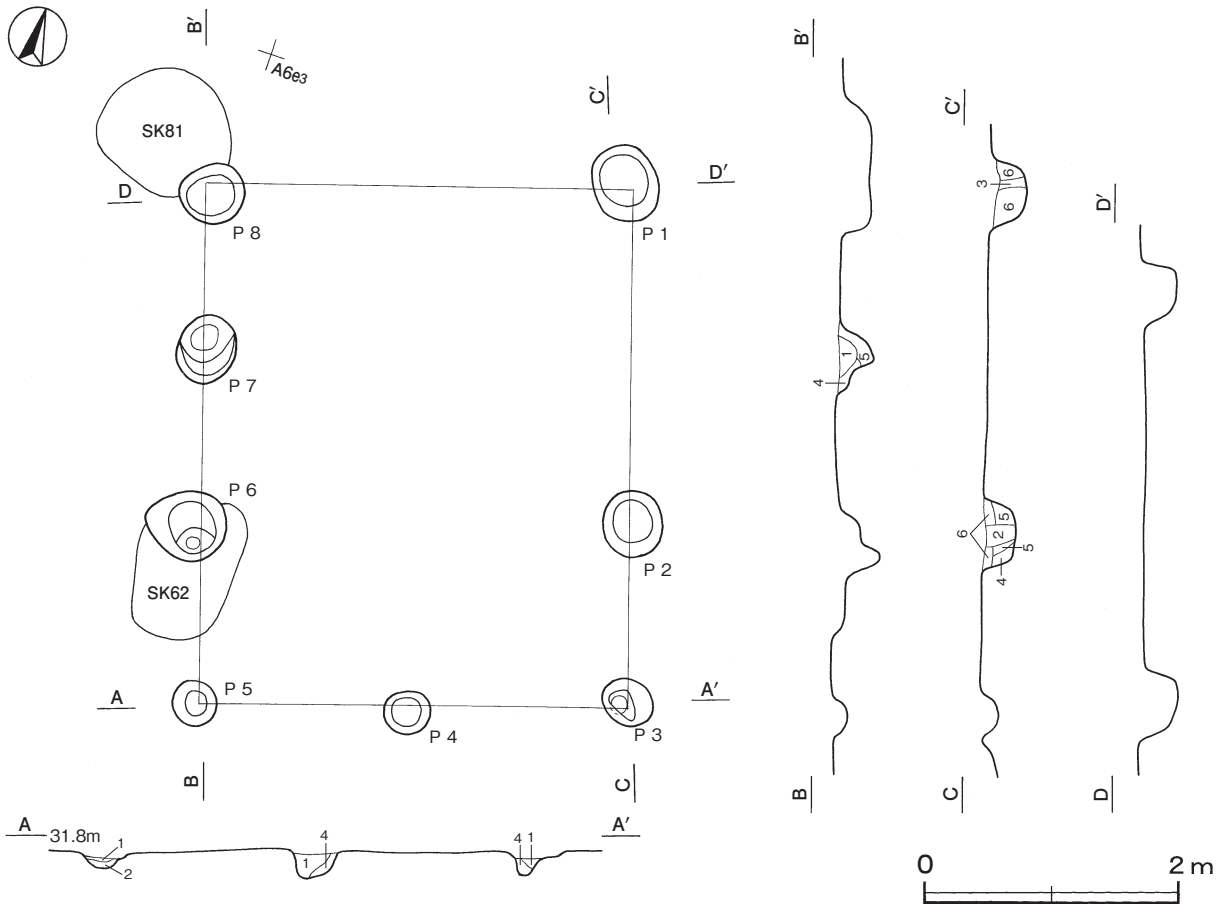
柱穴 平面形は円形及び楕円形で、深さは18～30cmである。柱の抜き取り痕は土層断面中の第1・2・3層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                    |       |           |
|-------|--------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量       | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 黒色  | ローム粒子微量            | 6 黒褐色 | ローム粒子少量   |

遺物出土状況 須恵器片1点(蓋)がP5の抜き取り痕から出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第87図 第25号掘立柱建物跡実測図

(3) 溝跡

第1号溝跡 (第88図, 付図)

位置 調査区南部のF12g5区からF12f9区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号道路に掘り込まれている。

規模と形状 F12g5区から(N-78°-E)方向にほぼ直線的に延び、F12f9区で調査区域外に至っている。規模は上幅0.96～1.26m, 下幅0.26～0.56m, 深さ38～41cmで、確認できた長さは21.14mである。底面は平坦で、壁が緩やかに立ち上がり、断面は逆台形状である。底面の標高は29.8mで標高差はない。

覆土 3層に分層される。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

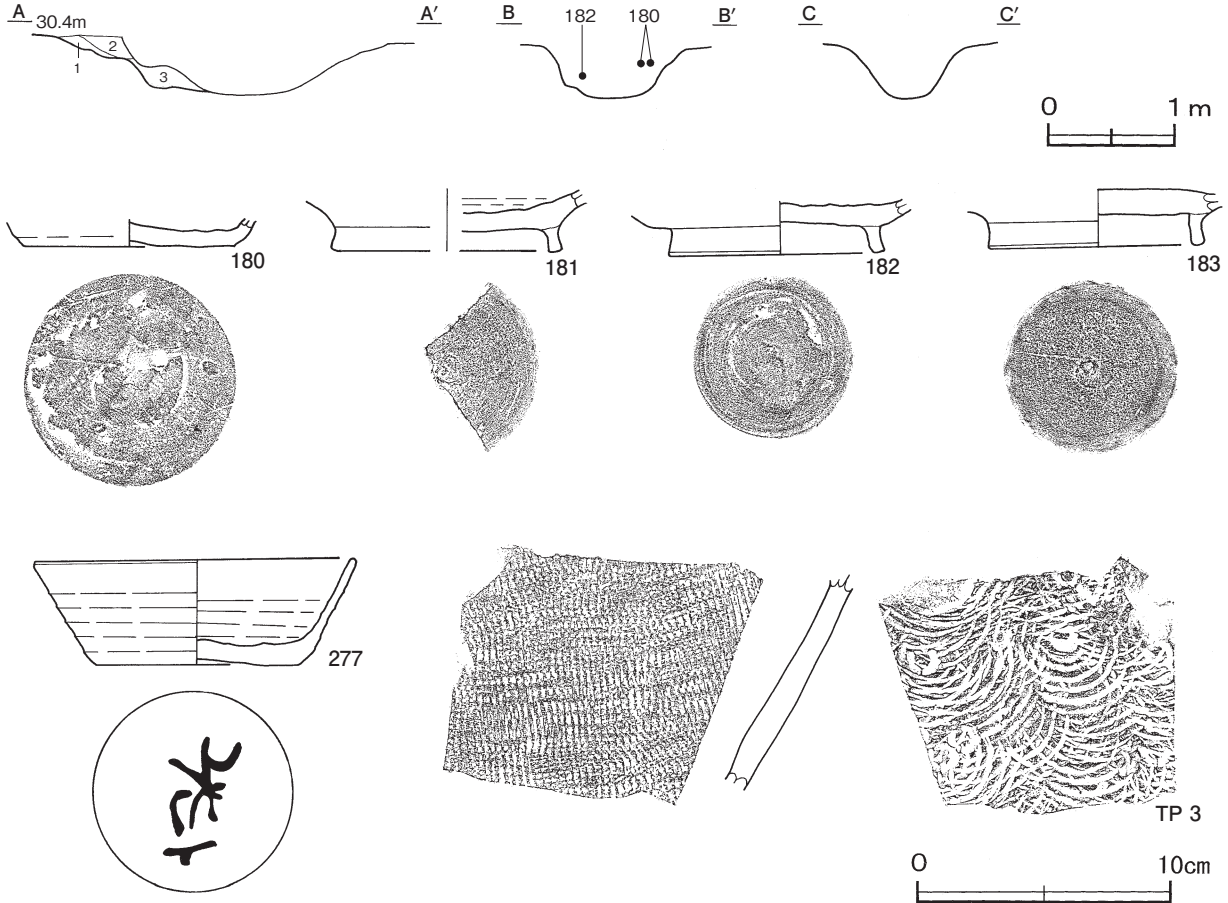
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量  
2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

- 3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片6点(甕), 須恵器片9点(坏5, 高台付坏3, 甕1)が出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片66点, 土製品2点, 混入した陶器片1点も出土している。180は覆土上層から出土した破片が接合したものである。182は中央部の覆土中層から, 181・183・277・TP 3は覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀前葉と考えられる。底面に標高差はなく区画溝と考えられる。溝の方向が第2号溝とほぼ同じであり, 二つの溝で集落の境界を区画しているものと考えられる。



第88図 第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表(第88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
180	須恵器	坏	—	(1.1)	8.4	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	西部覆土上層	30%
181	須恵器	高台付坏	—	(2.5)	[9.2]	石英・小礫	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中	20%
182	須恵器	高台付坏	—	(2.1)	8.5	長石・小礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	中央部覆土中層	50%
183	須恵器	高台付坏	—	(2.3)	8.6	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中	50%
277	須恵器	坏	12.7	4.3	8.0	長石・石英・小礫・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	75% 底部墨書
TP 3	須恵器	甕	—	(8.6)	—	長石・小礫	灰	普通	外面叩き 内面同心円状当て具痕	覆土中	

第2号溝跡(第89図, 付図)

位置 調査区中央部のC10g7~C11f3区で, 標高31.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** C10f7区から東方向（N-77°-E）にほぼ直線的に伸び、C11f3区で調査区域外に至っている。規模は上幅0.58～0.94m、下幅0.16～0.38m、深さ29～38cmで、確認できた長さは23.7mである。底面は平坦で、壁が緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状である。底面の標高は南東部で30.4mあり、南西に向かって徐々に低くなり、北西部で30.1mである。

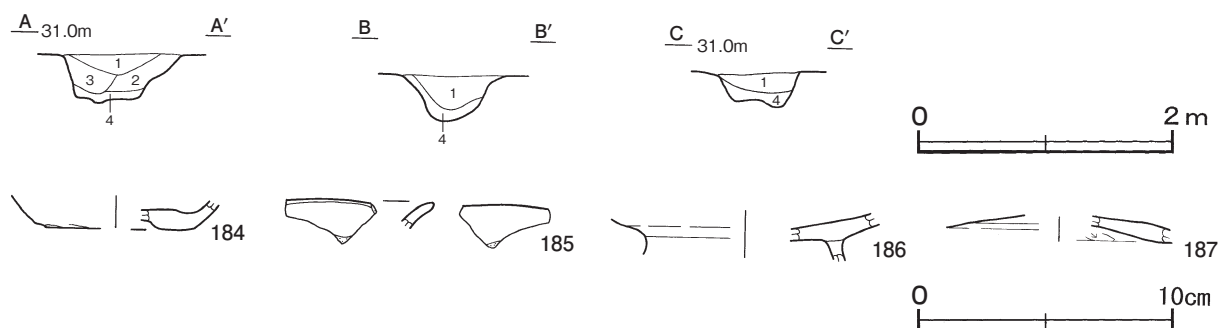
**覆土** 4層に分層される。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                |      |                     |
|-------|----------------|------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量        | 4 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量      |

**遺物出土状況** 土師器片13点（坏1，甕12），須恵器片6点（坏3，高台付坏1，蓋1，盤1）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。溝の底面が南東部に向けて徐々に低くなっており、排水路と考えられるが、溝の方向が第1号溝とほぼ同じであり、区画溝の役割も果たしていたものと考えられる。



第89図 第2号溝跡・出土遺物実測図

第2号溝跡出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
184	土師器	坏	—	(1.3)	[6.4]	石英・雲母・小礫	橙	不良	底部回転ヘラ切り	東部覆土上層	10%
185	須恵器	坏	—	(1.1)	—	長石・石英・小礫	暗灰黄	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
186	須恵器	高台付坏	—	(1.9)	—	石英・小礫	黄灰	普通	底部高台貼付け	中央部覆土上層	5%
187	須恵器	蓋	—	(0.9)	—	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラケズリ	東部覆土上層	15%

**第3号溝跡**（第90図，付図）

**位置** 調査区中央部のC10a9区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第8号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** C10a9区から（N-17°-W）方向に調査区域外に伸びている。上幅1.79m、下幅0.60m、深さ30～51cmで、確認できた長さは2.9mである。底面は平坦で、壁が緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状である。

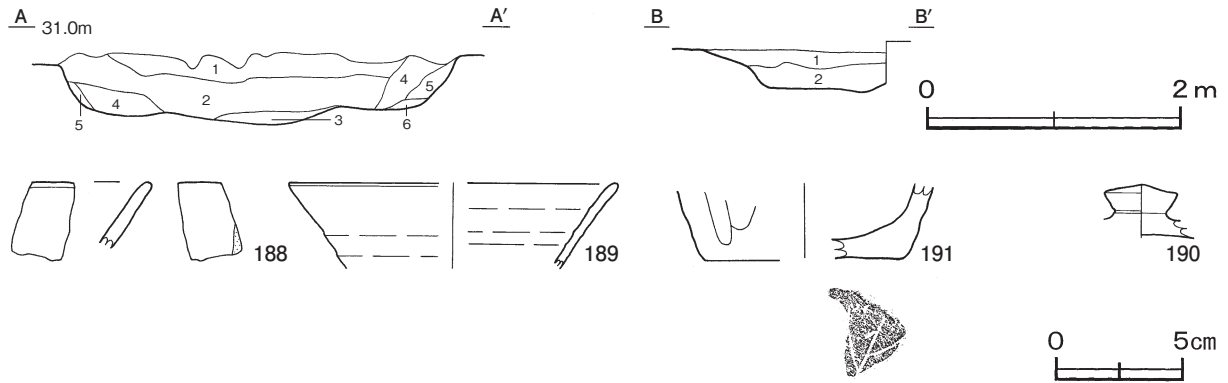
**覆土** 6層に分層される。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                   |       |                  |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量    | 5 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量  | 6 黒色  | ローム粒子微量          |

**遺物出土状況** 土師器片18点（坏2，甕16），須恵器片7点（坏4，蓋1，甕2）が出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格については不明である。



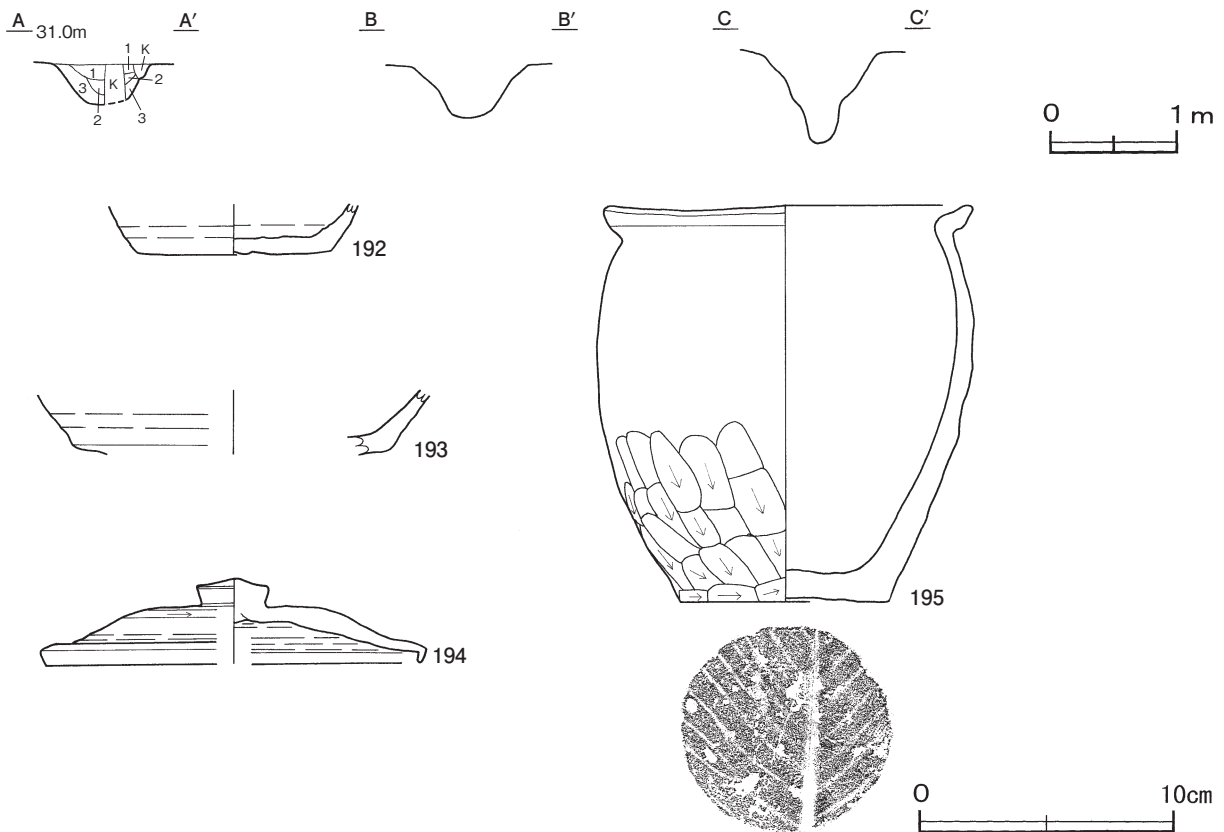
第90図 第3号溝跡・出土遺物実測図

第3号溝跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
188	土師器	坏	—	(2.7)	—	石英・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	南部覆土中層	5%
189	須恵器	坏	[13.0]	(3.4)	—	石英・黒色粒子・ 白色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	中央部覆土上層	5%
190	須恵器	蓋	—	(2.1)	—	石英・小礫	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	北部覆土中層	5%
191	土師器	甕	—	(3.0)	[8.0]	石英・雲母・赤色 粒子	明褐	普通	体部内・外面ヘラナデ 底部木葉痕	中央部覆土上層	10%

第4号溝跡（第91図，付図）

位置 調査区中央部のB 9 f9～C10b4区で，標高30.5mの台地平坦部に位置している。



第91図 第4号溝跡・出土遺物実測図



**規模と形状** C10b4区から北西方向(N-25°-W)にほぼ直線的に延び、B9f9区で調査区域外に至っている。上幅0.64～1.02m、下幅0.20～0.38m、深さ38～54cmで、確認できた長さは31.6mである。底面は皿状で、壁が緩やかに立ち上がり、断面形はU字状である。底面の標高は30.3mでほぼ水平である。

**覆土** 3層に分層される。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片33点(坏5, 甕28), 須恵器片25点(坏12, 高台付坏7, 蓋2, 甕4), 瓦片1点(平瓦)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。底面の標高差がほとんどなく、区画溝であると考えられる。

**第4号溝跡出土遺物観察表(第91図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
192	須恵器	坏	—	(2.0)	7.6	石英・小礫・白色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向へのヘラナデ	覆土中	40%
193	須恵器	高台付坏	—	(2.6)	—	長石・小礫	にぶい褐	普通	体部内・外面クロコナデ	覆土中	10%
194	須恵器	蓋	[15.0]	3.4	—	長石・石英・小礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%
195	土師器	甕	14.3	15.9	8.3	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 底部木葉痕	覆土中	80% PL21

**第8号溝跡(第92図, 付図)**

**位置** 調査区南部のG13g14区～G12j0区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第2号道路跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 両端部が調査区域外に延びているため、全容は不明である。G13g14区から北東方向(N-40°-E)に直線的に延びており、G12j0区まで続いている。確認できた長さは21.8m、上幅0.62～0.99m、下幅0.48～0.60m、深さ60～64cmで、断面形は逆台形状である。

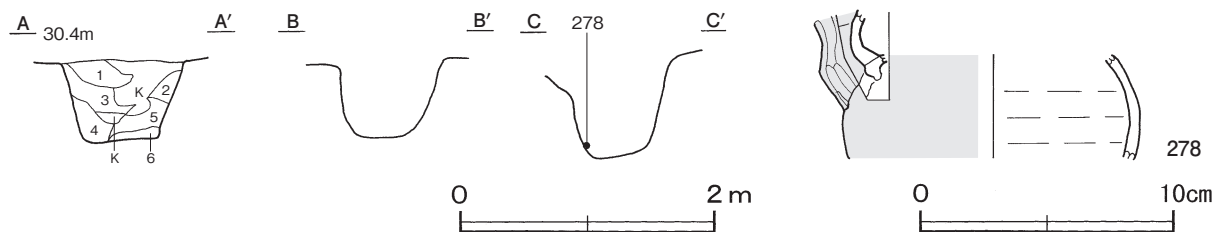
**覆土** 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片34点(坏30, 甕4), 須恵器片23点(坏9, 長頸壺1, 甕13), 灰釉陶器片1点(浄瓶), 鉄製品1点(不明鉄製品)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片5点(深鉢), 土師質土器片5点(鍋)も出土している。278は底面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器及び重複関係から9世紀中葉以降と考えられる。



**第92図 第8号溝跡・出土遺物実測図**

第8号溝跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	胎土色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
278	灰釉陶器	浄瓶	—	(5.9)	—	緻密 黒色粒子	灰白 淡緑	良好	体部ロクロナデ 胴部穿孔後注口貼付 注口部ヘラナデ	底面	5% PL21

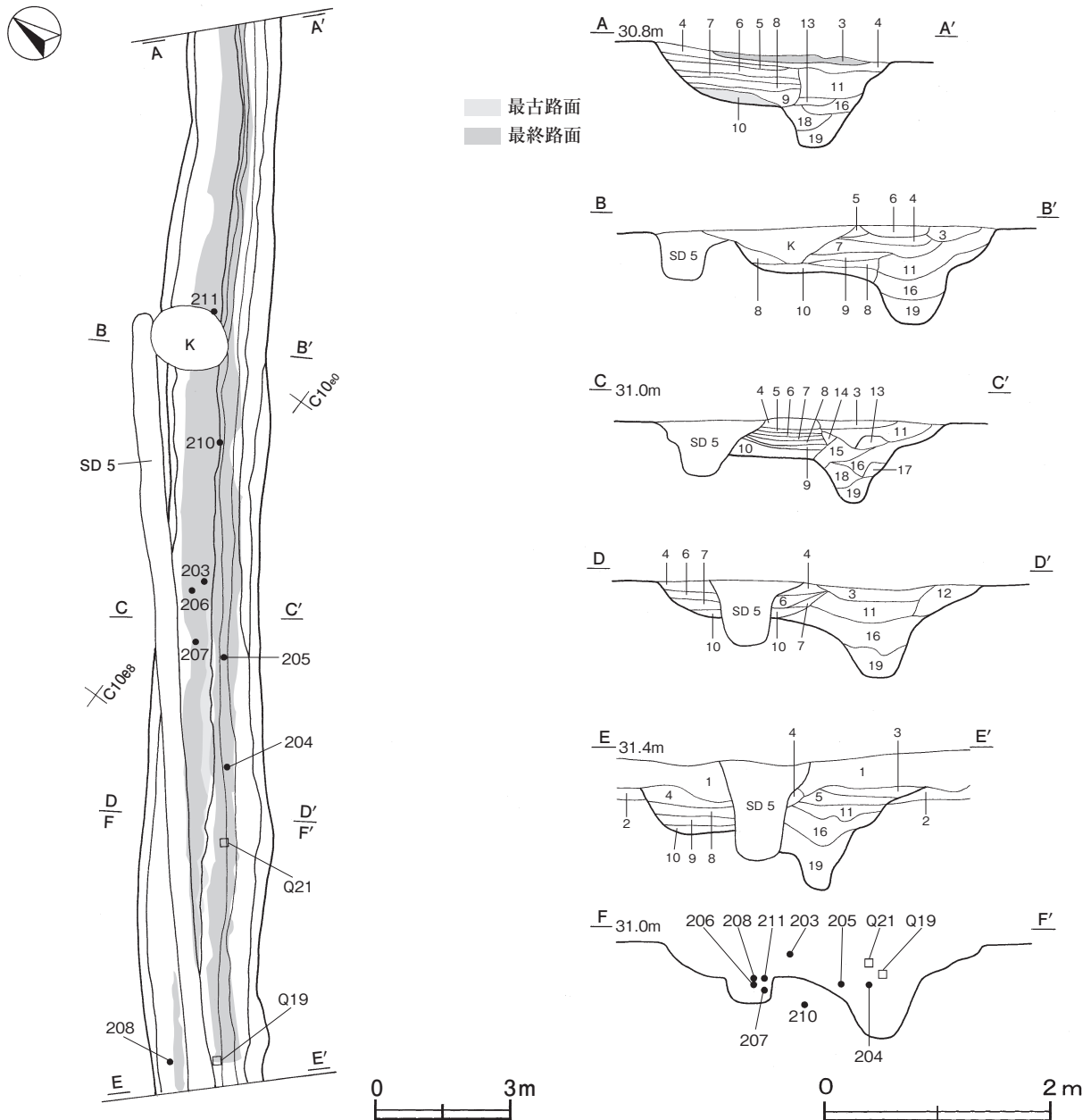
(4) 道路跡

第1号道路跡（第93～95図）

位置 調査区中央部のC10f6～C11c1区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 C10f6区からN-59°-E方向にほぼ直線的に延び、C11c1区で調査区域外に至っている。上幅1.19～1.64m、下幅0.53～1.08m、深さ10～32cmで、確認できた長さは23.5mである。底面は平坦で硬化して



第93図 第1号道路跡実測図

いる。壁が緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状である。最終路面の確認された幅は88～136cm、最古路面の幅は46～58cmである。南側には側溝があり、下幅0.18～0.32m、確認面からの深さは74～92cmである。底面は平坦で、壁が緩やかに立ち上がり、断面は逆台形を呈している。

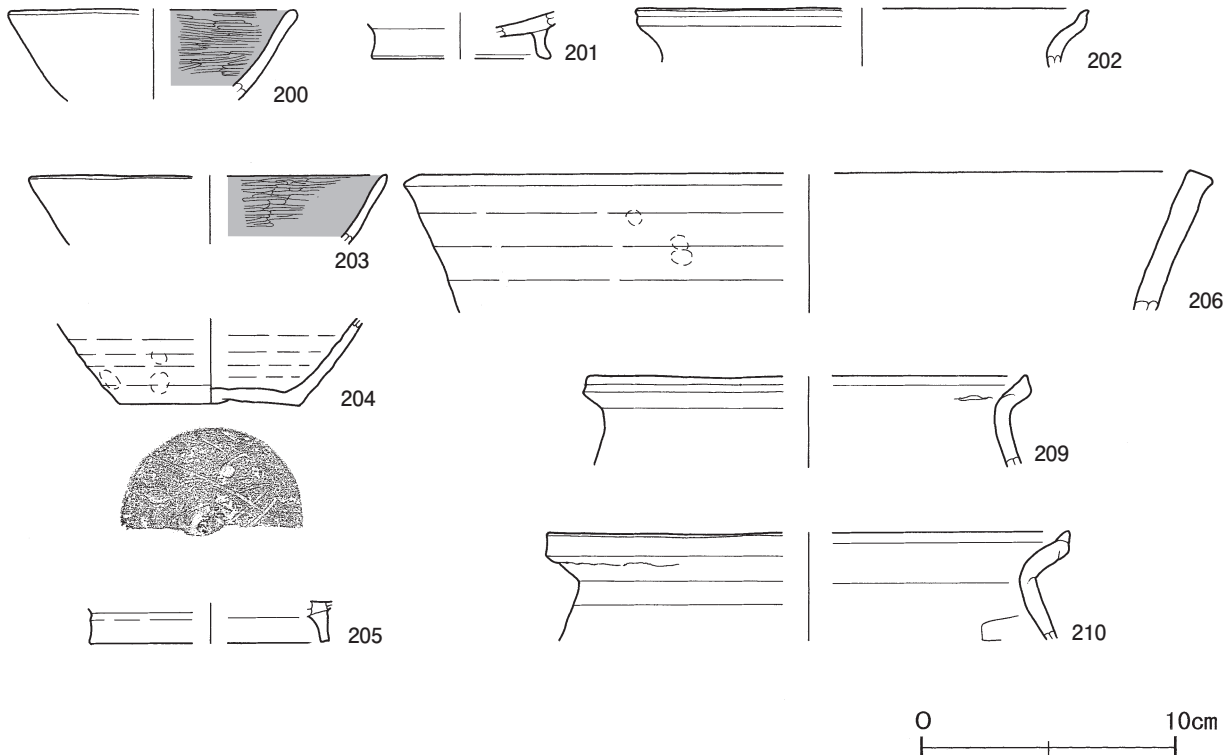
**覆土** 19層に分層される。道路は継続して使用されており、3層～10層は連続して硬化した層である。硬化面・側溝共に自然堆積と考えられる。

**土層解説**

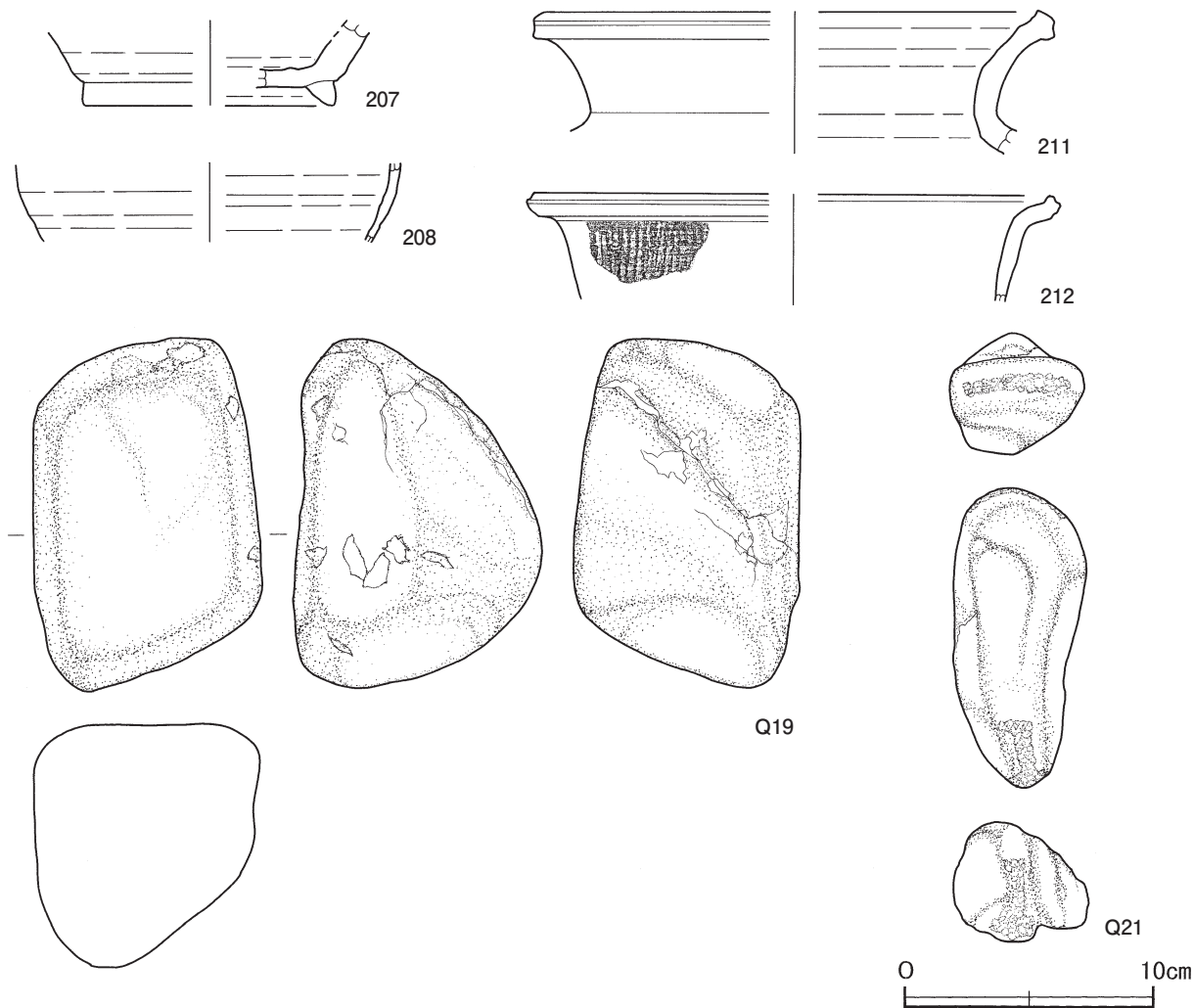
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子微量(最終路面)	13 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ローム粒子微量	14 褐色	ロームブロック中量
5 黒褐色	ロームブロック微量	15 にぶい褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子微量	16 黒褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ローム粒子少量	17 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック微量	18 黒色	炭化粒子微量
9 暗褐色	ロームブロック微量	19 黒色	ローム粒子・炭化物微量
10 褐色	ロームブロック少量(最古路面)		

**遺物出土状況** 土師器片94点(坏17, 高台付坏1, 甕76), 須恵器片103点(坏60, 高台付坏4, 鉢4, 瓶1, 壺1, 甕33), 瓦片1点(平瓦)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片5点も出土している。硬化面からの遺物としては、203が中央部の第4層, 206が中央部の第8層, 207・208が中央部と南部の第10層, 211が北部の第5層から出土している。側溝からの遺物としては、204が溝の覆土の15層, 205・210が溝の覆土の第11層から出土している。硬化面, 側溝ともに遺物は細片で、散在した状態で出土している。

**所見** 地山を逆台形に掘り込んで、道路と付属する溝を構築している。道路は出土遺物から9世紀前葉に、側溝と共に構築され機能していたものと考えられる。その後、溝は土砂が堆積し機能を失ったが、道路は9世紀代を通じて使用されたものと考えられる。路面を形成している層にはローム土の含有が少ないことから、補修は行われず、道路として機能している中で踏み固められながら硬化していったものと考えられる。



第94図 第1号道路跡出土遺物実測図(1)



第95図 第1号道路跡出土遺物実測図(2)

第1号道路跡出土遺物観察表(第94・95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
200	土師器	坏	[11.1]	(3.6)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	西部覆土中層	5%
201	須恵器	高台付坏	—	(1.8)	[6.8]	長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	中央部覆土中層	5%
202	土師器	甕	[18.0]	(2.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	西部覆土中層	5%
203	土師器	坏	[14.2]	(2.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	中央部硬化面上層	10%
204	須恵器	坏	—	(3.4)	7.2	長石	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	東部中層	10%
205	土師器	高台付坏	—	(1.6)	[9.5]	長石・石英	橙	普通	底部高台貼付け	中央部覆土上層	5%
206	須恵器	鉢	[30.4]	(5.6)	—	長石	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	東部硬化面中層	5%
207	須恵器	短頸壺	—	(3.5)	[10.2]	長石・黒色粒子	灰	普通	底部高台貼付け	中央硬化面下層	5%
208	須恵器	長頸瓶	—	(3.2)	—	長石	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	南部硬化面下層	5%
209	土師器	甕	[17.6]	(3.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	中央部硬化面上層	5%
210	土師器	甕	[21.0]	(4.3)	—	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	東部覆土上層	5%
211	須恵器	甕	[20.0]	(5.8)	—	長石・石英・小礫	黄灰	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	北部硬化面上層	5%
212	須恵器	鉢	[21.2]	(4.4)	—	石英・雲母	黄灰	普通	体部外面格子状叩き目	西部覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	磨石	14.3	9.3	10.2	1850	溶結凝灰岩	使用痕3面, 朱付着	覆土中	
Q21	敲石	12.2	5.5	4.9	313	砂岩	上下先端部敲打痕	覆土中	

## 第2号道路跡（第96図，付図）

**位置** 調査区南部のE12j2～F12j8区で，標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号溝跡，第23号住居跡を掘り込み，第112・113・114・127号土坑，第8号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** H13a6区からN-36°-W方向にほぼ直線的に延び，E12j2区で調査区域外に延びている。上幅0.84～1.30m，下幅0.24～0.52m，深さ22～45cmで，確認できた長さは112.0mである。底面は皿状で，壁が緩やかに立ち上がっている。最終路面の確認された幅は84～112cm，最古路面の幅は42～54cmである。

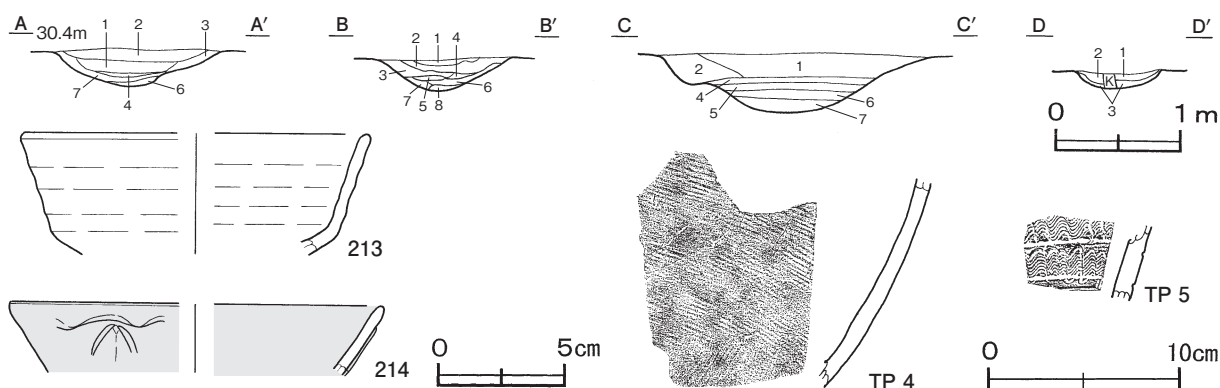
**覆土** 8層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。道路は継続して使用されており，4～7層は連続して硬化した層である。

### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 にぶい褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子少量	7 黒褐色	ローム粒子微量（最古路面）
4 黒褐色	ロームブロック微量（最終路面）	8 暗褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片221点（坏21，高台付坏1，甕199），須恵器片145点（坏97，高台付坏2，蓋8，瓶5，円面硯1，甕32），青磁片1点（碗）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片12点も出土している。硬化面の遺物は細片で，散在した状態で出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。路面を形成している層にはローム土の含有が少なことから補修は行われず，道路として機能している中で踏み固められながら硬化層が堆積していったものと考えられる。



第96図 第2号道路跡・出土遺物実測図

## 第2号道路跡出土遺物観察表（第96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
213	須恵器	高台付坏	[13.8]	(4.8)	—	石英・小礫・白色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	南部覆土上層	10%
214	青磁	碗	[14.8]	(2.8)	—	緻密	灰白	良好	鑄蓮弁文	南部覆土上層	5% PL30
TP 4	須恵器	甕	—	(11.0)	—	長石・石英	灰	普通	体部外面叩き目	SF 2 覆土中	
TP 5	須恵器	甕	—	(4.0)	—	長石・石英	灰褐	良好	外面2条の横位の沈線，櫛歯波状文	SF 2 覆土中	PL30

## (5) 土坑

### 第6号土坑（第97図）

**位置** 調査区南部のD11i8区で，標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸2.96m, 短軸2.50mの不整長方形で, 長軸方向はN-63°-Eである。深さは84cmで, 底面は平坦である。壁面はやや内傾気味に立ち上がっている。

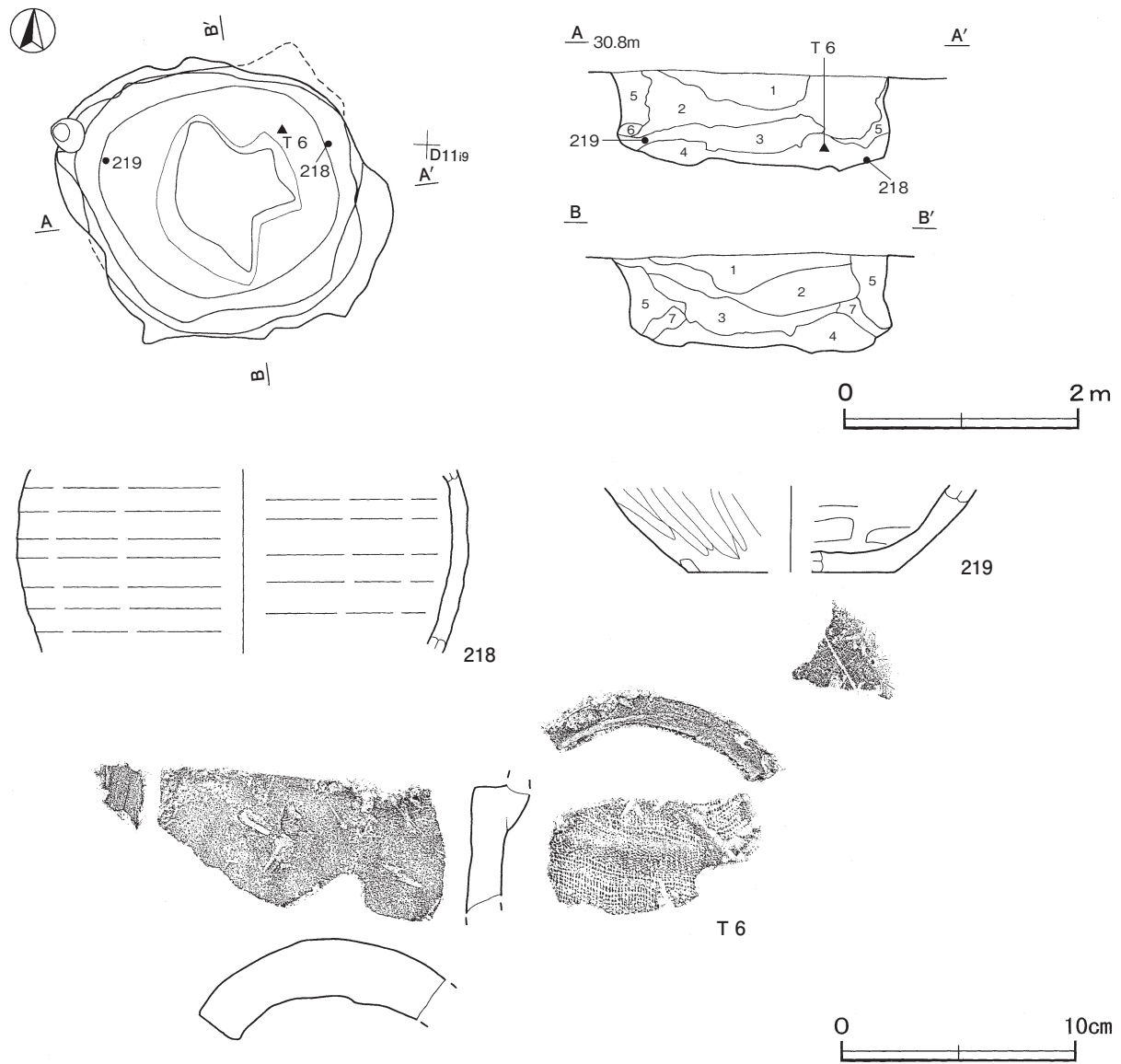
**覆土** 7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                            |       |                   |
|-------|----------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・今市七本桜パミス微量 | 4 黒色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量     | 5 褐色  | ロームブロック中量         |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量                  | 6 明褐色 | ロームブロック多量         |
|       |                            | 7 褐色  | ロームブロック中量         |

**遺物出土状況** 土師器片61点 (坏12, 甕49), 須恵器片39点 (坏32, 甕7), 瓦片1点 (丸瓦) が出土している。218は北東壁際の底面から, 219は北西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。T 6は北東部の覆土下層から出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片8点も出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀後半以降と考えられる。



第97図 第6号土坑・出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表 (第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
218	須恵器	壺	—	(7.9)	—	長石・黒色粒子	黄灰	普通	内・外面ロクロナデ	北東壁際底面	5%
219	土師器	甕	—	(3.8)	[9.0]	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き 底部木葉痕	北西壁際覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T 6	有段式丸瓦	(5.6)	(10.3)	2.7	(178.5)	長石・石英	灰白色 凹面布目痕 側面ヘラ削り	北東部覆土下層	PL29

第11号土坑 (第98図)

**位置** 調査区南部のE12h6区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.54m、短軸3.20mの隅丸長方形で、長軸方向はN-80°-Eである。深さは60cmで、底面は平坦である。壁は内傾気味に立ち上がっている。

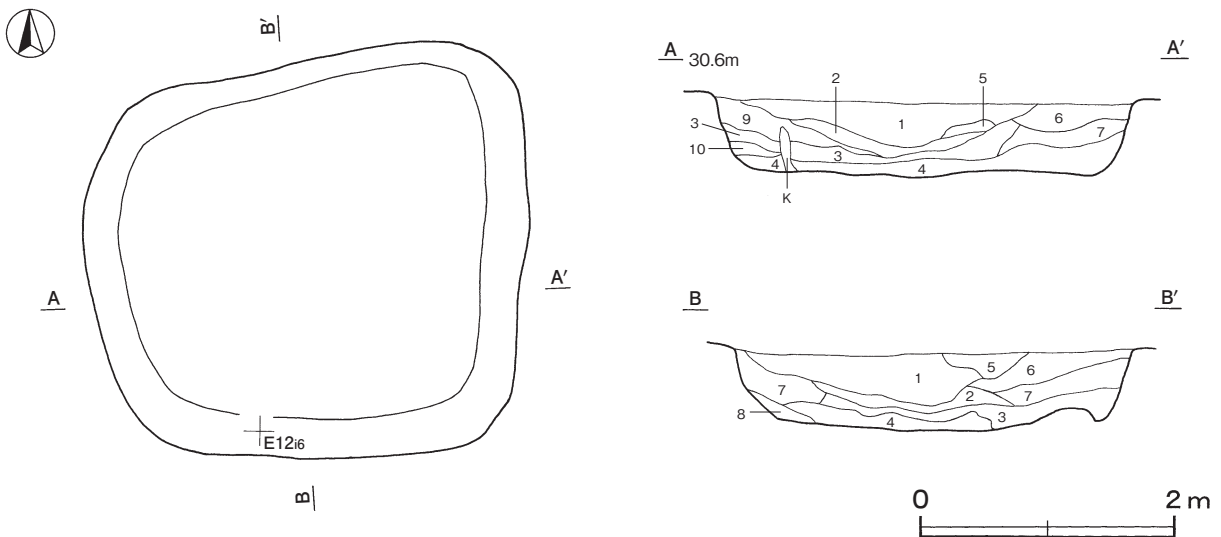
**覆土** 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                       |        |                |
|-------|-----------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量 | 6 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量         | 7 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量        | 8 褐色   | ロームブロック中量      |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量             | 9 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 10 暗褐色 | ロームブロック少量      |

**遺物出土状況** 土師器片138点(坏6, 甕132), 須恵器片104点(坏62, 高台付坏1, 蓋12, 盤4, 壺1, 甕24), 鉄製品2点(刀子, 不明鉄製品)が出土している。遺物は覆土下層から上層にかけて散在しており、細片が多く図示できるものはなかった。また、流れ込んだ縄文土器片3点も出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀後半以降と考えられる。



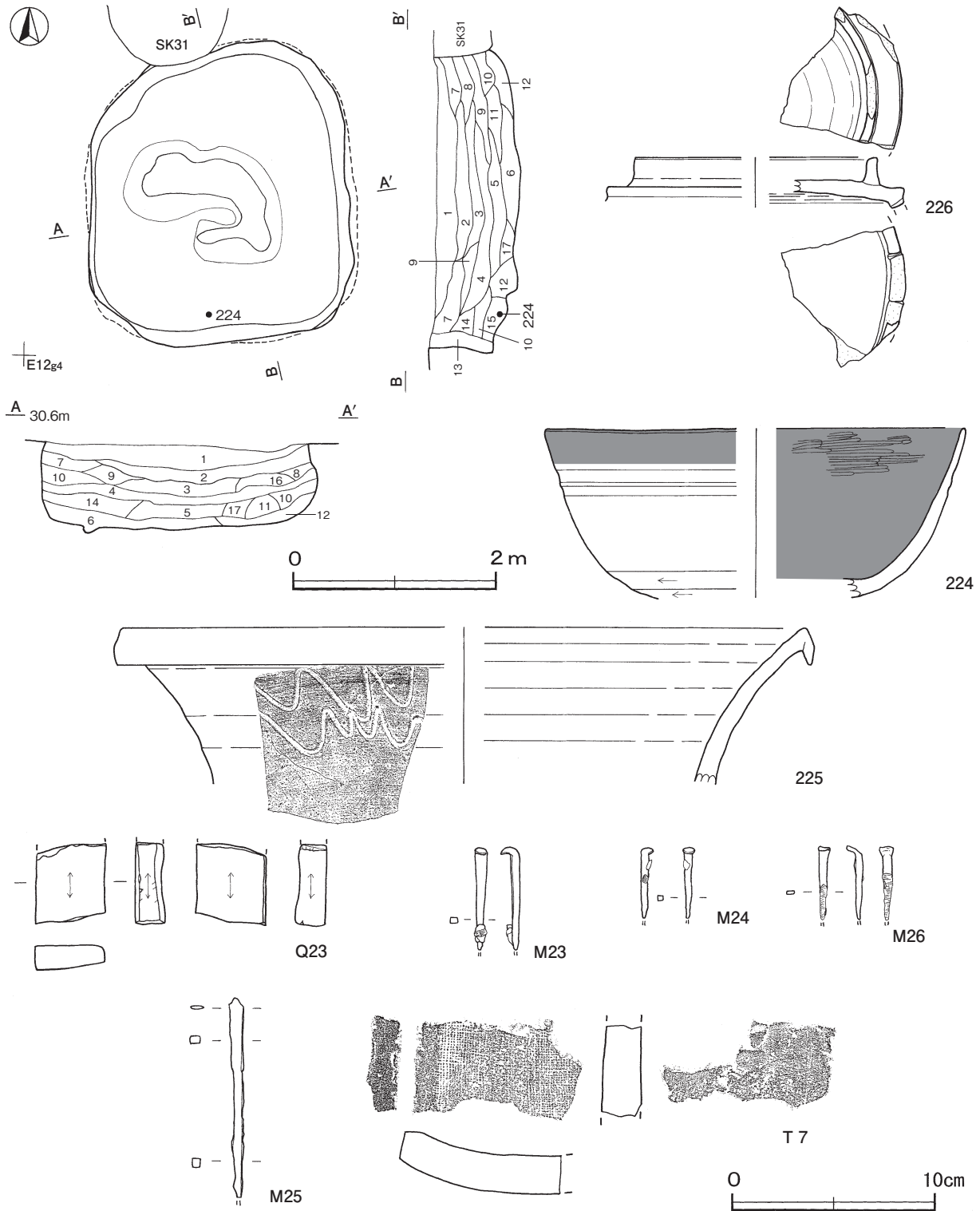
第98図 第11号土坑実測図

第12号土坑（第99図）

位置 調査区南部のE12f4区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号掘立柱建物跡を掘り込み、第31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.94m、短軸2.55mの隅丸長方形で、深さは84cmである。長軸方向はN-5°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁は内傾気味に立ち上がっている。



第99図 第12号土坑・出土遺物実測図



**覆土** 17層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
4 黒褐色	焼土粒子少量, ロームブロック微量	13 褐色	ロームブロック中量
5 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化物微量	14 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
6 灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	15 暗褐色	ローム粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	16 暗褐色	炭化材・ローム粒子中量
8 暗赤褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量	17 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量
9 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量		

**遺物出土状況** 土師器片256点（坏21, 椀7, 高台付坏2, 蓋1, 甕225）, 須恵器片280点（坏174, 高台付坏6, 蓋38, 盤11, 円面硯1, 甌1, 瓶17, 壺6, 甕26）, 瓦片2点（平瓦）, 鉄製品5点（釘4, 鎌1）, 炭化材11点が出土している。225・226は覆土中層から, 224は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片15点も出土している。

**所見** 時期は, 出土土器と重複関係から9世紀後葉以降と考えられる。

**第12号土坑出土遺物観察表（第99図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
224	土師器	椀	[21.0]	(8.5)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面2本の平行沈線 体部下端ヘラ削り	南部覆土下層	15%
225	須恵器	甕	[34.2]	(7.8)	—	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	頸部内・外面ロクロナデ	南東部覆土中層	5%
226	須恵器	円面硯	[12.2]	(2.5)	—	長石・雲母・黒色粒子	灰赤	普通	脚部透かし	南西部覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q23	砥石	(4.1)	3.5	1.5	(30.3)	酸性凝灰岩	砥面4面 先端部欠損	南西部覆土上層	PL25
M23	釘	(5.1)	0.6	0.5	(3.88)	鉄	脚部先端欠損 頭部は打撃によってややつぶれる	南西部覆土中層	
M24	釘	(3.5)	0.5	0.3	(0.98)	鉄	脚部先端欠損 頭部は打撃によってややつぶれる	南西部底面	
M25	鎌	(10.0)	0.7	0.5	(8.85)	鉄	断面方形の棒状 先端部柳葉式	北西部覆土上層	PL27
M26	釘	(3.7)	0.7	0.3	(1.74)	鉄	脚部先端欠損 頭部は打撃によってややつぶれる	覆土中	
T7	平瓦	(5.1)	(8.6)	2.1	(110.5)	長石・石英・小礫 灰褐色	凹面布目痕 凸面・側面ヘラ削り	北西部覆土上層	PL29

**第13号土坑（第100図）**

**位置** 調査区南部のE12c1区で, 標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第5号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.64m, 短軸2.76mの隅丸長方形で, 深さは88cmである。長軸方向はN-5°-Wである。底面には凹凸があり, 壁は内傾気味に立ち上がっている。

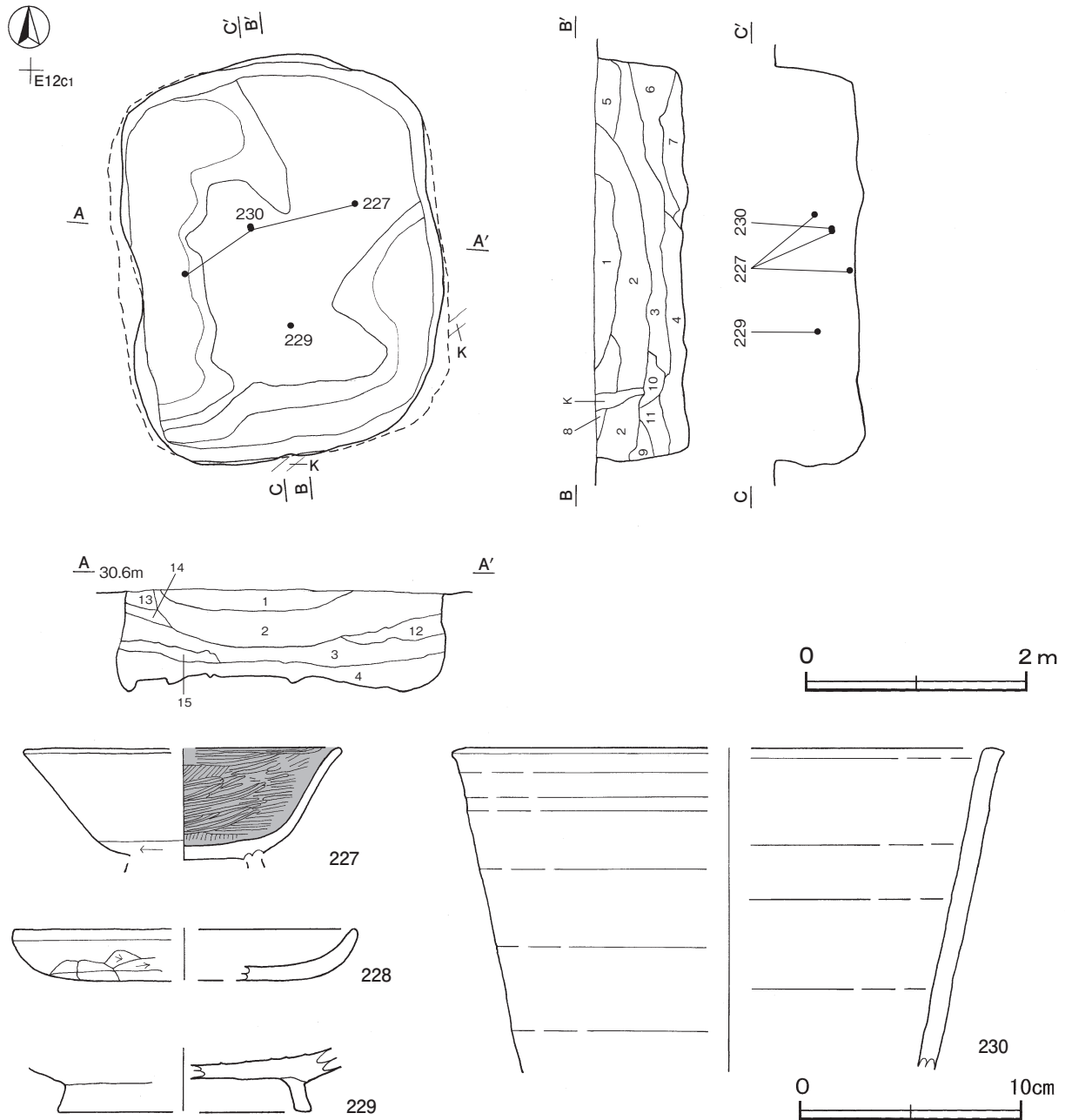
**覆土** 15層に分層される。ロームブロックを不規則に含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量	9 黒色	ロームブロック・粘土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量	10 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
3 灰褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック少量	11 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
4 黒褐色	粘土ブロック少量, ロームブロック微量	12 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	13 黒色	ロームブロック微量
6 黒褐色	ロームブロック微量	14 褐色	ロームブロック少量
7 灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	15 褐色	ロームブロック中量
8 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片205点(坏40, 皿2, 高台付坏4, 甕159), 須恵器片119点(坏71, 高台付坏6, 蓋10, 盤3, 長頸瓶1, 甕28), 鉄製品1点(不明鉄製品), 炭化物4点が出土している。227は中央部の覆土中層と底面の破片が接合したものである。229は中央部の覆土中層から228・230は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。遺物は覆土上層から下層にかけて散在しており, 細片が多い。また, 流れ込んだ縄文土器片6点も出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉以降と考えられる。



第100図 第13号土坑・出土遺物実測図

第13号土坑出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
227	土師器	高台付椀	[14.3]	(5.1)	—	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通	体部内面黒色処理後ヘラ磨き 貼付け	底部高台	北部覆土下層 55%
228	土師器	皿	[15.5]	2.4	[10.8]	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り		南西部覆土下層 15%
229	須恵器	盤	—	(2.9)	[11.6]	石英・小礫・白色 粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け		中央部覆土中層 20%
230	須恵器	鉢	[25.4]	(14.9)	—	石英・小礫	灰黄	普通	体部ロクロナデ		北部覆土中層 10%

第21号土坑（第101図）

位置 調査区南部のE11c0区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.2mの円形で、深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

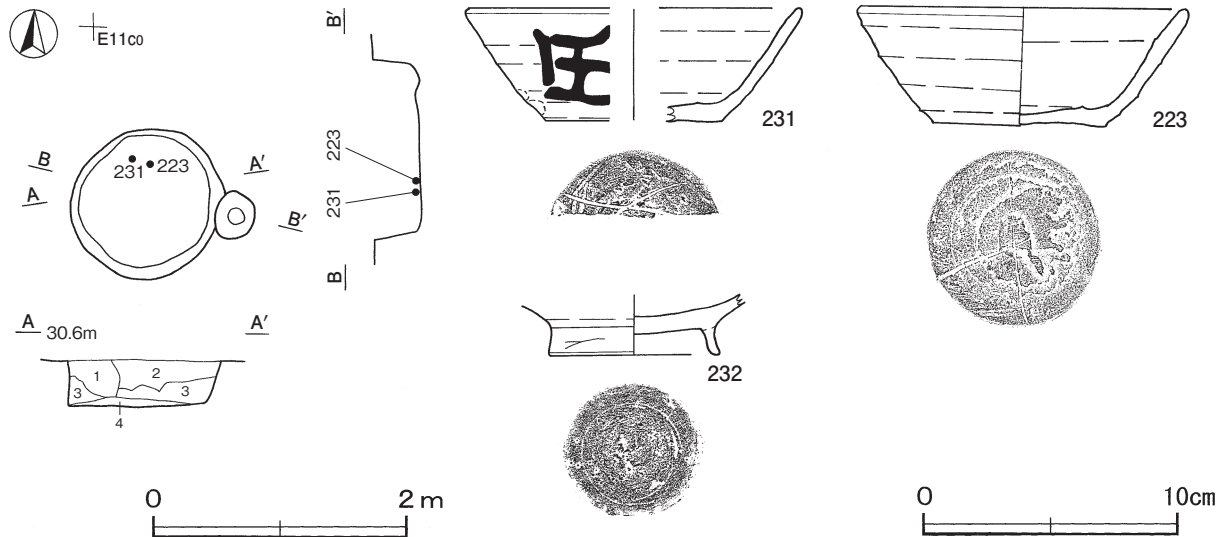
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |       |           |       |                     |
|-------|-----------|-------|---------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック多量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量           |

遺物出土状況 土師器片6点（坏1，高台付坏1，甕4），須恵器片8点（坏4，高台付坏2，蓋1，甕1）が出土している。223・231は北部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第101図 第21号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
223	須恵器	坏	13.0	4.8	7.0	石英・小礫・白色 粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り		北部覆土下層 55% ヘラ記号 PL19
231	須恵器	坏	[13.2]	4.5	[7.0]	小礫・白色粒子・ 黒色粒子	黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後多方向へのヘラ削り		北部覆土下層 30% 体部外面墨 書□ヘラ記号
232	須恵器	高台付坏	—	(2.3)	6.8	長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け		覆土中 20%

第52号土坑（第102図）

位置 調査区中央部のA7g5区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

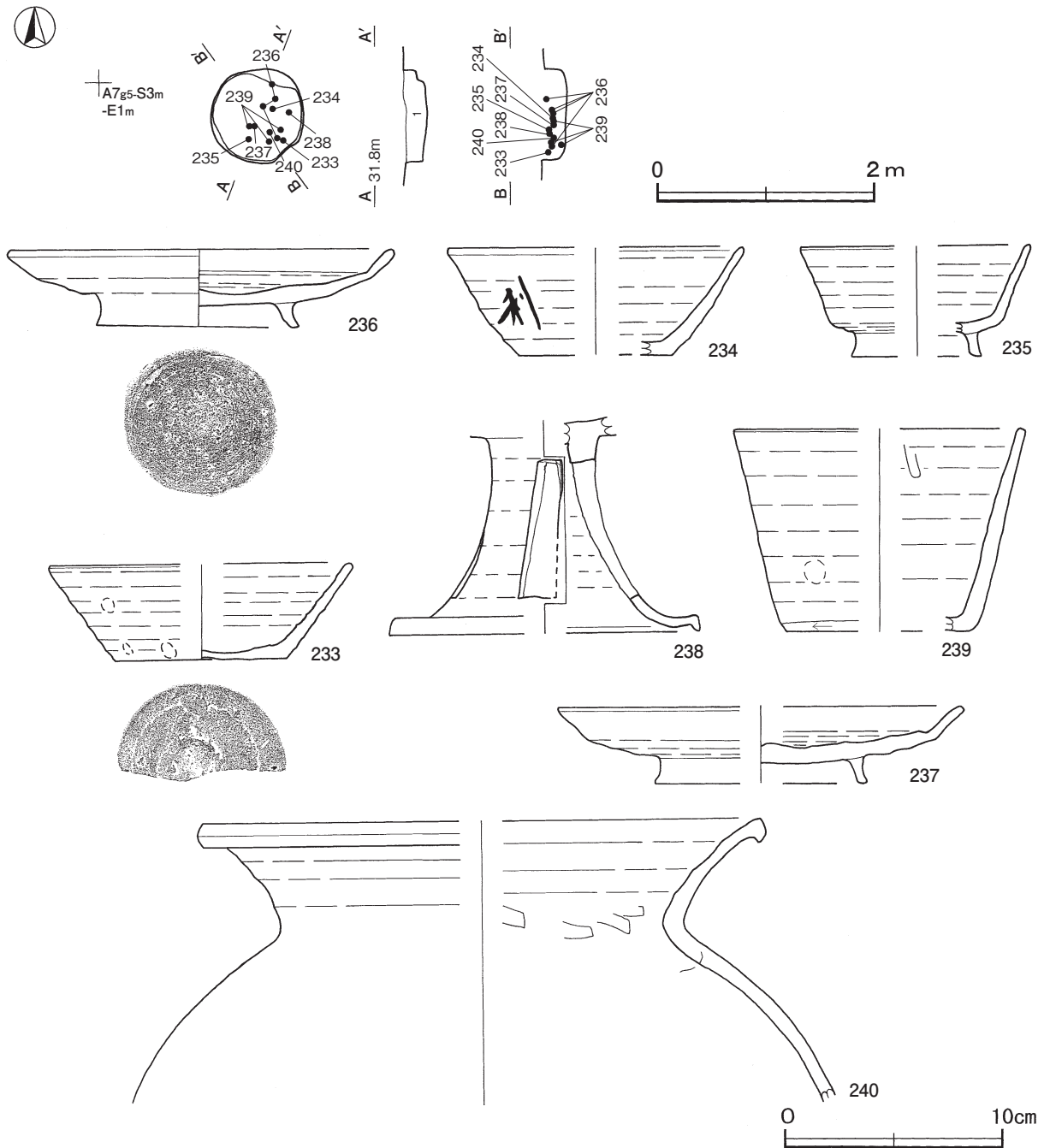
規模と形状 径0.86mの円形で、深さは20cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 単一層である。ロームブロックを不規則に含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片14点（甕），須恵器片38点（坏13，高台付坏1，盤19，高盤1，鉢3，甕1）が出土している。233・235は南部の覆土上層，234・237・240は中央部の覆土上層，236は北部，238は東部の覆土上



第102図 第52号土坑・出土遺物実測図

層からそれぞれ出土している。239は南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。須恵器の供膳具片が大量に出土しており、一括投棄された土坑と考えられる。

第52号土坑出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
233	須恵器	坏	[14.0]	4.5	8.0	長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り	南部覆土上層	25%
234	須恵器	坏	[13.8]	5.0	[7.2]	石英・小礫・白色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向へのヘラ削り	中央部覆土上層	30% 体部外面墨書「利」 PL23
235	須恵器	高台付坏	[10.6]	5.2	[6.0]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	南部覆土上層	30%
236	須恵器	盤	18.0	3.7	9.4	長石・石英・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	北部覆土上層	80% PL20
237	須恵器	盤	[19.0]	3.6	[10.0]	長石・石英・小礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	中央部覆土上層	40%
238	須恵器	高盤	—	(10.1)	[14.1]	長石・石英	黄灰	普通	脚部透かし	東部覆土上層	15% PL21
239	須恵器	鉢	[13.2]	9.4	[8.6]	長石・雲母・小礫	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り	南部覆土下層	20%
240	須恵器	甕	[26.0]	(13.3)	—	長石・小礫	灰黄	普通	体部外面叩き・頸部内面ヘラナデ	中央部覆土上層	20% PL21

表4 住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m, 壁高はcm)		床面	内部施設						覆土	出土遺物	時期	備考 新旧関係 (旧→新)
				長軸×短軸	壁高		壁溝	柱穴	ピット	入口	竈	貯蔵穴				
1	B 9 e2	N-16°-W	[方形・長方形]	(2.32)×(1.74)	40	平坦	—	1	—	—	1	—	自然	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	
2	B 8 a6	N-15°-W	方形	5.10×4.90	36~40	平坦	全周	4	4	1	1	—	自然	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	
3	A 7 g8	N-26°-W	長方形	3.90×3.42	33~45	平坦	全周	—	2	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	8世紀後葉	
4	A 7 f6	N-20°-W	長方形	3.51×3.10	21~32	平坦	半周	—	—	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	
5	F 12i9	N-3°-E	方形	3.91×3.79	35	平坦	—	—	1	1	1	—	自然	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	
6	E 11a8	N-13°-E	方形	4.15×4.05	43	平坦	—	—	2	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	
7	D 11j9	N-18°-W	長方形	7.38×6.30	40	平坦	全周	4	5	1	1	—	自然	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	本跡→SE1
8	B 10i7	[N-25°-W]	[方形・長方形]	(2.05)×(0.74)	48	平坦	[周回]	—	—	—	—	—	自然	須恵器片	9世紀前葉	
9	D 11c3	N-10°-W	長方形	4.22×3.73	41	平坦	半周	—	—	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	8世紀後葉	
10	C 11j3	N-3°-E	方形	4.14×3.94	31~49	平坦	全周	4	—	1	1	—	自然	土師器片 須恵器片	8世紀後葉	
11	C 11h3	N-5°-W	方形	3.80×3.80	37	平坦	全周	—	1	1	1	—	自然	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	
12	C 10b8	N-15°-W	方形	5.23×4.97	48~58	平坦	全周	4	—	1	1	—	自然	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	
13	B 10j6	N-16°-W	長方形	4.28×3.85	63	平坦	—	—	—	1	1	—	自然	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	
14	B 10i2	N-46°-W	方形	3.40×3.20	48	平坦	—	—	—	1	1	—	自然	土師器片 須恵器片	9世紀代	
15	A 6 h2	N-16°-W	[方形・長方形]	4.12×(2.20)	60	平坦	—	—	—	—	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	
16	H 13i8	N-75°-E	長方形	4.35×3.92	35~46	平坦	ほぼ全周	—	1	—	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	本跡→SK107
17	H 13h6	N-80°-E	方形	2.66×2.58	24~40	平坦	—	—	6	—	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	本跡→SK106
18	H 13e4	N-6°-E	長方形	4.78×4.08	32~48	平坦	ほぼ全周	4	—	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	8世紀後葉	
19	G 13j3	N-2°-E	方形	4.63×4.51	36~54	平坦	全周	4	—	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	SI20→本跡
21	G 13g4	N-5°-W	[方形]	3.60×(3.32)	22~32	平坦	ほぼ全周	3	—	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	
22	G 13f2	N-10°-W	方形	3.90×3.76	50~52	平坦	ほぼ全周	4	6	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	
23	G 13d1	N-7°-W	方形	3.60×3.60	32~46	平坦	—	4	—	1	1	—	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	本跡→SF 2

表5 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁方向	柱間数 (桁×梁)	規模(m)	面積 (㎡)	構造	桁柱間 (m)	梁間 柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
1	D11f6	N-87°-E	4×2	7.90×4.80	37.92	側柱	1.97	2.42	円形 楕円形	30~76	土師器片 須恵器片	

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模(m)	面積 (㎡)	構造	桁行 柱間 (m)	梁間 柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
2	D11i7	N-12°-W	2×2	4.50×4.50	20.25	側柱	2.27	2.27	円形 楕円形	40~57	土師器片 須恵器片	SB 3→本跡
3	D11i7	N-82°-E	2×2	5.00×3.80	19	側柱	2.57	1.82	円形 楕円形	28~57	土師器片 須恵器片	本跡→SB 2
4	E12c3	N-19°-W	3×(1)	6.00×(2.20)	—	側柱	2.10	2.10	円形 楕円形	28~58	土師器片 須恵器片	
5	E12d2	N-14°-W	3×2	6.90×4.55	32.3	側柱	2.27	2.27	円形 楕円形	52~80	土師器片 須恵器片	SB10→本跡→SK13
6	E11d0	N-84°-E	3×2	7.20×4.55	32.76	側柱	2.42	2.27	円形 不整円形	16~41	須恵器片	本跡→SK19
7	E11e0	N-85°-E	2×2	4.70×3.40	15.98	側柱	2.42	1.66	円形 楕円形	35~57	土師器片 須恵器片	
8	E11a9	N-85°-E	(2×1)	(4.55×2.40)	—	側柱	2.27	2.27	不整楕円形	40~47	土師器片 須恵器片	SK22→本跡
9	E12f4	N-9°-W	3×3	5.80×5.45	31.6	側柱	1.96	1.82	円形 楕円形	10~50	土師器片 須恵器片	本跡→SK12
10	E12e2	N-74°-E	2×2	4.80×3.00	14.4	総柱	2.42	1.52	円形 楕円形	24~70	土師器片 須恵器片	本跡→SB 5, SK18・23
11	E12h4	N-7°-W	3×2	6.20×4.40	27.28	側柱	2.12	2.12	円形 楕円形	24~61	土師器片 須恵器片	
12	E12j5	N-7°-W	3×2	6.55×4.40	28.82	側柱	2.12	2.12	円形 楕円形	8~51	土師器片 須恵器片	本跡→SK32
13	F12b4	N-77°-E	2×2	4.85×3.30	16.00	側柱	2.42	1.66	円形 楕円形	14~54	土師器片 須恵器片	
14	E12h2	N-15°-W	3×2	5.10×4.15	21.16	側柱	1.66	2.10	円形 楕円形	17~33	土師器片 須恵器片	
15	E12h1	N-8°-W	(2×1)	(4.20×1.82)	—	側柱	2.12	1.82	楕円形	9~60		
16	A 8g6	N-38°-W	3×3	4.20×4.20	17.6	側柱	1.52	1.52	円形 楕円形	8~55	土師器片 須恵器片	
17	A 8h5	N-58°-E	3×2	5.00×3.33	16.5	側柱	1.67	1.67	円形 楕円形	14~53	土師器片	
18	A 6h0	N-6°-W	(2)×2	(2.70)×3.00	—	側柱	1.36	1.51	円形 楕円形	13~27	土師器片	
19	A 6f0	N-74°-E	(1)×2	(2.00)×3.00	—	側柱	1.96	1.51	円形 楕円形	11~44		
20	A 6f0	N-12°-W	4×2	5.90×3.60	21.24	総柱	1.52	1.82	円形 楕円形	16~50	土師器片 須恵器片	本跡→SK58
21	A 7d4	N-20°-W	(2)×2	(3.30)×4.20	—	側柱	1.67	2.12	円形 楕円形	13~72	土師器片 須恵器片	
22	A 5h8	N-65°-E	3×2	5.15×3.60	18.79	側柱	1.82	1.82	円形 楕円形	21~56	土師器片 須恵器片	
23	A 6g1	N-69°-E	3×2	5.00×3.80	19	側柱	1.66	1.82	円形 楕円形	19~69	土師器片 須恵器片	第1号円形周溝遺構→本跡
24	A 6e4	N-66°-E	2×1	4.00×3.70	15.58	側柱	1.96	1.82	円形 楕円形	18~31		
25	A 6e3	N-18°-W	3×2	4.10×3.35	13.7	側柱	1.36	1.66	円形 楕円形	18~30	須恵器片	SK62・81→本跡

表6 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規 模 (m, 深さはcm)				壁面	底面	覆土	出土遺物	時期	備考 新旧関係 (旧→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ						
1	F12g5~F12f9	N-78°-E	直線	21.14	0.96~1.26	0.26~0.56	38~41	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	本跡→SF 2
2	C10g7~C11f3	N-77°-E	直線	23.70	0.58~0.94	0.16~0.38	29~38	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片	9世紀代	
3	C10a9	N-17°-W	くの字状	2.90	1.79	0.6	30~51	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片	9世紀代	SK 8→本跡
4	B9f9~C10b4	N-25°-W	直線	31.60	0.64~1.02	0.20~0.38	38~54	緩斜	皿状	自然	土師器片 須恵器片 瓦	9世紀代	
8	G13g14~G12j6	N-40°-E	直線	21.80	0.62~0.99	0.48~0.60	60~64	外傾	平坦	人為	灰釉陶器(浄瓶)	9世紀中葉以降	SF 2→本跡

表7 道路跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規 模 (m, 深さはcm)				壁面	底面	覆土	出土遺物	時期	備考 新旧関係 (旧→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ						
1	C10f6~C11c1	N-59°-E	逆台形	23.50	1.19~1.64	0.53~1.08	10~32	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片 瓦	9世紀代	本跡→SD 5
2	E12j2~F12j8	N-36°-W	U字形	112.00	0.84~1.30	0.24~0.52	22~45	緩斜	皿状	自然	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	SD 1, SI23→本跡→SK112・113・114・127, SD 8

表8 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						
6	D11i8	N-63°-E	不整長方形	2.96×2.50	84.0	内傾	平坦	人為	土師器片 瓦片 須恵器片	9世紀後半 以降	
11	E12h6	N-80°-E	隅丸長方形	3.54×3.20	60.0	内傾	平坦	人為	土師器片 刀子 須恵器片	9世紀後半 以降	
12	E12f4	N-5°-W	隅丸長方形	2.94×2.55	84.0	内傾	平坦	人為	土師器片 瓦片 刀子 須恵器片	9世紀後半 以降	SB 9→本跡→SK31
13	E12c1	N-5°-W	隅丸長方形	3.64×2.76	88.0	内傾	凹凸	人為	土師器片 須恵器片	9世紀後葉 以降	SB 5→本跡
21	E11c0	—	円形	1.20	38.0	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	9世紀中葉	
52	A7g5	—	円形	0.86	20.0	直立	平坦	人為	土師器片 須恵器片	9世紀前葉	

### 3 中・近世の遺構と遺物

方形竪穴遺構2基, 火葬土坑4基, 墓坑1基, 土坑3基を確認した。以下, 遺構と遺物について記述する。

#### (1) 方形竪穴遺構

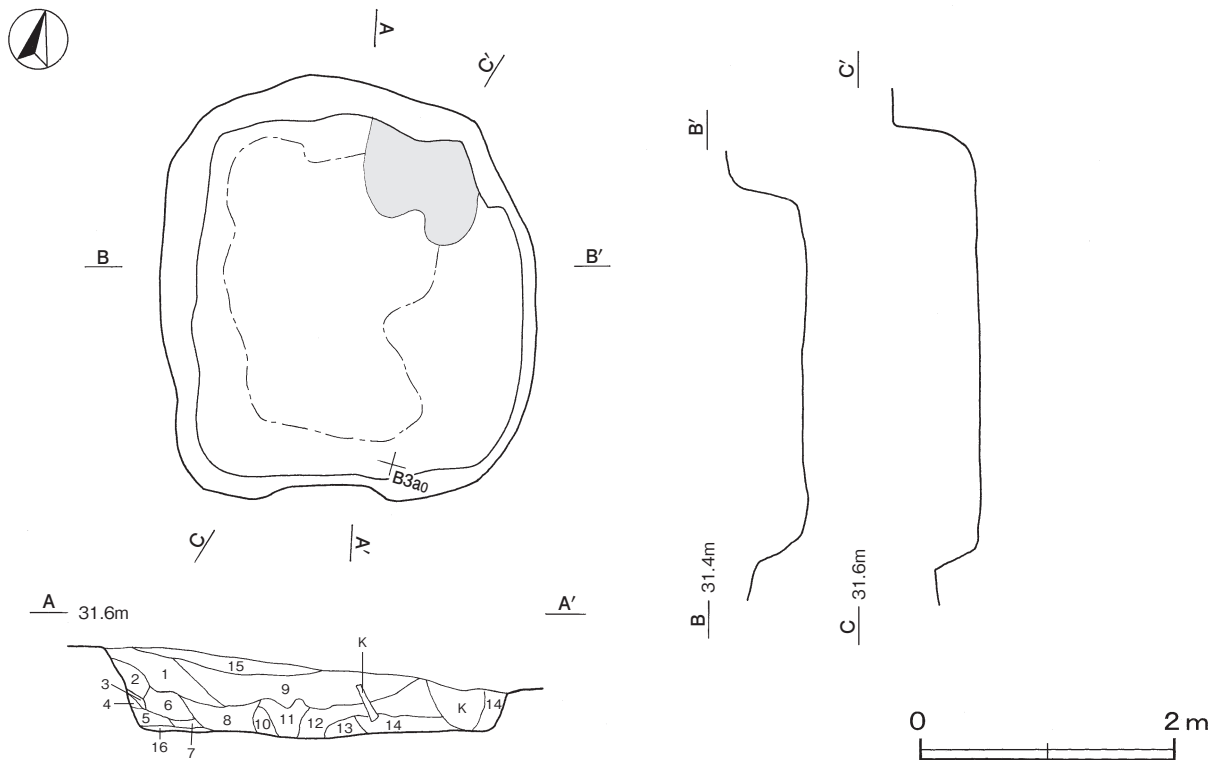
##### 第1号方形竪穴遺構(第103図)

**位置** 調査区北部のA3j9区で, 標高31.0mの台地斜面部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.22m, 短軸3.00mの方形で, 長軸方向はN-15°-Wである。壁高は62cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で, 中央部が踏み固められている。北東部の壁際に東西95cm, 南北85cmの範囲で焼土の広がり確認された。

**覆土** 16層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。



第103図 第1号方形竪穴遺構実測図

土層解説

- |       |                       |        |                    |
|-------|-----------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量             | 9 黒色   | 炭化物少量, ローム粒子微量     |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量     | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量     |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量     | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量      |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量             | 12 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量   |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量   |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量      | 14 暗褐色 | ロームブロック中量          |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量         | 15 黒褐色 | ローム粒子微量            |
| 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量      | 16 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片23点(甕), 土師質土器片3点(鍋)が床面北東部の焼土範囲内から出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片1点(深鉢)も出土している。

所見 時期は, 出土土器と遺構の様相から中世以降と考えられる。

第2号方形竪穴状遺構 (第104図)

位置 調査区北部のA 4 f3, 標高31.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号溝跡を掘り込んでいる。

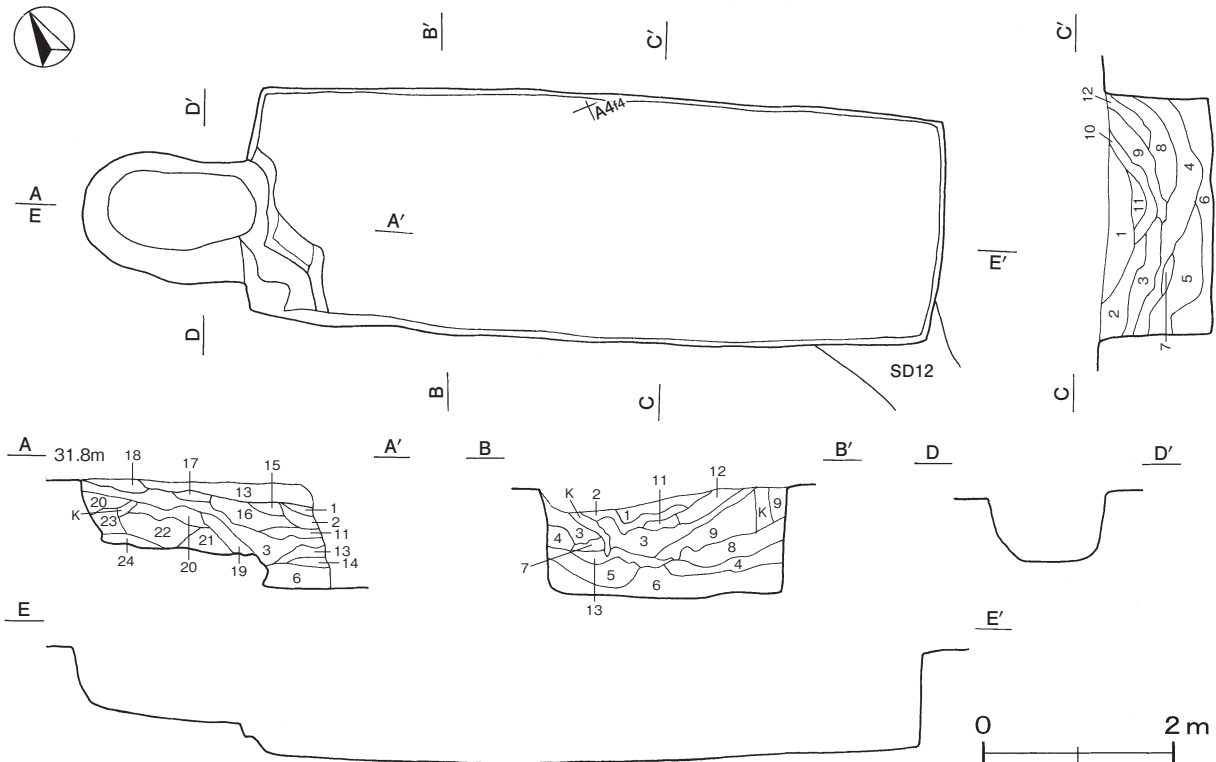
規模と形状 長軸7.28m, 短軸2.60mの不整長方形で, 長軸方向はN-63°-Wである。壁高は105cmで, 直立している。

床 平坦である。

張り出し部 西壁中央部に付設されている。規模は長軸1.68m, 短軸1.30mの不整長方形で, 深さは, 60~78cmでスロープ状である。

内部施設 西壁際に高さ40cmほどの階段状に構築されている。

覆土 24層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。



第104図 第2号方形竪穴遺構実測図



土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・今市七本桜パミス微量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物・黒色粒子・礫微量	13 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック少量, 今市七本桜パミス・黒色粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック中量, 鹿沼パミス粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量, 鹿沼パミスブロック・黒色粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック中量
6 褐色	ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子・黒色粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	17 黒褐色	ロームブロック中量
8 黒褐色	ロームブロック少量, 鹿沼パミスブロック・炭化粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック多量
9 褐色	ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック微量	19 暗褐色	ロームブロック少量
10 黒褐色	ロームブロック多量	20 黒褐色	ロームブロック少量
		21 黒褐色	ロームブロック微量
		22 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
		23 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
		24 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点(甕), 須恵器片2点(坏), 陶器片1点(碗), 瓦質土器1(不明), 土師質土器片2点(鍋)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器と遺構の様相から中世以降と考えられる。

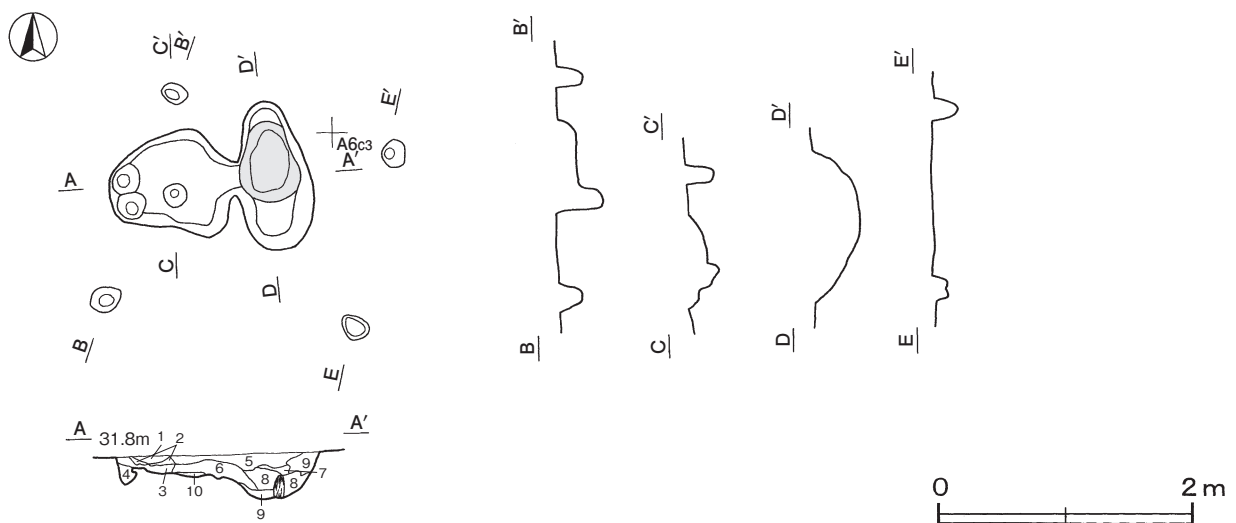
(2) 火葬土坑

第1号火葬土坑 (SK73) (第105図)

位置 調査区北部のA6c2区で, 標高31.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 楕円形を二つないだような不整形で, 全長は1.60mである。長径方向はN-78°-Eである。燃烧部は長径が主軸と直交する長径110cm, 短径57cmの楕円形で, 深さは36cmである。通気溝は長径が主軸と平行しており, 長径95cm, 短径86cmの楕円形で, 深さは9~20cmである。燃烧部, 通気溝とも壁は外傾して立ち上がっている。底面は通気溝から燃烧部へ緩やかに下がっている。燃烧部及び通気溝の底面は一部が火熱を受け赤変している。

覆土 10層に分層される。ロームブロックを不規則に含む堆積状況から, 人為堆積と考えられる。



第105図 第1号火葬土坑実測図

土層解説

- |       |                      |        |                         |
|-------|----------------------|--------|-------------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量    | 6 暗褐色  | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック多量            | 7 黒褐色  | 焼土粒子・炭化粒子微量             |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量         | 8 黒色   | 炭化物・焼土粒子中量              |
| 4 黒色  | ローム粒子微量              | 9 褐色   | ローム粒子多量                 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量               |

遺物出土状況 燃焼部の覆土下層から底面にかけて、骨粉・焼土・炭化材（丸材）が出土している。また、流れ込んだと考えられる須恵器片1点（坏）が出土している。

所見 火葬骨片・炭化物等が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。

第2号火葬土坑（SK77）（第106図）

位置 調査区北部のA6d5区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 不整形で、全長は1.54m、長径方向はN-15°-Eである。燃焼部は長径が主軸と直交する長径110cm、短径75cmの楕円形で、深さは18cmである。通気溝は長径が主軸と平行している長径103cm、短径60cmの楕円形で、深さは9cmである。燃焼部、通気溝とも壁は外傾して立ち上がっている。底面は通気溝から燃焼部

へ緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は一部が火熱を受け赤変している。

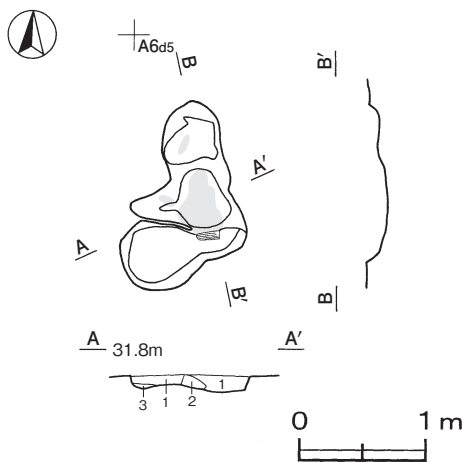
覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 骨片少量, ローム粒子微量           |
| 2 褐色  | ロームブロック中量, 今市七本桜バミス粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量                 |

遺物出土状況 燃焼部の覆土下層から底面にかけて、骨粉・焼土・炭化物が出土している。

所見 火葬骨片・炭化物等が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第106図 第2号火葬土坑実測図

第3号火葬土坑（SK83）（第107図）

位置 調査区北部のA6f2区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第67号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 楕円形を2つつないだような不整形で、全長は1.69m、長径方向はN-65°-Eである。燃焼部は長径が主軸と直交する長径116cm、短径42cmの楕円形で、深さは34cmである。開口部は長径が主軸と平行している、長径127cm、短径73cmの楕円形で、深さは25cmである。燃焼部、開口部とも壁は外傾して立ち上がっている。通気溝は燃焼部と直交し、長さ65cm、上幅21cm、下幅14cmで、深さは32～43cmである。底面は開口部から燃焼部へ緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は一部が火熱を受け赤変している。

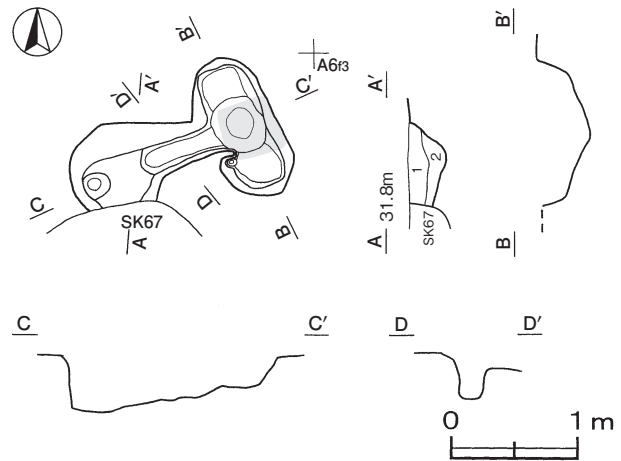
**覆土** 2層に分層される。ロームブロックを不規則に含む堆積状況から、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 明褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

**遺物出土状況** 燃焼部の覆土下層から底面にかけて、骨粉・焼土・炭化物が出土している。

**所見** 火葬骨片・炭化物等が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第107図 第3号火葬土坑実測図

**第4号火葬土坑 (SK84) (第108図)**

**位置** 調査区北部のA 6 c3区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 全長1.20mの隅丸長方形で、長軸方向はN-51°-Wである。確認された燃焼部は長軸120cm, 短軸59cmの隅丸長方形で、深さは24cmである。壁は外傾して立ち上がっている。燃焼部の底面は一部が火熱を受け赤変している。

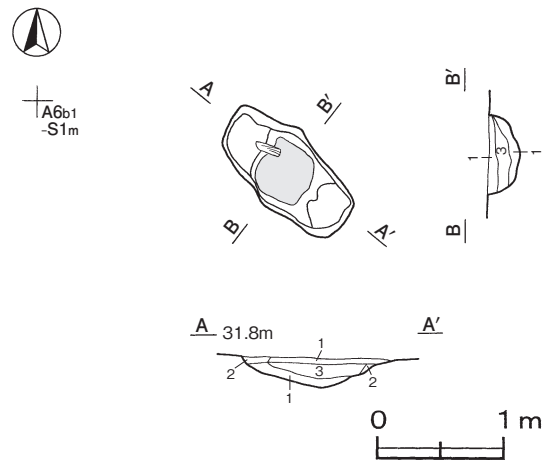
**覆土** 3層に分層される。ロームブロックを不規則に含む堆積状況から、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化物中量, 焼土粒子少量

**遺物出土状況** 燃焼部の覆土下層から底面にかけて、骨粉・焼土・炭化材(丸材)が出土している。

**所見** 火葬骨片・炭化物等が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第108図 第4号火葬土坑実測図

(3) 墓坑

**第1号墓坑 (第109図)**

**位置** 調査区北部のA 4 g2区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径2.55m, 短径2.00mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。深さは40cmで、底面は皿状である。壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

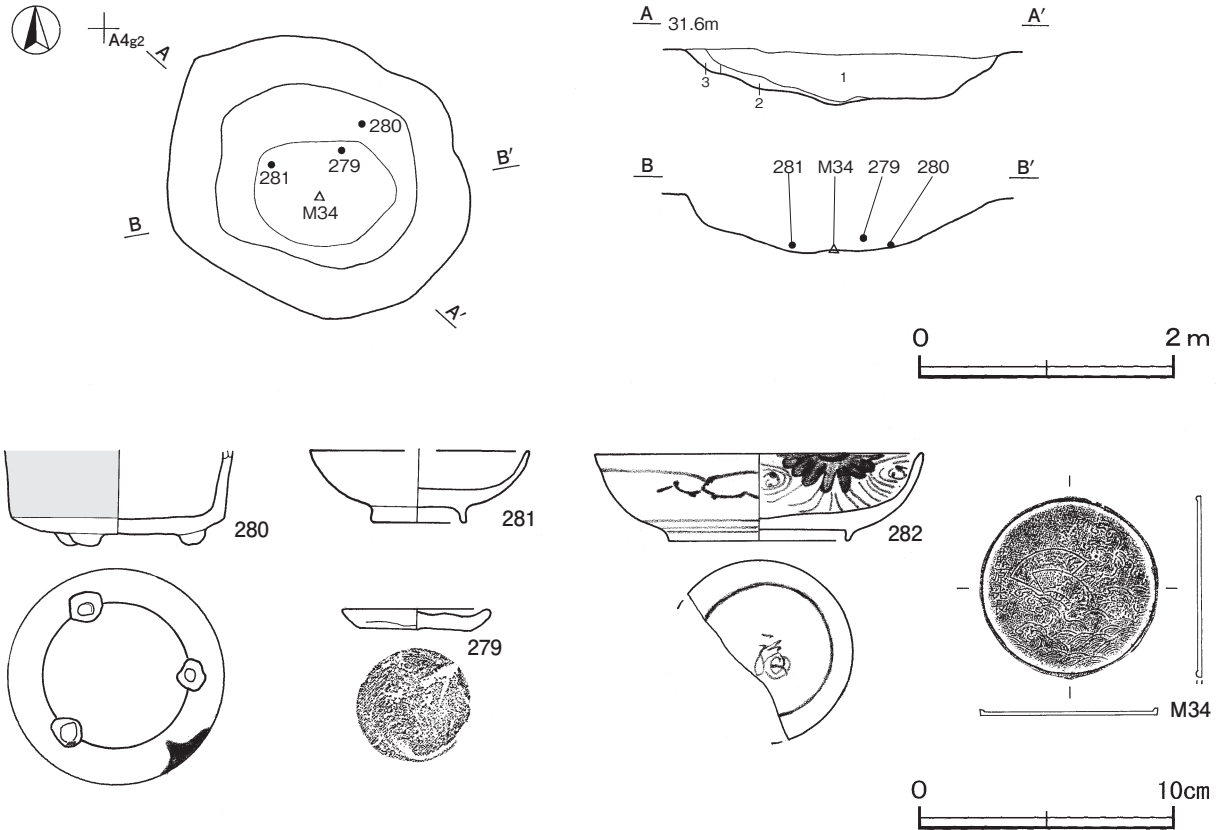
**覆土** 3層に分層される。炭化物や焼土粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 灰 褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量      3 褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス微量  
 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿, 火鉢), 陶器片3点(碗2, 円筒香炉1), 磁器片2点(白磁小皿, 染付皿), 銅製品1点(柄鏡)が出土している。279・281は中央部の覆土下層から, 280・M34は中央部の底面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から18世紀代と考えられる。遺構の形状や遺物の出土状況から墓坑と考えられる。



第109図 第1号墓坑・出土遺物実測図

第1号墓坑出土遺物観察表(第109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
279	土師質土器	小皿	5.9	1.0	4.5	長石・海綿骨針・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ 底部回転糸切り	中央部覆土下層	100% PL20
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土色調	絵付釉薬	文様・特徴	出土位置	産地	備考
280	香炉	陶器	—	(3.8)	6.0	灰白浅黄	底部露胎	底部回転ヘラ削り 三足貼付け	中央部北寄り底面	瀬戸美濃	60% PL21
281	小皿	白磁	[8.7]	2.9	3.7	白色	半透明釉	口縁部がわずかに内湾する	中央部覆土下層	肥前	40% PL21
282	染付皿	磁器	13.0	3.5	7.2	灰白灰白	染付透明釉	見込み側面に菊花文と渦巻文・中央に五弁花裏文様に一本線による蔓草文 高台内に渦福	覆土中	肥前	50% PL21
番号	器種	径	厚さ	重量	材質	図案	特徴	出土位置	備考		
M34	柄鏡	7.1	縁部1.8 図案部1.2	(36.5)	銅	波入扇面流し図	柄部は欠損し, 破面は研磨されてる。下辺から右上部にかかる波間に2面の扇が描かれている。左側に「藤原光長」の銘がある。	中央部底面	江戸時代 PL28		

(4) 土坑

第131号土坑 (第110・111図)

位置 調査区北部のA3h9区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.92m、短径2.20mの楕円形で、長径方向はN-59°-Wである。深さは44cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

焼土塊 中央部から南東にかけて長さ約100cm、幅約30cm、厚さ17～24cmで、強く火熱を受けて赤変硬化した焼土塊が確認された。

焼土塊土層解説

- |                     |                             |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量、緑青微量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック少量      | 7 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量         |
| 3 赤褐色 焼土ブロック中量      | 8 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量          |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 9 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量   |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量     |                             |

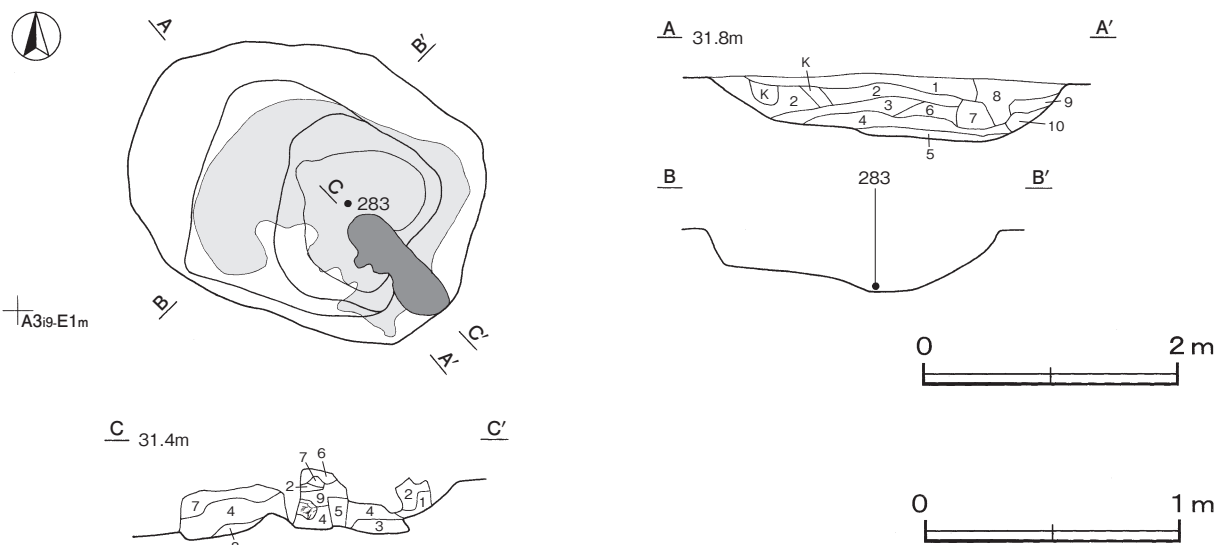
覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

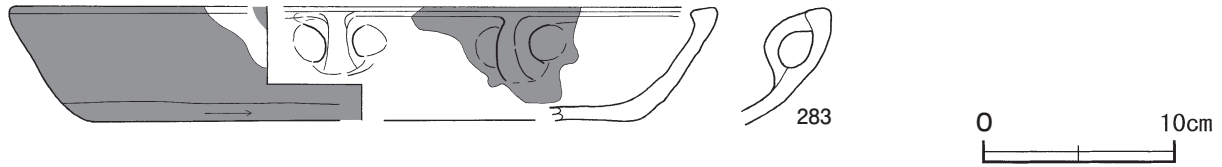
- |                                   |                               |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量        | 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量        |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量         | 7 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量        | 9 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量   |
| 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量            | 10 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量         |

遺物出土状況 土師質土器片49点(皿3, 鍋43, 鉢3), 陶器片4点(碗3, 甕1), 磁器片1点(碗), 鉄製品3点(不明鉄製品)が出土している。また、流れ込んだ土師器片1点(坏), 須恵器片1点(坏)も出土している。283は中央部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から近世と考えられる。中央部から南東部の底面は火熱を受けて赤変しており、焼土塊が中央部から南東にかけて確認された。焼土塊には、火熱により脆くなった凝灰岩と微量の緑青を含む層が確認されている。



第110図 第131号土坑実測図



第111図 第131号土坑出土遺物実測図

第131号土坑出土遺物観察表 (第111図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
283	土師質土器	焙烙	[36.8]	5.8	[28.6]	長石・石英・小礫・海綿骨針	赤褐	普通	口唇部は内側につまみ出される 内耳は口唇部の少し下がったところから体部中位に貼付け	中央部底面	10% PL20

第132号土坑 (第112・113図)

位置 調査区北部のA 3h0区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.26m、短径1.46mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さは56cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

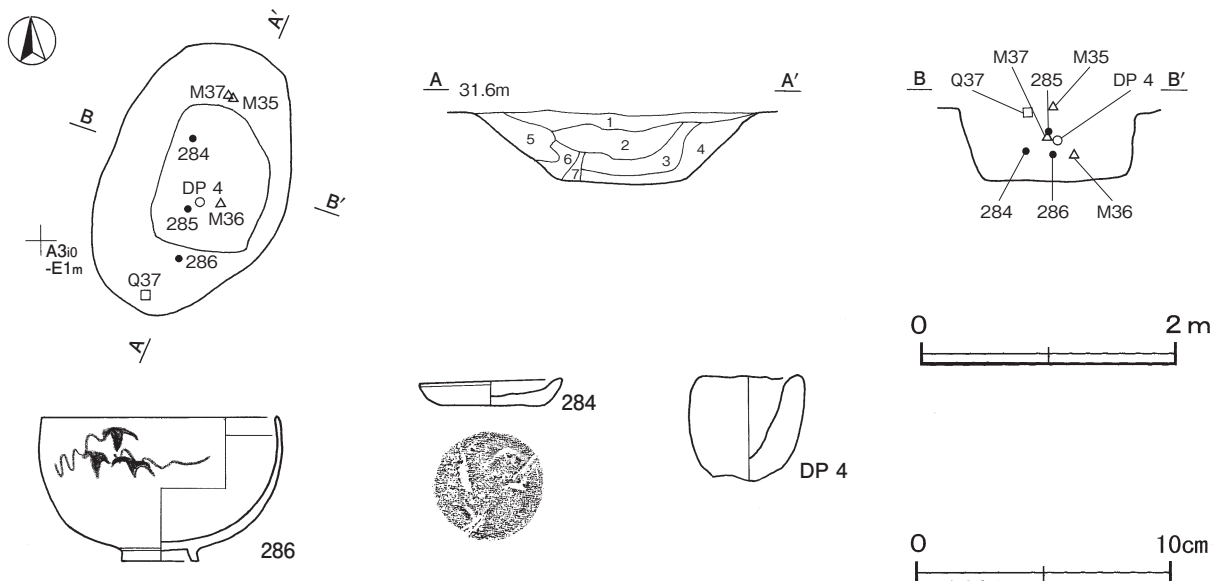
覆土 7層に分層される。ロームブロックを不規則に含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

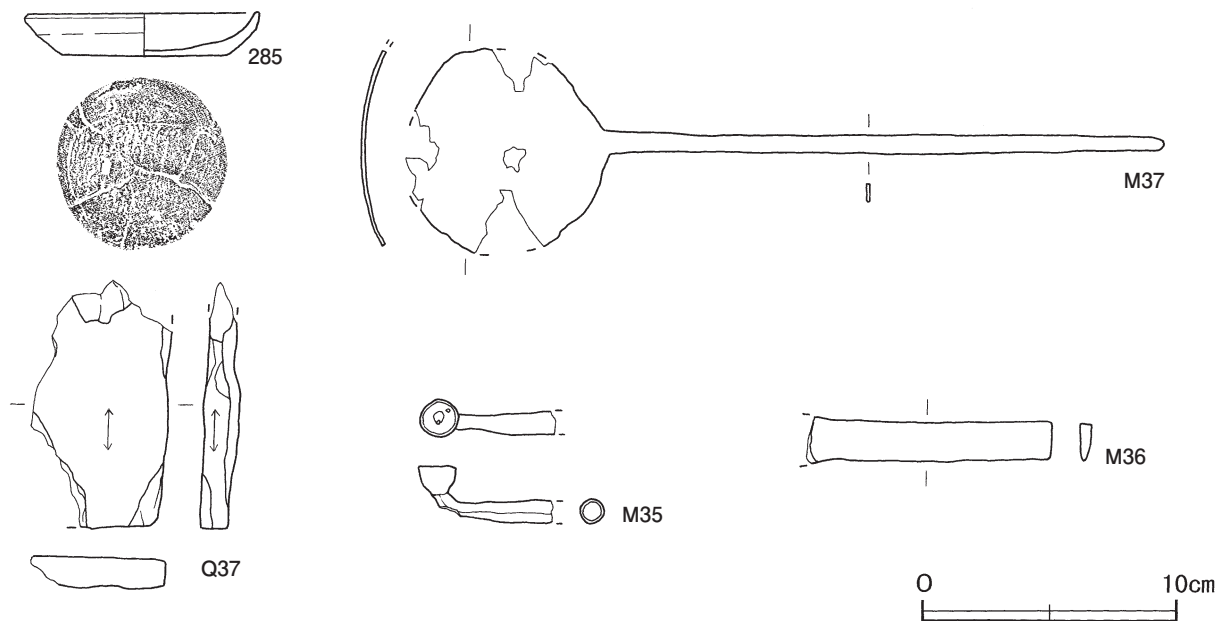
- |       |                         |       |                            |
|-------|-------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、粘土ブロック微量  | 6 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量   | 7 褐色  | ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量      |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量   |       |                            |

遺物出土状況 土師質土器片95点 (皿88, 鍋7), 陶器片4点 (碗), 磁器片2点 (皿), 土製品1点 (埴塙), 石器15点 (砥石), 金属製品9点 (柄勺1, 雁股1, 煙管1, 小柄1, 鉄滓1, 鎌カ2, 不明鉄製品2) が出土している。また、流れ込んだ須恵器片3点 (甕) も出土している。285は中央部の覆土上層, 284, DP4は中央部の覆土中層, Q37は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。M35は北部の覆土上層, M36は中央部, M37は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀代と考えられる。



第112図 第132号土坑・出土遺物実測図



第113図 第132号土坑出土遺物実測図

第132号土坑出土遺物観察表 (第112・113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
284	土師質土器	小皿	5.6	1.1	4.0	長石・石英・小礫	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ 底部回転糸切り	中央部北寄り覆土中層	80% PL20
285	土師質土器	小皿	9.0	1.8	6.8	長石・海綿骨針・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	中央部覆土上層	90% PL20

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土色調	絵付釉薬	文様・特徴	出土位置	産地	備考
286	丸碗	陶器	9.3	5.3	3.0	淡黄浅黄	染付・鉄絵 灰釉	胴部上位に染付・下位に鉄絵 高台部無釉	南部覆土中層	京・信楽	95% PL21

番号	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 4	埴塼	4.0	(4.2)	-	(58.50)	砂粒・石英	口縁部・体部にガラス質の付着物 口縁部・体部内面に緑青付着	中央部覆土中層	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	砥石	(9.8)	(5.4)	(1.4)	(86.0)	雲母片岩	砥面2面	南部覆土上層	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	煙管	5.3	火皿径 1.4	小口径 0.9	(4.16)	銅	雁首部	北部覆土上層	PL27
M36	小柄	(9.8)	1.4	0.2~0.3	(15.40)	銅	刃部欠損	中央部覆土中層	PL27

番号	器種	長さ(長径)	幅(短径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M37	柄杓	(22.0)	(0.7)	(0.2)	(29.7)	銅	身部皿状に湾曲 柄は中央部が上方にわずかに湾曲	北部覆土中層	PL28

第152号土坑 (第114図)

位置 調査区北部のA3h0区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南側が削平されているため確認された規模は、長軸0.92m、短軸0.68mの長方形で、長軸方向はN-30°-Eである。深さは12cmで、底面は火熱を受けて赤変している。北・西壁は、長さ16~40cm、幅14~

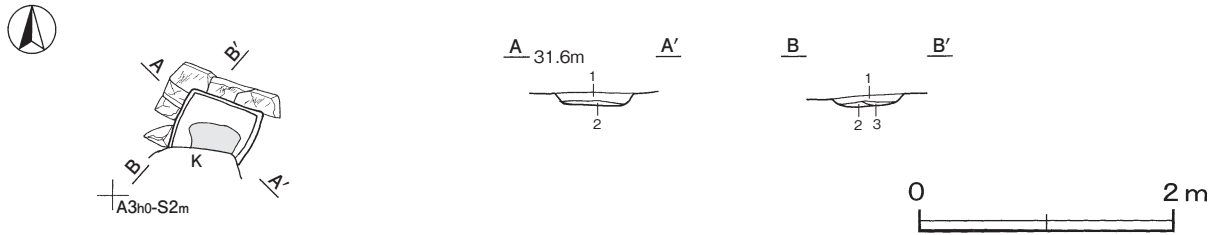
20cm, 高さ10cmほどの直方体の凝灰岩によりL字形に敷設されており, 北・西壁は直立, 東・南壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層される。炭化物や焼土粒子を含むことから人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

**所見** 時期は, 遺構の様相から近世と考えられる。



第114図 第152号土坑実測図

表9 方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m, 壁高はcm)		床面	張り出し部	内部施設	覆土	主な出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)
				(長軸×短軸)	壁高							
1	A 3j9	N-15°-W	方形	3.22×3.00	34~62	平坦	—	—	人為	土師器片 土師質土器片	中世以降	
2	A 4f3	N-63°-W	不整長方形	7.28×2.60	105	平坦	スロープ状	段状	人為	土師器片 須恵器片 土師質土器片 陶器片	中世以降	SD12→本跡

表10 火葬土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	A 6c2	N-78°-E	不整形	1.10×0.57 0.95×0.86	36	外傾	凹凸	人為	骨粉 炭化材	
2	A 6d5	N-15°-E	不整形	1.10×0.75 1.03×0.60	18	外傾	平坦	人為	骨粉 炭化材	
3	A 6f2	N-65°-E	不整形	1.16×0.42 1.27×0.73	43	外傾	平坦	人為	骨粉 炭化材	本跡→SK67
4	A 6c3	N-51°-W	隅丸長方形	1.20×0.59	24	外傾	皿状	人為	骨粉 炭化材	

表11 墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径×短径	深さ					
1	A4g2	N-40°-W	楕円形	2.55×2.00	40	緩斜	皿状	人為	土師質土器片 陶器片 磁器片 鏡	

表12 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径×短径	深さ					
131	A3h9	N-59°-W	楕円形	2.92×2.20	44	緩斜	平坦	人為	土師器片 須恵器片 土師質土器片	
132	A3h0	N-25°-E	楕円形	2.26×1.46	56	緩斜	平坦	人為	土師質土器片 陶器片 磁器片 雁首 雁股 砥石	
152	A3h0	N-30°-E	[長方形]	(0.92)×(0.68)	12	緩斜	平坦	人為		



4 その他の遺構と遺物

井戸跡1基，土坑136基，溝跡7条，ピット群7か所，柱穴列跡8条，円形周溝遺構1基，不明遺構2か所を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1) 井戸跡

第1号井戸跡（第115図）

位置 調査区中央部のD11j9区で，標高30.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 上部は長径1.16m，短径1.08mの円形である。確認面から円筒形に掘り込まれている。144cmまで掘り下げたが，以下は湧水のため確認できなかった。

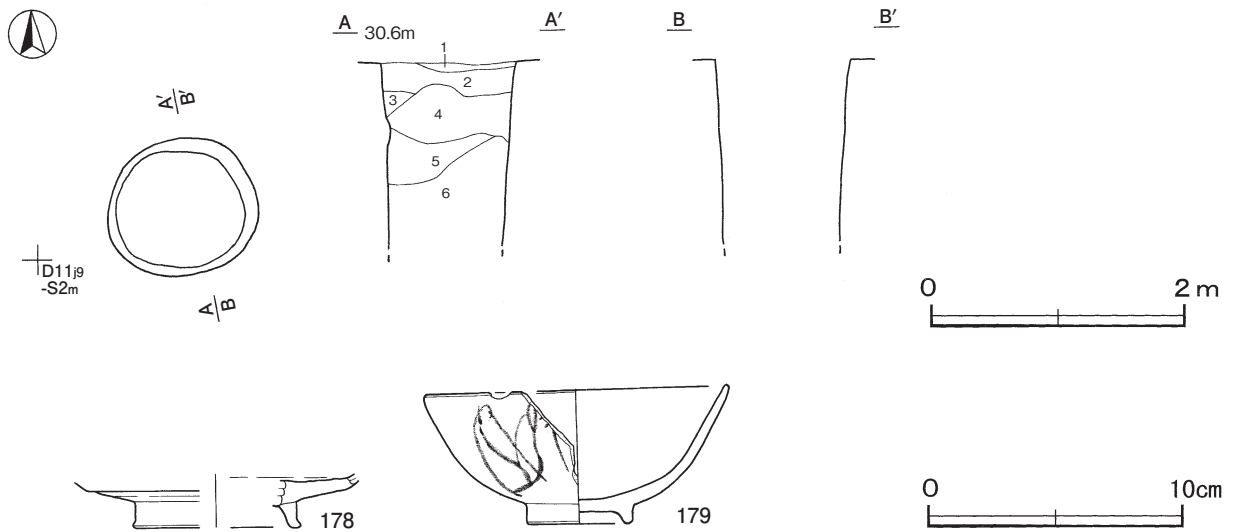
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |       |                          |       |                 |
|-------|--------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        | 4 黒褐色 | ローム粒子微量         |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量      | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，細礫少量  |
| 3 黄橙色 | ロームブロック中量，鹿沼パミス・砂質粘土粒子少量 | 6 黄橙色 | ロームブロック・鹿沼パミス中量 |

遺物出土状況 陶器片1点（碗）が出土している。また，流れ込んだ土師器片9点，須恵器片2点，礫9点も出土している。

所見 時期は，出土土器から近世以降と考えられる。



第115図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
178	須恵器	高台付坏	—	(2.2)	[6.6]	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ 底部高台貼付け	覆土中	20%
179	磁器	碗	11.9	5.5	4.1	緻密	灰白	良好	草花文	覆土中	80%

(2) 溝跡

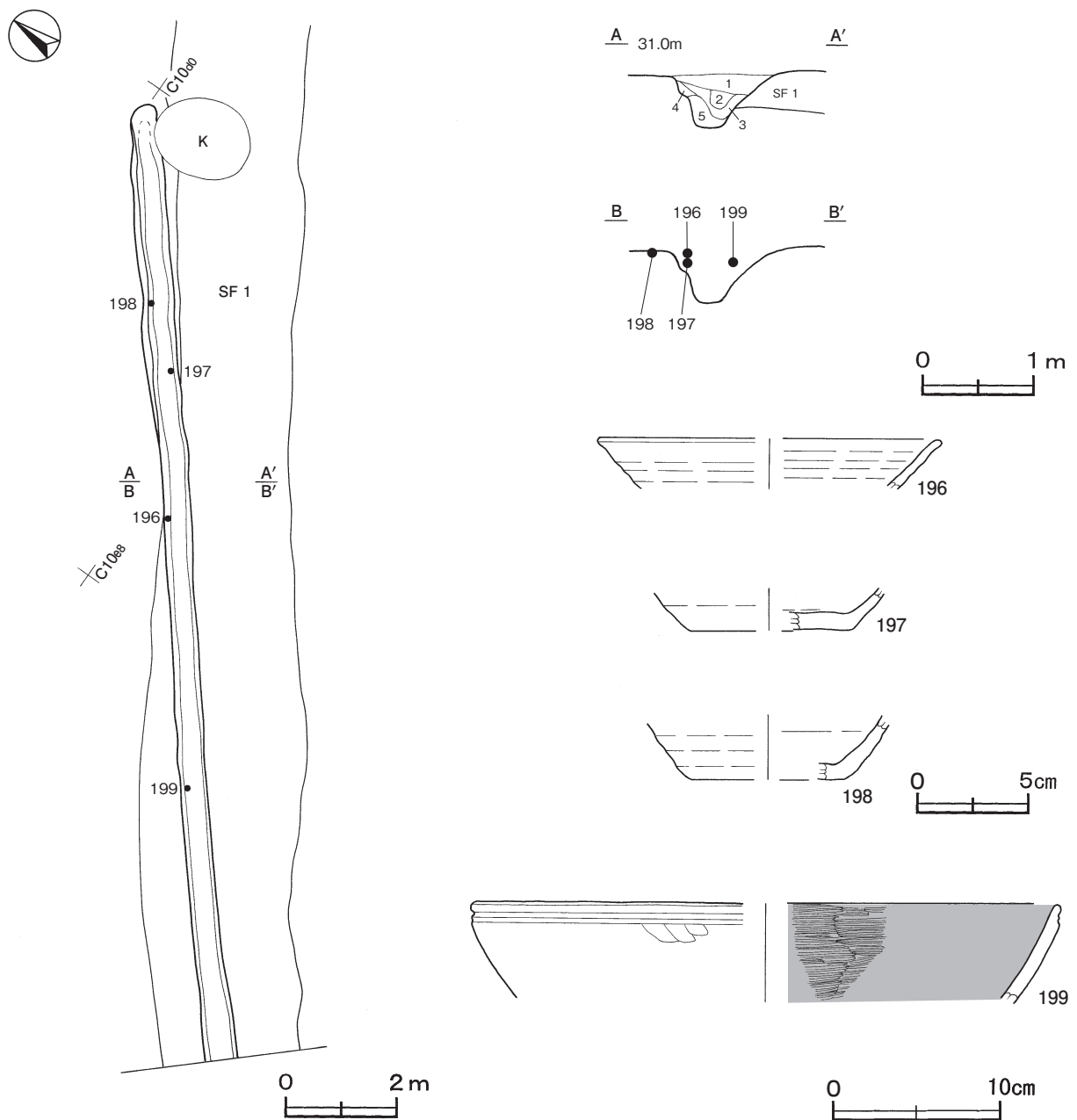
ここでは、2条の溝跡について記述し、その他の時期及び性格が不明な5条の溝跡については、一覧表で示し、実測図・付図と土層解説を記載する。

第5号溝跡 (第116図)

位置 調査区中央部のC10d9～C10f6区で、標高30.5mの台地平坦部から斜面部に位置している。

重複関係 第1号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西端が調査区域外へ延びているため全容を確認できなかったが、確認できた長さ17.4mで、上幅0.40～0.50m、下幅0.26～0.40m、深さ43～85cmである。C10d9区から南西方向(N-51°-E)に直線的に延び、C10f6区に至っている。底面は平坦で、壁が緩やかに立ち上がっている。



第116図 第5号溝跡・出土遺物実測図

**覆土** 5層に分層される。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |        |                     |        |                |
|--------|---------------------|--------|----------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量      | 4 暗 褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 黒 色  | ローム粒子・炭化物微量         | 5 暗 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |        |                |

**遺物出土状況** 土師器片20点（坏3，甕17），須恵器片23点（坏13，甕10）が出土している。196は中央部，198は東部，199は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。197は東部の中層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器及び重複関係から9世紀以降と考えられる。土地の境界に位置しており，地境の根切り溝と考えられる。

**第5号溝跡出土遺物観察表（第116図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
196	須恵器	坏	[15.4]	(2.3)	—	雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	中央部覆土上層	5%
197	須恵器	坏	—	(2.0)	[7.1]	長石	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	東部覆土上層	10%
198	須恵器	坏	—	(3.0)	[7.0]	石英・小礫	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	東部覆土上層	10%
199	土師器	鉢	[34.8]	(5.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面へら磨き 口縁部外面に2本の平行沈線	西部覆土上層	5%

**第6号溝跡（第117図），付図**

**位置** 調査Ⅱ区のH13e7区からH13g4区で，標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第110号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西両端が調査区域外に延びているため全容を確認できなかったが，確認できた長さは17.80mで，上幅1.45～2.42m，下幅0.62～0.93m，深さ28～35cmである。H13e7区から北東方向N-65°-EでH13g4区まで直線的に延びている。底面は平坦で，壁が緩やかに立ち上がっている。

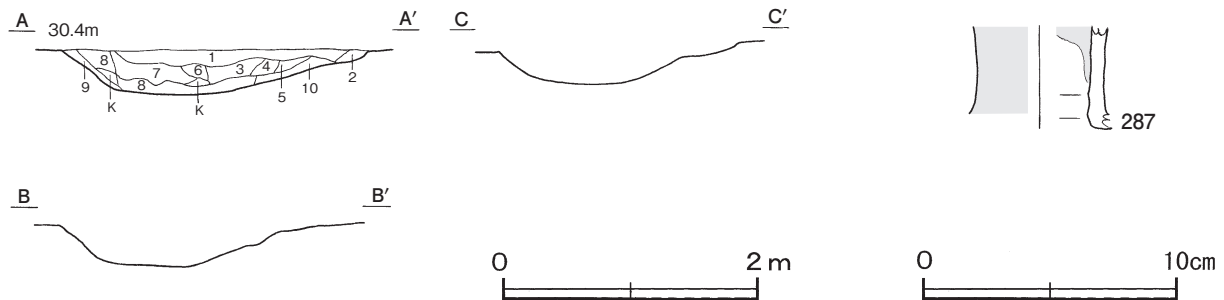
**覆土** 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |        |                            |        |                   |
|--------|----------------------------|--------|-------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・炭化物・今市七本桜パミス微量     | 6 黒 褐色 | ローム粒子微量           |
| 2 褐 色  | ローム粒子中量, 炭化粒子微量            | 7 黒 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・今市七本桜パミス微量 | 8 暗 褐色 | ロームブロック少量         |
| 4 褐 色  | ロームブロック少量                  | 9 暗 褐色 | ロームブロック微量         |
| 5 黒 褐色 | ロームブロック中量                  | 10 褐 色 | ロームブロック中量         |

**遺物出土状況** 土師器片216点（坏89，甕127），須恵器片72点（坏47，高台付坏1，蓋3，甕21），灰釉陶器片11点（瓶類），金属製品9点（不明鉄製品）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片9点（深鉢）も出土している。P287は覆土中から出土している。

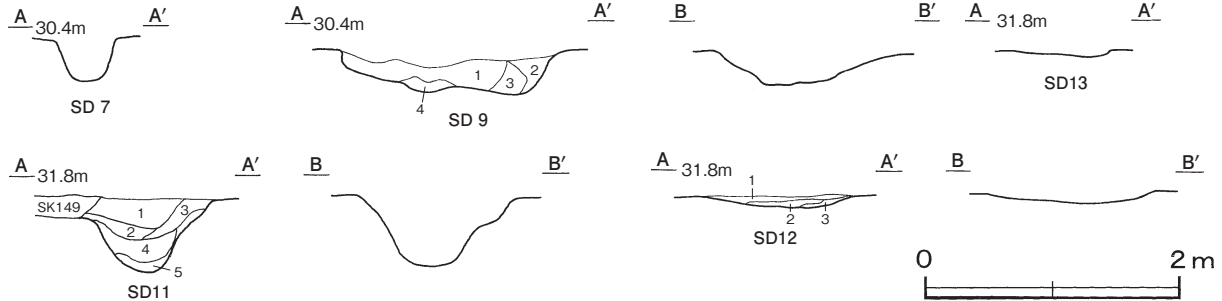
**所見** 時期は，出土土器から9世紀後半以降と考えられる。



第117図 第6号溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
287	灰釉陶器	長頸瓶	—	(4.0)	—	緻密 黒色粒子	灰白 淡緑	良好	頸部ロクロナデ	覆土中	5%



第118図 第7・9・11・12・13号溝跡実測図

第9号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第11号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第12号溝跡土層解説

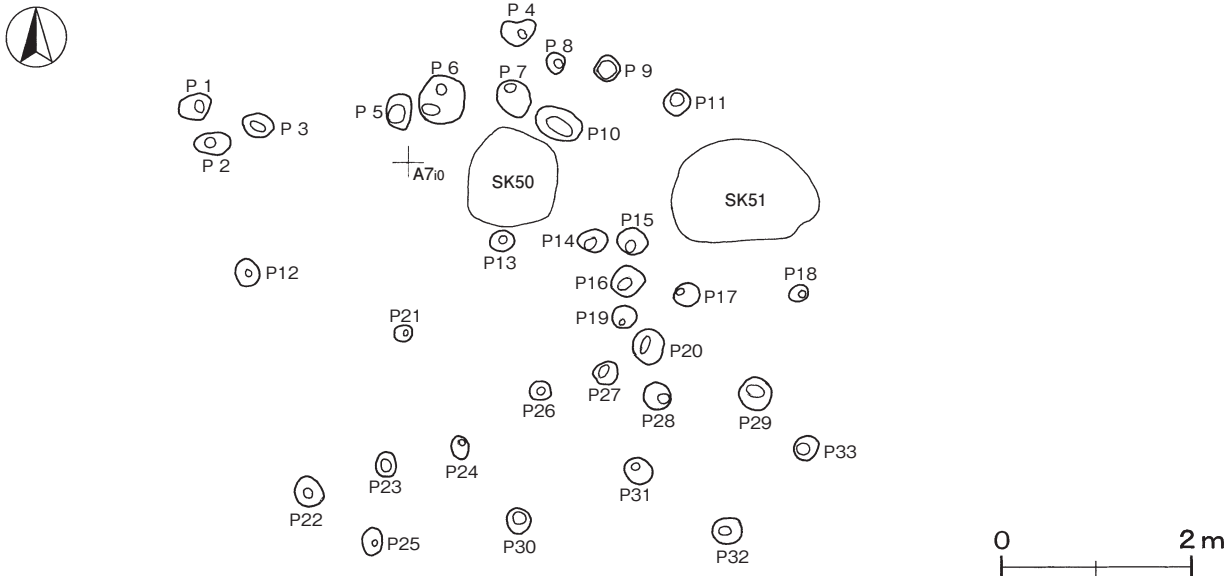
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

(3) ピット群

第1号ピット群 (第119・120図)

位置 調査区中央部の A 7 h9区～A 8 i1区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北5.6m、東西7.0mの長方形の範囲に33か所のピットが確認された。長径20～50cm、短径15～45cmの円形及び楕円形で、深さは8～68cmで、断面はU字状である。

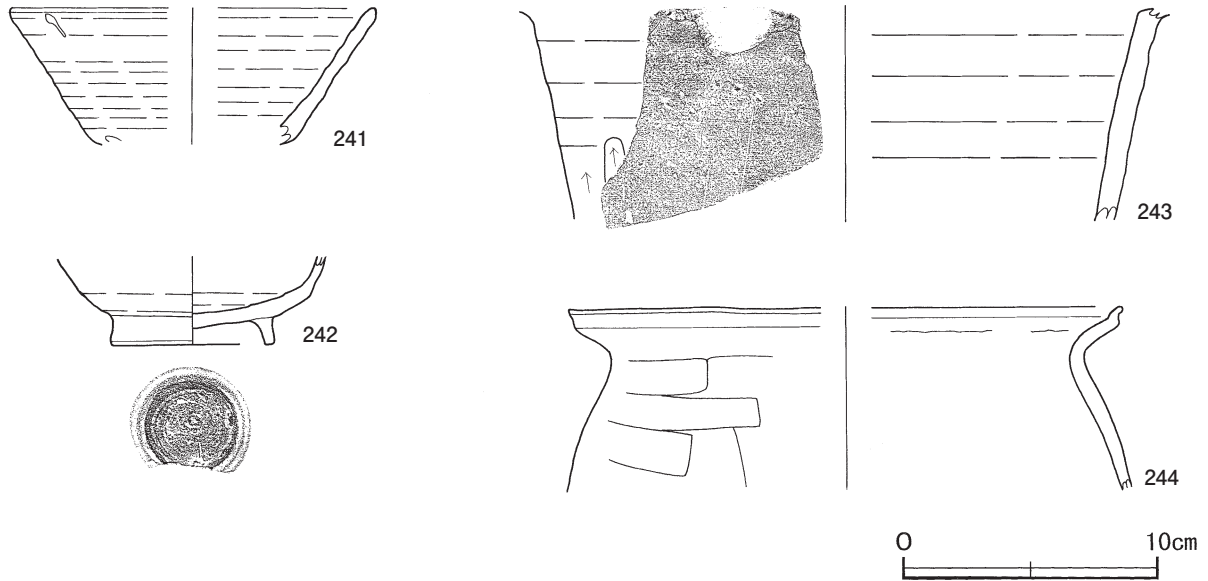


第119図 第1号ピット群実測図

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認されず、覆土は暗褐色土で、締まりは弱い。

**遺物出土状況** 土師器片44点（坏2，高台付坏1，甕41），須恵器片25点（坏12，高台付坏1，甕11，甑1）が出土している。また、流れ込んだとみられる縄文土器片3点，小礫3点も出土している。241～244は覆土中から出土している。

**所見** ピットの深さや配列などに規則性がないため，掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく，ピット群としてとらえた。時期は，出土土器から9世紀代と考えられる。



第120図 第1号ピット群出土遺物実測図

第1号ピット群出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
241	須恵器	坏	[14.5]	(5.4)	—	長石・小礫・海綿骨針	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	15%
242	須恵器	高台付坏	—	(3.5)	6.4	石英・小礫・海綿骨針	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中	30%
243	須恵器	甑	—	(8.4)	—	長石・小礫	灰	普通	体部外面ヘラ削り	覆土中	10%
244	土師器	甕	[22.0]	(7.3)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	10%

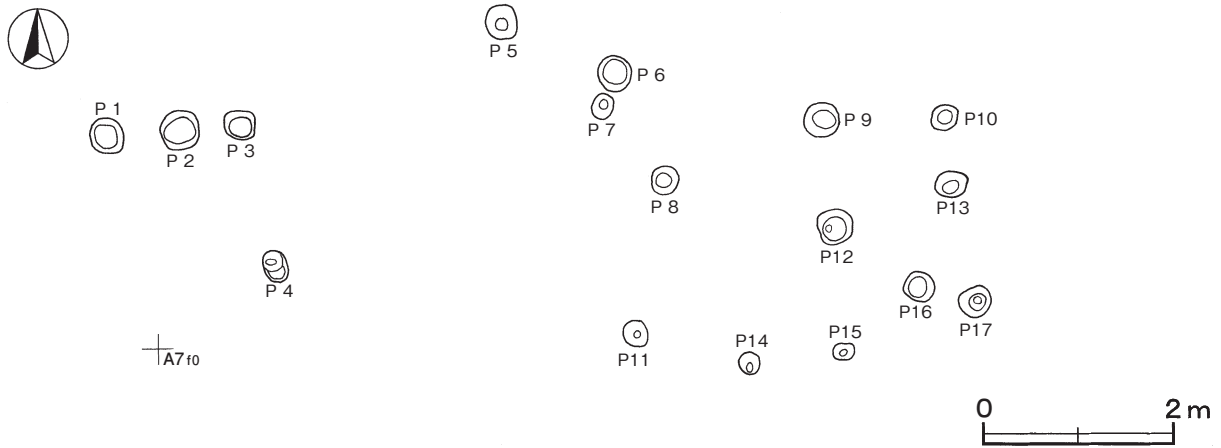
### 第2号ピット群（第121図）

**位置** 調査区中央部のA 7 e9～A 8 e2区で，標高31.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南北4.0m，東西9.5mの長方形の範囲に17か所のピットが確認された。長径22～45cm，短径20～42cmの円形及び楕円形で，深さは7～48cmで，断面はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認されず，覆土は暗褐色土で，締まりは弱い。

**所見** ピットの深さや配列などに規則性がないため，掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく，ピット群としてとらえた。時期は，出土土器がないため不明である。



第121図 第2号ピット群実測図

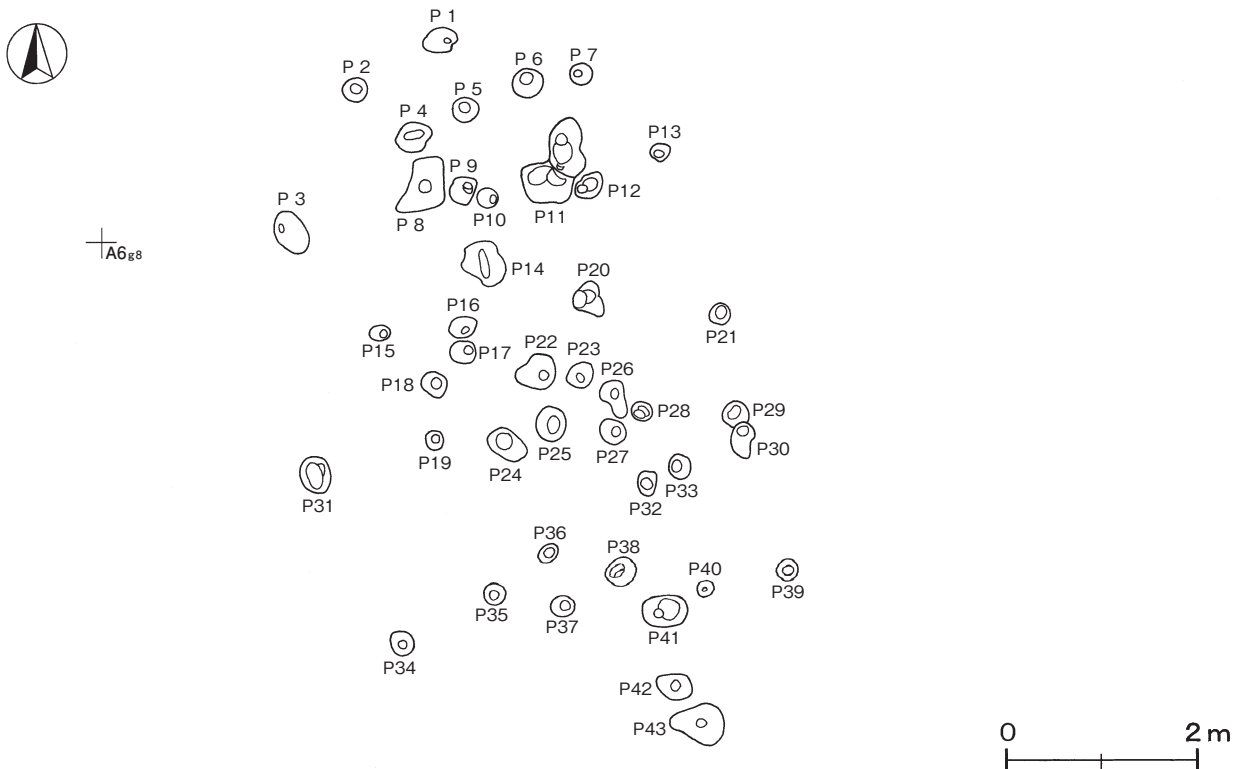
第3号ピット群 (第122図)

**位置** 調査区北部のA 6 f8区～A 6 h9区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南北7.7m、東西5.8mの長方形の範囲に43か所のピットが確認された。長径18～70cm、短径16～42cmの円形及び楕円形で、深さは6～63cmで、断面はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認されず、覆土は暗褐色土で、締まりは弱い。

**所見** ピットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。時期は、出土土器がないため不明である。



第122図 第3号ピット群実測図

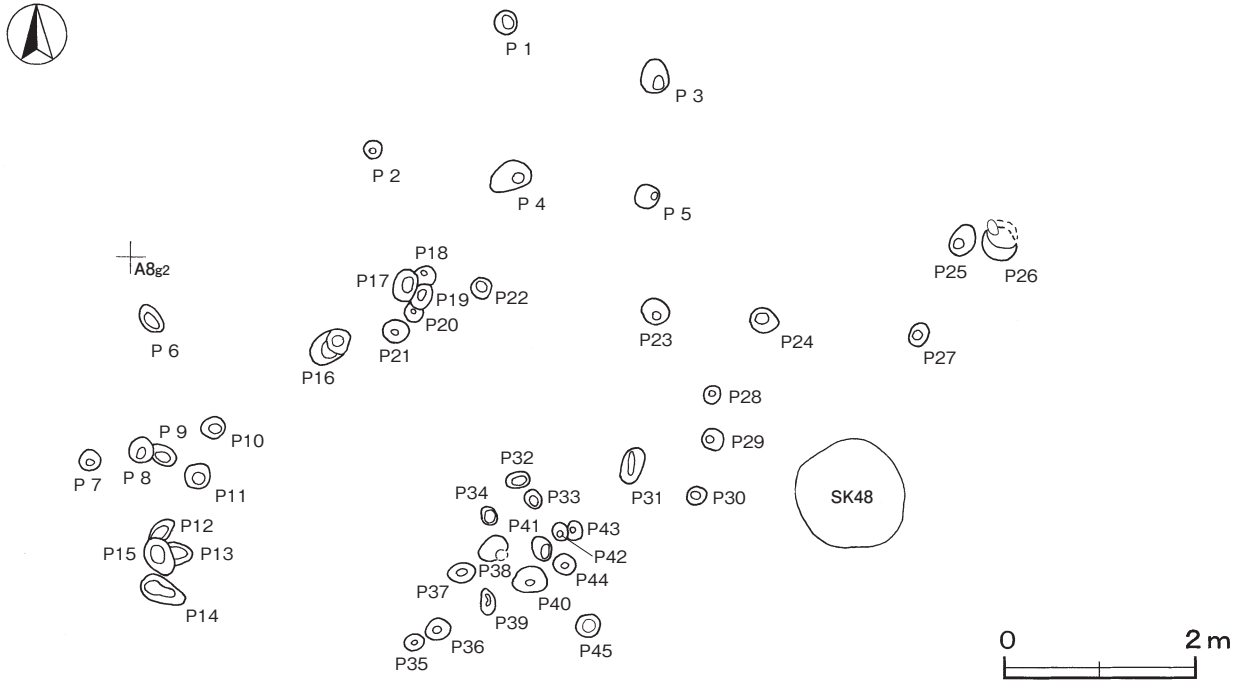
**第4号ピット群 (第123図)**

**位置** 調査区中央部のA 8 g1 ~ A 8 g4区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南北6.9m、東西9.5mの長方形の範囲に45か所のピットが確認された。長径18 ~ 48cm、短径16 ~ 36cmの円形及び楕円形で、深さは8 ~ 68cmで、断面はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認されず、覆土は暗褐色土で、締まりは弱い。

**所見** ピットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。時期は、出土土器がないため不明である。

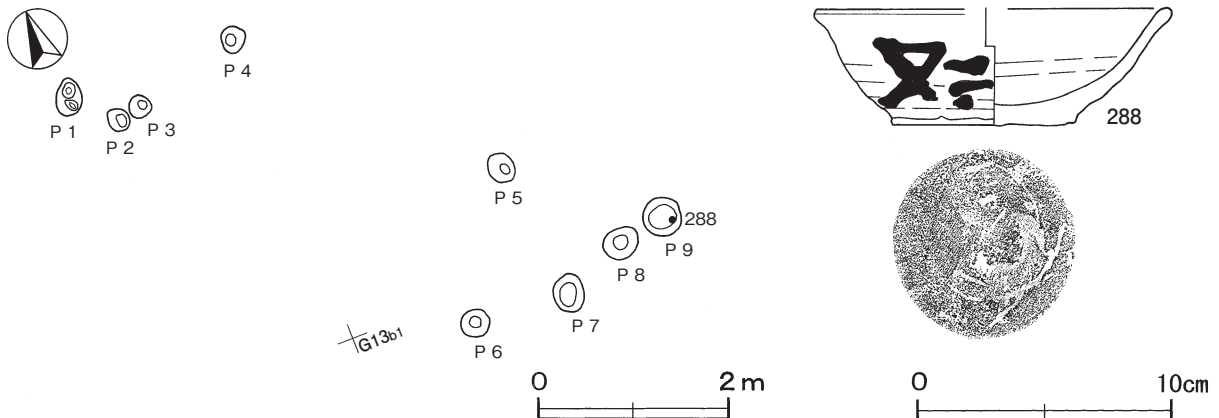


第123図 第4号ピット群実測図

**第6号ピット群 (第124図)**

**位置** 調査区南部のG 12b0 ~ G 13c1区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南北4.4m、東西5.6mの長方形の範囲にピット9か所が確認された。長径25 ~ 40cm、短径22 ~ 39cmの円形及び楕円形で、深さは9 ~ 37cmで、断面形はU字状である。



第124図 第6号ピット群・出土遺物実測図

**覆土** 覆土は暗褐色土で、柱の抜き取り痕などは確認されず、締まりは弱い。

**遺物出土状況** 須恵器片1点（坏）が出土している。288は覆土中から出土している。

**所見** ピットの配列などに規則性がなく、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくいいためピット群とした。時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

第6号ピット群出土遺物観察表（第124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
288	須恵器	坏	[13.9]	4.7	7.2	長石・石英・海綿骨針・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデカ	P 1 覆土中	60% 体部墨書□

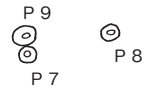
第7号ピット群（第125図）

**位置** 調査区北部のA 4 g5～A 4 g9区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南北7.8m、東西19.0mの長方形の範囲にピット9か所が確認された。長径29～45cm、短径23～34cmの円形及び楕円形で、深さは14～34cmで、断面形はU字状である。

**覆土** 覆土は暗褐色土で締まりが弱く柱の抜き取り痕などは確認されなかった。

**所見** ピットの配列などに規則性がなく、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくいいため、ピット群とした。時期は不明である。



第125図 第7号ピット群実測図

第8号ピット群（第126図）

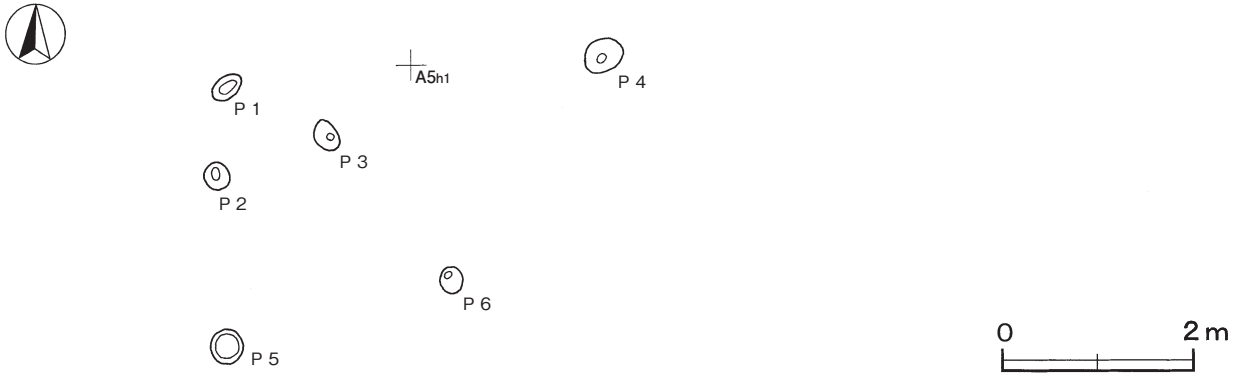
**位置** 調査区北部のA 4 h0～A 5 h1区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南北3.4m、東西4.4mの長方形の範囲にピット6か所が確認された。長径28～43cm、短径20～35cmの円形及び楕円形で、深さは14～46cmで、断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認されず、締まりは弱い。

**所見** ピットの配列などに規則性がなく、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくいいため、ピット群とした。時期は、不明である。





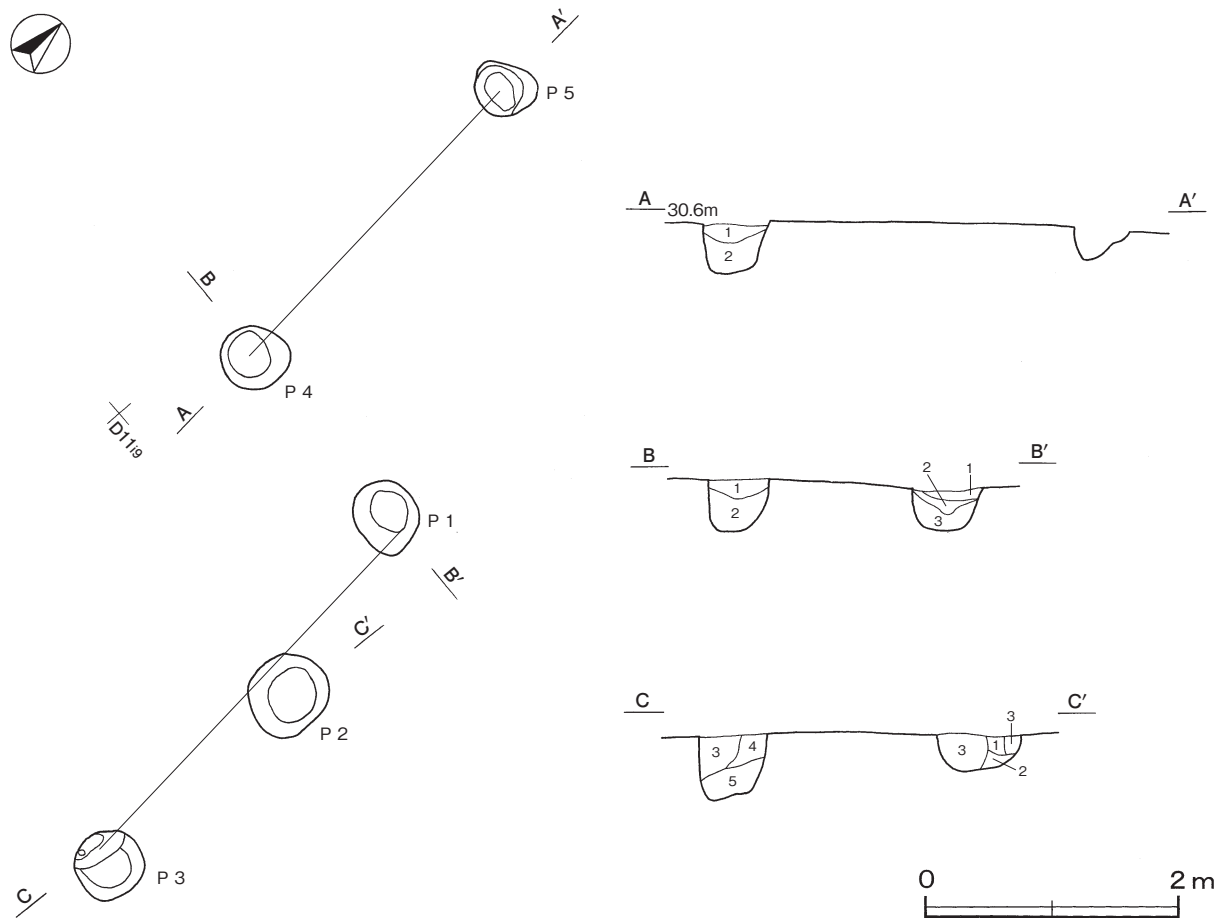
第126図 第8号ピット群実測図

(4) 柱穴列跡

8か所の柱穴列跡が確認されている。列状に並び、いずれも掘立柱建物跡群付近に位置していることから、掘立柱建物跡となる可能性もあるが、調査区域外に延びていることから、ここでは柱穴列跡として記載する。

第1号柱穴列跡 (第127図)

位置 調査区南部のD11g8～D11i9区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。



第127図 第1号柱穴列跡実測図

**規模と形状** 5か所のピットがN-8°-Wの方向で2列に並んでいる。平面形は円形で、深さは28～50cmである。

**柱穴** 柱抜き取り痕は土層断面図中の第1層が相当し、締まりが弱い。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土や暗褐色土である。

**土層解説** (各柱穴共通)

- |       |                |       |         |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 4 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量      |       |         |

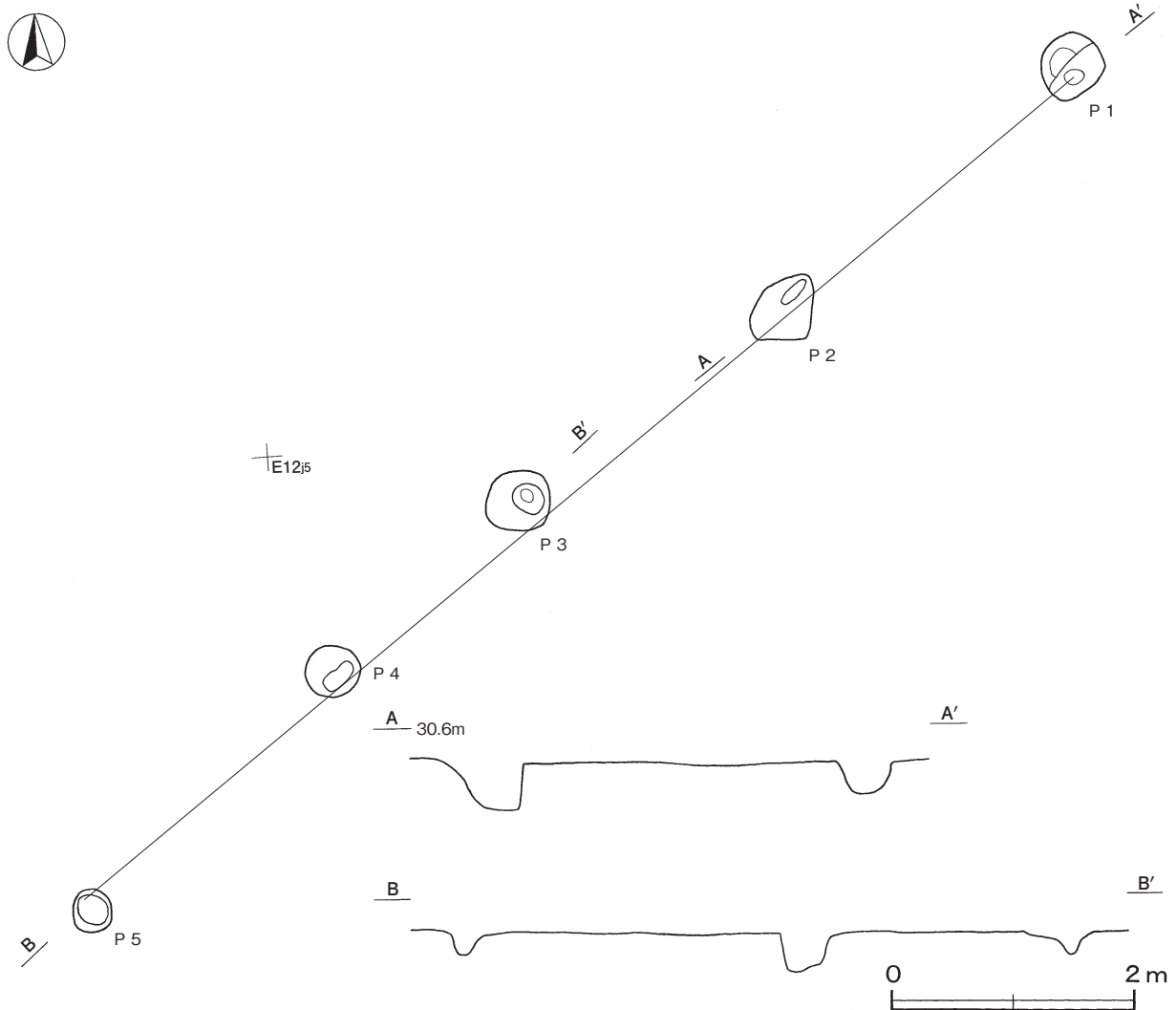
**所見** 掘立柱建物跡を想定して調査を進めたが、ピット5か所が確認されただけであり、柵跡の可能性も考えられる。時期は、出土土器がないため不明である。

**第2号柱穴列跡** (第128図)

**位置** 調査区南部のE12j4～E12i6区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 5か所のピットがN-54°-Eの方向で1列に並んでいる。平面形は円形で、深さは17～40cmである。

**柱穴** 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層での堆積や締まりの状況などから、すべて柱抜き取り後の覆土



第128図 第2号柱穴列跡実測図

と考えられる。

**所見** 掘立柱建物跡を想定して調査を進めたが、柱穴5か所が確認されただけであり、柵跡の可能性も考えられる。時期は、出土土器がないため不明である。

### 第3号柱穴列跡（第129図）

**位置** 調査区北部のA5g0～A6g1区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号円形周溝遺構を掘り込んでいる。

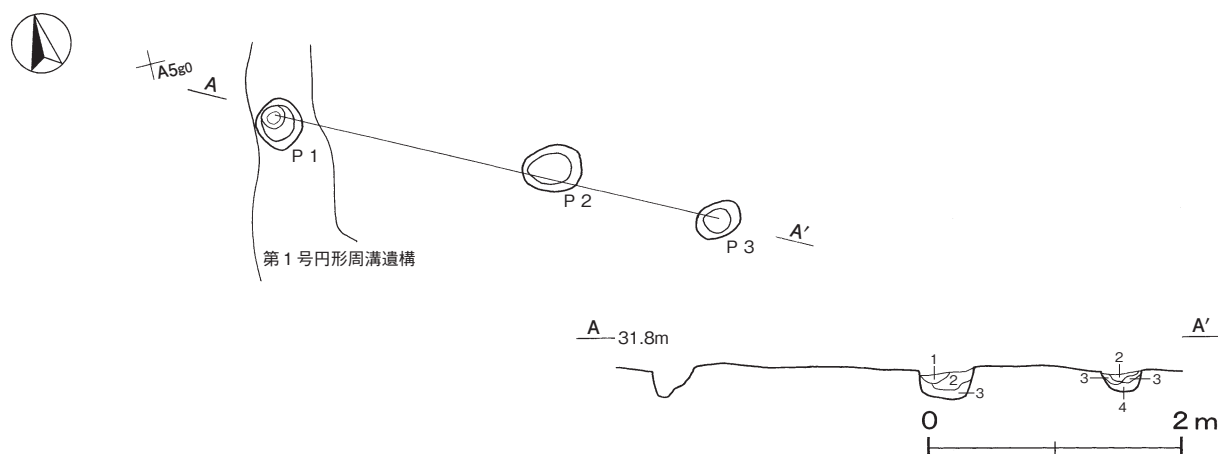
**規模と形状** 3か所のピットがN-64°-Wの方向で1列に並んでいる。平面形は円形で、深さは17～27cmである。

**柱穴** 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層での堆積や締まりの状況などから、すべて柱抜き取り後の覆土と考えられる。

**土層解説**（各ピット共通）

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 明褐色 ローム粒子少量  |

**所見** 掘立柱建物跡を想定して調査を進めたが、柱穴3か所が確認されただけであり、柵跡の可能性も考えられる。時期は、出土土器がないため不明である。



第129図 第3号柱穴列跡実測図

### 第4号柱穴列跡（第130図）

**位置** 調査区南部のD11f4～D11g4区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

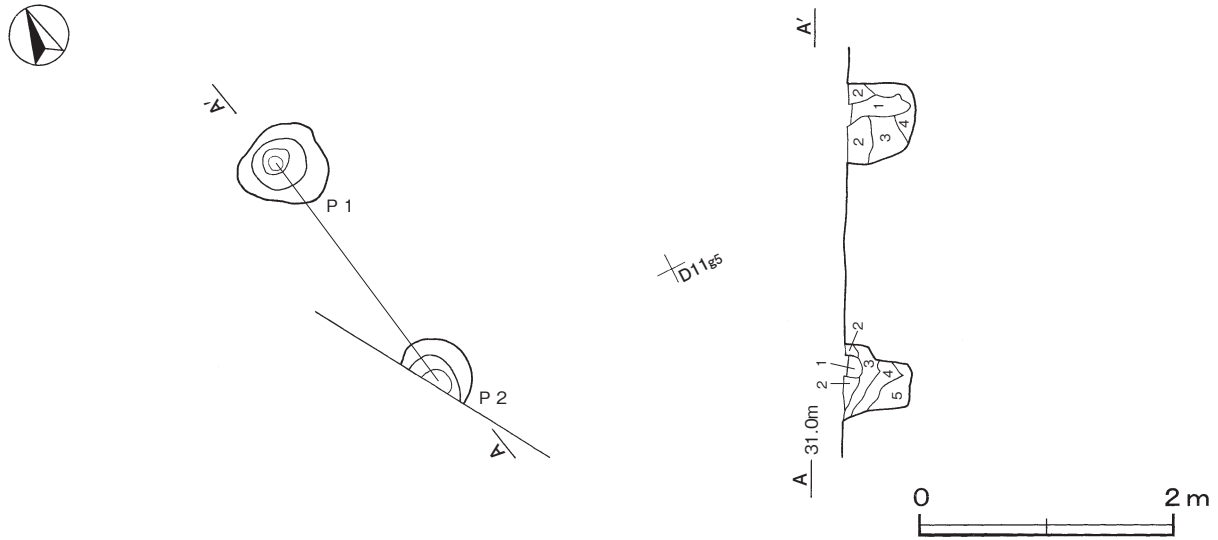
**規模と形状** ピット2か所がN-14°-Wの方向に並んでいる。平面形は円形で、深さは53cmである。

**柱穴** 柱抜き取り痕は土層断面図中の第1・2層が相当し、締まりが弱い。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土や暗褐色土である。

**土層解説**（各ピット共通）

- |                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量  | 5 褐色 ロームブロック多量  |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量             |                 |

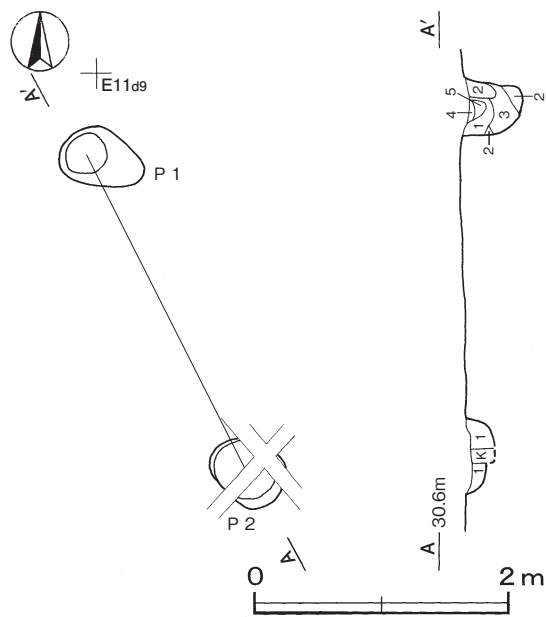
**所見** ピット2か所が確認されただけであるが、調査区域外に伸びて掘立柱建物跡となる可能性も考えられる。時期は、出土土器がないため不明である。



第130図 第4号柱穴列跡実測図

### 第5号柱穴列跡 (第131図)

**位置** 調査区南部のE11d8～E11d9区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。



**規模と形状** ピット2か所がN-30°-Wの方向で並んでいる。平面形は楕円形で、深さは15・48cmである。

**柱穴** 柱抜き取り痕は土層断面図中の第4・5層が相当し、締まりが弱い。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土や暗褐色土である。

**土層解説 (各ピット共通)**

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 明褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

**所見** ピット2か所が確認されただけであるが、調査区域外に伸びて掘立柱建物跡となる可能性も考えられる。

時期は、出土土器がないため不明である。

第131図 第5号柱穴列跡実測図

### 第6号柱穴列跡 (第132図)

**位置** 調査区南部のE12a3～E12b3区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** ピット2か所がN-10°-Wの方向に並んでいる。平面形は円形及び楕円形で、深さは13・17cmである。

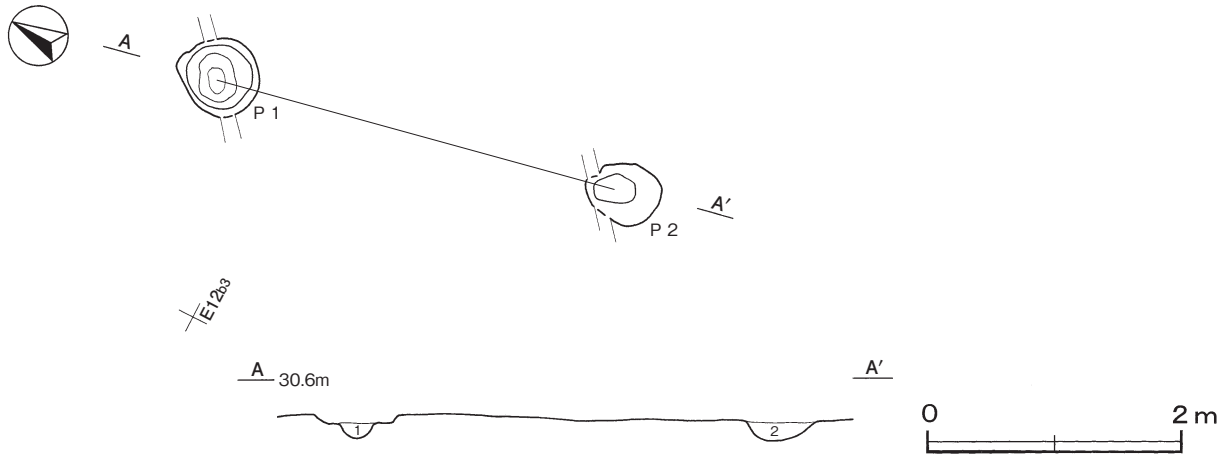
**柱穴** 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層での堆積や締まりの状況などから、すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒色 ローム粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

所見 ピット2か所が確認されただけであるが, 調査区域外に伸びて掘立柱建物跡となる可能性も考えられる。時期は, 出土土器がないため不明である。



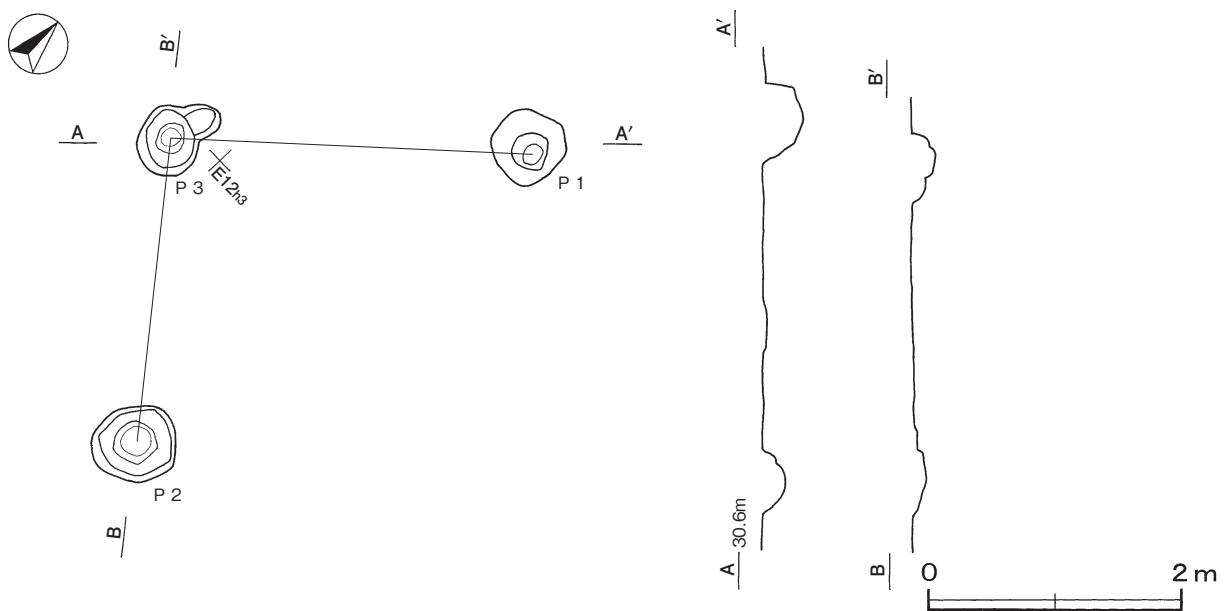
第132図 第6号柱穴列跡実測図

第7号柱穴列跡 (第133図)

位置 調査区南部のE12g2～E12h3区で, 標高30.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 3か所のピットが確認された。平面形は円形及び楕円形で, 深さは10～30cmである。

柱穴 柱の抜き取り痕などは確認されず, 土層の堆積や締まりの状況などから, すべて柱抜き取り後の覆土と考えられる。



第133図 第7号柱穴列跡実測図

所見 掘立柱建物跡を想定して調査を進めたが、ピット3か所が確認されただけであり、柵跡の可能性も考えられる。時期は、出土土器がないため不明である。

### 第9号柱穴列跡 (第134図)

位置 調査区南部のH13e5～H13e6区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 3か所の柱穴が北西方向N-83°-Eに並んでいる。平面形は円形で、深さは25～61cmである。

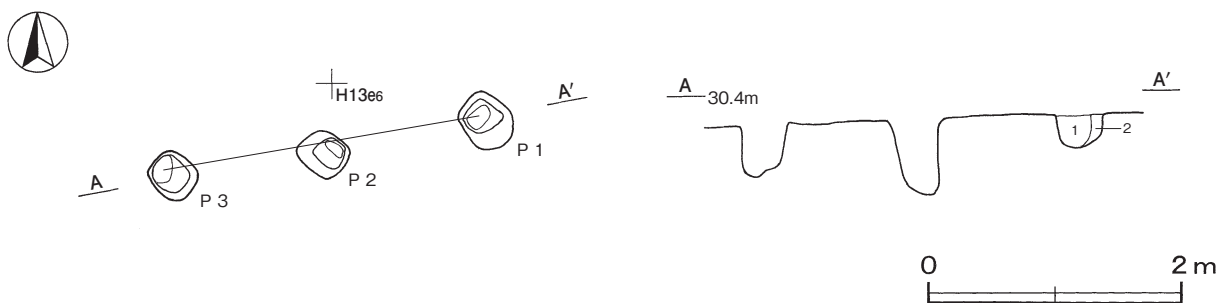
柱穴 柱抜き取り痕は第1層が相当し、締まりが弱い。その他は埋土で、ローム土を含む灰褐色土や暗褐色土である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 灰褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、出土土器がないため不明である。



第134図 第9号柱穴列跡実測図

### (5) 円形周溝遺構

#### 第1号円形周溝遺構 (第135図)

位置 調査区北部のA6g1区で、標高30.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号掘立柱建物、第3号柱穴列、第61号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 円形で、周溝を含めた径は7.4mである。封土などは確認されなかった。

周溝 全周している。上幅27～108cm、下幅16～52cm、深さ10～22cmである。底面はほぼ平坦で、断面は逆台形状である。

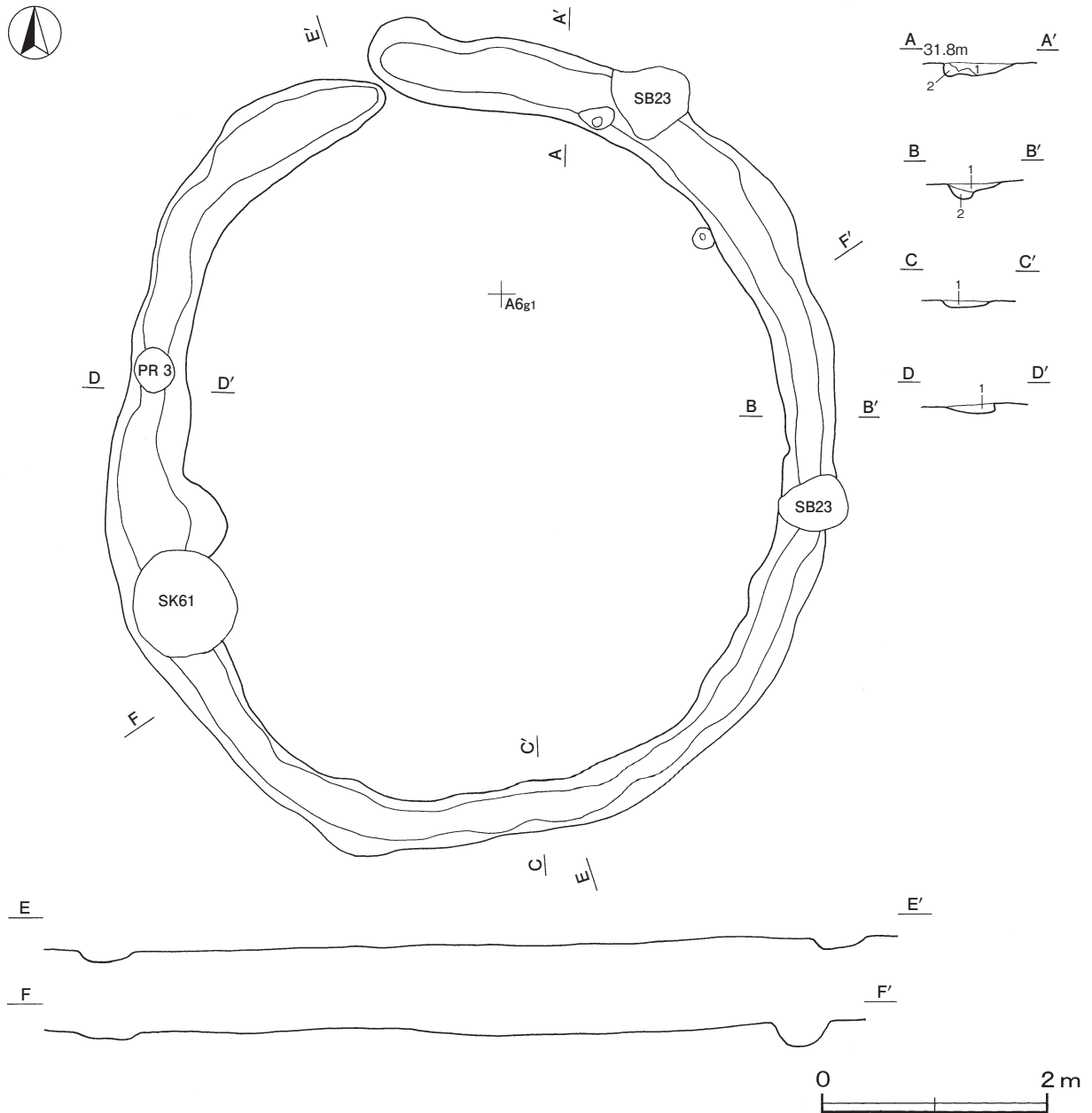
#### 土層解説

1 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量

2 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点、須恵器片1点、縄文土器片1点、弥生土器片3点、小礫2点が出土している。

所見 時期は、9世紀と推定される第23号掘立柱建物跡に掘り込まれていることからそれ以前と考えられる。出土土器は廃絶時に埋土と共に混入したものと考えられるため、性格については不明である。



第135図 第1号円形周溝遺構実測図

(6) 不明遺構

第1号不明遺構 (第136図)

**位置** 調査区南部のE12a1区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第16号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北側が調査区域外に延びているため、西壁は4.8mだけ確認された。南壁は6.4mである。形状は不定形で、南側を長軸方向とすると主軸方向はN-48°-Eである。壁高は18cmで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦である。

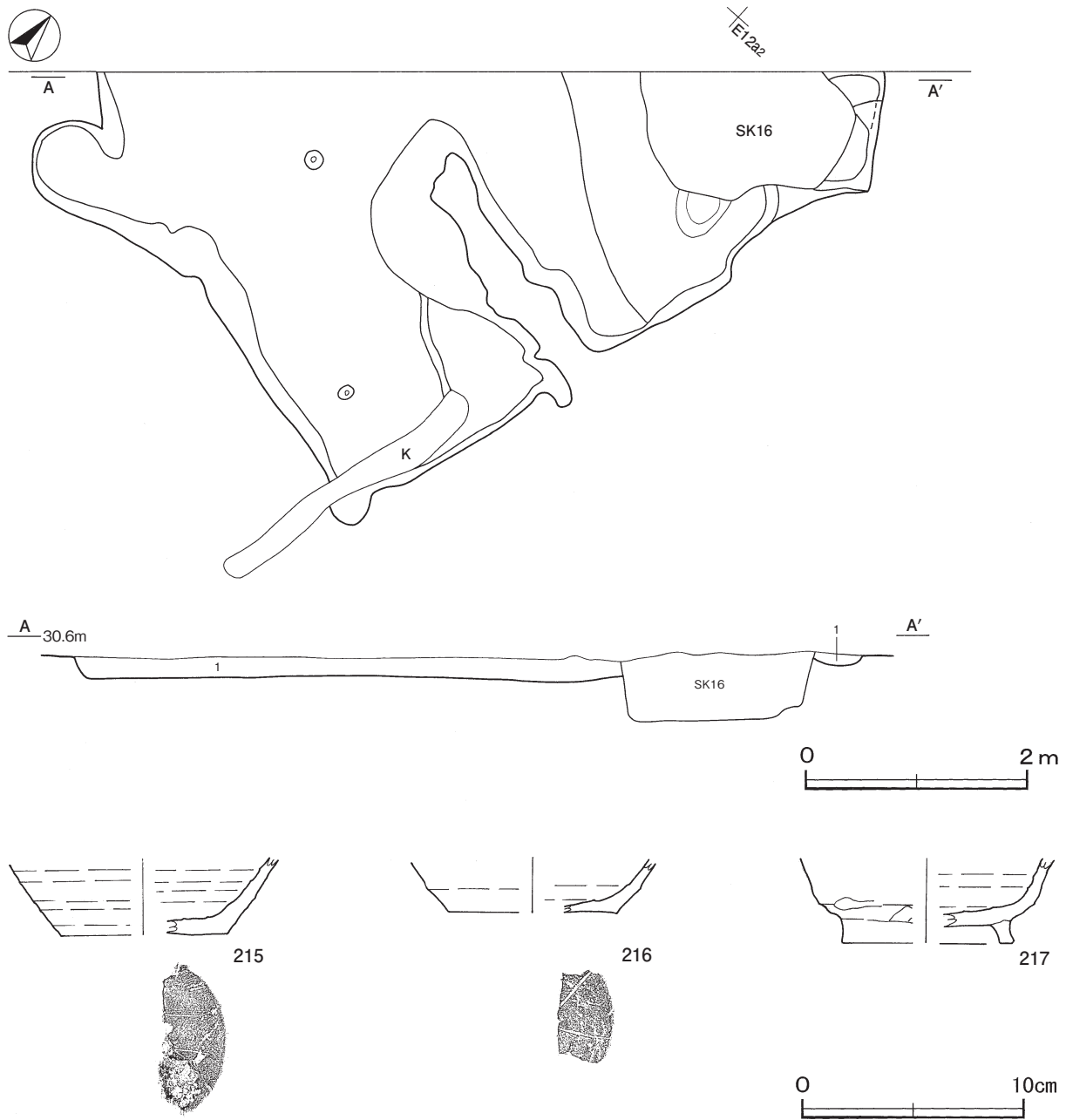
**覆土** 単一層である。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片63点（坏13, 甕50）, 須恵器片78点（坏55, 蓋4, 盤1, 瓶2, 高台付坏1, 甕15）が出土している。遺物は遺構全体に散在している。215・216・217は覆土中から出土している。また、流れ込んだ縄文土器片15点, 小磔9点も出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と考えられる。性格については不明である。



第136図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表（第136図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
215	須恵器	坏	—	(3.5)	[7.6]	石英・小磔・白色粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後多方向へのヘラ削り	覆土中	15% 底部ヘラ書き
216	須恵器	坏	—	(2.5)	[7.6]	小磔・白色粒子・黒色粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後一方向へのヘラ削り	覆土中	5% 底部ヘラ書き
217	須恵器	高台付坏	—	(3.9)	[8.0]	小磔・白色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中	25%



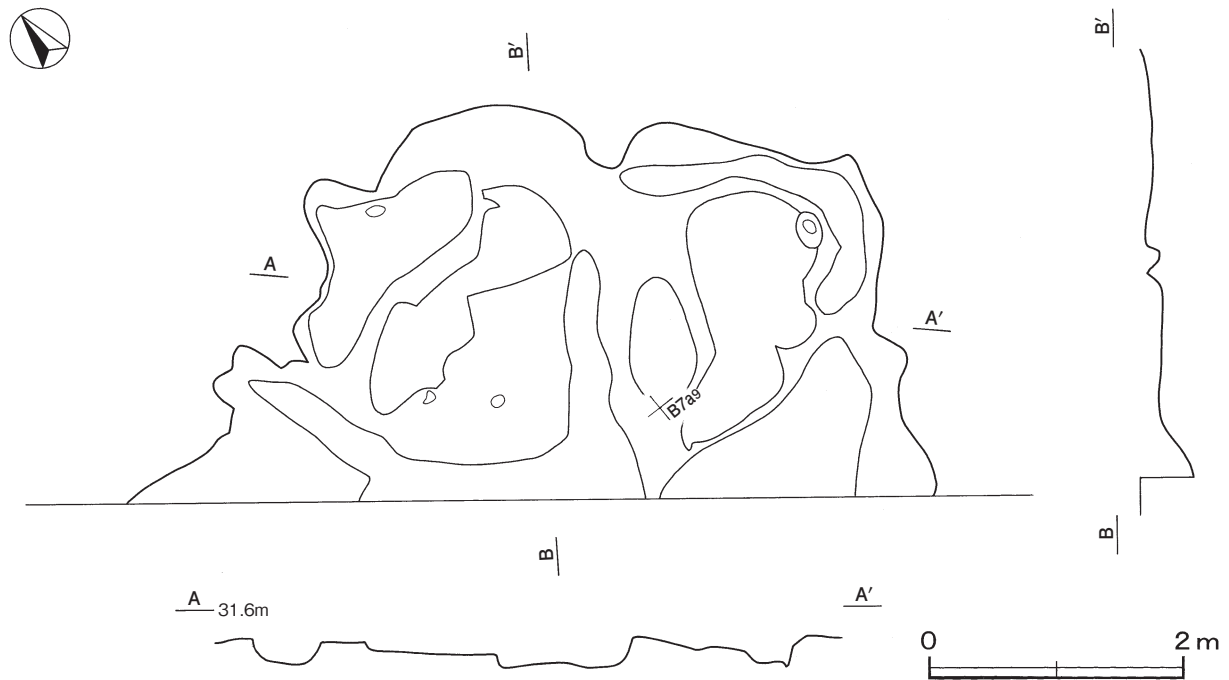
**第2号不明遺構（第137図）**

**位置** 調査区中央部のA 7j8区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 西側が調査区域外に延びているため、南壁は3.0mだけ確認された。東壁は6.4mである。形状は不定形で、南壁を長軸方向とすると主軸方向はN-51°-Wである。壁高は25cmで、ほぼ直立している。

**床** 凹凸がある。

**所見** 出土土器がないため、時期及び性格は不明である。



第137図 第2号不明遺構実測図

(7) 土坑

ここでは、第8・25・62・81号土坑について記述し、その他の時期及び性格が不明な132基の土坑については、実測図と一覧表で記載する。

**第8号土坑（第138図）**

**位置** 調査区中央部のC10a9区で、標高31.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号溝に掘り込まれている。

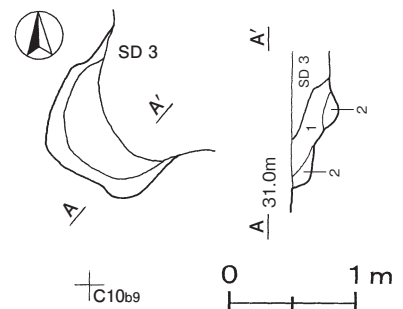
**規模と形状** 長径1.14m、確認できた短径0.55mの不整楕円形で、深さは38cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**所見** 時期は、重複関係から9世紀代以前と考えられる。



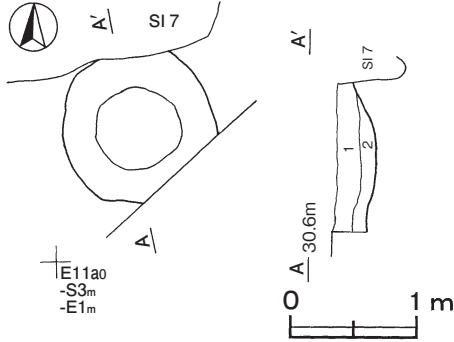
第138図 第8号土坑実測図

**第25号土坑 (第139図)**

**位置** 調査区南部のE11a0区で、標高30.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第7号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.20mの円形で、深さは30cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。



**覆土** 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

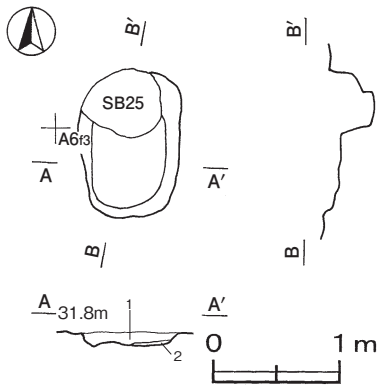
**遺物出土状況** 土師器片5点(坏1, 高台付坏1, 甕3), 須恵器片2点(坏, 甕)が出土している。

**所見** 時期は、重複関係から9世紀代以前と考えられる。

第139図 第25号土坑実測図

**第62号土坑 (第140図)**

**位置** 調査区北部のA6f3区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。



**重複関係** 第25号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.20m, 短径0.86mの楕円形で、長径方向はN-2°-Wである。深さは14cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

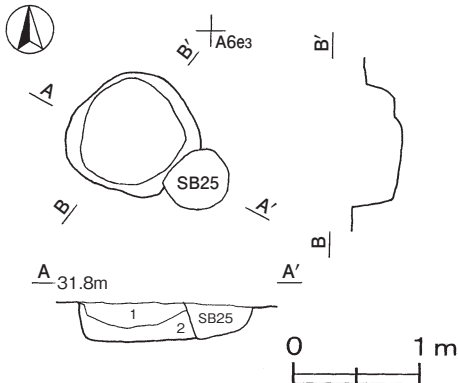
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・鹿沼パミス粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

**所見** 時期は、重複関係から9世紀代以前と考えられる。

第140図 第62号土坑実測図

**第81号土坑 (第141図)**

**位置** 調査区北部のA6e2区で、標高31.5mの台地平坦部に位置している。



**重複関係** 第25号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.08mの円形で、深さは34cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

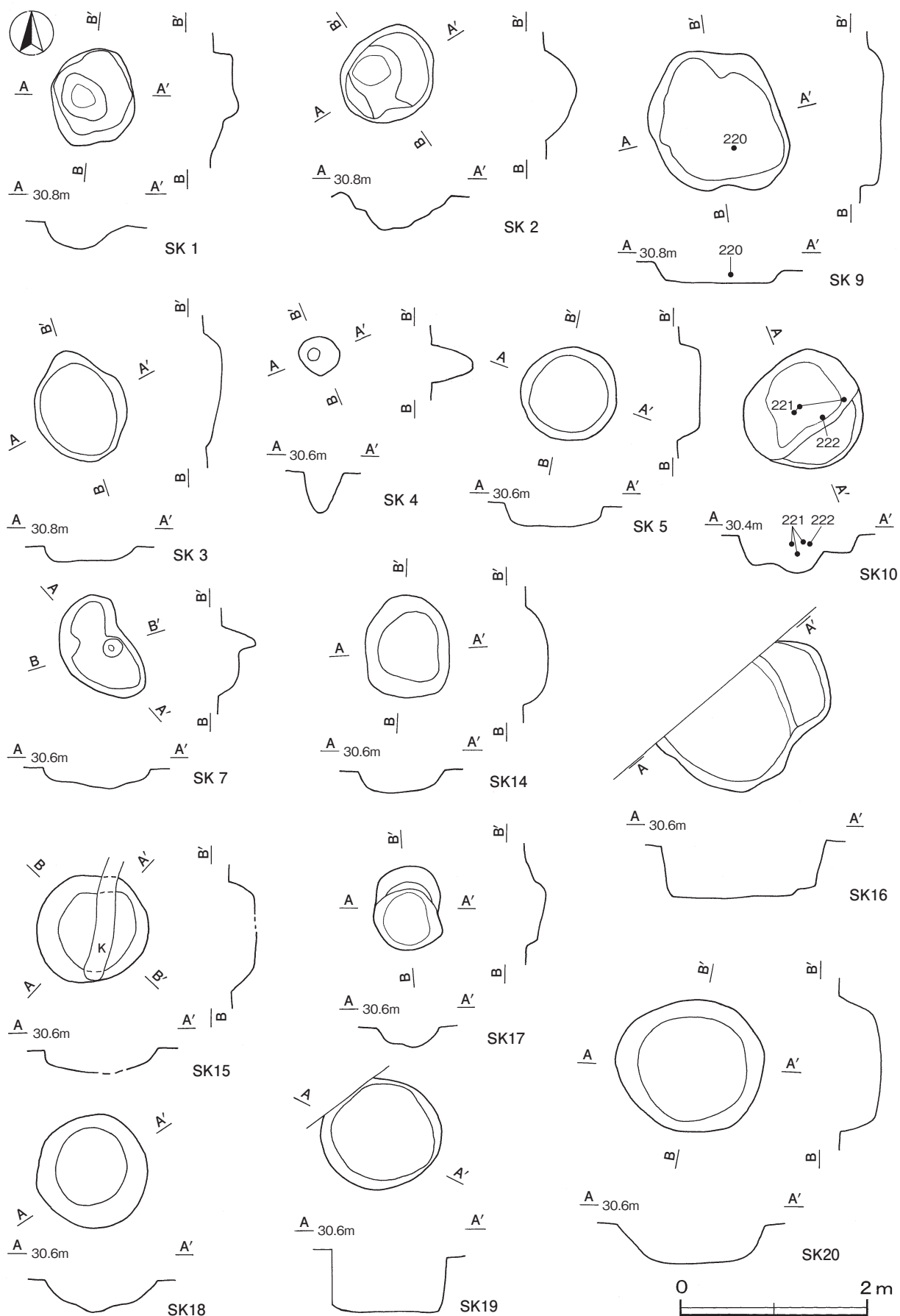
**覆土** 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

**土層解説**

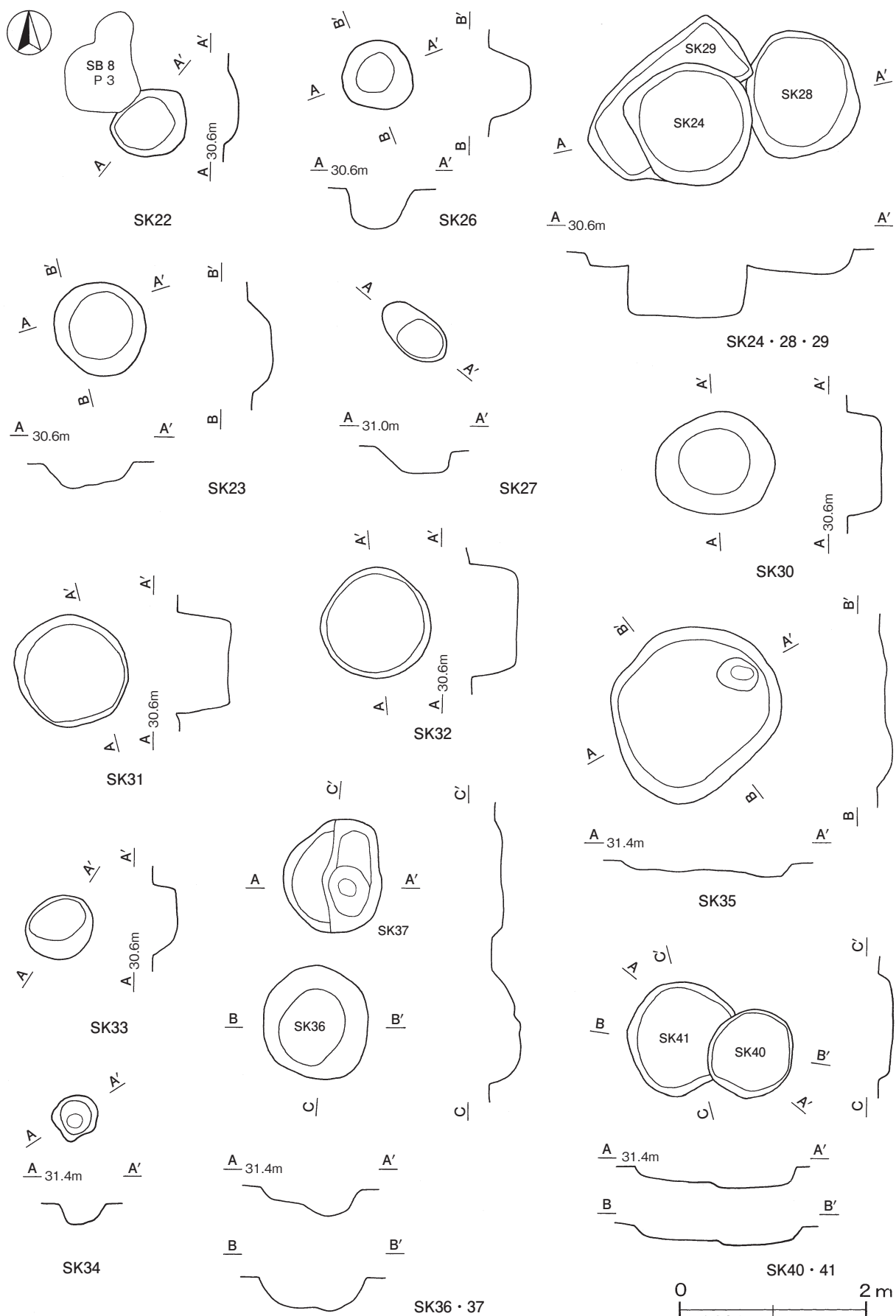
- 1 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量

**所見** 時期は、重複関係から9世紀代以前と考えられる。

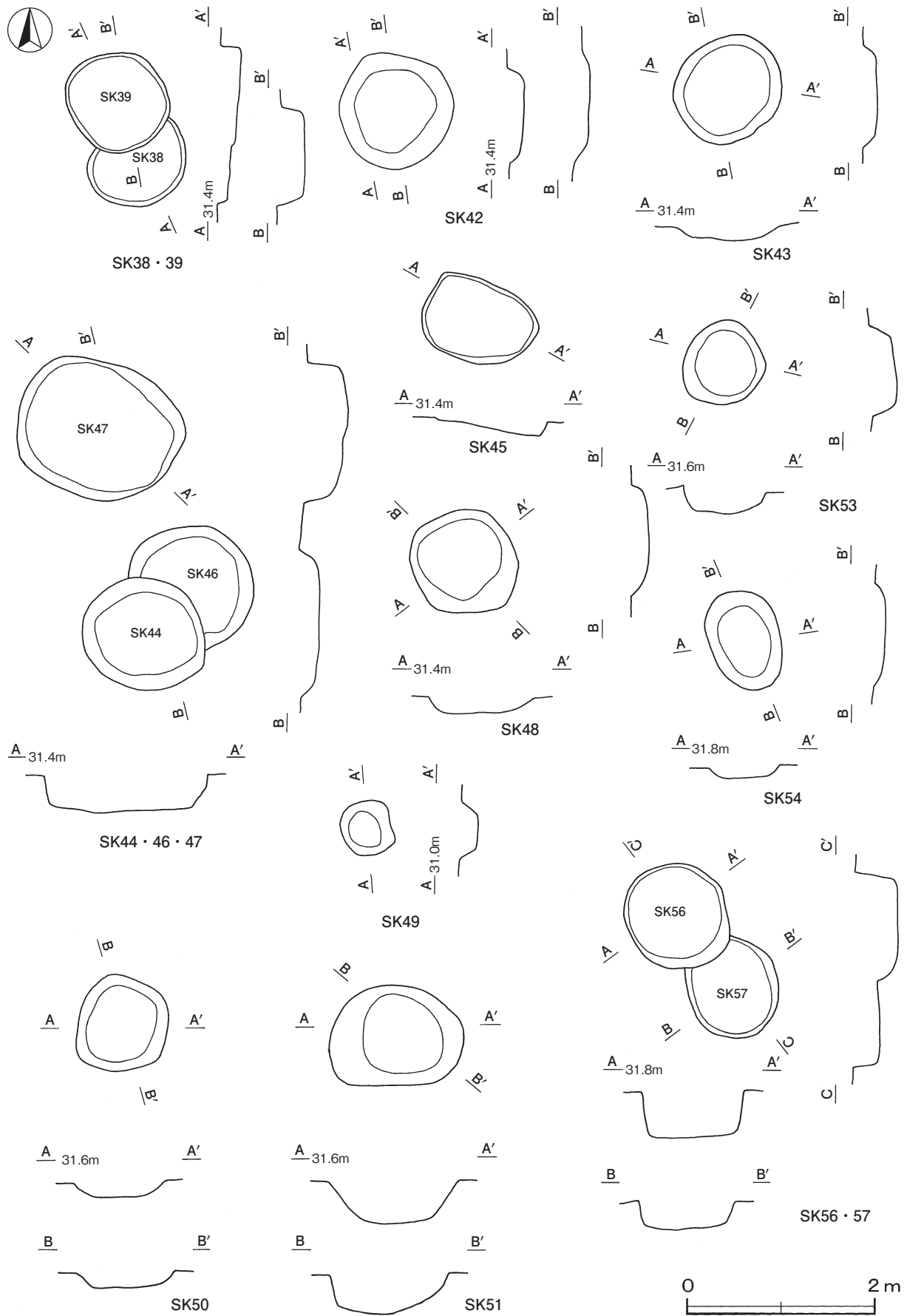
第141図 第81号土坑実測図



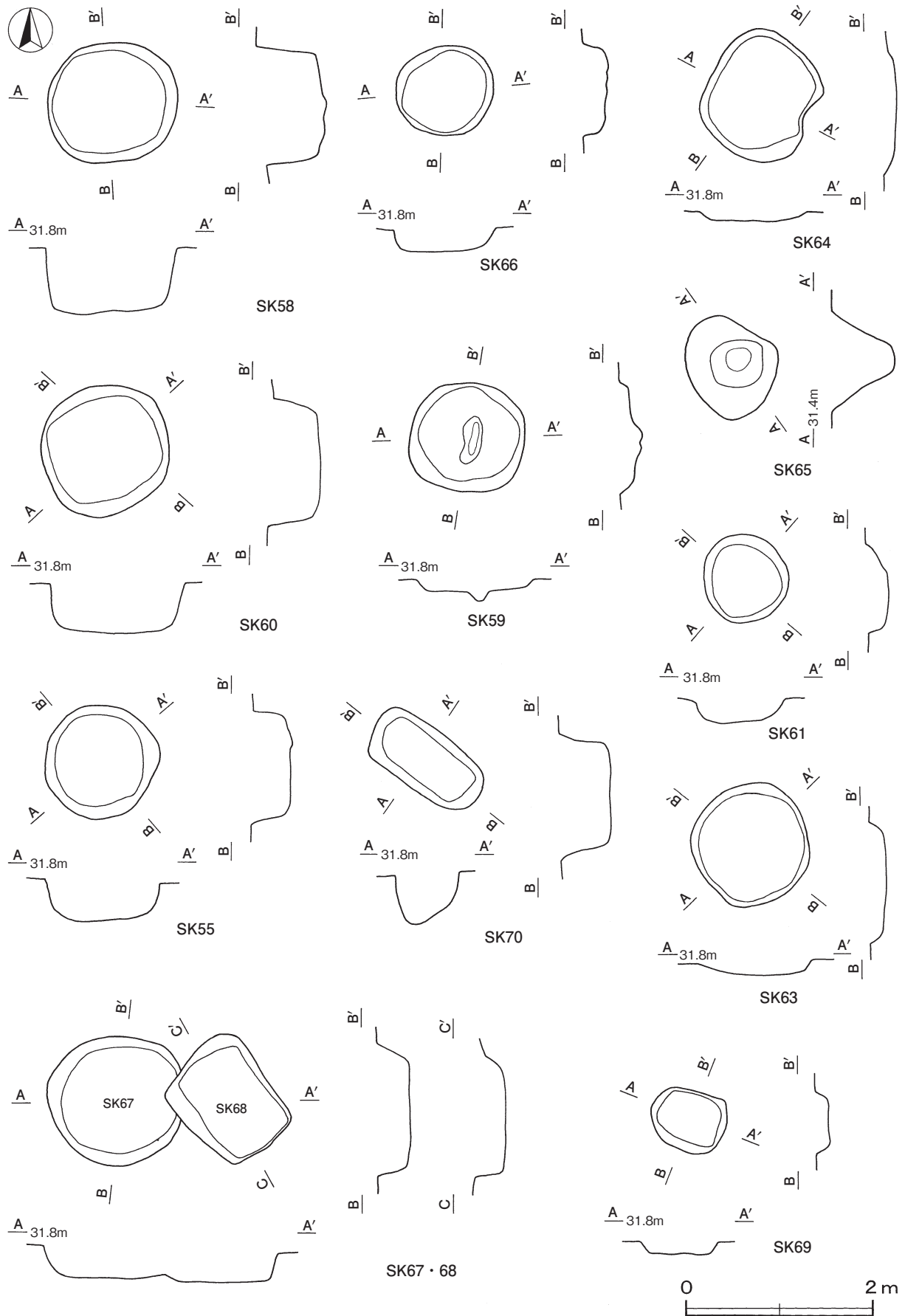
第142図 その他の土坑実測図(1)



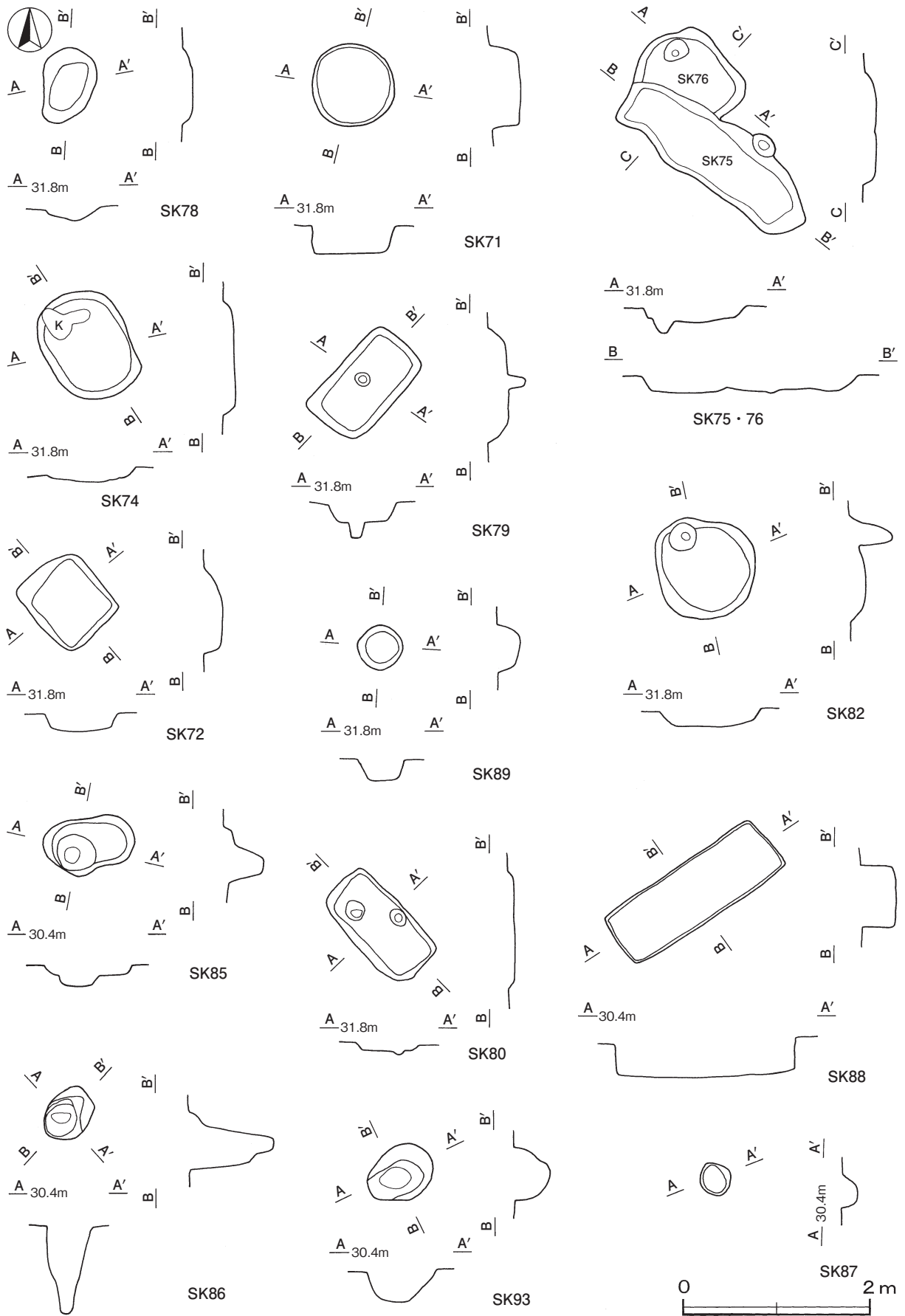
第143図 その他の土坑実測図(2)



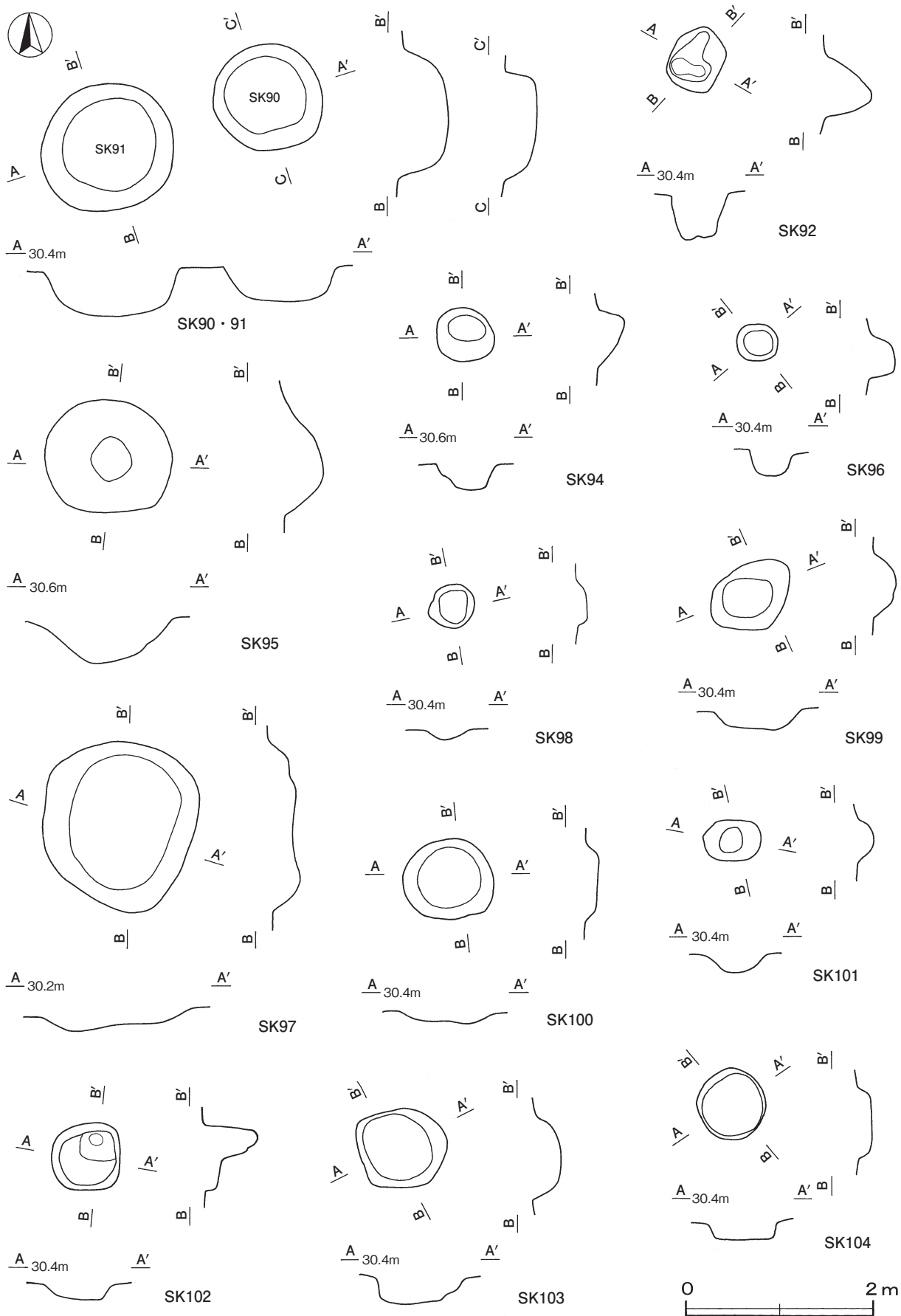
第144図 その他の土坑実測図(3)



第145図 その他の土坑実測図(4)

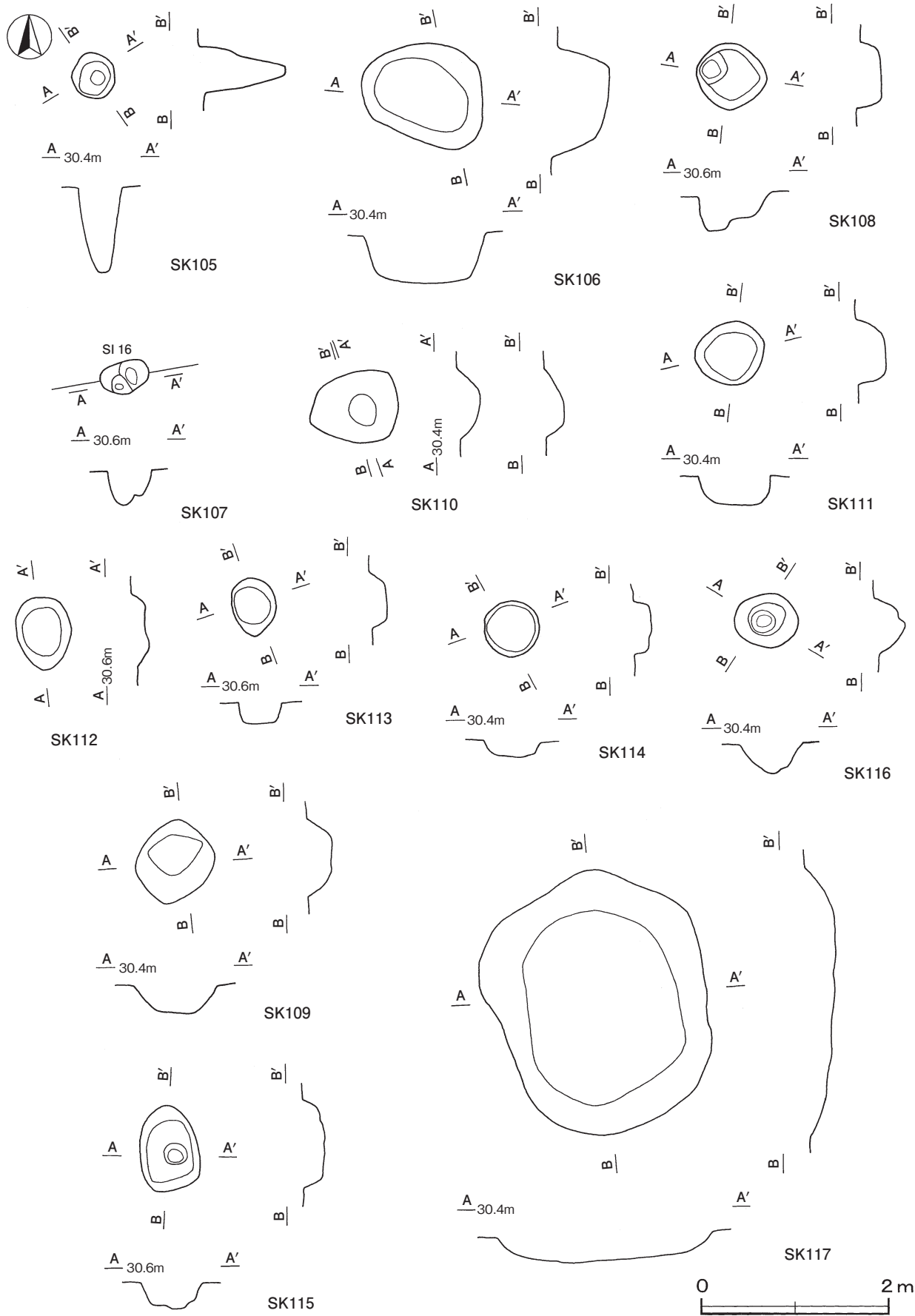


第146図 その他の土坑実測図(5)

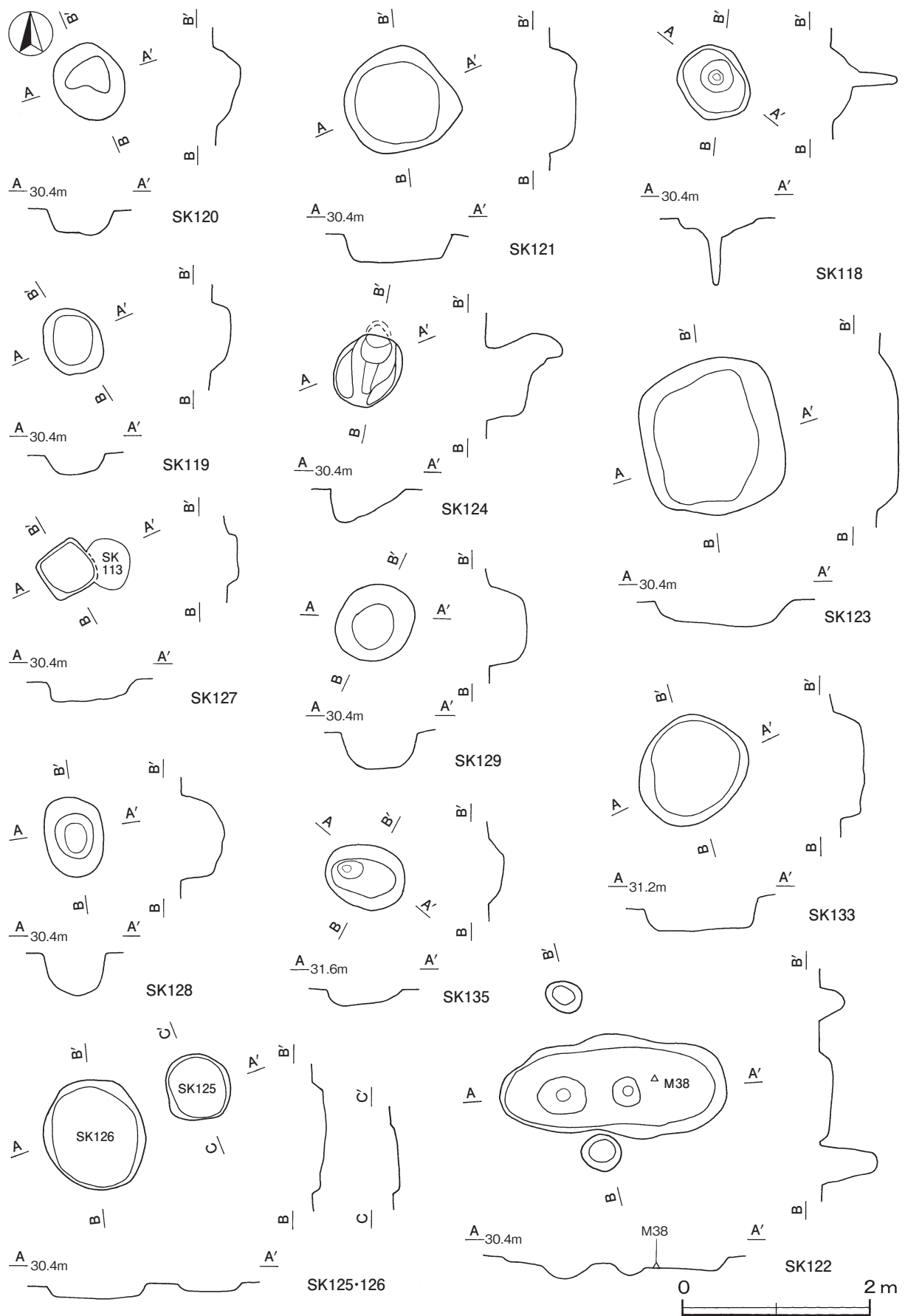


第147図 その他の土坑実測図(6)

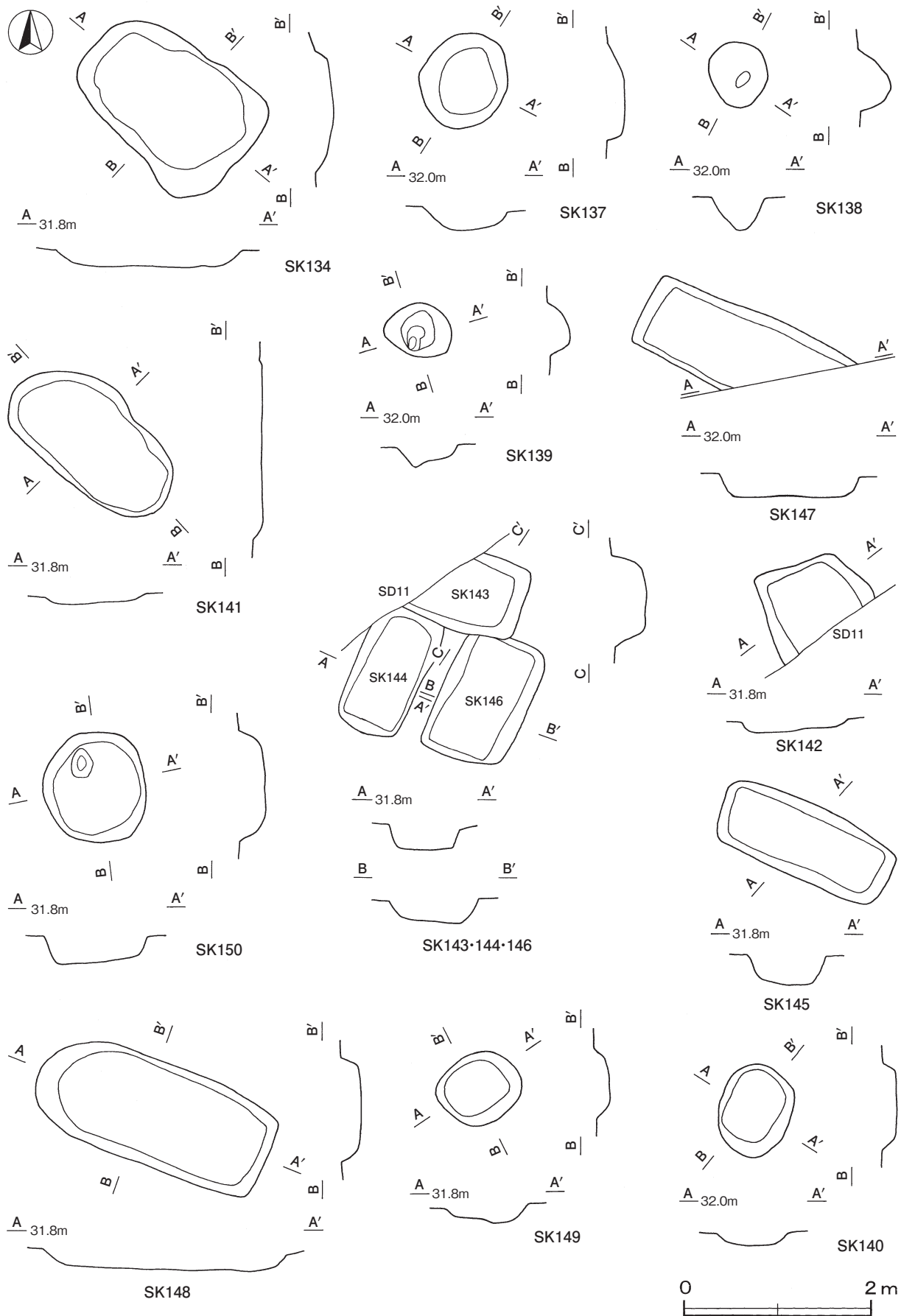




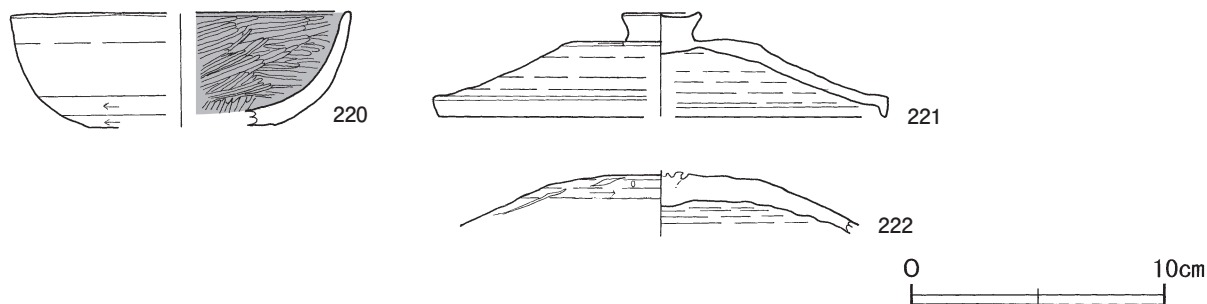
第148図 その他の土坑実測図(7)



第149図 その他の土坑実測図(8)



第150図 その他の土坑実測図(9)



第151図 第9・10号土坑出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
220	土師器	坏	[13.4]	(4.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内面黒色処理後ヘラ磨き	中央部覆土上層	20%

第10号土坑出土遺物観察表（第151図）

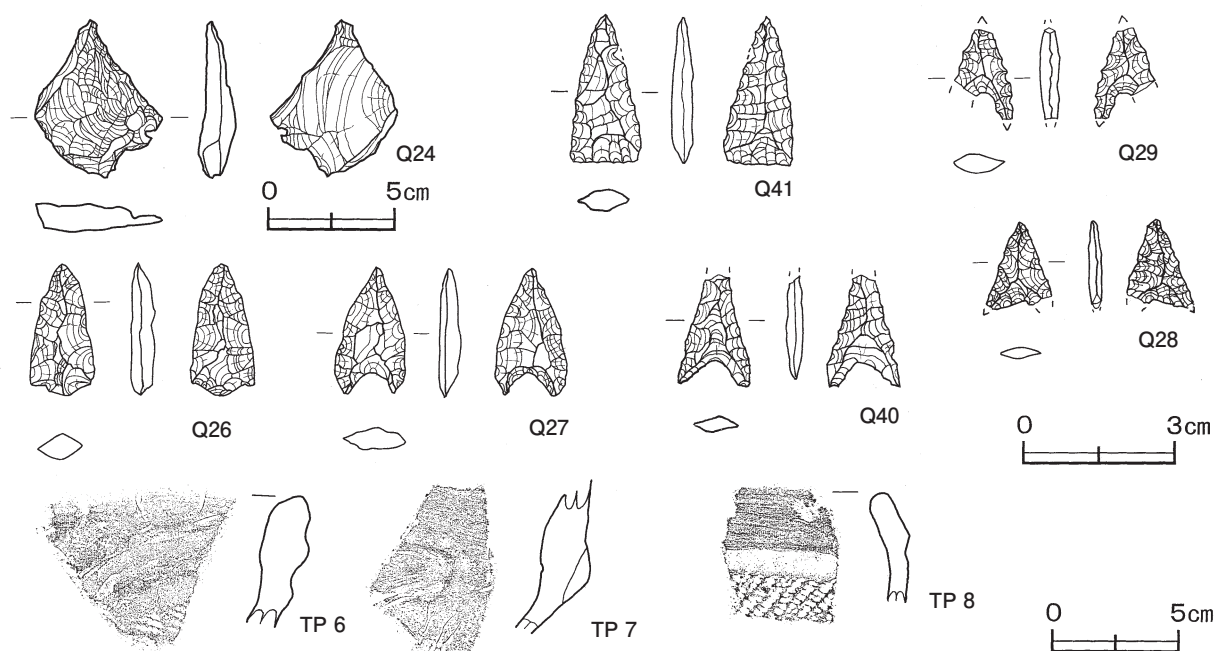
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
221	須恵器	蓋	[17.8]	4.1	—	小礫	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部覆土中層	60% PL19
222	須恵器	蓋	—	(2.6)	—	石英・雲母・小礫	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部覆土上層	55%

第122号土坑出土遺物観察表

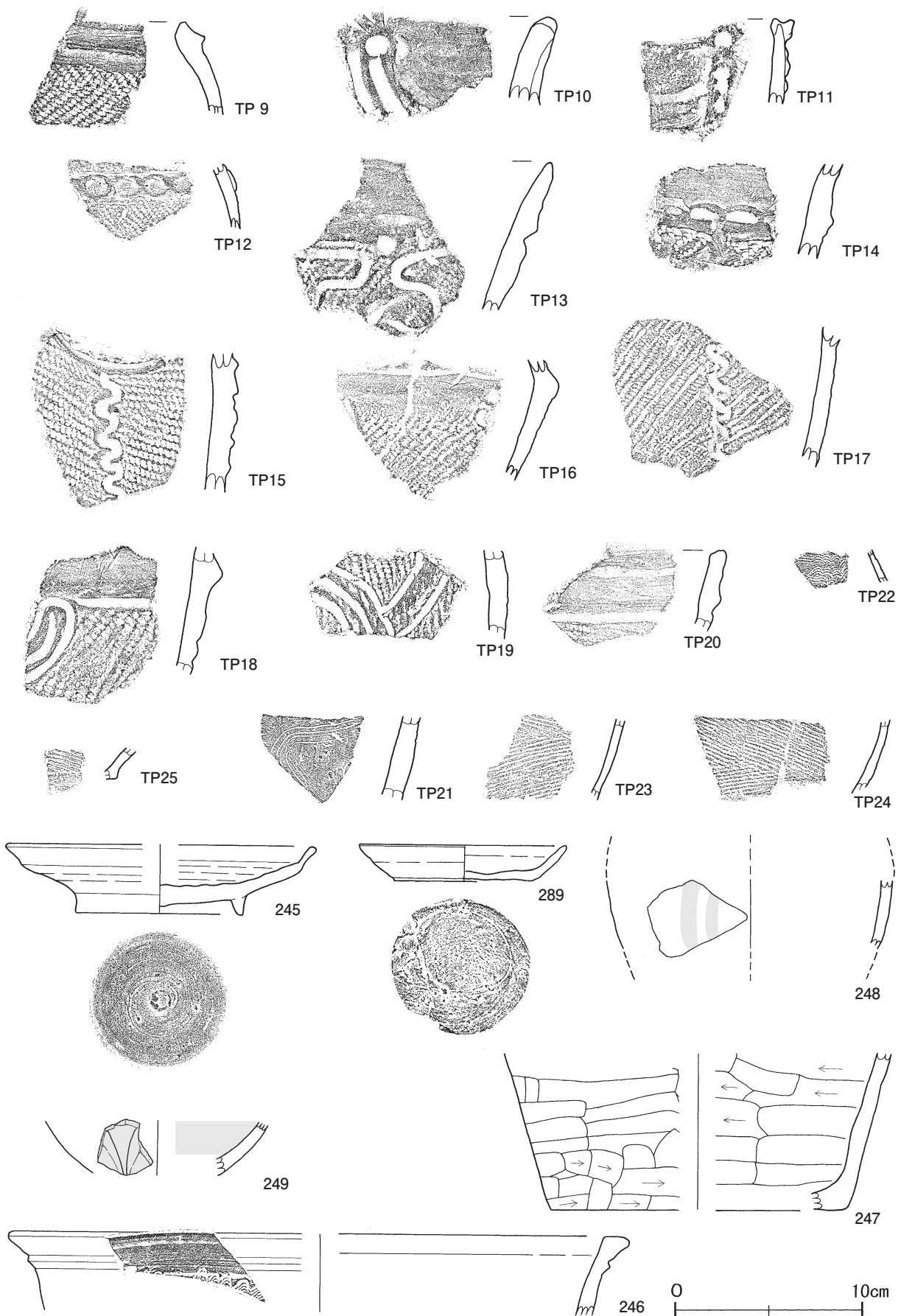
番号	器種	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M38	鈴	破片7点(0.81g)・珠1.04g	銅・金	銅地金貼	SK122底面	写真のみ掲載 PL27

(8) 遺構外出土遺物（第152・153・154図）

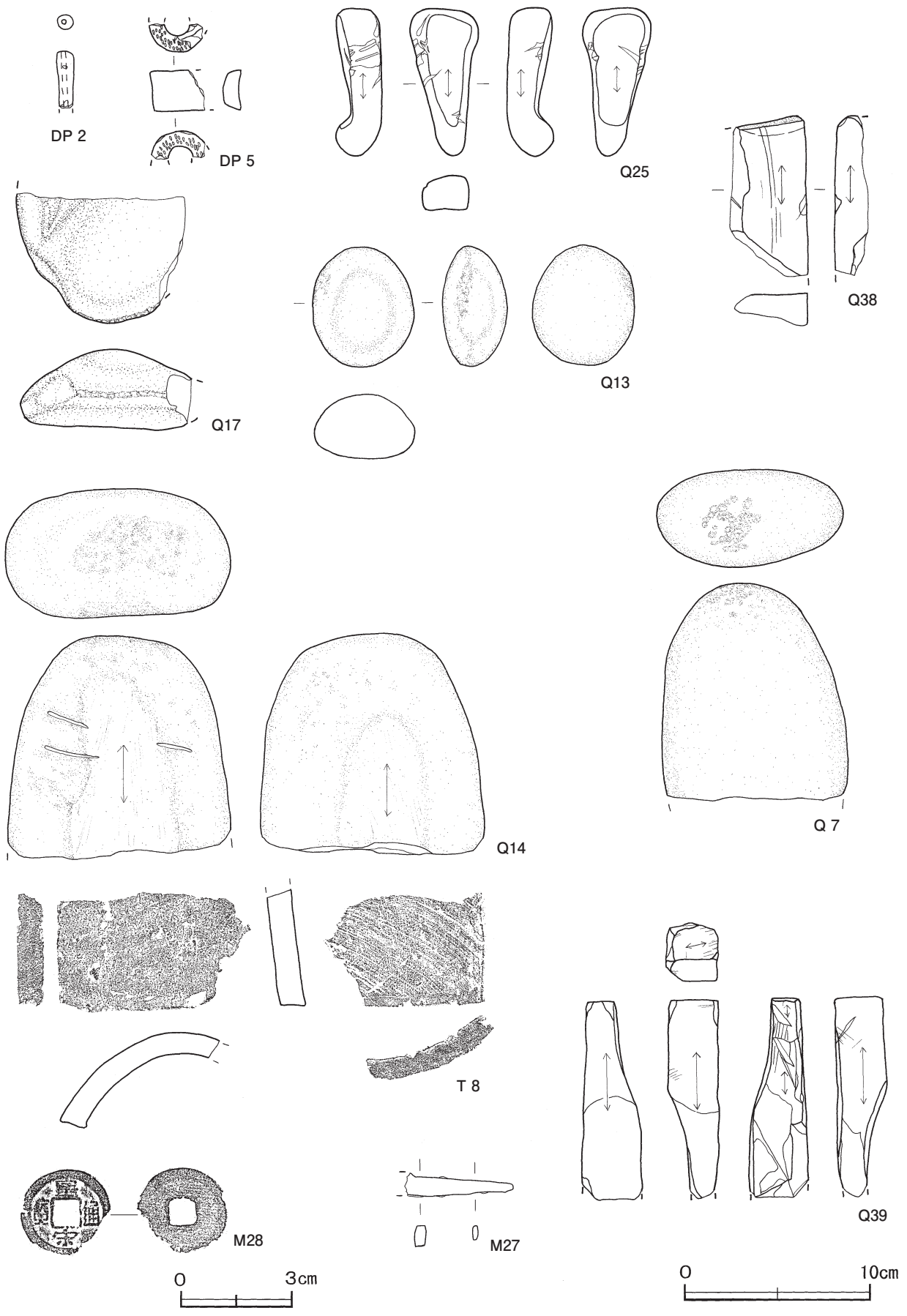
遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第152図 遺構外出土遺物実測図(1)



第153図 遺構外出土遺物実測図(2)



第154図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表（第152～154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
245	須恵器	盤	[16.4]	3.7	9.1	長石・小礫・海綿骨針	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	北部確認面	60%
246	須恵器	鉢	[33.2]	(4.3)	—	長石	褐灰	普通	口縁部2本の沈線 櫛描波状文	表採	5%
247	須恵器	甌	—	(8.5)	[16.0]	石英・小礫・白色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラ削り	表採	10%
248	灰釉陶器	長頸瓶	—	(3.7)	—	細砂	灰白	良好	体部外面掛け釉	表採	5% PL30
249	青磁	碗	—	(2.9)	—	緻密	灰白	良好	鑄蓮弁文	表採	5% PL30
289	土師質土器	小皿	10.8	1.9	7.4	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	北部表採	90% PL20

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP 6	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	雲母・小礫・黒色粒子	明赤褐	普通	口縁部を沈線で区画 区画内単節縄文施文	北部表土中	中期後葉 PL30
TP 7	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	口縁部隆帯貼付け	表採	中期後葉 PL30
TP 8	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	口縁部は沈線による区画 単節縄文施文	北部表土中	中期後葉 PL30
TP 9	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部は沈線による区画 単節縄文施文	SI 7 覆土中	中期後葉 PL30
TP10	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	隆帯上端に円形刺突文 沈線により文様描出	SI 7 覆土中	後期前葉 PL30
TP11	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	縦位の隆帯上に円形刺突文施文	SI 7 覆土中	後期前葉 PL30
TP12	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	雲母・小礫・黒色粒子	橙	普通	横方向の隆帯上に円形刺突文施文	SD 1 覆土中	後期前葉 PL30
TP13	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	石英・雲母・小礫	浅黄橙	普通	口縁部無文 口縁下端に円形刺突文 胴部沈線により文様描出	SI 7 覆土中	後期前葉 PL30
TP14	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	口縁部無文 胴部LRの単節縄文 横位の隆帯上に押し引き文施文	SK 6 覆土中	後期前葉 PL30
TP15	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	石英・雲母・小礫	灰黄	普通	LRの単節縄文を地文に蛇行沈線が垂下	SI 5 覆土中	後期前葉 PL30
TP16	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	石英・雲母・小礫	橙	普通	LRの単節縄文を地文に蛇行沈線が垂下	SX 1 覆土中	後期前葉 TP17と同一個体 PL30
TP17	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	LRの単節縄文を地文に蛇行沈線が垂下	SI 7 覆土中	後期前葉 TP16と同一個体 PL30
TP18	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英・小礫	橙	普通	隆帯下の胴部LRの単節縄文地文に「J」字状沈線施文	SI 7 覆土中	後期前葉 PL30
TP19	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	RLの単節縄文を地文に沈線区画内磨り消し	SI 7 覆土中	後期前葉 PL30
TP20	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部に沈線を沿わせた隆線 胴部単節縄文施文	SI 7 覆土中	後期前葉 PL30
TP21	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	石英・小礫・黒色粒子	褐灰	普通	櫛歯状工具による条線文施文	SI 5 覆土中	後期前葉 PL30
TP22	弥生土器	壺	—	(1.7)	—	雲母・小礫	灰黄	普通	頸部に櫛歯状工具(4本)による波状文	SK68 覆土中	後期後半 PL30
TP23	弥生土器	壺	—	(4.5)	—	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文を羽状構成	SK 2 覆土中	後期後半 TP24-25と同一個体 PL30
TP24	弥生土器	壺	—	(4.6)	—	長石・石英・小礫	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文を羽状構成	SK 2 覆土中	後期後半 TP23-25と同一個体 PL30
TP25	弥生土器	壺	—	(1.8)	—	石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文を羽状構成 底部砂痕	表採	後期後半 TP23-24と同一個体 PL30

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 2	管状土錘	(3.1)	0.9	0.25	(2.48)	砂粒	ナデ	SI7 覆土中	PL24
DP 5	耳飾	(1.5)	(2.9)	(1.6)	(7.25)	長石・石英	中央部穿孔 両側面刺突文	SI18 覆土中	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	敲石	(12.0)	10.2	5.3	(967)	砂岩	先端部敲打痕	SI 8 覆土中	PL26
Q13	磨石	6.5	5.5	3.5	173.9	石英礫	先端部敲打痕 表面に帯状の摩擦痕有り	SI10 覆土中	PL26
Q14	磨石	(12.2)	12.2	6.9	(1,540)	砂岩	砥石としても使用 砥面2面	SI10 覆土中	PL26
Q17	敲石	(7.2)	(9.3)	4.5	(324)	砂岩	先端部敲打痕	SI13 覆土中	
Q24	剥片	6.2	5.0	1.5	28.1	瑪瑙	縦長剥片	表採	
Q25	砥石	8.1	3.7	2.6	87.8	砂岩	砥面4面	表採	PL25
Q26	鎌	2.6	1.3	0.5	1.46	チャート	両面押圧剥離	SI 7 覆土中	PL26
Q27	鎌	2.5	1.4	0.4	1.14	瑪瑙	両面押圧剥離 基部の扱りは深い 側縁は曲線	SI 6 覆土中	PL26
Q28	鎌	(1.7)	(1.3)	0.2	(0.42)	黒曜石	両面押圧剥離 基部の扱りは浅い 側縁は直線	表採	PL26
Q29	鎌	(1.8)	(1.2)	0.4	(0.44)	流紋岩	凹基無茎鎌 両面押圧剥離 基部の扱りは深い 先端部・左基部欠損	SK27 覆土中	PL26
Q38	砥石	(8.7)	(4.2)	(1.8)	(85.90)	雲母片岩	砥面2面	表採	PL25
Q39	砥石	(10.8)	2.8	3.3	(117.70)	雲母片岩	砥面5面	表採	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q40	鎌	(2.2)	1.4	0.3	(0.44)	チャート	凹基無茎鎌 両面押圧剥離 基部の挟りは浅い 先端部欠損	表採	
Q41	鎌	2.9	1.4	0.4	1.20	チャート	平基無茎鎌 両面押圧剥離 側縁に欠損部有り	SI18覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	刀子	(6.0)	(1.3)	0.3~0.6	(13.9)	鉄	刃部欠損	中央区表土	PL26

番号	器種	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M28	皇宋通寶	2.49	0.71	2.24	1038	銅	一部欠損	表採	PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T8	平瓦	(6.5)	(10.0)	1.4	(119.6)	長石・石英	黄灰色 凹面布目痕 凸面・側面へラ削り	表採	PL30

表13 井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径×短径	深さ					
1	D11j9	—	円形	1.16×1.08	144	直立	—	人為	陶器片, 須恵器片	SI 7→本跡

表14 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模(m, 深さはcm)				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 新旧関係(旧→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ						
5	C10d9~C10f6	N-51°-E	直線	17.4	0.40~0.50	0.26~0.40	43~85	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片	9世紀以降	SF 1→本跡
6	H13e7~H13g4	N-65°-E	直線	17.80	1.45~2.42	0.62~0.93	28~35	緩斜	平坦	人為	土師質土器 灰釉陶器	9世紀以降	本跡→SK110
7	H13f7~H13g4	N-88°-W	直線	3.86	0.47~0.36	0.19~0.62	~32	外傾	平坦	人為	土師器 須恵器	平安時代以降	
9	G12a8~G12b6	N-60°-E	直線	5.58	1.76~1.32	0.34~0.97	28~30	緩斜	凹凸	人為	土師器 須恵器	平安時代以降	
11	A5b8~A4j5	N-60°-E	直線	62.0	150~0.66	1.16~0.31	41~68	外傾	平坦	人為	土師器 須恵器 土師質土器	中世以降	SK142, 143, 149, SD12→本跡→SK149
12	A4f4~A4j7	N-50°-W	くの字状	21.0	130~0.68	0.66~0.31	6~8	外傾	平坦	自然	土師質土器	中世以降	SD13→本跡→HT 2, SD11
13	A4h4~	N-63°-E	直線	2.89	0.66~0.51	0.30~0.52	2~6	緩斜	平坦	自然		不明	本跡→SD12

表15 ピット群一覧表

番号	位置	範囲(m)		柱穴数	柱穴平面形	規模(cm)			主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
		南北	東西			長径	短径	深さ		
1	A7h9~A8i1	5.6	7.0	33	円形 楕円形	20~50	15~45	8~68	土師器片 須恵器片	
2	A7e9~A8e2	4.0	9.5	17	円形 楕円形	22~45	20~42	7~48		
3	A6f8~A6h9	7.7	5.8	43	円形 楕円形	18~70	16~42	6~63		
4	A8g1~A8g4	6.9	9.5	45	円形 楕円形	18~48	16~36	8~68		
6	G12b0~G13c1	4.4	5.6	9	円形 楕円形	25~40	22~39	9~37	須恵器片	
7	A4g5~A5g9	7.8	19	9	円形 楕円形	29~45	23~34	14~34		
8	A4h0~A5h1	3.4	4.4	6	円形 楕円形	28~43	20~35	14~46		



表16 柱穴列跡一覧表

番号	位置	方向	柱穴数	柱穴平面形	長さ(m)	柱穴間距離(m)	径(cm)	深さ(cm)	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
1	D11g8~D11i9	N-8°-W	5	円形	7.4	1.00~2.48	40~68	28~50		
2	E12j4~E12i6	N-54°-E	5	円形	11.2	1.60~2.55	36~64	17~40		
3	A5g0~A6g1	N-64°-W	3	円形	3.9	1.00~1.74	28~48	17~27		第1号円形周溝状遺構→本跡
4	D11f4~D11g4	N-14°-W	2	円形	2.68	1.55	(48)~68	53		
5	E11d8~E11d9	N-30°-W	2	楕円形	3.3	2.22	45~68	15・48		
6	E12a3~E12b3	N-10°-W	2	円形 楕円形	4	2.72	48~68	13・17		
7	E12g2~E12h3	—	3	円形 楕円形	6.4	1.82~2.52	51~71	10~30		
9	H13e5~H13e6	N-83°-E	3	円形	7.5	1.50	41~47	25~61	須恵器片	

表17 円形周溝遺構一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	断面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				径	深さ					
1	A6g1	N-30°-E	円形	外径7.40 内径6.08	22	外傾	逆台形	—	土師器片 須恵器片	本跡→SB23, PR 3, SK61

表18 不明遺構一覧表

番号	位置	長径(長軸)方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	E12a1	N-48°-E	不定形	6.40×(4.80)	5~18	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	SK15→本跡→SK16
2	A7j8	N-51°-W	不定形	6.40×(3.00)	5~25	外傾	凹凸	不明		

表19 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	B10h5	N-19°-E	楕円形	1.12×0.98	34	外傾	皿状	人為	土師器片	
2	C10e0	N-60°-E	楕円形	1.12×1.0	36	緩斜	皿状	自然	土師器片 須恵器片	
3	C10f9	N-13°-W	楕円形	1.26×1.0	18	緩斜	平坦	自然		
4	C11g2	—	円形	0.44×0.44	66	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	
5	C10d6	—	円形	1.04×1.0	24	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	
7	C11h4	N-21°-W	楕円形	1.20×0.74	20~38	外傾	凹凸	人為	土師器片	
8	C10a9	—	不整楕円形	1.14×(0.55)	38	外傾	皿状	自然		本跡→SD 3
9	B10j8	N-36°-W	楕円形	1.68×1.38	20	外傾	平坦	自然	土師器片	
10	D11a6	—	円形	[1.32]×1.22	18~38	外傾	凹凸	自然	土師器片 須恵器片	
14	D11i0	N-2°-W	楕円形	1.10×0.90	24	緩斜	皿状	自然		
15	E12b1	—	円形	1.20×1.16	28	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片	本跡→SX 1
16	E12a2	N-52°-E	楕円形	1.90×(1.16)	62	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	SX 1→本跡
17	D11j0	N-2°-E	楕円形	0.93×0.70	20	外傾	皿状	自然	須恵器片	
18	E12e2	—	円形	1.24×1.18	36	緩斜	皿状	人為	土師器片 須恵器片	SB10→本跡
19	E11c9	—	円形	1.20×(1.12)	57	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SB 6→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
20	E11c0	—	円形	1.58×1.46	44	緩斜	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
22	E11a0	N-38°-E	楕円形	0.86×0.68	12	緩斜	皿状	自然		本跡→SB 8
23	E12e2	—	円形	1.04×1.00	30	緩斜	皿状	自然	土師器片 須恵器片	SB10→本跡
24	E12g3	—	円形	1.44×1.34	66	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SK28・29→本跡
25	E11a0	—	円形	1.20×1.20	30	緩斜	皿状	自然	土師器片 須恵器片	本跡→SI 7
26	D12j1	—	円形	0.76×0.76	66	外傾	皿状	自然	土師器片 須恵器片	
27	D11f6	N-48°-W	楕円形	0.82×0.64	27	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
28	E12g3	N-10°-W	楕円形	1.38×1.16	26	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	本跡→SK24・29
29	E12g2	N-45°-W	長方形	1.98×0.84	14	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	SK28→本跡→SK24
30	E12g4	N-4°-W	楕円形	1.30×1.12	37	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
31	E12f4	—	円形	1.20×1.20	58	外傾	平坦	自然	土師器片	SK12→本跡
32	E12j5	—	円形	1.20×1.18	52	外傾	平坦	—	土師器片 須恵器片	SB12→本跡
33	F12b5	—	円形	0.76×0.70	26	緩斜	平坦	人為	土師器片	
34	A 8g7	N-74°-W	楕円形	0.70×0.48	25	外傾	皿状	自然		
35	B 9d1	N-40°-E	楕円形	1.90×1.66	16	緩斜	凹凸	人為		
36	B 9c1	—	円形	1.24×1.14	36	緩斜	皿状	人為		
37	B 9c1	N-20°-E	楕円形	1.26×1.08	30	緩斜	皿状	人為		
38	B 8a4	—	[円形]	1.10×(0.70)	16	外傾	平坦	人為		本跡→SK39
39	A 8j4	—	円形	1.10×1.06	26	外傾	平坦	人為	須恵器片	SK38→本跡
40	A 8j4	—	円形	0.96×0.90	20	外傾	平坦	人為		SK41→本跡
41	A 8j4	—	[円形]	1.24×0.90	16	緩斜	平坦	人為		本跡→SK40
42	A 8i3	—	円形	1.26×1.20	22	緩斜	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
43	A 8j4	N-40°-E	楕円形	1.20×1.06	16	緩斜	平坦	人為		
44	A 8i4	N-68°-W	楕円形	1.40×1.20	20	緩斜	平坦	人為		SK46→本跡
45	A 8j5	N-60°-W	楕円形	1.18×0.88	16	緩斜	傾斜	人為		
46	A 8i4	—	[円形]	1.38×(0.74)	20	緩斜	平坦	人為		本跡→SK44
47	A 8h4	N-60°-W	楕円形	1.76×1.34	42	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
48	A 8g3	N-45°-W	楕円形	1.23×1.12	18	緩斜	平坦	人為		
49	D11f7	N-58°-W	円形	0.65×0.60	20	緩斜	平坦	—		
50	A 7i0	—	楕円形	1.08×0.96	18	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片	
51	A 7i0	N-90°	楕円形	1.53×1.08	40	外傾	皿状	人為		
53	A 7j0	—	円形	0.94×0.86	34	外傾	平坦	自然		
54	A 7e3	N-23°-W	楕円形	1.08×0.78	19	緩斜	皿状	人為	須恵器片	
55	A 7d6	—	円形	1.22×1.22	43	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
56	A 7g2	—	円形	1.18×1.08	50	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SK57→本跡
57	A 7h2	N-38°-W	[楕円形]	(1.00)×0.90	30	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SK56
58	A 7g1	—	円形	1.44×1.34	70	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SB20→本跡
59	A 6h0	—	円形	1.22×1.18	24	外傾	凹凸	人為	土師器片 須恵器片	
60	A 5f9	—	円形	1.46×1.38	54	外傾	平坦	人為		
61	A 5g0	—	円形	0.98×0.92	25	外傾	平坦	人為		第1号円形周溝遺構→本跡
62	A 6f3	N-2°-W	楕円形	1.20×0.86	14	外傾	平坦	自然		本跡→SB25
63	A 6f4	—	円形	1.38×1.30	28	外傾	凹凸	自然	土師器片	
64	A 6e3	N-17°-E	楕円形	1.40×1.10	12	緩斜	平坦	人為		
65	A 8h4	N-16°-W	楕円形	1.14×0.98	65	外傾	皿状	人為		
66	A 6f2	—	円形	1.06×1.00	28	外傾	凹凸	人為	土師器片 須恵器片	
67	A 6f2	—	円形	1.44×1.43	37	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	第3号火葬土坑→本跡→SK68

番号	位 置	長径方向	平面形	規 模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
68	A 6 f2	N-38°-W	隅丸長方形	1.26×0.98	30	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	SK67→本跡
69	A 6 f7	N-69°-W	楕円形	0.82×0.64	16	外傾	平坦	自然		
70	A 6 g7	N-53°-W	楕円形	1.36×0.66	54	外傾	平坦	人為	土師器片	
71	A 6 d2	—	円形	0.90×0.90	33	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片	
72	A 6 f6	N-39°-W	長方形	0.94×0.80	25	外傾	皿状	人為		
74	A 6 d4	N-25°-W	楕円形	1.20×0.92	16	外傾	平坦	人為		
75	A 6 c4	N-51°-W	不整形	2.34×0.74	16	外傾	平坦	人為		SK76→本跡
76	A 6 c4	N-61°-W	[楕円形]	1.20×(0.70)	30	外傾	凹凸	人為		本跡→SK75
78	A 6 f6	N-14°-E	楕円形	0.86×0.58	13	緩斜	皿状	人為		
79	A 6 e9	N-32°-E	隅丸長方形	1.20×0.70	40	外傾	凹凸	人為		
80	A 6 e9	N-35°-W	隅丸長方形	1.28×0.68	42	外傾	凹凸	人為		
81	A 6 e2	—	円形	1.08×1.08	34	外傾	平坦	自然		本跡→SB25
82	A 6 c3	—	円形	1.16×1.10	18	緩斜	凹凸	人為		
85	H13h4	N-75°-E	楕円形	0.96×0.54	40	緩斜	平坦	人為		
86	H13h4	N-42°-E	楕円形	0.62×0.46	94	外傾	平坦	自然		
87	H13b8	N-66°-E	楕円形	0.60×0.47	18	緩斜	皿状	—	土師質土器 須惠器片	
88	H13f5	N-55°-E	長方形	1.97×0.66	40	垂直	平坦	人為	土師質土器	
89	H13h9	—	円形	0.48×0.48	26	外傾	平坦	自然	土師質土器	
90	H13e6	—	円形	1.18×1.16	36	緩斜	平坦	自然	土師質土器 須惠器片	
91	H13e6	—	円形	1.48×1.46	50	緩斜	平坦	自然	土師質土器	
92	H13d6	N-24°-E	楕円形	0.70×0.56	50	外傾	平坦	人為	須惠器片	
93	H13c6	N-64°-E	楕円形	0.74×0.56	40	緩斜	平坦	人為		
94	H13h7	—	円形	0.66×0.58	28	外傾	平坦	人為	須惠器片	
95	H13g7	—	円形	1.42×1.34	42	緩斜	平坦	自然	土師質土器 須惠器片	
96	H13b5	—	円形	0.84×0.84	26	外傾	平坦	人為		
97	H13a2	N-25°-E	楕円形	1.74×1.64	22	緩斜	平坦	人為	土師質土器 須惠器片	
98	H13b3	N-80°-E	楕円形	0.52×0.48	12	緩斜	皿状	人為		
99	H13a3	N-69°-E	楕円形	0.92×0.72	26	緩斜	平坦	人為	土師質土器	
100	H13b3	—	円形	0.98×0.95	12	緩斜	平坦	自然		
101	H13a5	N-84°-W	楕円形	0.66×0.46	22	緩斜	皿状	自然	土師質土器	
102	H13a5	—	円形	0.72×0.72	20	外傾	平坦	人為		
103	H13a5	N-53°-W	円形	1.02×0.90	30	緩斜	平坦	人為		
104	G13i2	—	円形	0.72×0.72	16	外傾	平坦	人為	土師質土器	
105	H13i5	—	円形	0.42×0.38	92	外傾	平坦	人為	須惠器片	
106	H13h6	N-30°-W	楕円形	1.38×1.06	60	緩斜	皿状	人為	土師質土器 須惠器片 陶器片	SI17→本跡
107	H13h8	N-74°-E	楕円形	0.52×0.36	36	外傾	皿状	人為		SI16→本跡
108	H13f8	—	円形	0.76×0.70	28	外傾	平坦	人為		
109	H13d6	N-45°-E	楕円形	0.84×0.74	30	緩斜	平坦	人為		
110	H13g5	N-78°-E	楕円形	1.00×0.76	22	緩斜	平坦	人為	縄文土器片 土師質土器	SD 6→本跡
111	H13b6	N-66°-E	楕円形	0.78×0.70	30	外傾	平坦	人為		
112	H13b6	N-6°-W	楕円形	0.80×0.58	14	緩斜	平坦	自然		SF 2→本跡
113	H13a5	N-30°-W	楕円形	0.60×0.46	26	外傾	平坦	人為	土師質土器	SF 2, SK127→本跡
114	G13i5	—	円形	0.60×0.60	20	外傾	平坦	自然		SF 2→本跡
115	G13h4	N-5°-W	楕円形	0.92×0.62	24	外傾	平坦	人為		
116	G13j4	N-59°-W	楕円形	0.68×0.60	30	外傾	皿状	人為		
117	G12f0	N-5°-W	楕円形	2.88×2.26	28	緩斜	平坦	人為	土師質土器 須惠器片	

番号	位 置	長径方向	平面形	規 模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
118	H13a3	N-27°-W	楕円形	0.80×0.70	22	外傾	皿状	自然		
119	G13g3	N-33°-W	楕円形	0.74×0.62	22	外傾	平坦	人為	土師質土器	
120	G13f3	N-27°-W	楕円形	0.86×0.72	28	緩斜	平坦	人為		
121	G13f3	—	円形	1.14×1.12	30	外傾	平坦	自然	土師質土器 須恵器片	
122	G13e3	N-85°-E	楕円形	2.26×0.92	14	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片 鈴	
123	G12d9	N-25°-W	隅丸長方形	1.66×1.50	24	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片 土師質土器	
124	G13e1	N-26°-E	楕円形	0.78×0.68	48	緩斜	平坦	人為		
125	G12d0	N-45°-W	楕円形	0.74×0.66	10	外傾	平坦	人為		
126	G12d0	N-24°-W	楕円形	1.20×1.06	16	外傾	平坦	人為		
127	H13a5	N-30°-W	方形	0.54×0.54	24	外傾	平坦	自然		SF 2→本跡→SK113
128	H13a3	N-5°-W	楕円形	0.86×0.64	43	緩斜	皿状	人為	土師質土器	SI20→本跡
129	H13a3	N-27°-E	楕円形	0.84×0.76	39	緩斜	平坦	人為	須恵器片	SI20→本跡
133	A 3 j8	N-36°-E	楕円形	1.22×1.06	28	外傾	平坦	自然	縄文土器片 土師質土器陶器片	
134	A 3 g9	N-52°-W	隅丸長方形	2.00×1.28	14	緩斜	平坦	自然		
135	A 4 g1	N-74°-W	楕円形	0.86×0.68	15	緩斜	平坦	人為		
137	A 4 h6	N-33°-E	楕円形	1.06×0.92	20	緩斜	平坦	人為		
138	A 4 g6	N-20°-W	楕円形	0.72×0.60	34	緩斜	皿状	自然		
139	A 4 g7	N-49°-W	楕円形	0.70×0.58	20	緩斜	皿状	人為		
140	A 4 g8	N-14°-E	隅丸長方形	1.00×0.74	14	緩斜	平坦	自然		
141	A 4 f1	N-51°-W	楕円形	2.02×1.04	8	緩斜	平坦	自然		
142	A 4 i6	N-28°-W	[長方形]	1.18×(0.94)	14	緩斜	平坦	人為		本跡→SD11
143	A 4 j6	N-71°-W	[長方形]	0.86×(1.02)	34	緩斜	平坦	自然		SK146, 本跡→SD11, SK144
144	A 4 j6	N-33°-E	[長方形]	(1.36)×0.98	22	外傾	平坦	自然		SK143→本跡→SD11
145	A 4 j6	N-63°-W	長方形	1.44×0.76	34	緩斜	平坦	—		
146	A 4 j6	N-25°-W	長方形	1.94×0.82	24	緩斜	平坦	自然		本跡→SK143
147	A 4 j9	N-67°-W	[長方形]	(1.70)×0.96	30	緩斜	平坦	人為		
148	A 4 i8	N-67°-W	隅丸長方形	2.62×1.10	22	緩斜	平坦	人為		
149	A 4 h8	N-52°-E	楕円形	0.83×0.75	20	緩斜	平坦	自然		SD11→本跡
150	A 5 f1	—	円形	1.20×1.10	30	外傾	平坦	人為	縄文土器片	

## 第4節 ま と め

今回の調査で、縄文時代の竪穴住居跡2軒、土坑1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡22軒、掘立柱建物跡25棟、溝跡5条、道路跡2条、土坑6基、中・近世の方形竪穴遺構2基、火葬土坑4基、墓坑1基、土坑3基、時期不明の井戸跡1基、溝跡7条、土坑136基、ピット群7か所、柱穴列跡8条、円形周溝遺構1基、不明遺構2か所を確認した。また、これらの遺構とともに、各時代を特徴づける土器や石製品などが出土し、当遺跡が縄文時代から中・近世にかけての複合遺跡である事が明らかになった。ここでは、当遺跡の主体である奈良・平安時代を中心に特筆すべき点を取り上げながら各時代の概要を述べ、まとめとする。

### 1 縄文時代

調査区南部に竪穴住居跡2軒、土坑1基が確認された。時期は、出土した土器から縄文時代後期前半（堀之内式期）に比定される。当遺跡周辺的那珂川を望む那珂台地縁辺部には、東木倉遺跡や西木倉遺跡が所在し、縄文時代中期及び後期の土器片が採集されている<sup>1)</sup>。今回の調査においても同様の、縄文時代中期後葉から後期後半にかけての土器片が採集されているため、中期から後期にかけての集落の可能性が推測される。

### 2 奈良・平安時代

#### (1) 時期の区分

ここでは出土土器から時期区分を行い、集落の変遷をたどっていきたい。なお、年代観については、「木葉下遺跡Ⅱ（窯跡）」<sup>2)</sup>、「木葉下窯跡群産坏AⅠの変化について」<sup>3)</sup>をもとにした。

#### 第1期（8世紀後葉）

久保山遺跡における集落の成立期である。本期には、竪穴住居跡4軒（第3・9・10・18号竪穴住居跡）、掘立柱建物跡3棟（第1・7・8掘立柱建物跡）が該当する。主な出土遺物は土師器（甕）、須恵器（坏、高台付坏、蓋、盤）、石器（砥石）、鉄製品（鎌）である。中央部の第3号住居跡からは漆の付着した須恵器坏が出土している。中央部から南部にはN-87°-Eの方向にほぼ軸をそろえた掘立柱建物跡3棟が位置している。このうち第1号掘立柱建物跡は4間×2間で面積が38㎡あり、もっとも大きな建物跡である。3棟とも側柱建物跡で、倉庫的な機能を持っていたと考えられる。これまで集落のなかった地域であり、他地域からの集団的な移住と定着が考えられる。

#### 第2期（9世紀前葉）

本期には、竪穴住居跡9軒（第4・6・11・16・17・19・21～23号竪穴住居跡）、掘立柱建物跡6棟（第3・5・13・14・22・24号掘立柱建物跡）が該当する。主な出土遺物は土師器（甕、鉢）、須恵器（坏、高台付坏）、紡錘車、石器（砥石）である。中央部では第1号道路が側溝とともに機能し始める時期である。南の第1号溝と北の第2号溝に囲まれた幅約130mの区画の間には、竪穴住居跡1軒と掘立柱建物跡4棟が存在している。第5・13・14号掘立柱建物跡はN-78°-Eの方向で、二つの溝と軸線をそろえて存在している。第9号竪穴住居跡からは「丈家」とヘラ書きされた土器が出土している。北部には第4号住居跡と第22号掘立柱建物跡がN-20°-Wの方向で軸線をそろえて位置している。また、ほぼ軸をそろえる第22・24号掘立柱建物跡が存在し、周辺にも集落が広がっている可能性が考えられる。

#### 第3期（9世紀中葉）

本期には竪穴住居跡7軒（第1・2・5・7・12・13・15号竪穴住居跡）、掘立柱建物跡12棟（第2・6・9・

10～12・15・17・19・21・23・25号掘立柱建物跡)が該当する。主な出土遺物は土師器(坏, 高台付坏, 甕), 須恵器(坏, 高台付坏, 蓋, 鉢, 盤, 短頸壺, 長頸瓶, 甕), 紡錘車, 鉄製品点(刀子, 鎌, 釘, 鎌カ), 瓦片, 石器(砥石)である。

第1・2号溝は自然堆積する中で機能を失っているが, 第1号道路は引き続き存在する。また機能を失った第1号溝跡を掘り込み, 第2号道路がN-36°-Wの方向で造られる。

第1号道路跡の北側には第1・2・12・13・15号住居跡が存在している。この中で第2号住居跡からは鉄製品(刀子, 鎌, 釘, 不明鉄製品), 丸瓦片, 砥石, 漆附着土器などが出土している。北壁と南壁に壁柱穴を持ち, 特異な上屋構造が考えられる。第12号住居跡からは鉄製品(刀子, 鎌), 赤彩の紡錘車, 長頸瓶などが出土している。この2軒の住居跡は, 出土した遺物や住居の構造に他の住居跡からの優位性が感じられる。また, 第23号掘立柱建物跡からは, 「□家」と墨書された土師器高台付坏が出土しており, 南側に位置する第15号住居跡との関連性が考えられる。

第1号道路跡の南側には, 第7号住居跡の周辺に3間×2間の第6・9・12号掘立柱建物跡, 2間×2間の第2号掘立柱建物跡が位置する。第7号住居跡は長軸が7mを超える大形住居跡であり, 棚状施設や壁柱穴を持つ住居形態も集落内における優位性が感じられる。また, 出土遺物として多量の土師器, 須恵器片とともに瓦片や砥石, 釘が出土している。また, 「宅」と書かれたと考えられる墨書土器が出土している。稲田義弘氏は「『宅』の出土している住居跡は概して大形住居と多数の掘立柱建物で構成され, 豊富な施釉陶器や鉄器類を保有していることなど, いわゆる一般集落を優越している点で共通している。」と論じている<sup>4)</sup>。第7号住居跡も周辺の掘立柱建物跡の中心に位置し, 厨的な性格を持っていたことが推測される。

#### 第4期(9世紀後葉)

本期には第6・11～13号土坑が該当する。調査区域からは第6・11・12・13号土坑が存在するだけで, 竪穴住居跡, 掘立柱建物跡は確認されていない。4基の土坑はN-40°-Wの方向で, 南北に並んでいる。第6・13号土坑の間には18.4mの間隔があるが, 第12・13号土坑間は14m, 第11・12号土坑間は7mである。4基の土坑は, 長軸2.94～3.64m, 短軸2.50～3.20mの隅丸長方形で, 壁が内傾気味に立ち上がっているなどの共通点がある。遺物としては9世紀後葉から10世紀前葉の土師器や須恵器, 瓦片, 刀子等が出土しているが, 土坑の性格は不明である。

以上, 奈良・平安時代を4時期に分けて集落の変遷をたどったが, 課題となるのは3期には充実期を迎え, 大形の竪穴住居と掘立柱建物が併存する集落が, 4期には消滅していく点である。律令体制下における他地域からの集団的な移住と定着, さらに再移動という動きは, 周辺の拠点集落から開拓のために人が移動し短期的な集落が作られたことも想像される。しかし, 拠点集落の特定や再移動先など考えていかなければならない課題が多くある。

	竪穴住居跡	掘立柱建物跡
8世紀後葉	3・9・10・18	1・7・8
9世紀前葉	4・6・11・16・17・19・21～23	3・5・13・14・22・24
9世紀中葉	1・2・5・7・12・13・15	2・6・9・10～12・15・17・19・23・25

奈良・平安時代 竪穴住居跡・掘立柱建物跡 時期分類表

#### (2) 出土遺物について

石器・石製品は31点(磨石3, 敲石3, 鎌6, 剥片2, 砥石12, 紡錘車2, 支脚2, 火打石1)である。

紡錘車、支脚、竈切石はすべて泥質凝灰岩製である。泥質凝灰岩は那珂川流域産と考えられ、重量が軽くやわらかいため、加工しやすく製品として使用しやすかったものと考えられる。矢野徳也氏の鑑定によると酸性凝灰岩製の砥石は、久慈川水系の諸沢川流域産の石である可能性が高く、ひたちなか市武田石高遺跡から出土した同時代の砥石とよく似ていることがあげられる。佐々木義則氏は、9世紀に郡衙を拠点とする砥石の流通ルートを指摘しており<sup>5)</sup>、これらの遺物は、佐々木氏の指摘を裏付けるものと考えられる。また千枚岩製の紡錘車は、日立市南東部に産地が求められる。

金属製品は29点（刀子8、釘11、鎌4、鎌1、火打金1、不明4）である。鉄製品の出土について遺構別に分類してみると、竪穴住居跡から22点、掘立柱建物跡から4点、土坑から3点出土しており、竪穴住居跡からの出土が多い。

### (3) 棚状施設について

第4・7号住居跡からは棚状施設が確認されている。両住居跡とも北壁中央部の竈の西側に設けられている。その構築状況は、竪穴住居を掘り込んだ後に竈袖部と同じ砂質粘土を貼り付け構築しているものと考えられる。桐生直彦氏の構造分類による「充填タイプ」にあてはまる<sup>6)</sup>ものと考えられる。また、第4号住居跡の棚状施設は竪穴壁の内側に設けられている「インタイプ」であるが、第7号住居跡の構造は竪穴壁よりも外側に張り出しているアウトタイプのものと考えられる。

### (4) 文字資料について

今回の調査で確認された文字資料は33点である。そのうち墨書が32点、刻書が1点である。第7号住居跡からの「宅」と考えられる墨書土器は、県内では厨台遺跡、古峰B遺跡、茨城廃寺跡、島名熊の山遺跡の4遺跡から出土している<sup>6)</sup>。前述したようにいずれも大形住居跡と多数の掘立柱建物跡で構成され、農業経営の拠点に関わる施設から出土していると推測できる。また、第23号掘立柱建物跡からは、「□家」と墨書された土師器高台付坏が出土している。

第9号住居跡からは「丈家」と底部に篋書された須恵器坏が出土している。丈部は、田谷遺跡や台渡里廃寺跡長者山地区I出土の文字瓦に篋書きが見られる。この中の「□丈部里丈部□」という篋書から、丈部たちが丈部里に居住していたことが知られるが、台渡里廃寺跡出土の文字瓦に「阿波丈部里」の篋書もあることから、丈部里は阿波郷（現在の城里町北部）内の里であったことが推定されている<sup>7)</sup>。久保山遺跡出土の「丈家」は1点だけであり、これらの「丈部」との関連性については今後の課題である。

第17号住居跡、第18号住居跡からは「吾提」カと墨書された須恵器坏・土師器高台付坏が出土している。当遺跡の北東約1kmには、後台という字名があり関連性が考えられる。

## 3 中・近世

中・近世の遺構としては、方形竪穴遺構2基、火葬土坑4基、墓坑1基、土坑3基が確認された。ここでは、遺構と出土遺物について述べたい。

### (1) 墓坑について

調査区北部に4基の火葬土坑が確認された。平安時代の集落が移動した後、中世に墓域として利用されていたものと考えられる。壁面が赤く焼けたT字形をした火葬土坑は、島名熊の山遺跡など県内各地に類例が見られる。

第1号墓坑からは、土師質土器の小皿1点、陶器の円筒香炉1点、白磁小皿1点、磁器の染付皿1点、柄鏡1点が出土している。柄鏡の柄部は欠損しており、破断面は研磨されている。図案は「波入扇面流し」

である。下辺部から右上部にかかる波間に2面の扇が描かれている。左側に「藤原光長」の銘がある。江戸時代の女性の主な化粧用具には「紅皿・白粉解き・柄鏡・毛抜き」がある<sup>8)</sup>。本跡からは白磁小皿、染付け皿、柄鏡が出土していることから被葬者の遺品と考えられ、女性の墓坑であると推測される。「藤原光長」の銘がある柄鏡は、江戸中期に類例が見られ、「竹林双雀図柄鏡」・「猩々図柄鏡」などがある<sup>9)</sup>。本跡の北西部に位置する第134号・141号土坑は、出土遺物はないが遺構の様相から墓坑と考えられる。このことから調査区北部は、近世においても墓域として利用されていると考えられる。

## (2) 土坑と出土遺物

第132号土坑の側面及び底面の土層には、少量の粘土が確認されているが、意図的に貼り付けられたものかは不明である。出土遺物としては、土師質土器（小皿）、陶器（丸碗）、土製品（埴埜）、石器（砥石）、金属製品（煙管、柄勺、小柄）が出土している。

埴埜の口縁部及び体内・外面は部分的にガラス状の付着物があり、口縁部と内部には緑青が付着していることから、銅の溶解に使用していたものと考えられる。隣接する第131号土坑には、火熱を受けて赤変硬化した焼土塊が、長さ100cm、幅30cm、厚さ60cmほどにわたり遺存しており、緑青を微量含む層が確認されている。さらに、隣接する第152号土坑は、凝灰岩の切石がL字状に配置され、中央部が火熱により赤変している。

煙管は、江戸初期から喫煙の流行に伴い愛用されており、形状から18世紀後半のものと考えられる<sup>10)</sup>。柄杓は、分析の結果、金属主成分は銅（Cu）であることが確認された（付章参照）。江戸時代においては、調理具としての杓子があり、木・貝殻・金属製のものがあげられ、金杓子は銅合金が材料とされている<sup>11)</sup>。形状や分析の結果から、柄杓は調理用具の杓子と考えられる。

第132号土坑からは埴埜とともに取り上げた金属製品遺物の他にも金属の細片が出土していることから、出土した銅製品は加工に伴う製品や素材の可能性が推測される。これらのことから、銅製品の加工にともなう施設の可能性が考えられ、3つの遺構の関連性がうかがわれる。

以上のことから久保山遺跡の中央部及び南部は、8世紀後葉から9世紀にかけて開拓の為の集落として営まれ、北部は中・近世になって墓域として利用されていたと考えられる。

各時代の様相を概観し、奈良・平安時代の集落変遷や出土遺物を中心に述べてみたが、今回は路線幅のみの調査であり、全容については今後の調査の進展に期待したい。

## 註)

- 1) 那珂町史編さん委員会 『那珂町史 自然環境・原始古代編』 那珂町 1988年3月
- 2) 青木義夫 小河邦男 川井正一 「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書8 木葉下遺跡Ⅱ（窯跡）」『茨城県教育財団文化財調査報告』第26集 1984年3月
- 3) 佐々木義則 「木葉下窯跡群産坑A1の変化について -消費地における形態と調整技法の様相-」『婆良岐考古第17号』1995年5月
- 4) 稲田義弘 「鳥名熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第214集 2004年3月
- 5) 佐々木義則 「武田石高遺跡 奈良・平安時代編」『（財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第19集 2000年1月
- 6) 桐生直彦 「棚状施設を持つ壱穴建物の性格（1）-茨城県つくば市中原遺跡の事例分析から-」『史学研究集録』 國學院大學大学院日本史学専攻大学院会 2002年3月
- 7) 前掲文献1)に同じ
- 8) 芳賀啓 「図説 江戸考古学研究事典」 江戸遺跡研究会 2001年
- 9) （財）府中文化振興財団 府中市郷土の森 「江戸の粋-柄鏡」 1996年9月
- 10) 前掲文献8)に同じ
- 11) 前掲文献8)に同じ



## 付章

### 茨城県久保山遺跡出土柄杓の調査

(株)吉田生物研究所

#### 1. はじめに

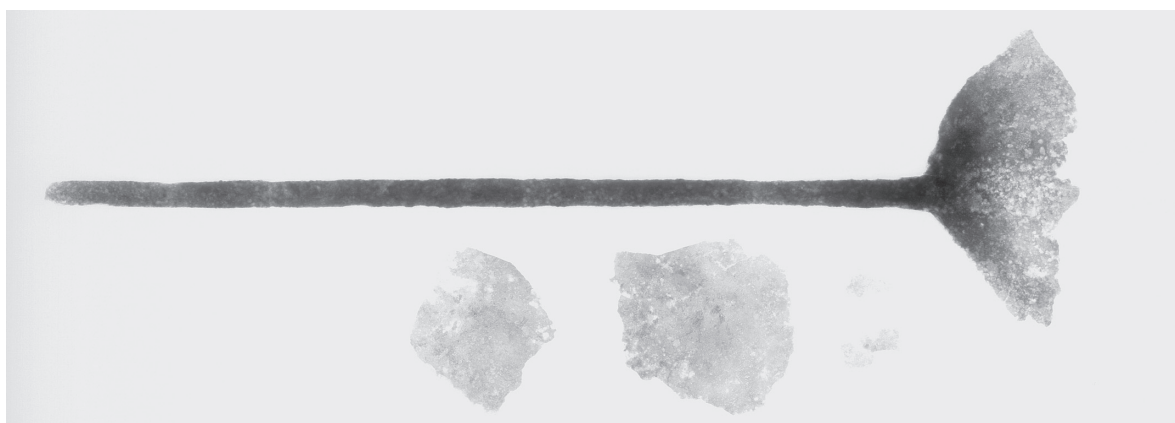
茨城県に所在する久保山遺跡からは、古代から近世のいずれかの時期の柄杓が出土している。その材質について調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

#### 2. 調査資料

調査した資料は、表1に示す古代から近世の柄杓1点である。

表1 調査した資料

No.	遺物名	法 量
1	柄 杓	柄部：長さ約22cm×幅約0.7cm×厚さ約0.2cm 身部：長径約8cm×短径約6cm×厚さ約0.1cm



「柄杓X線写真」

#### 3. 調査方法

理学電機工業(株)製の全自動蛍光X線分析装置3270E（検出元素範囲B～U）により、表1の製品を分析した。

#### 4. 分析結果

分析結果について、スペクトルを示しデータを表2に示すが、このデータにはAl, Si, P, Sなどの土壌成分が含まれるため、あくまで参考資料である。

製品に含まれる金属成分はCu, Pb, Sn, Feである。それらの中でも主成分は銅（Cu）である。

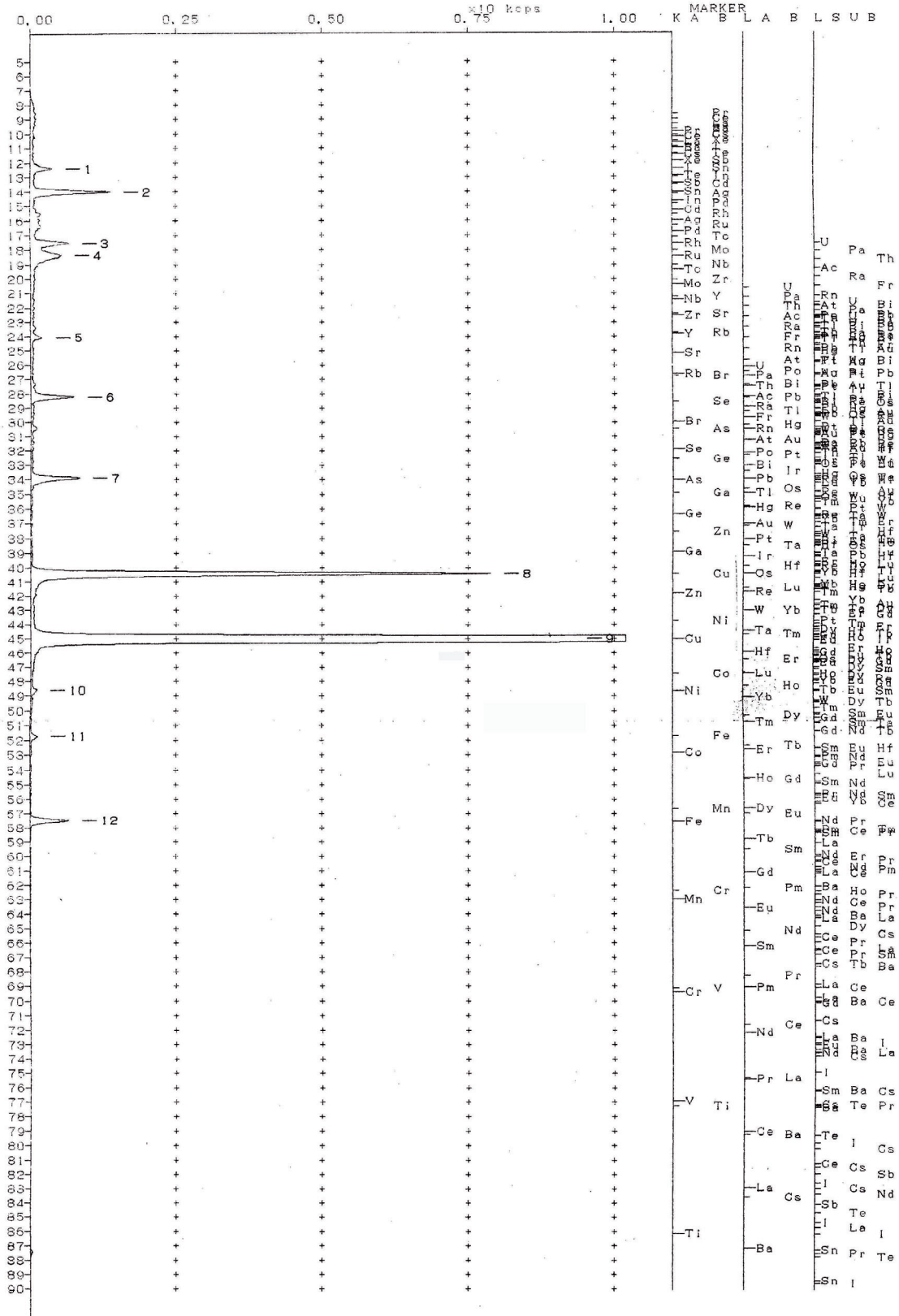
表2 分析結果（参考資料）

元素	重量%
Al	1.4
Si	13
P	0.58
S	0.40
Fe	1.7
Cu	74
Sn	4.1
Pb	4.8

\*\*\* 分析 \*\*\*

元素サイクル

試料名 B# 元素コード  
6 STP テイイ イハ`ラキ` 45 Hv00



# 写 真 図 版

## 久 保 山 遺 跡



調査区全景（北西方向から）





中央区南部全景



中央区完掘状況（北西方向から）

PL 2



第19・20号住居跡  
完掘状況



第24号住居跡  
完掘状況



第24号住居跡  
遺物出土状況

第 2 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 2 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 2 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



PL 4



第 3 号 住 居 跡  
完 掘 状 况



第 5 号 住 居 跡  
完 掘 状 况



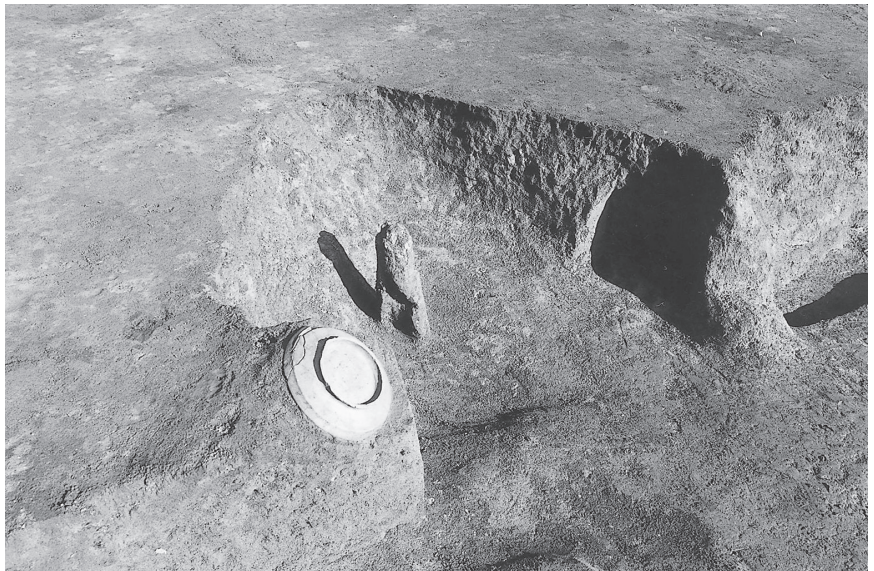
第 6 号 住 居 跡  
完 掘 状 况



第 9 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 11 号 住 居 跡  
竈 遺 物 出 土 状 況



第 12 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



PL 6



第 15 号 住 居 跡  
竈 遺 物 出 土 状 況



第 17 号 住 居 跡  
第 106 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 18 号 住 居 跡  
完 掘 状 况

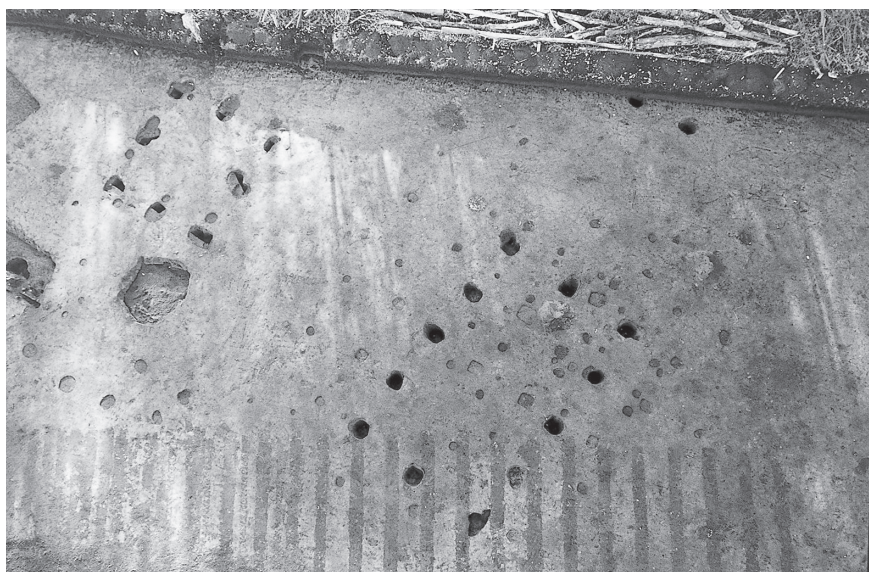
第 21 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



南 部 掘 立 柱 建 物 跡 群  
確 認 状 況



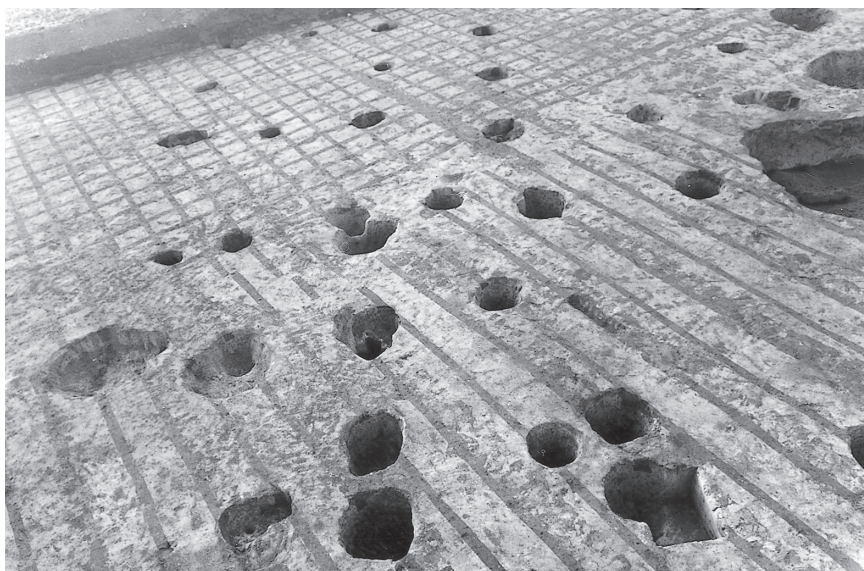
第 1 号 掘 立 柱 建 物 跡  
完 掘 状 況



PL 8



第2・3号掘立柱建物跡  
完掘状況



第5・10号掘立柱建物跡  
完掘状況



第5号掘立柱建物跡  
P 10 土層断面

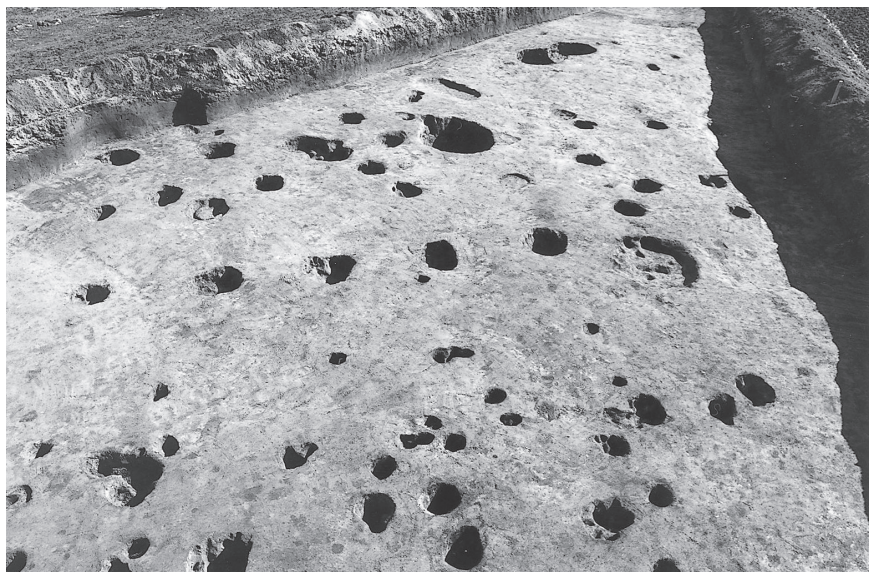
第6号掘立柱建物跡  
完掘狀況



第11号掘立柱建物跡  
P11内遺物出土狀況



第18・19・20号  
掘立柱建物跡  
完掘狀況



PL10



第23号掘立柱建物跡  
第1号円形周溝状遺構  
完掘状況



第4号溝跡  
完掘状況



第8号溝跡  
遺物出土状況



第2号溝跡完掘状況



第5号溝跡土層断面



第1号道路跡土層断面



第2号道路跡完掘状況

PL12



第 1 号 道 路 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 6 号 土 坑  
完 掘 状 況



第 11 号 土 坑  
完 掘 状 況



第 13 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 13 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 52 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



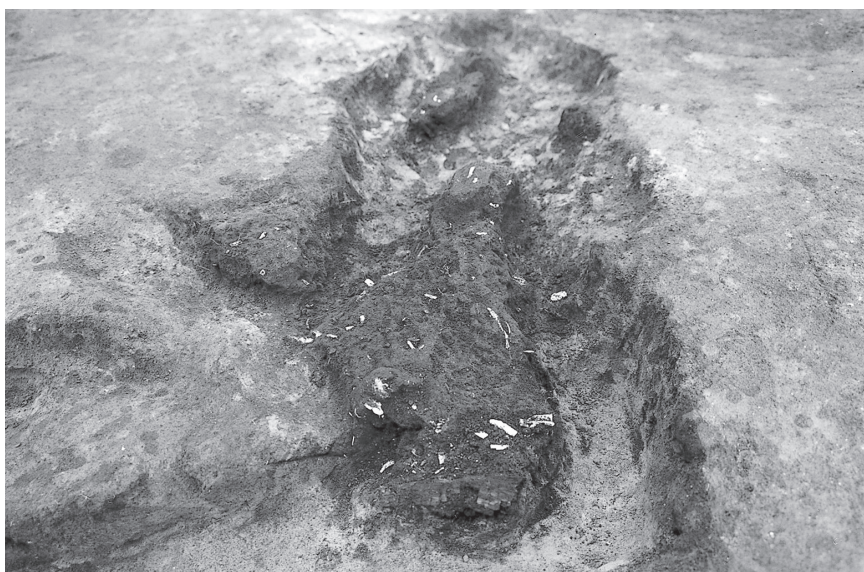
PL14



第1号火葬土坑(SK73)  
遺物出土狀況



第1号火葬土坑(SK73)  
遺物出土狀況

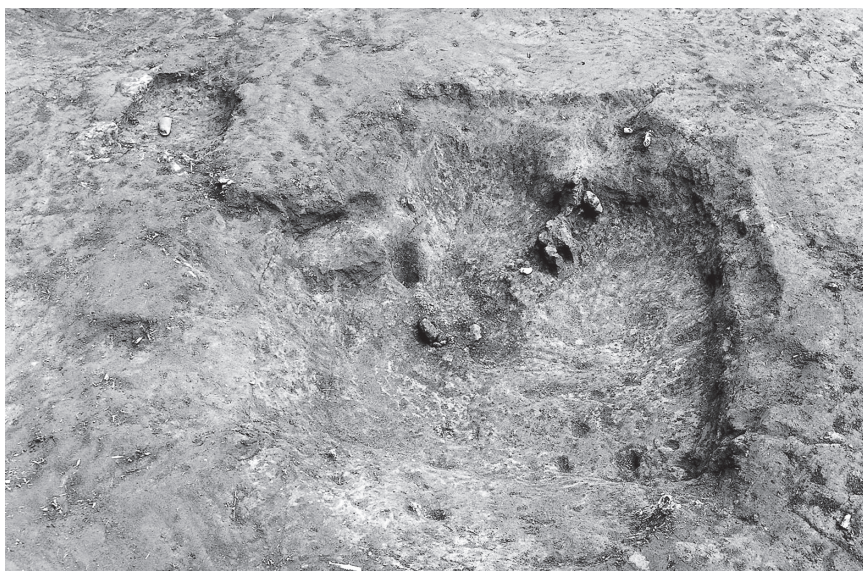


第2号火葬土坑(SK77)  
骨片出土狀況

第 1 号 墓 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 131 · 152 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 122 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况







第4・5・6・7・11・12・15号住居跡出土遺物

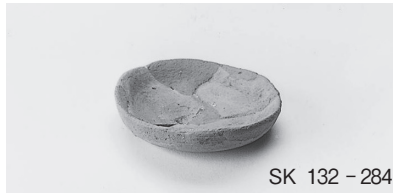
PL18





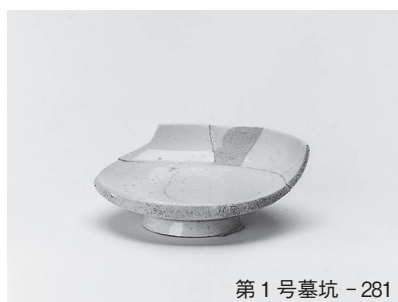
第4・10・13・17・22・23号住居跡，第11号掘立柱建物跡，第10・21号土坑出土遺物

PL20



第11・16・19・21・22号住居跡，第1号墓坑，第52・131・132号土坑，遺構外出土遺物





第1号墓坑 - 281



第1号墓坑 - 280



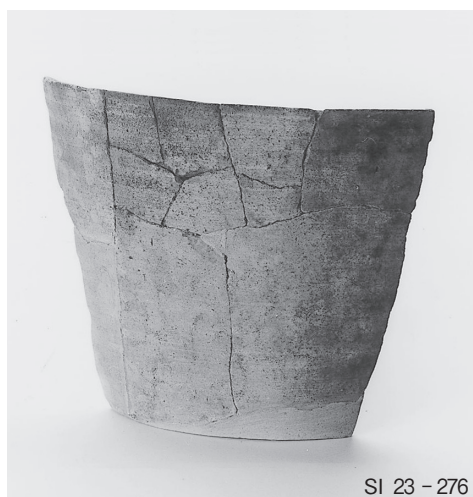
第8号沟迹 - 278



第1号墓坑 - 282



SK 132 - 286



SI 23 - 276



SK 52 - 238



第4号沟迹 - 195

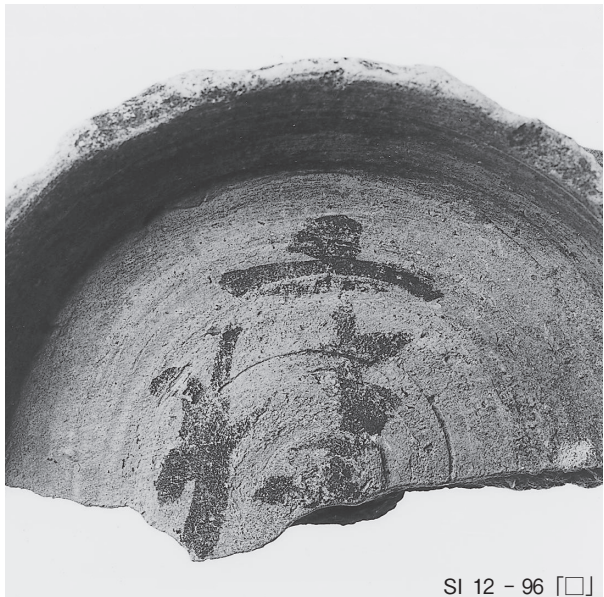
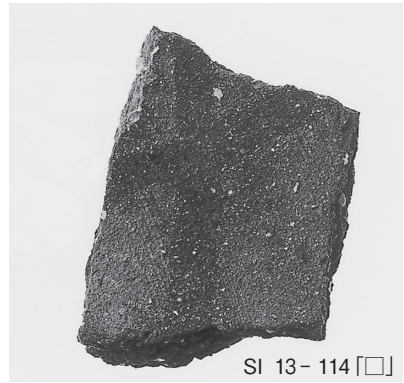
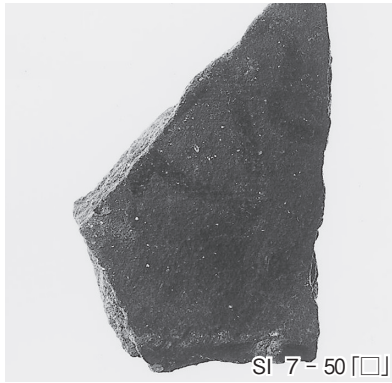
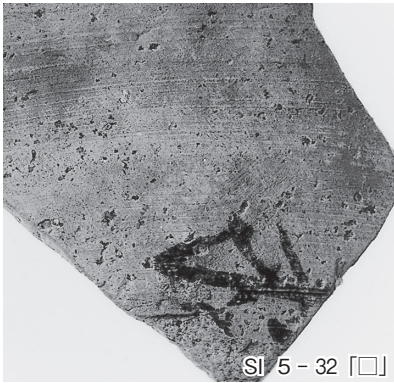
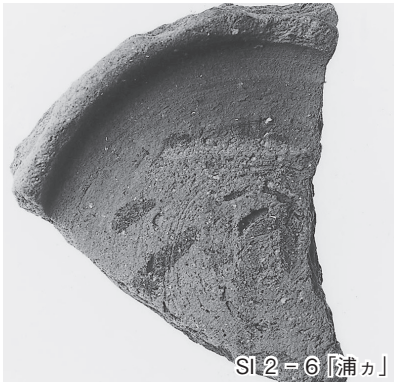


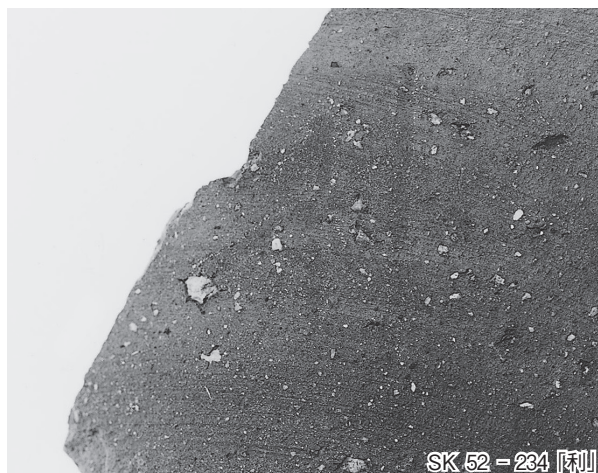
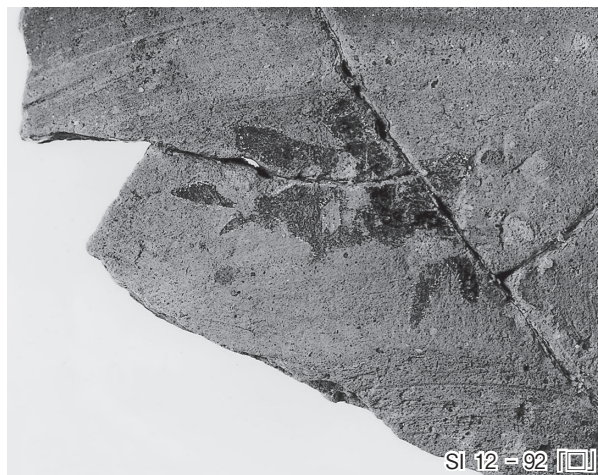
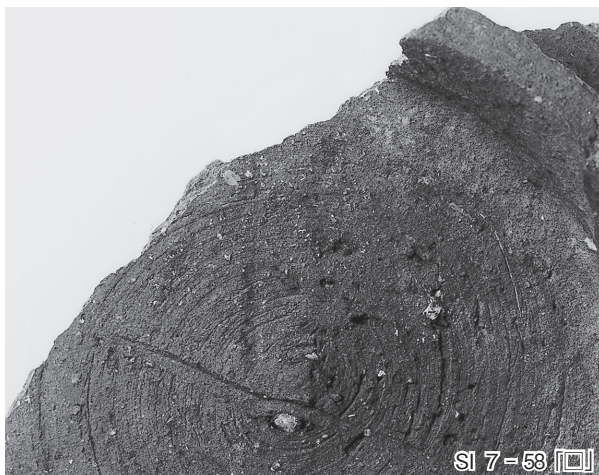
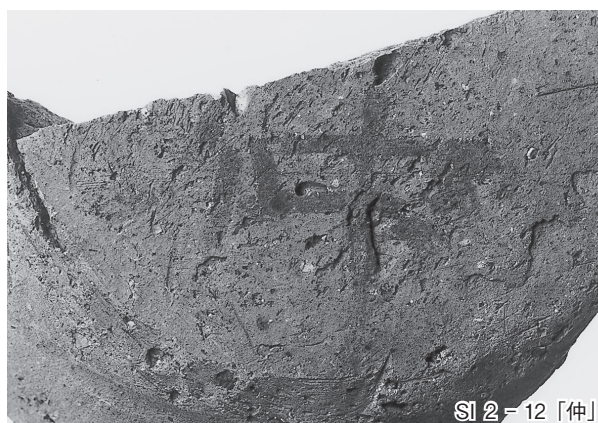
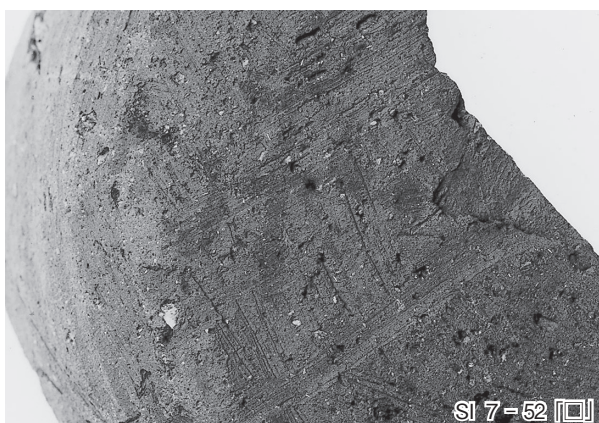
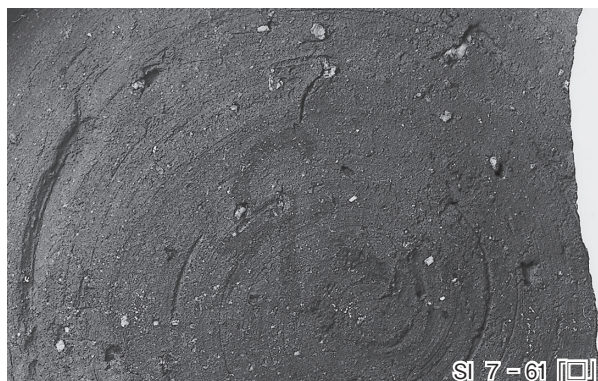
SI 15 - 123



SK 52 - 240

第15·23号住居迹, 第4·8号沟迹, 第1号墓坑, 第52·132号土坑出土遗物

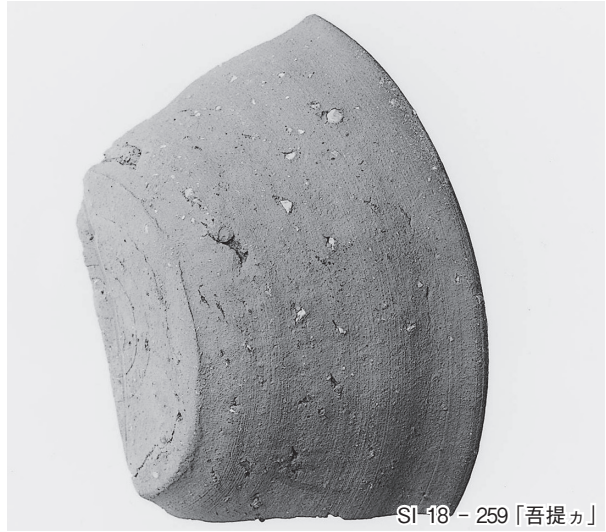




墨書土器



SI 17 - 255 「吾提カ」



SI 18 - 259 「吾提カ」



SI 21 - 263 「□」



SI 22 - 266 「□」



遺構外 - DP 2



遺構外 - DP 5



SK 132 - DP 4



SI 12 - DP 1



SI 18 - DP 3

墨書土器, 土製品 (管状土錘・耳飾・坩堝・紡錘車)



SK 12 - Q23



SI 2 - Q1



SI 2 - Q2



SI 18 - Q33



SI 19 - Q35



遺構外 - Q25



SI 22 - Q36



SI 5 - Q5



遺構外 - Q38



SI 4 - Q4



SI 10 - Q11



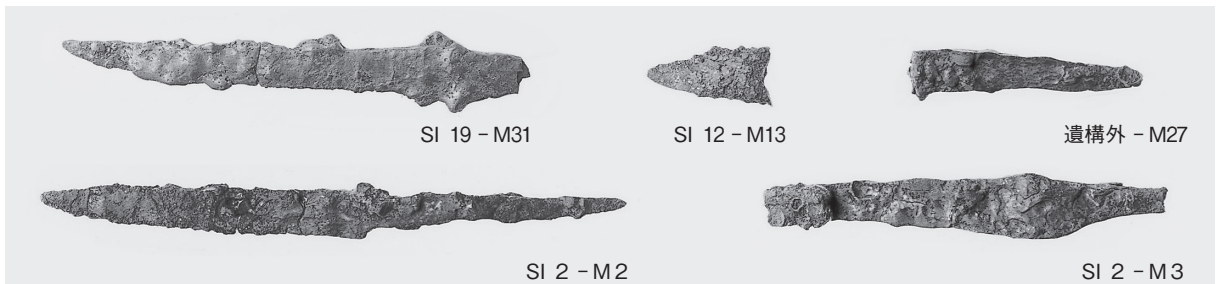
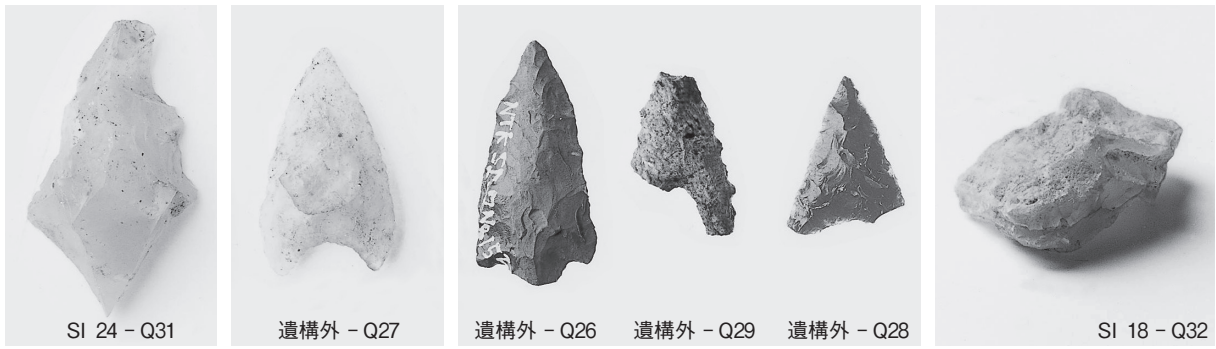
遺構外 - Q39



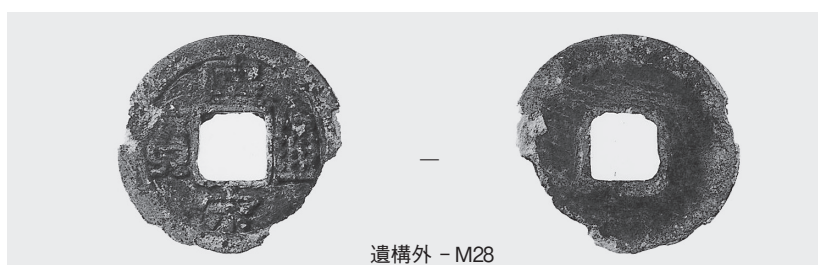
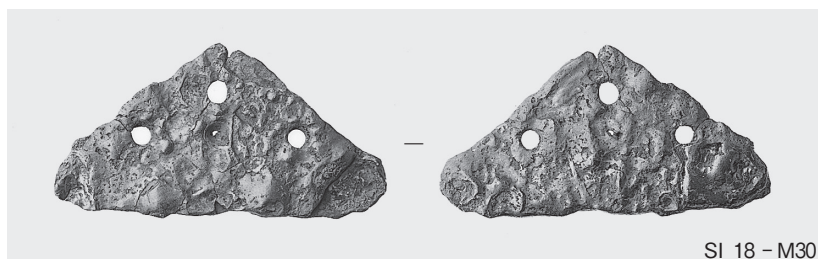
SK 132 - Q37

石器 (砥石)

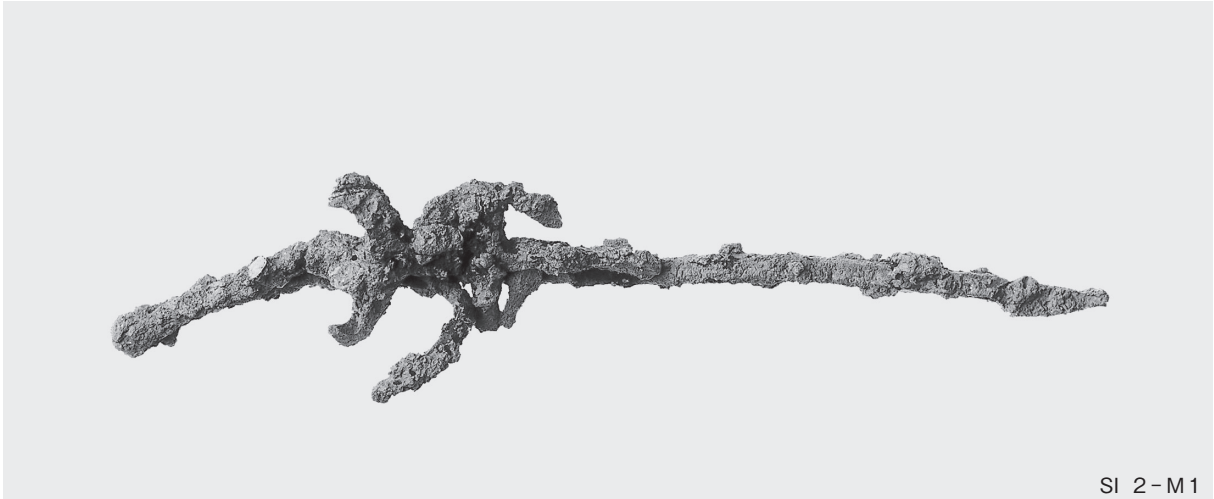
PL26



石器 (剥片・石鏃・敲石・火打石・支脚・紡錘車), 金属製品 (刀子)



金属製品 (鋏・釘・鎌・小柄・煙管・火打金・古銭・鈴)



SI 2 - M1



第1号墓坑 - M34



SK 132 - M37



SI 2 - T1



SI 2 - T2



金属製品 (柄鏡・杓子・不明鉄製品), 瓦





SI 6 - T3



SI 6 - T4



SI 7 - T5

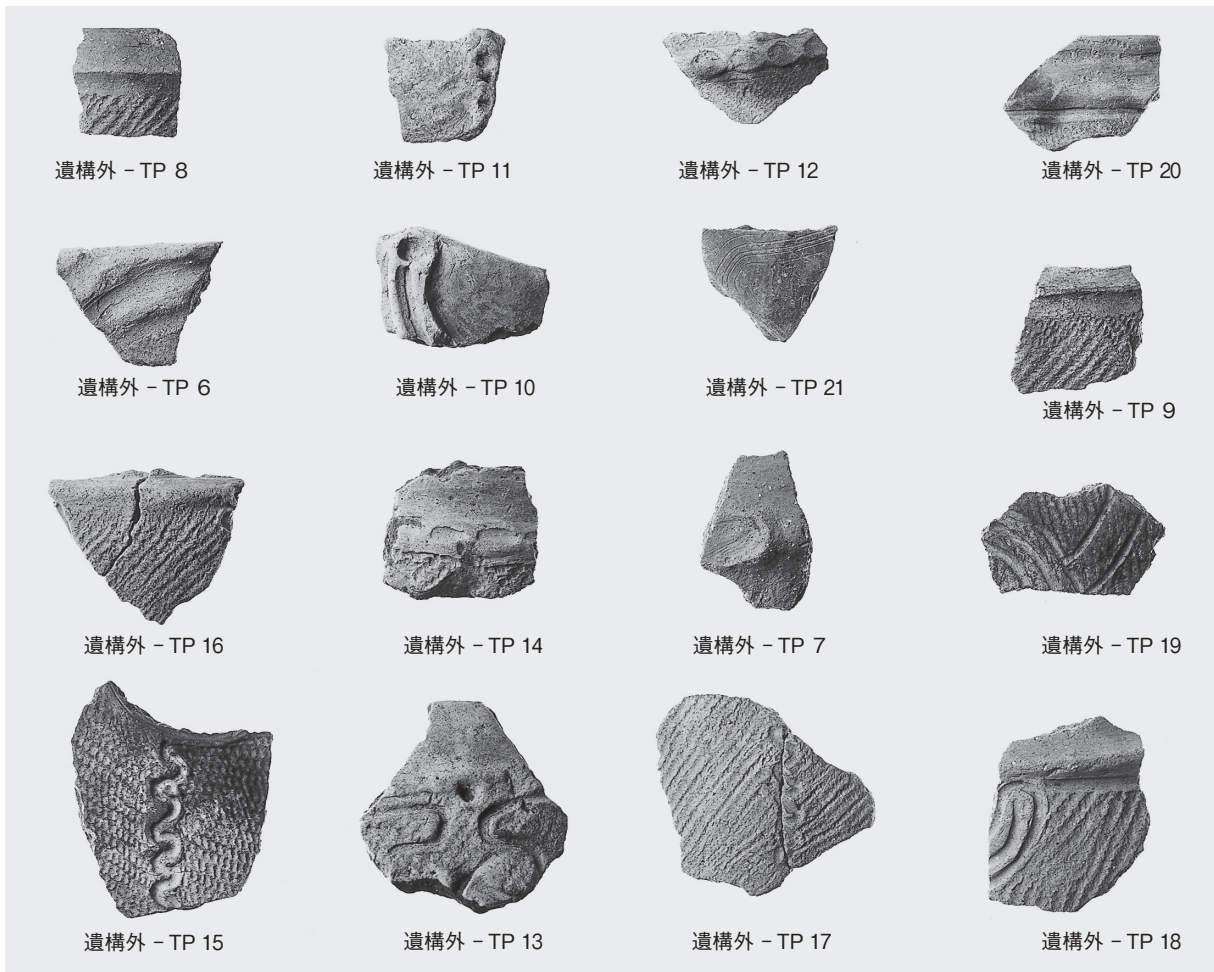


SK 6 - T6



SK 12 - T7





第2号道路跡，遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第274集

## 久保山遺跡

主要地方道那珂湊那珂線道路改良  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19(2007)年3月19日 印刷

平成19(2007)年3月23日 発行

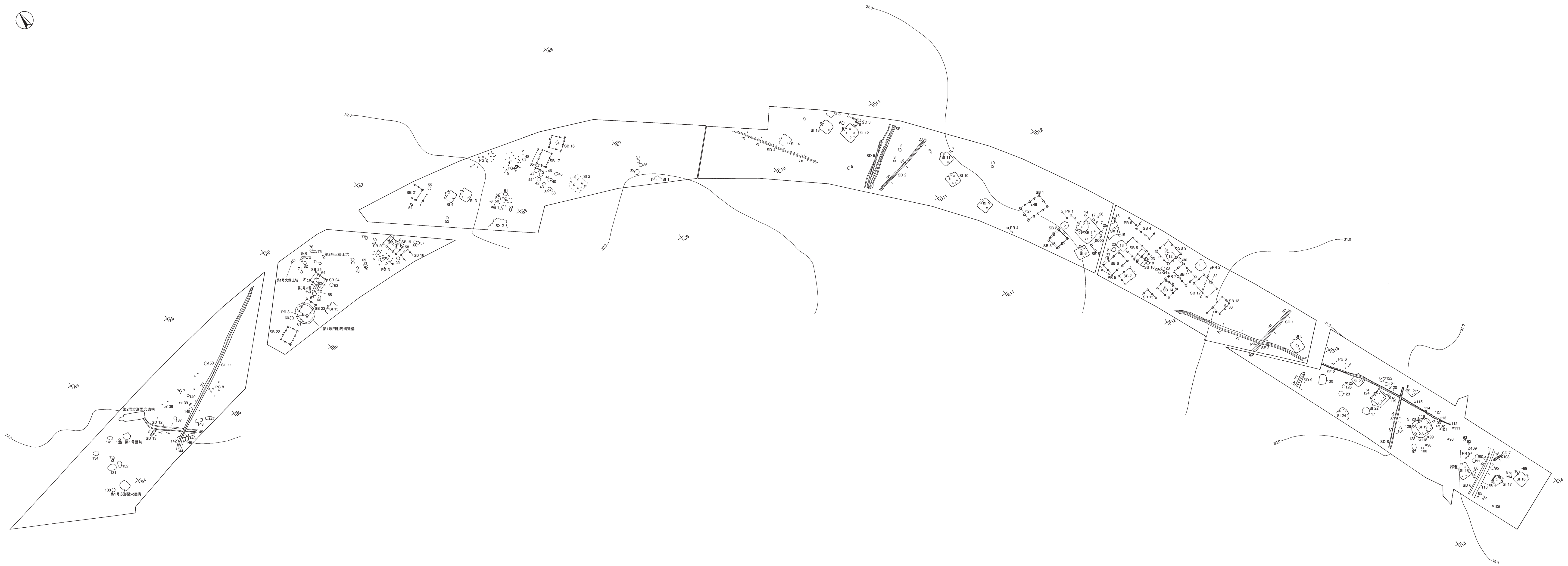
発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 ワタヒキ印刷株式会社

〒310-0012 水戸市城東1-5-21  
TEL 029-221-4381





付図 久保山遺跡遺構全体図